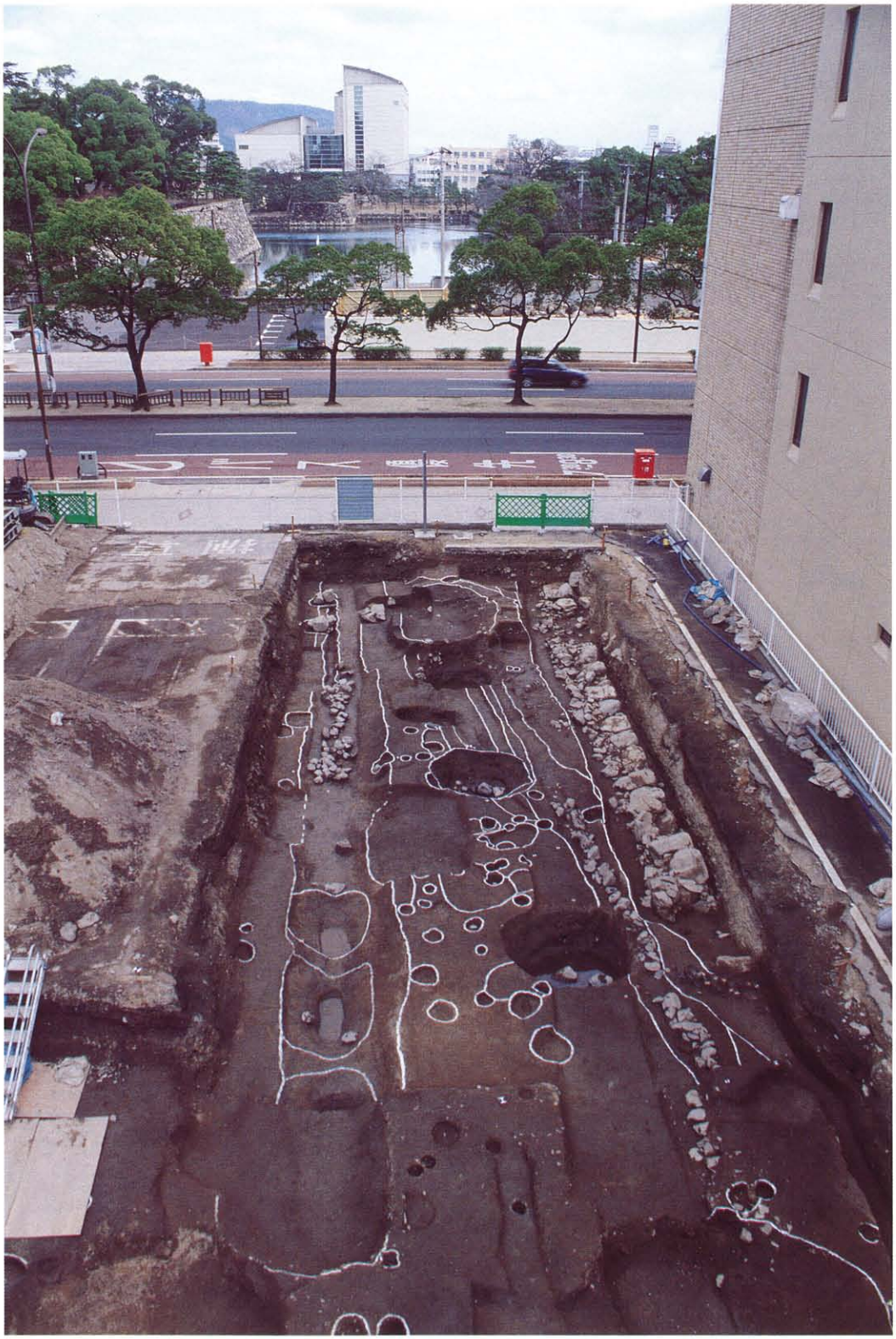
高松市埋蔵文化財調査報告　第８１集

市街地再開発関連街路事業（高松駅南線）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第１冊

高松城跡（無量壽院跡）

２００５年3月

高松市教育委員会



巻頭図版 2

例　　言

1. 本報告書は，市街地再開発関連街路（都市計画道路高松駅南線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第１冊であり，高松市西の丸町・寿町一丁目に所在する高松城跡（無量壽院跡）の調査報告を収録した。本遺跡は中世から近世に至る３面の遺構面を検出したが，本報告書では最下層の第３遺構面のみを報告する。
2. 発掘調査期間は，平成14年11月28日～平成15年３月14日である。
3. 発掘調査および本報告書作成は，高松市教育委員会が実施した。
4. 調査から報告書作成に至るまで，下記の関係機関ならびに方々のご指導とご協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略，五十音順）

香川県教育委員会　　香川県埋蔵文化財センター　　紫山随願寺無量壽院
片桐節子　　片桐孝治　　蔵本晋司　　乗松真也　　松本和彦　　森下友子

5. 調査は，文化振興課文化財専門員 大嶋和則と讃岐文化遺産研究会 中西克也が担当し，大朝利和が補佐した。
6. 本報告書の執筆は，第１章第１節を大嶋，第２章を文化振興課文化財専門員 川畑聰，その他は中西が行った。編集は中西が行った。
7. 本報告書の第４章第１節樹種同定は，（株）吉田生物研究所に委託した。
8. 本報告書の遺物写真撮影は，杉本和樹（西大寺フォト）に委託した。
9. 発掘調査で得られた全ての資料は，高松市教育委員会で保管している。
10. 本報告書における表記および記述に関する凡例は，以下のとおりである。

⑴　使用した遺構略号は次のとおりである。

ＳＤ　溝　　ＳＥ　井戸　　ＳＫ　土坑　　ＳＰ　柱穴　　ＳＸ　性格不明遺構

⑵　遺物観察表中の表記方法は次のとおりである。

ａ．法量の中で（　）を付けているのは残存値である。

ｂ．色調が内外面とも同じ場合には外面のみ表記する。

ｃ．土器胎土の粒土表記の基準

微砂：非常に細かい　細砂：0.5㎜以下　粗砂：0.5～１㎜　細礫：１㎜以上

⑶　方位の北は，国土座標第Ⅳ座標系（世界測地系）の北であり，標高は東京湾平均海面からのプラス値である。

⑷　土壌及び土器観察の色調表現は，『新版　標準土色帖』（農林水産省技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修）による。

⑸　挿図の一部に国土地理院地形図「高松北部」と高松市都市計画図２千５百分の１「高松市街北部」を一部改変して使用した。

⑹　写真図版の出土遺物には，第３面以外の遺物は番号をつけていない。

本 文 目 次

第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の経過……2

第２章　地理的・歴史的環境
　第１節　地理的環境……4
　第２節　歴史的環境……4

第３章　調査の成果
　第１節　調査の概要……9
　第２節　基本土層……9
　第３節　遺構・遺物……14
　　1．溝……14
　　2．井戸……42
　　3．土坑……45
　　4．柱穴……51
　　5．性格不明遺構……57
　　6．包含層出土遺物……76

第４章　自然科学的分析
　第１節　高松市高松城跡出土木製品の樹種調査結果……80

第５章　まとめ
　第１節　遺構の変遷について……86
　第２節　「無量壽院」について……86
　　1．無量壽院の歴史・変遷……86
　　2．調査成果と歴史史料の整合……89
　第３節　第３面出土の瓦について……90
　第４節　高松城築城以前の高松……90

無量壽院関係文書（抜粋）……94

観察表……105

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図（１）……5
第２図　遺跡位置図（２）……5
第３図　調査地位置図（１）……6
第４図　調査地位置図（２）……7
第５図　高松城跡周辺主要調査地位置図……8
第６図　調査区土層図……10
第７図　第３面遺構配置図……11
第８図　第３面上層遺構配置図……13
第９図　ＳＤ1301平・断面図……15
第10図　ＳＤ1301出土遺物実測図（１）……16
第11図　ＳＤ1301出土遺物実測図（２）……17
第12図　ＳＤ1302平・断面図……19
第13図　ＳＤ1302出土遺物実測図（１）……21
第14図　ＳＤ1302出土遺物実測図（２）……23
第15図　ＳＤ1302出土遺物実測図（３）……24
第16図　ＳＤ1302出土遺物実測図（４）……25
第17図　ＳＤ1302出土遺物実測図（５）……26
第18図　ＳＤ1302出土遺物実測図（６）……27
第19図　ＳＤ1302出土遺物実測図（７）……28
第20図　ＳＤ1302出土遺物実測図（８）……29
第21図　ＳＤ1303平・断面図……31
第22図　ＳＤ1303出土遺物実測図……31
第23図　ＳＤ1304平面図……32
第24図　ＳＤ1304遺物出土状況実測図……32
第25図　ＳＤ1304出土遺物実測図（１）……34
第26図　ＳＤ1304出土遺物実測図（２）……35
第27図　ＳＤ1304出土遺物実測図（３）……36
第28図　ＳＤ1304出土遺物実測図（４）……37
第29図　ＳＤ1304出土遺物実測図（５）……38
第30図　ＳＤ1305平・断面図……39
第31図　ＳＤ1305出土遺物実測図（１）……39
第32図　ＳＤ1305出土遺物実測図（２）……40
第33図　ＳＤ1306・1307平・断面図……41
第34図　ＳＥ1301平・断面図……43
第35図　ＳＥ1301出土遺物実測図（１）……43
第36図　ＳＥ1301出土遺物実測図（２）……44
第37図　ＳＫ1304平・断面図および出土遺物実測図…45
第38図　ＳＫ1307・1308平・断面図および出土遺物実測図…45
第39図　ＳＫ1314・1315平・断面図および出土遺物実測図…47
第40図　ＳＫ1319平・断面図および出土遺物実測図…47
第41図　ＳＫ1321平・断面図および出土遺物実測図…48
第42図　ＳＫ1322平・断面図および出土遺物実測図…48
第43図　ＳＫ1323平・断面図および出土遺物実測図…50
第44図　ＳＫ1328平・断面図および出土遺物実測図…50
第45図　ＳＰ1301～1338平面図および出土遺物実測図…52
第46図　ＳＰ1333平・断面図および出土遺物実測図…53
第47図　ＳＰ1341～1348平面図および出土遺物実測図…53
第48図　ＳＰ1384～1479平面図……56
第49図　ＳＰ1384～1492出土遺物実測図……57
第50図　ＳＸ1301・1302平・断面図……58
第51図　ＳＸ1301出土遺物実測図（１）……58
第52図　ＳＸ1301出土遺物実測図（２）……59
第53図　ＳＸ1301出土遺物実測図（３）……60
第54図　ＳＸ1301出土遺物実測図（４）……61
第55図　ＳＸ1301出土遺物実測図（５）……62
第56図　ＳＸ1301出土遺物実測図（６）……63
第57図　ＳＸ1301出土遺物実測図（７）……64
第58図　ＳＸ1301出土遺物実測図（８）……65
第59図　ＳＸ1301出土遺物実測図（９）……66
第60図　ＳＸ1301出土遺物実測図（10）……67
第61図　ＳＸ1301出土遺物実測図（11）……68
第62図　ＳＸ1301出土遺物実測図（12）……69
第63図　ＳＸ1301出土遺物実測図（13）……70
第64図　ＳＸ1301出土遺物実測図（14）……71
第65図　ＳＸ1302出土遺物実測図（１）……73
第66図　ＳＸ1302出土遺物実測図（２）……74
第67図　ＳＸ1302出土遺物実測図（３）……75
第68図　ＳＸ1304平・断面図および出土遺物実測図…76
第69図　ＳＸ1305平・断面図および出土遺物実測図…76
第70図　第３面出土遺物実測図（１）……77
第71図　第３面出土遺物実測図（２）……78
第72図　第３面出土遺物実測図（３）……79
第73図　無量壽院の変遷図……88
第74図　ＳＤ1302出土文字瓦拓影……89

図　版　目　次

図版１－１　遠景（西から）
　　－２　遠景（東から）
　　－３　完掘状況（東側）
図版２－１　完掘状況（東側）
　　－２　完掘状況（東側）
　　－３　完掘状況（西側）
図版３－１　完掘状況（西側）
　　－２　完掘状況（西側）
　　－３　ＳＤ1301・1304
図版４－１　ＳＤ1301・1304完掘
　　－２　ＳＤ1301土層
　　－３　ＳＤ1304遺物出土状況
図版５－１　ＳＤ1302完掘（東側）
　　－２　ＳＤ1302完掘（東側）
　　－３　ＳＤ1302完掘（東側）
図版６－１　ＳＤ1302土層
　　－２　ＳＤ1302土層
　　－３　ＳＤ1302完掘（東側）
　　－４　ＳＤ1302完掘（西側）
　　－５　香炉出土状況
　　－６　五輪塔出土状況
　　－７　ＳＤ1303完掘
　　－８　ＳＤ1305土層
　　－９　ＳＤ1305完掘
図版７－１　ＳＥ1301完掘
　　－２　ＳＥ1301土層
　　－３　ＳＥ1301井戸枠
図版８－１　ＳＫ1304完掘
　　－２　東側ピット群完掘
　　－３　西側上層ピット群完掘
図版９－１　西側ピット群完掘
　　－２　西側ピット群完掘
　　－３　ＳＸ1301・1302完掘
図版10　出土遺物（１）
図版11　出土遺物（２）
図版12　出土遺物（３）
図版13　出土遺物（４）
図版14　出土遺物（５）
図版15　出土遺物（６）
図版16　出土遺物（７）
図版17　出土遺物（８）
図版18　出土遺物（９）
図版19　出土遺物（10）
図版20　出土遺物（11）
図版21　出土遺物（12）
図版22　出土遺物（13）
図版23　出土遺物（14）

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

高松市では，サンポート高松整備事業においてJR高松駅周辺の再開発事業を進めており，これに伴い都市計画道路高松駅南線の整備が計画された。道路新設部分は幅員20m，延長約90m，事業面積約1,800㎡である。

平成13年度に事業主体である高松市都市開発部都市再開発課から，高松市教育委員会に対して道路建設予定地における埋蔵文化財について照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地としては認識されていなかったが，東側には国史跡高松城跡が所在し，西側隣接地では（財）香川県埋蔵文化財調査センターによって調査が行われた高松城跡（西の丸町地区）が所在した。また，事業予定地は周辺の発掘調査成果や地割と絵図との比較によって，江戸時代には高松城内であり，東半が西ノ丸，西半が中堀に位置することが推定された。しかし，事業予定地内には鉄筋コンクリート造の建物が建てられており，撹乱を受け遺跡が消滅してしまっている可能性もあったため，事前に道路建設予定地内について試掘調査を実施し，埋蔵文化財の包蔵状況を確認することで合意した。

これを受け，高松市教育委員会では平成13年10月９・10日に道路建設予定地内の用地取得地について試掘調査を実施した。事業予定地東半の西ノ丸推定地のみが試掘可能であり，道路幅員の両端に沿って東西方向のトレンチを設定した。南側のトレンチでは，中世と江戸時代の３面の遺構面を確認し，それぞれから土坑を検出した。北側のトレンチでは，西半は溝や柱穴を検出したが，東半はコンクリート基礎による撹乱が遺構面以下まで及んでいた。このため事業予定地の北東部分については撹乱が著しく，遺跡は消滅してしまっているが，その他の部分についてはほぼ全面に遺跡が所在することが判明した。なお，事業予定地西半は試掘調査できなかったが，堀が推定されていることから遺構の深さが深く，また既存建築物が２階建であることから地下遺構に対する撹乱の影響が少ないと考えられた。さらに，西側隣接地において（財）香川県埋蔵文化財調査センターによって調査が行われた高松城跡（西の丸町地区）が所在することからも，埋蔵文化財が包蔵することは確実視された。試掘調査結果については都市再開発課と香川県教育委員会に報告した。

平成14年９月11日に都市再開発課より埋蔵文化財発掘の通知が提出され，これに対し，9月26日に香川県教育委員会から事前に発掘調査を行うよう指導があった。これを受け，都市再開発課と協議を行った結果，道路建設前の平成14・15年度の２ヵ年で発掘調査を実施し，記録保存を行うことで合意した。平成14年度においては事業予定地の東半と西端部分が用地取得済みであったことから，この範囲を調査対象とした。東半のうち北東部については試掘調査によって撹乱が著しいことが判明しており発掘対象範囲から除外した。このため，東半部分の発掘面積は360㎡となった。西端は堀の検出が予想され，掘削深度が深くなることから，十分な法面を設け，南北13m，東西10mの130㎡程度を調査することとした。また，平成15年度については，事業予定地の中央部分を発掘対象地とした。西端同様堀が予想されることから，安全措置を講じながら，200㎡程度の調査を行うこととした。なお，平成15年度調査地は現在も用地取得が完了しておらず，調査は延期されている。

第２節　調査の経過

１．発掘調査の経過

発掘調査は，平成14年11月28日に着手し，15年３月14日に終了した。この年度に調査を実施した東側の調査区はⅠ区，西側の調査区はⅡ区と称する。

本調査については，事前協議の中で廃土搬出費用の削減という観点から，遺構の調査に伴う廃土は調査区内に仮置きすることとなり，Ⅰ区は二分して調査を実施した。Ⅰ区の東側をⅠ－１区，西側をⅠ－２区と仮称した。最初にⅠ－１区・２区の第１遺構面を調査し，航空写真測量の終了後に，Ⅰ－１区の第２遺構面・第３遺構面を調査し，航空写真測量を実施した。最後にⅠ－２区の第２遺構面・第３遺構面を調査し，航空写真測量を実施した。この部分の廃土はⅠ－１区に置いた。Ⅱ区の調査は調査期間の最終に実施した。

以下，調査日誌を掲げて調査の詳細について報告する。なお，本報告書の内容は第３遺構面のみの報告であるが，調査の経過に関しては着手から終了までの全過程を記載する。

調　査　日　誌　（抄）

平成14年

11月

28日にⅠ－１区の重機による第１遺構面までの機械掘削作業を開始し，29日に終了する。

12月

２～５日にⅠ－１区の第１遺構面の遺構検出作業を行う。６日に遺構配置図を作成し，東端より遺構の調査を開始する。９・10日に柱穴などの小規模の遺構を完掘し，同時にⅠ－２区の重機による第１遺構面までの機械掘削作業を行う。

11～16日にＳＤ1001・ＳＫ1010・ＳＥ1001の掘り下げを行い，土層図を作成する。ＳＥ1001は土器製井戸枠を４段重ねており，最下位に木枠をもつ明治時代以降の井戸である。

17・18日にＳＥ1002の掘り下げ，Ⅰ－２区の遺構検出作業を行う。24日にⅠ－２区の遺構配置図を作成し，遺構の調査を開始する。27日までＳＤ1001・ＳＥ1001・1002・ＳＸ1003等の大きな遺構を完掘する。ＳＤ1001では集石を検出する。

平成15年

１月

６・７日にⅠ－２区の溝・柱穴・土坑を完掘し，調査区の北壁・西壁の土層図を作成する。８・９日に調査区南壁の土層図を作成する。

10日にⅠ区における第１遺構面の航空写真測量を行う。高所作業車を使用して全体の完掘写真を撮り，次に個々の遺構の写真を撮る。

14～16日にⅠ－１区の重機による第２遺構面までの機械掘削作業を行い，遺構配置図を作成した後にＳＸ1201や柱穴などの遺構の調査を行う。ＳＤ1001を掘り下げ，底面直上に石垣の礎石と考えられる列石が検出する。列石は南に面をもち，集石は石垣の裏込めと思われる。

17日に柱穴や土坑等の全ての遺構を完掘し，20・21日に遺構の平面図を作成し，全体の完掘写真を撮り，次に個々の遺構の写真を撮る。

22～24日にＳＰ1203～1208に切られるＳＫ1209を掘り下げて完掘する。調査区東端より第３遺構面までの機械掘削作業を行い，随時，遺構検出作業を行う。

28～31日にＳＤ1301～1303・ＳＥ1301・ＳＸ1301・土坑・柱穴の調査を行う。ＳＤ1301からは瓦器椀が出土し，東西方向に延びる溝であるＳＤ1302からは，「野原濱村无量寿院」と刻まれた丸瓦や梵字瓦，五輪塔，香炉などが出土した。ＳＥ1301では底面で石組を検出した。

２月

３・４日にＳＤ1301～1304・ＳＥ1301・ＳＸ1301を完掘する。ＳＤ1301は集石が検出され，平面図を作成する。ＳＤ1304は多量の土師質土器小皿や瓦器椀が出土し，出土状況の写真撮影を行う。ＳＥ1301の石組と曲物の平面図・立面図を作成する。

５日にⅠ－１区の第３遺構面の航空写真測量を行う。高所作業車を使用して全体の完掘写真を撮り，次に個々の遺構の写真を撮る。

６日にＳＤ1301・1304の遺物出土状況の平面図を作成し，遺物を取り上げる。ＳＤ1302の集石の平面図を作成し，五輪塔２点を取り上げる。

７日にＳＤ1302の集石を取り除き，完掘写真を撮る。ＳＸ1302を掘り下げる。

10～14日にⅠ－１区ＳＤ1302の平面図とＳＤ1001の列石立面図を作成し，ＳＸ1301の完掘後に確認されたＳＤ1303・1304を完掘し，平面図を作成する。ＳＸ1302を完掘し，平面図を作成する。Ⅰ－２区において第２遺構面までの機械掘削作業を行い，遺構検出作業を行う。

17日にⅠ－２区の第２遺構面の遺構配置図を作成した後に柱穴・土坑の調査を行う。

18～24日にⅠ－２区第２遺構面の柱穴・溝・土坑を完掘し，ＳＢ1201・ＳＥ1201は半裁し土層図を作成した後に完掘する。全ての遺構を完掘した後に平面図を作成する。ＳＢ1201は単独に平面図を作成する。Ⅰ－２区第２遺構面の完掘写真を撮り，個々の遺構の写真を撮影する。

25・26日にⅠ－１区のＳＤ1001の列石を取り除き，地山まで掘り下げる。調査区南壁の土層図の下層を付け加える。Ⅰ－２区の第３遺構面までの機械掘削作業と遺構検出作業を行う。

27・28日にⅠ－２区の第３遺構面の柱穴・土坑・溝の調査を行う。ＳＤ1305は埋土に多量の焼土・炭や瓦を含む。ＳＤ1301を完掘し，土層図と集石平面図を作成する。調査区北西側に検出された第３遺構面上層のピット群・土坑群を完掘し，平面図・写真撮影を終える。

３月

４日にⅠ－２区のＳＤ1302の掘り下げを行う。土層観察用の畦を２本設定し，西側の畦の土層図を作成する。調査区北西側を掘り下げ，第３遺構面下層の遺構を検出し，遺構配置図を作成する。５日にＳＤ1302の東側畦の土層図を作成し，青磁香炉の出土平面図と写真を終える。

10日にⅡ区の調査を行う。地表から約2.50ｍの深さまで重機により掘り下げる。埋土は海砂であり，湧水が激しく，調査は不可能となる。

11・12日にⅠ－２区第３遺構面の全ての遺構を完掘する。

13日にⅡ区の一部に鉄板を打ち込み，地表から約3.00ｍの深さまで掘り下げる。下層に中堀の埋土の黒褐色シルト質極細砂が検出される。Ⅰ－２区第３遺構面とⅡ区の航空写真測量を行う。高所作業車を使用して全体の完掘写真を撮り，次に個々の遺構の写真を撮る。

14日に重複した遺構を完掘し，平面図を作成する。

２．整理作業の経過

整理作業は２年次に分けて実施した。平成14年度末～15年度前半は出土遺物の水洗いと図面修正と遺物の復元・選定作業を行う。平成15年度後半～16年度前半に遺物の実測を行う。平成16年度後半に挿図を作成し，12月中旬までに原稿の執筆を完了した。

第２章　地理的環境・歴史的環境

第１節　地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に，低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地，東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km，南北16kmの範囲に及んでいる。また，この平野は，讃岐山脈から流下し，北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地でもある。

さて，高松城の城下町として発展した高松市街地は，香東川の東流路が瀬戸内海に注ぐ河口の中洲や砂堆上に立地している。このため，城下町は高松城築城と同時にこの中洲や砂堆を大規模に埋め立てて形成されたと考えられている。香東川は，現在，石清尾山塊の西を直線に北流する西流路のみだが，17世紀初頭，高松藩に招かれた西嶋八兵衛の河川改修によって一本化されたものである。なお，17世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第２節　歴史的環境

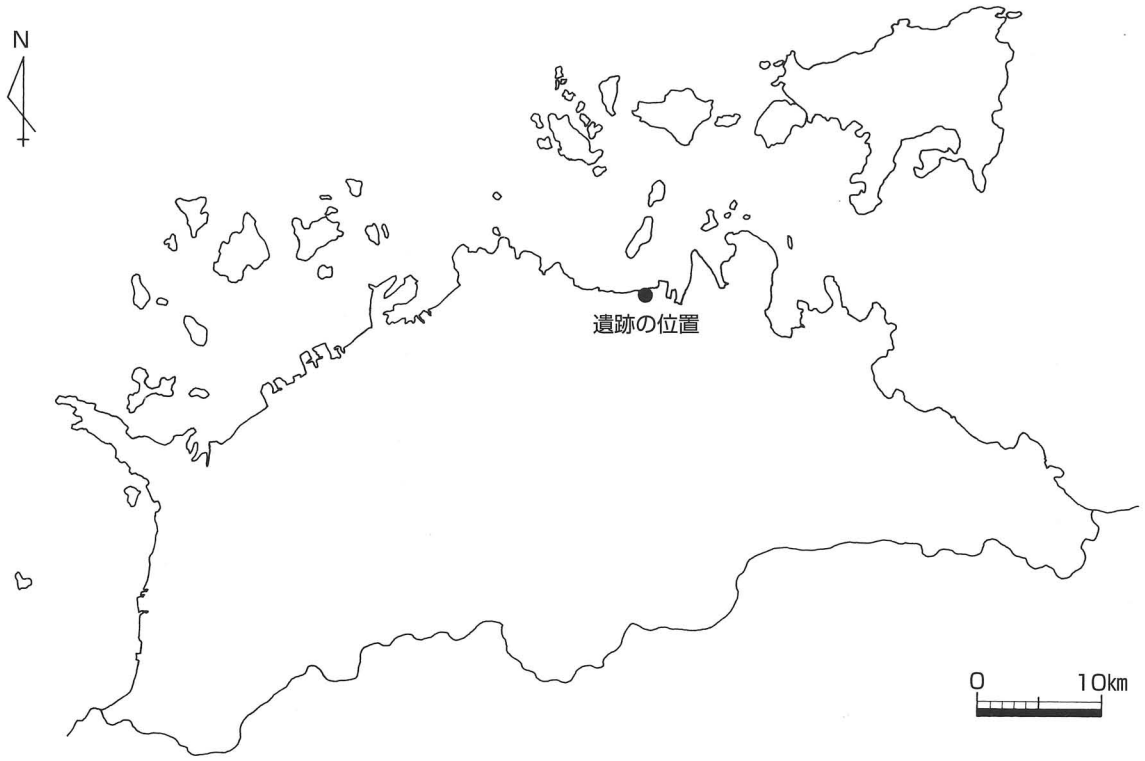
高松市街地の下に埋没している中洲や砂堆上に初めて人の活動が認められるのは，弥生時代後期である。高松城内南の武家屋敷跡で行われた発掘調査（新ヨンデンビル別館）では，ベースとなる砂層上面より柱穴とともに弥生土器が多く出土し，付近に集落が存在していた可能性が指摘できる。この発掘調査では，平安時代前期の溝もわずかながら確認している。

この地域の土地が安定し，人が恒常的に居住できるようになるのは平安時代後期と考えられる。当時，この地域は篦原郷と呼ばれ，安楽寿院領である野原庄が高松城跡の南方に所在していた。野原庄は，白河院の勅使田が応徳年間頃（11世紀末葉）に立券荘号されたものである。康治２年（1143）８月19日の太政官符によれば野原庄の四至が条里によって表記されていることから，土地が安定し条里地割または条里呼称がこの地まで普及していたと考えられる。

さらに時代が下ると，荘園としての機能以外にも，文安２年（1445）の「兵庫北関入船納帳」には船籍地として名前が記載されていることから，中世においては港町としての機能を有していたと考えられる。時代は遡るが，高松城跡西の丸地区の発掘調査では，11世紀後半～13世紀前半の護岸施設とともに県外から搬入された土器が高い比率で出土している。さらに，西の丸地区に隣接する浜ノ町遺跡では，白磁四耳壺を埋納していた13世紀末から15世紀末の集落跡が確認されている。

一方，高松城跡東の丸地区に目を転じると，16世紀後半以前の漁民の墓群が検出されている。城跡より南東方向にある片原町遺跡においては，15～16世紀に属するＬ字形の大溝を検出しており，これは居館の外側にめぐらしていた堀の一部と考えられている。

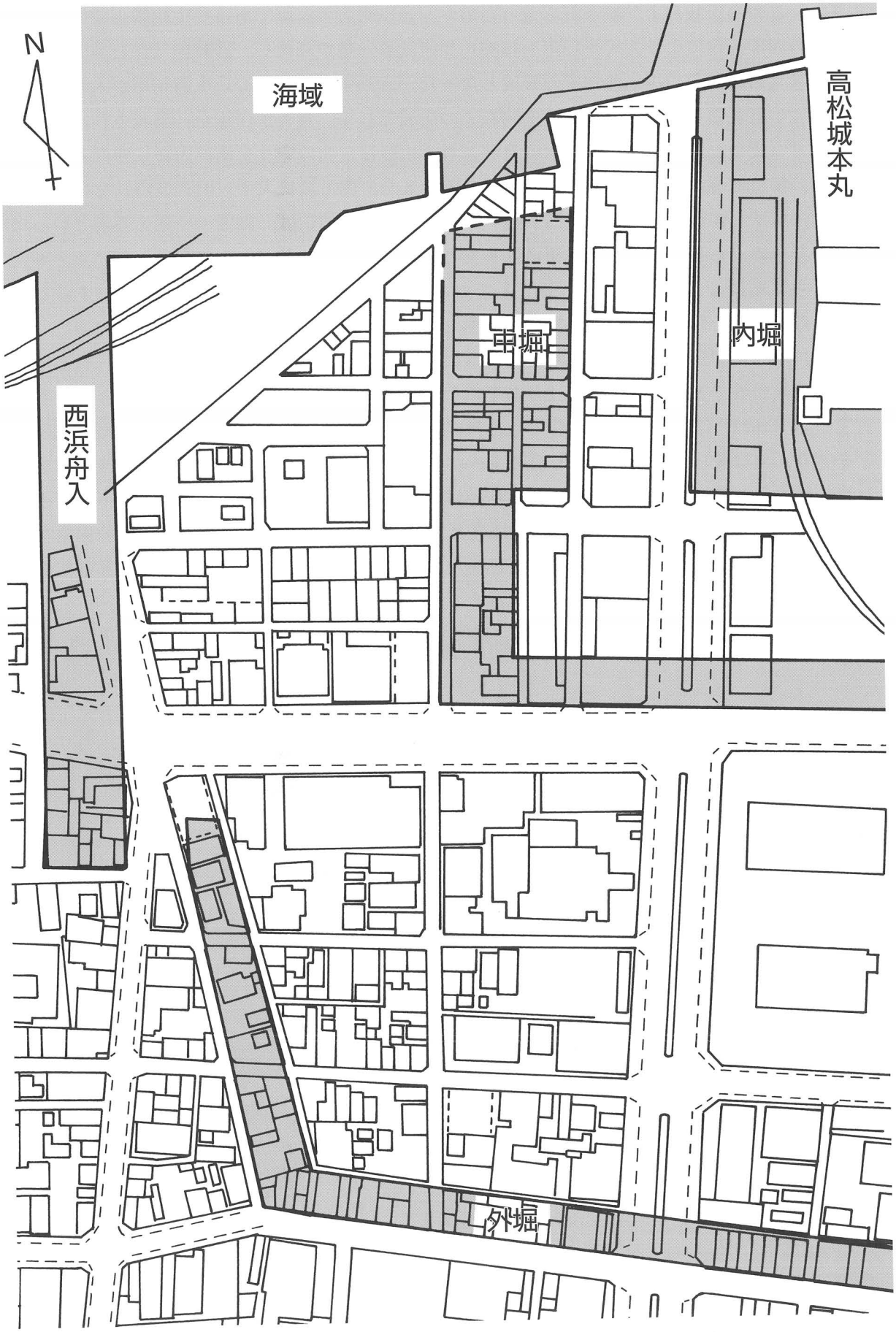
このように，高松市街地下において，古代末から中世の集落等が確認され，文献からもうかがえるように，かつて港町が栄えていたと考えられる。この砂堆や中洲上に中世都市が立地する状況は，博多や草戸千軒町遺跡にも見られるように全国的な傾向であり，これらの都市をつなぐ交易が行われていたのであろう。このような時代背景のもとに，高松城がこの地に築かれ，城下町が整備されたと考えられる。



第１図　遺跡位置図（１）（Ｓ：１／600,000）

第２図　遺跡位置図（２）（Ｓ：１／50,000）

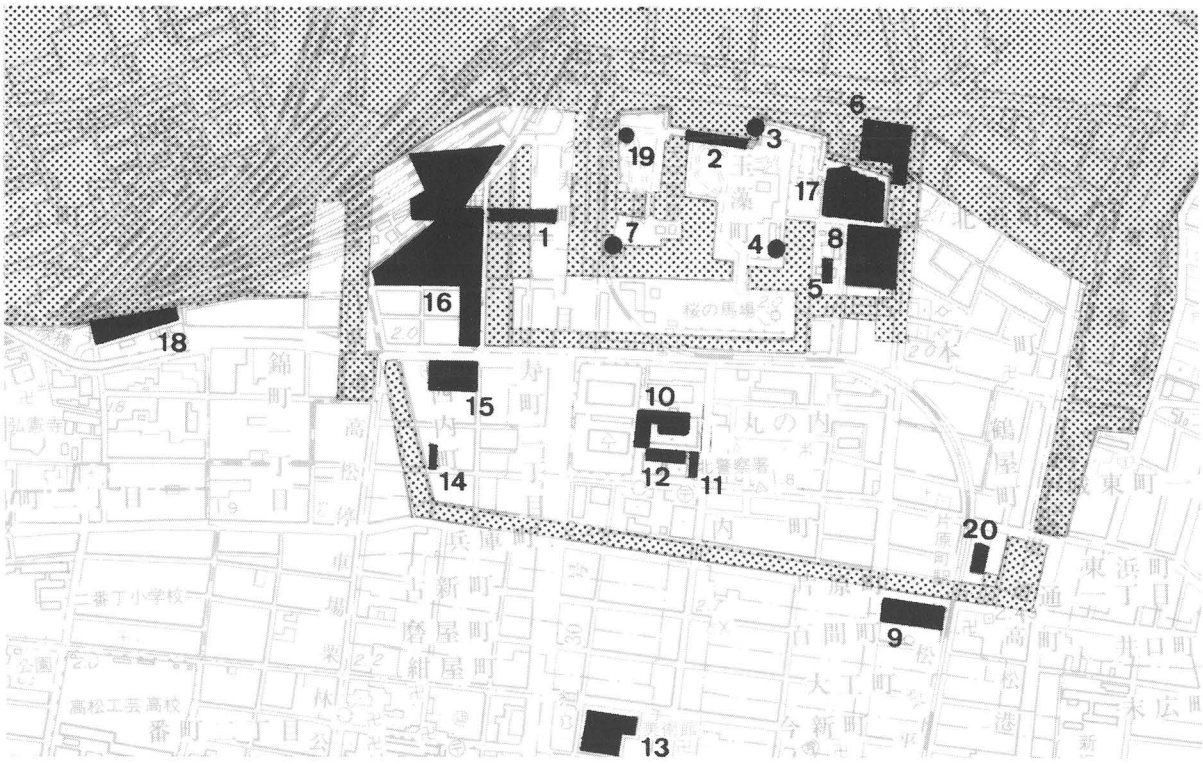
第３図　調査地位置図（１）（Ｓ：１／5,000）



第４図　調査地位置図（２）（高松城下図を基に作成）（Ｓ：１／2,500）

さて，この高松城および城下町を造ったのが，豊臣秀吉の家臣であった生駒親正である。豊臣秀吉の四国征伐により，天正13年（1585）長宗我部元親が降伏し，讃岐国は仙石秀久・十河存保に与えられ，その後尾藤知宣の領国となったが，天正15年（1587）生駒親正が入封し，讃岐17万６千石を領した。高松城は，生駒親正の居城として，翌天正16年から築城され，数ヵ年を要して完成された水城である。水城と呼ばれる由縁は，北の守りを瀬戸内海にゆだねるだけでなく，堀には海水が導かれているからである。また，南方には大手（旧太鼓門）を構え，城の南側に城下町が展開する「後堅固」の城でもある。城の構造は，内堀・中堀・外堀といった三重の堀をめぐらし，内堀より内側には本丸・二ノ丸・三ノ丸などの曲輪を配している。本丸は，さらに堀によって他の曲輪と独立しており，本丸と二ノ丸をつなぐ鞘橋を落とすことによって敵の侵入を防ぐ構造となっている。本丸には，天守閣と地久櫓が設けられている。

寛永17年（1640）御家騒動により生駒氏は出羽国矢島に転封となり，寛永19年に代わって松平頼重が高松城主となり，東讃岐12万石を領した。松平頼重は，城の改修を度々行っているが，寛文11年（1671）頃の大規模な改修では，東ノ丸を造成するとともに，月見櫓・続櫓・渡櫓などを造り，北に設けた水手御門より直接海へ出入りができるようにしている。その後，松平氏は高松城主として明治維新を迎える。高松城は昭和29年（1954）に松平氏より高松市に譲渡され，翌年玉藻公園として市民に開放されるとともに，史跡として国指定され文化財の保護が図られている。しかしながら，明治17年（1884）に天守閣が取り壊されるとともに，都市化の波によりしだいに堀は埋め立てられ，本丸近くまで市街化が進んでいる。



1　高松城跡（無量壽院跡）　2　高松城跡三ノ丸石垣　3　高松城跡水手御門
4　高松城跡三ノ丸（多目的トイレ）　5　高松城跡作事丸　6　高松城跡（旧）艮櫓台突堤
7　高松城跡地久櫓台　8　高松城跡東ノ丸（県歴史博物館）　9　片原町遺跡
10　高松城跡（新ヨンデンビル別館）　11　高松城跡（弁護士会館）　12　高松城跡（家庭裁判所）
13　紺屋町遺跡　14　高松城跡（ＰＴＡ会館）　15　高松城跡西ノ丸（高松北警察署）
16　高松城跡西ノ丸（サンポート高松）　17　高松城跡東ノ丸（県民ホール）　18　浜ノ町遺跡
19　高松城跡二ノ丸（玉藻公園西門料金所）　20　高松城跡（鶴屋町共同住宅建設）

第５図　高松城跡周辺主要調査地位置図　（Ｓ：１／10,000）

第３章　調査の成果

第１節　調査の概要

本遺跡の調査は，道路建設に伴う発掘調査であるため東西方向に長い調査区に設定された。第１章第２節で前述したように，平成14年度の調査は国道30号線（通称中央通）に接する東端の部分と高松駅に面する西端の部分において実施し，東側の調査区をⅠ区，西側をⅡ区と呼称する。

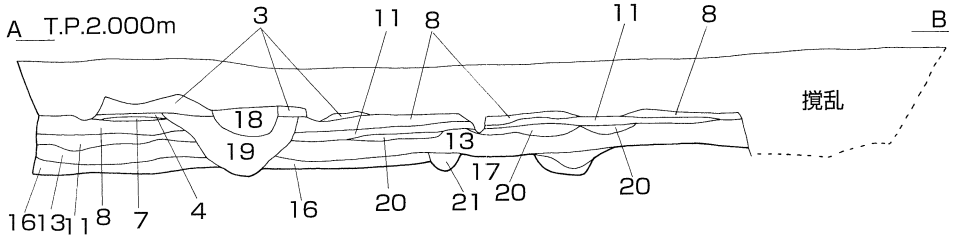
Ⅰ区は，高松城の中堀の内側，内堀の外側に位置しており，調査前は駐輪場であった。この地点は寛永15～16年に描かれた『生駒家時代讃岐高松城屋敷割図』には「生駒隼人下屋敷」と記載されている。1650年代前半の『高松城下図屏風』では１頭の馬と二人の人物が描かれている。享保年間の『高松城下図』と文化年間の『高松市街古図』，弘化年間の『東讃高松絵図（弘化年間高松城下絵図）』では何も書かれておらず空白である。

試掘調査の結果により北東部分にコンクリート基礎が確認され調査対象外となったため，Ⅰ区の平面形は横向きの逆「Ｌ」字形を呈する。東西方向の長さは29.50m，南北は18.00mである。調査では中世から明治時代に至る３面の遺構面が検出された。第１面では江戸～明治時代の遺構が検出され，標高は1.20m前後である。主な遺構としては，井戸・溝・土坑・柱穴がある。遺構は調査区全域において検出しているが，北壁の中央から東側にかけては撹乱を受けていた。第２面では江戸時代の掘立柱建物・井戸・溝・土坑・柱穴等の遺構を検出し，その標高は1.10m前後である。調査区の西側ではほぼ全域に遺構を検出したが，東側の北壁付近は第１面と同一の撹乱を受け，南壁付近に石列を有する第１面のＳＤ1001があり，遺構の検出は中央部の狭い範囲のみである。今回報告する第３面は，中世から江戸時代初頭の遺構が調査区全域に分布しており，その標高は0.80～1.00mである。主な遺構は井戸・溝・土坑・柱穴であり，調査区北西部では第３面が北方向に緩やかに低くなっており，第３面の上位に遺構面が確認され第３面上層と呼称する。特筆すべき遺構としては，調査区中央を東西方向に延びるＳＤ1302が挙げられる。この溝から「野原濱村无量壽院」と刻まれた丸瓦や梵字瓦・五輪塔などが出土し，調査地が寺院跡であると判明した。ＳＤ1304では12世紀頃の土師質土器小皿・瓦器椀等が多量に出土した。中世段階において集落が営まれていたことがうかがえる。

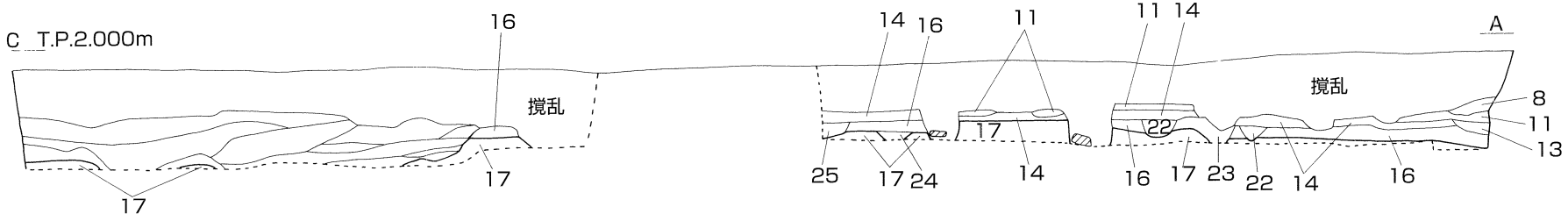
Ⅱ区は，中堀の西端と推定される位置であり，中堀西側の石垣の確認を目的に調査を実施した。調査区の平面形は長方形を呈し，上端の東西方向の長さは10.00m，南北13.00mである。地表面から約0.60mまでコンクリート基礎があり，その下に明治時代に埋め立てられた海砂が約1.50mある。その下は中堀の埋土であり，地表面から約2.70mまで掘り下げた。調査において西側の石垣は検出されなかった。

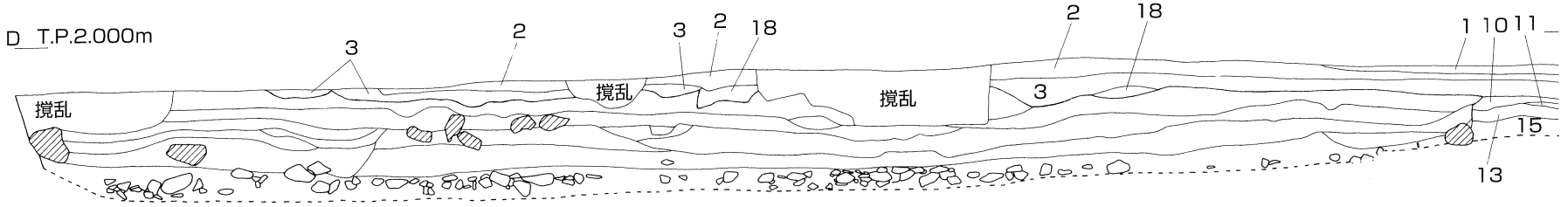
第２節　基本土層（第６図）

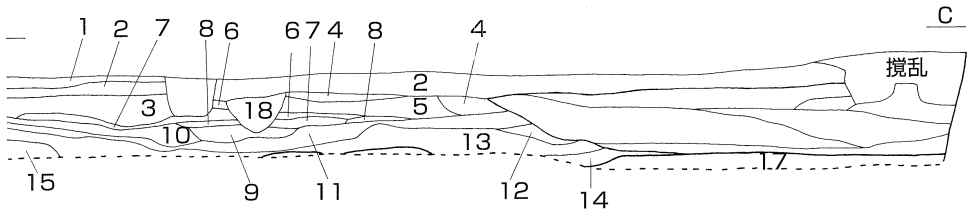
調査区の北壁の一部と西壁・南壁の土層図を作成したが，西壁の南端と南壁の西端は第１面のＳＸ1003，南壁の中央から東端は第１面のＳＤ1001が深く掘り込まれており，良好な堆積状態を示すのは北壁と西壁・南壁の一部である。

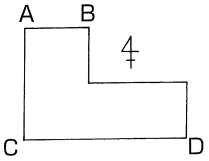


1. 花崗土
2. 黒褐色シルト質細砂(10YR3／1　焼土・炭を多量に含む)
3. 浅黄色シルト質細砂(2.5Y7／3)
4. にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6／3)
5. 灰白色細～粗砂(2.5Y8／2)
6. 灰白色シルト質細砂(2.5Y7／1)
7. 灰白色シルト質細砂(5Y8／2)
8. 灰黄色シルト質細砂(2.5Y6／2)
9. 褐灰色シルト質細砂(10YR4／1)
10. 褐灰色シルト質細砂(10YR5／1　灰白色細砂を含む)
11. 灰白色＋灰黄色細砂(2.5Y8／2＋7／2　13層を含む)
12. 灰黄褐色シルト質細砂(10YR5／2　11層を含む)
13. 褐灰色シルト質極細～細砂(10YR4／1)
14. 黒褐色シルト質極細～細砂(10YR3／1)
15. にぶい黄橙色シルト質極細～細砂(10YR5／3)
16. 浅黄色細砂(2.5Y7／4　ややしまる)
17. 淡黄色細砂(2.5Y8／3　地山)
18. 浅黄色シルト質細砂(2.5Y7／4)
19. 灰オリーブ色シルト質細砂(5Y6／2)
20. 褐灰色＋灰黄褐色シルト質細砂(10YR4／1＋6／2)
21. 灰黄褐色シルト質細砂(10YR4／2)
22. 灰黄褐色シルト質細砂＋浅黄色細砂(10YR5／2＋2.5Y7／4)
23. 灰黄褐色シルト質細砂＋浅黄色細砂(10YR6／2＋2.5Y7／4)
24. にぶい黄橙色細砂(10YR7／3)
25. 褐灰色シルト質細砂(7.5YR4／1　灰白色細砂を含む)

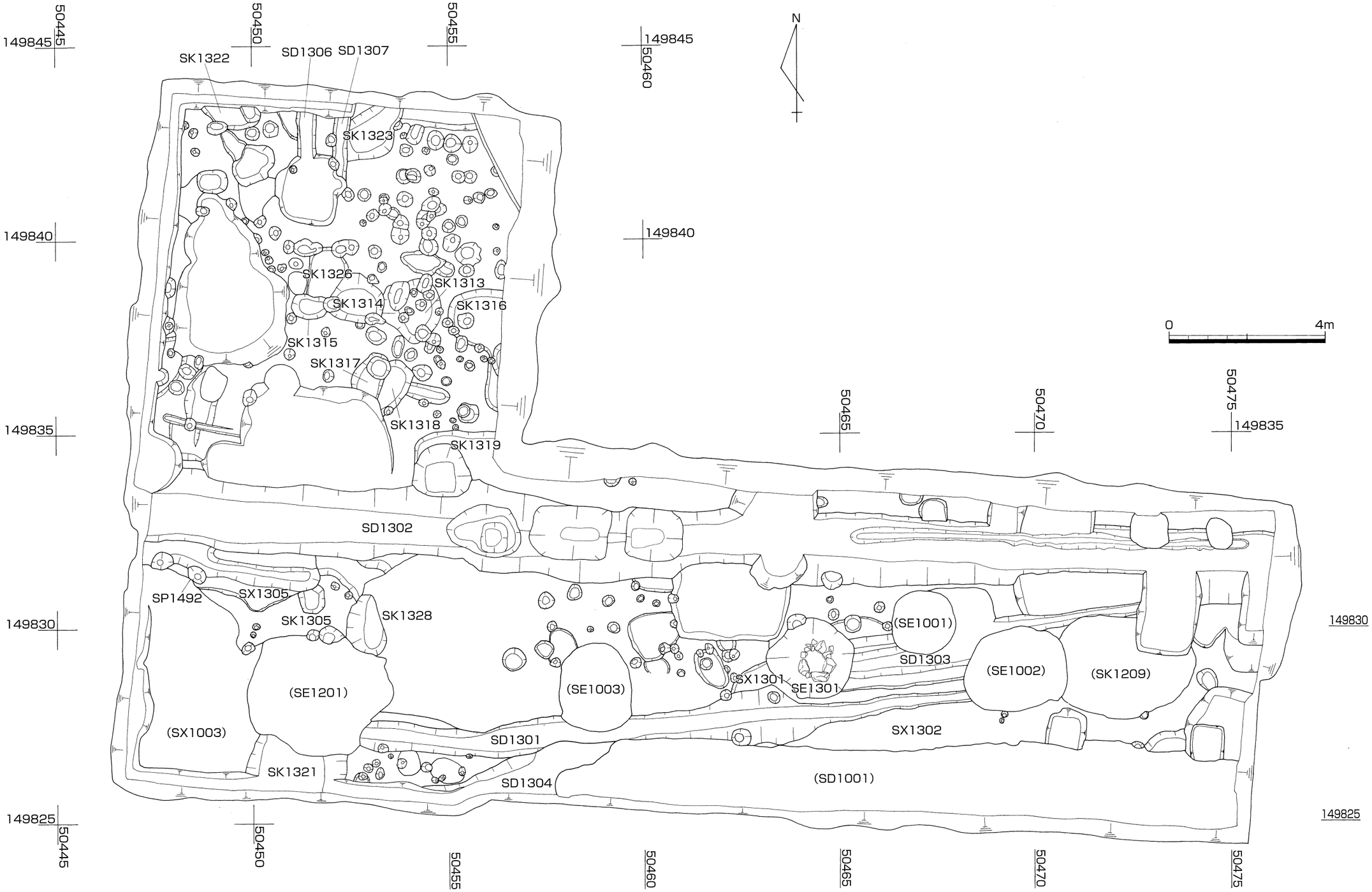




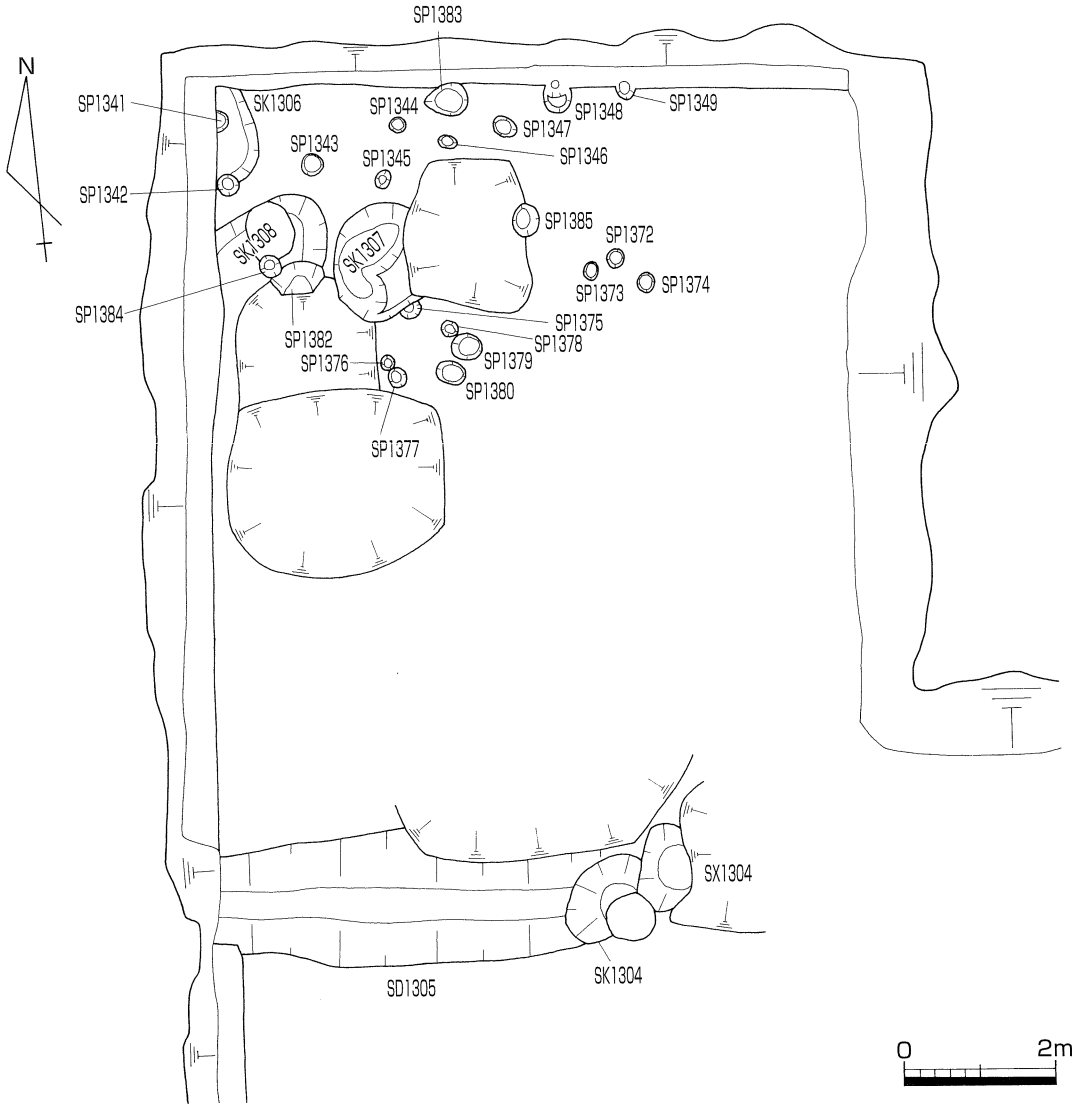




第6図　調査区土層図（S：1／80）



第７図　第３面遺構配置図（Ｓ：１／100）



第8図　第3面上層遺構配置図（S：1／100）

地表面から約0.60mの深さまで花崗土（第1層）で埋め立てられ，その直下に昭和20年7月4日の高松空襲による焼土・炭を多量に含む黒褐色シルト質細砂（第2層）が最大0.40m堆積している。

第3～6層は明治時代から第2次世界大戦までの埋め立てである。

第7・8層の灰白色シルト質細砂の上面は第1面の確認面である。第8層は最大0.20mの厚さでほぼ水平な堆積をなしている。第7層は薄く，部分的に確認した。

第13層の褐灰色シルト質極細砂～細砂の上面は第2面の確認面である。厚さは0.20mであり，北西方向に若干低くなっている。西壁の土層図では撹乱により第14層以上が削平されているが，調査区内では撹乱が浅く，第1・2面の遺構が検出されている。

第16層の浅黄色細砂の上面は第3面上層の確認面であり，調査区の北西隅のみに堆積し，北西方向に若干低くなっている。第17層の淡黄色細砂の上面は第3層の確認面である。上層と同様に北西方向に低くなっている。

第18～25層は，遺構の埋土である。ＳＤ1001とＳＸ1003の土層は第2冊において報告する。

第３節　遺構・遺物

1．溝

ＳＤ1301　（第９～11図）

調査区南側において検出したほぼ直線的に延びる溝であり，東側はＳＥ1002に，西側はＳＥ1201に切られている。検出面のレベルは標高0.80～1.00ｍである。検出した溝の全長は15.80ｍ，幅は0.65～1.40ｍ，深さは0.34～0.50ｍを測る。溝の方位はＮ－90°－Ｅである。溝西端付近の断面は傾斜の強いＵ字形をなすが，中央から東側は緩やかな傾斜の船底形を呈し，底面のレベルは西から東方向に若干低くなっている。埋土は，炭を僅かに含む黒褐色シルト質極細砂が厚く堆積し，底面近くに灰黄色細砂と灰白色細砂が薄く堆積していた。埋土は自然堆積である。溝の中央から西端部にかけては拳大～人頭大の礫が多量に充填されていた。

遺物は，土師質土器小皿（１～25），同杯（26～32），同椀（33～36・55・56），須恵器小皿（37），瓦器小皿（38・39），同椀（40～54・57～59），白磁碗（60・61），備前焼擂鉢（62～67），土師質土器甕（68），須恵器壺（69），瓦質土器捏ね鉢（70），土師質土器甕（71），陶器甕（72・73），土師質土器足釜（74），平瓦（75），鉄斧（76）である。

１～10は器高の低い小皿で，１・２・４・５・８～10は平底から急激に立ち上がり，３・６・７はやや緩やかな立ち上がりである。体部の調整は回転ナデである。底部は，１・４・６・８・９が回転ヘラ切り後にナデであり，3は回転ヘラ切り後に板目・回転ヘラナデが施される。５・10は回転ヘラケズリ，7は板目後に回転ヘラケズリ，2はナデである。

11～20は口径８～10cm，底径４～10cm，器高1.4～２cmの小皿であり，やや緩やかに立ち上がる。15の口縁端部は面取りされる。11・12・15・16の底部はナデ，13は回転ヘラ切り，14・18は回転ヘラ切り後に中央を板目，周縁を回転ヘラナデが施される。17・19は回転ヘラ切り後にヘラナデ，20は回転ヘラ切り後にナデが施される。

21～25は底部であり，21の底部は回転ヘラ切り後に中央を板目，周縁を回転ヘラナデが施され，22は回転糸切り，23・25は回転ヘラ切り後にナデが施される。24はハケである。

26～32は直線的な体部の杯であり，30の底部は回転ヘラ切り後に中央を板目，周縁を回転ヘラナデが施される。33～36の口縁部は若干外反する。

37は内面にヘラミガキ，底部外面に指頭圧痕が施される。38はヘラミガキ，底部外面に指頭圧痕後にナデが施され，内面にヘラによる線刻がある。39は内面にヘラミガキ，底部外面に指頭圧痕が施される。

40・47は内面にヘラミガキが施され，42～46・48～54は外面に指頭圧痕とヘラミガキ，内面にていねいなヘラミガキが施される。57～59は低い高台を有し，体部外面に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。

60は玉縁状口縁部の白磁碗である。

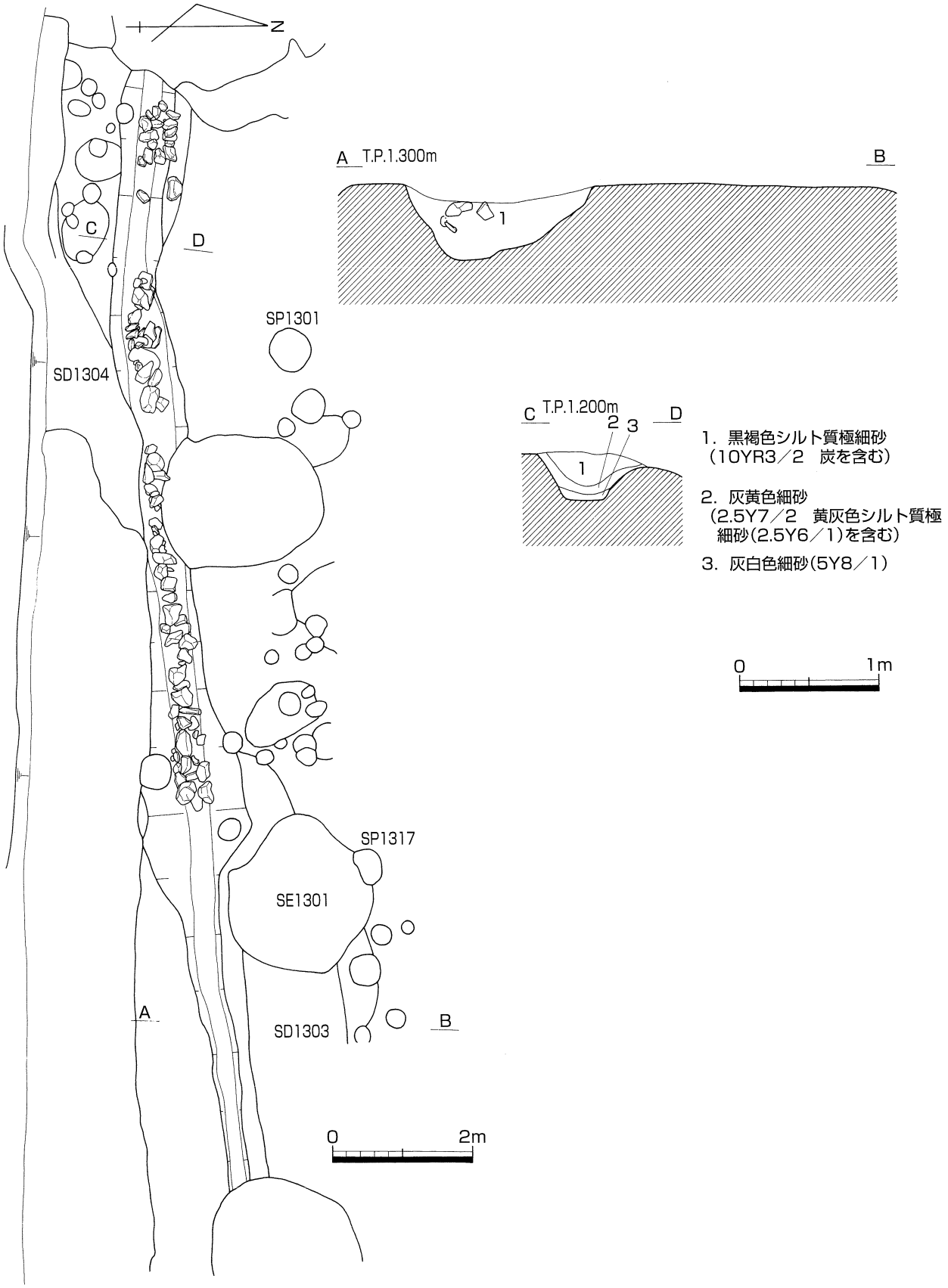
62～67は備前焼の擂鉢である。62～65の口縁部は上下に若干拡張し，64・65は片口を有する。内外面は回転ナデが施される。66の外面はナデ・ヘラケズリ，67はヘラナデが施される。

69は直立する口縁部の壺で，口縁端部はわずかに玉縁状を呈する。

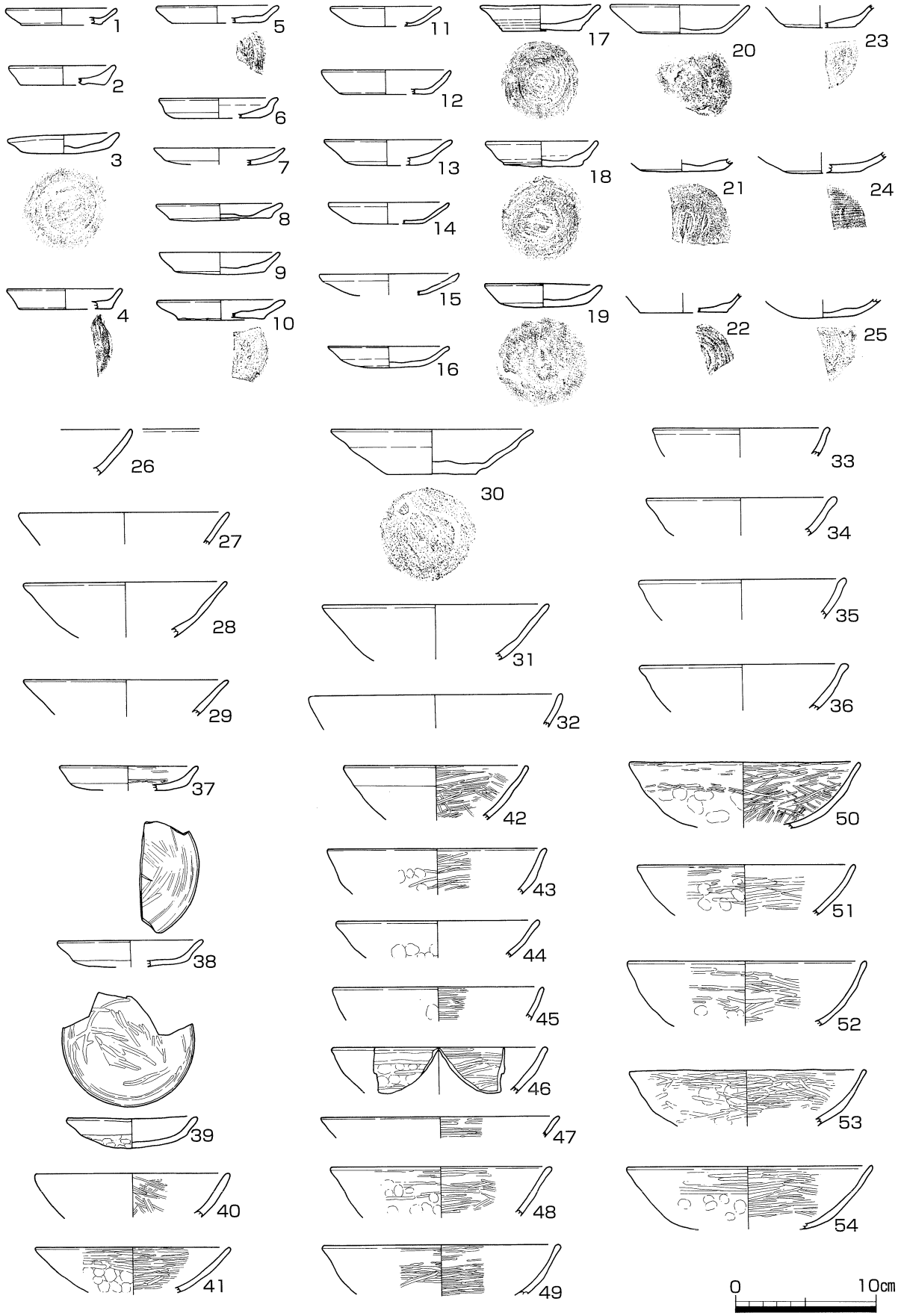
70は直線的に口縁部に至り，外面は指頭圧痕・ナデが施される。

72・73は平底で，外面にハケとヘラケズリ，内面にヘラナデ・ナデが施される。

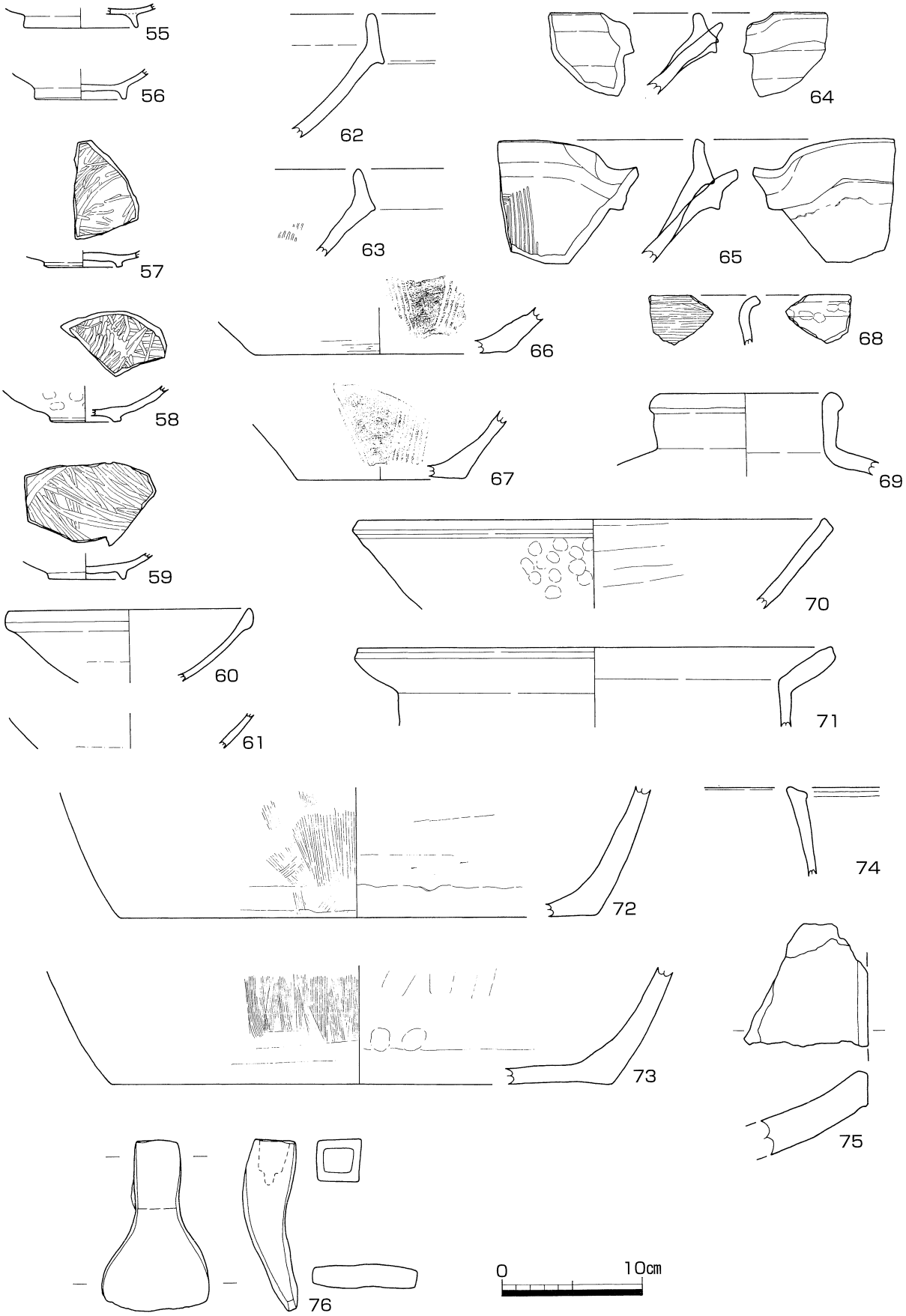
75は凹面端部を面取りし，ヘラナデが施される。



第９図　ＳＤ1301平・断面図（Ｓ：１／40・１／80）



第10図　ＳＤ1301出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）



第11図　ＳＤ1301出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／４）

ＳＤ1302 （第12～20図）

調査区中央において検出した溝であり，中央より東側では近代の撹乱により上部が削平されている。検出面のレベルは標高0.90m前後である。溝は直線的で東西方向に延びており，その方向はN－90°－Eである。検出した溝の全長は約28.80m，幅は1.60～2.25mを測る。検出面から最深部までの深さは約0.60mであり，底面のレベルは比高差約0.20mで東方向に低くなっている。掘り込みは緩やかな傾斜であり，断面は船底形を呈する。溝の中央付近に隅丸方形を呈する落ち込みを３ヶ所検出した。その長軸は1.40～2.00m，短軸は1.40mを測り，溝底面からの深さは約0.40mである。落ち込みの埋土は灰白色粗砂である。溝の東側には拳大～人頭大の石を集中して検出した。その中に火を受けた状態の石が数個含まれ，集石の東端に五輪塔（第20図207・208）が出土した。さらに，集石直下の溝底面に全長10.20mを測る小規模な落ち込みを検出した。幅は0.30～0.40m，深さは0.10～0.25mを測る。埋土は６層に分層でき，自然堆積をなす。埋土の第２層褐灰色シルト質細砂には焼土と炭が若干含まれていた。

遺物の出土は多量であり，特に注目すべき遺物として「野原濱村无量壽院」と刻まれた丸瓦と梵字瓦，ほぼ完形の青磁香炉が挙げられる。その結果，調査地が寺院跡であることが判明した。無量壽院の寺記によれば，天文年間に今の高松城の地に寺を移転したが，天正年間に高松城を築城の際に西へ移転したとされていた。

遺物は，土師質土器小皿（77～88），同杯（89～109），同鉢（110～116），同椀（117～121），瓦器椀（122～125），青磁碗（126･127），同香炉（128），白磁碗（129～133･135），同皿（134），磁器碗（136・137），同皿（138），土師質土器擂鉢（139），備前焼擂鉢（140・141），土師質土器鍋（142～147），同足釜（148～155），備前焼壺（156），瓦質土器壺（157），土師質土器甕（158～162・168），備前焼甕（163・164），須恵器甕（165～167・169），土師質土器鉢（170），須恵器高杯（171），土師質土器イイダコ壺（172），土製円盤（173～179），砥石（180），土錘（181～187），丸瓦（188～195），平瓦（196～203），鬼瓦（204～206），五輪塔（207・208）である。

77～81は非常に体部の短い形態の小皿であり，77の底部はナデ，78・80の底部は回転ヘラケズリ，79・81は回転ヘラ切りが施される。82～88は前者より体部が長い小皿であり，底部からやや緩やかに立ち上がる。85の底部は回転ヘラ切り，86は回転ヘラ切りの後に中央部を板目，周縁部にナデが施される。

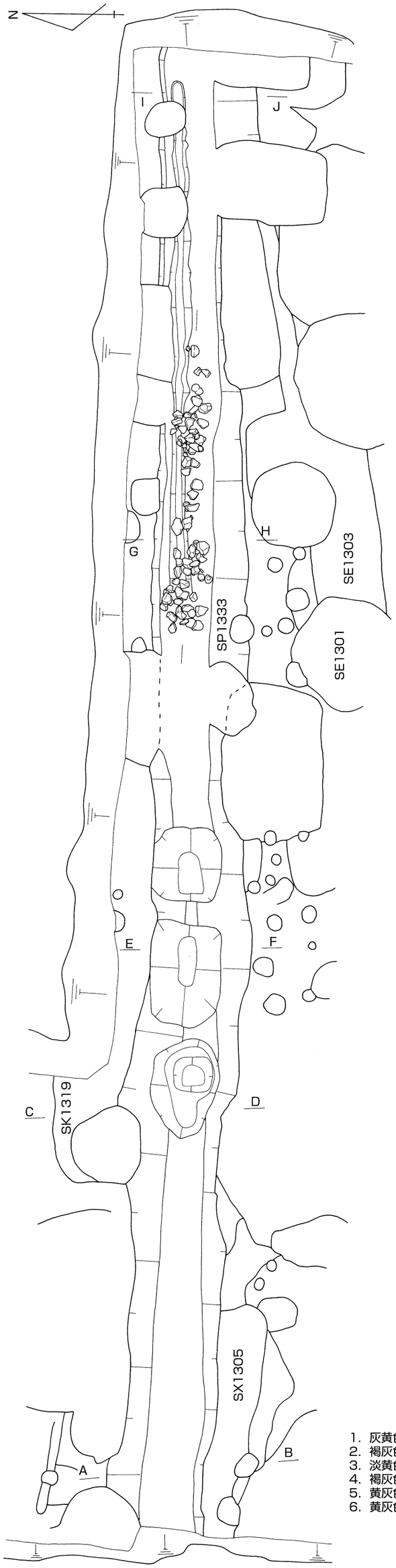
89～98は口径10～11cmを測り，回転ナデが施される。92・96の底部は回転ヘラ切り，93・95はナデ，94は静止板ナデが施される。99～101は口径12～14cmを測り，99･101は回転ナデ，100は回転指ナデが施される。102～109は底部であり，103は板目，104は回転ヘラケズリ，105・108・109は回転ヘラ切り，106は中央部に板目，周縁部にヘラナデが施される。107は回転ヘラ切り後に板目が施される。

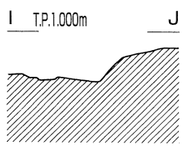
110～116は口縁部の外反する器形と内湾する器形がある。110の外面には墨書が見られる。112は内外面に回転ナデが施され，内面に煤が付着している。113の底部は静止糸切り，114は内外面にナデが施される。115の底部は浅いハケが施される。

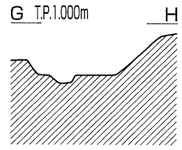
117は体部と口縁部の境に若干の稜を有し，外面は指頭圧痕･ナデ，内面はヘラミガキが施される。118は内湾気味の器形で，外面は回転ナデ，内面はヘラミガキが施される。119～121は短く断面方形の高台を有する。

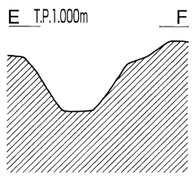
122・123は外面に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。124・125は外面に指頭圧痕の後

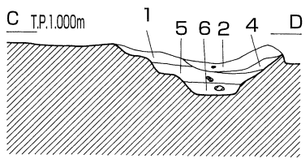
第12図　ＳＤ1302平・断面図（Ｓ：1／80）

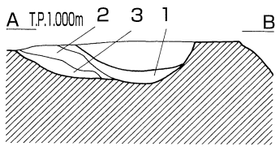




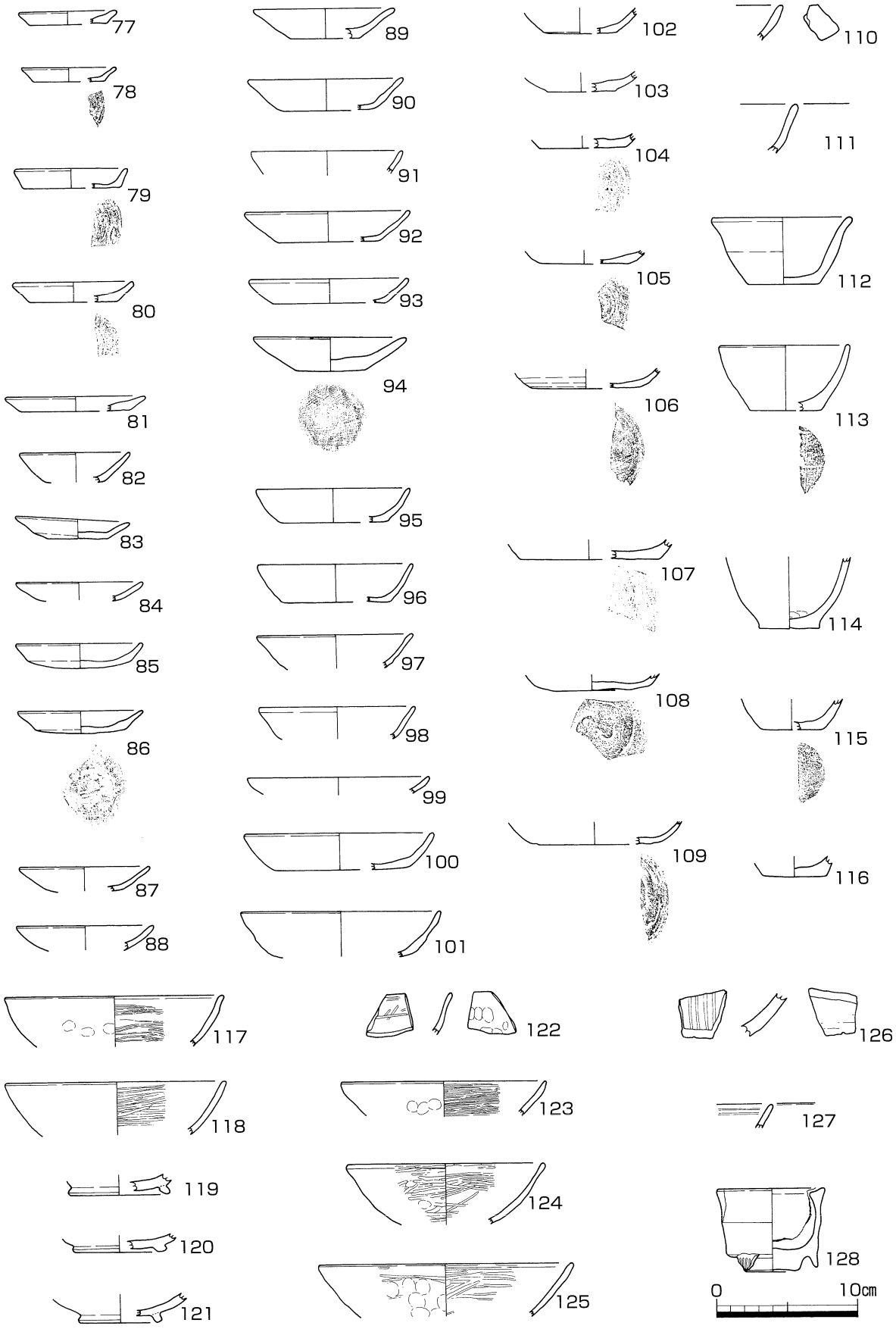








1. 灰黄色細砂＋黄灰色シルト質細砂(2.5Y7／2+6／1)
2. 褐灰色シルト質細砂(10YR4／1 焼土・炭を若干含む)
3. 淡黄色細砂＋灰黄色シルト質細砂(2.5Y8／4+6／2)
4. 褐灰色シルト質細砂(10YR4／1 灰白色細砂を含む)
5. 黄灰色＋褐灰色シルト質細砂(2.5Y6／1+10YR5／1)
6. 黄灰色シルト質細砂(2.5Y4／1 灰白色細砂を含む)



第13図　ＳＤ1302出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）

にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。123・124の口径は14cm前後，125は18cmである。

126は青磁碗の体部下半部，127は青磁碗の口縁部である。128は3個ある脚の1個を欠損するがほぼ完形の中国産の筒形香炉であり，漆による補修が施されている。脚は形骸化しており，高台より短くなっている。底部畳付は露胎である。

129～132は玉縁の白磁碗であり，132は体部下半分を露胎にしている。口径14cmを測る小形の碗と口径18～20cmの大形の碗がある。133の口縁部はわずかに外反する。134の底部は静止ヘラケズリが施される。135は短く太い高台を有し，底面は回転糸切り後に周縁に回転ヘラケズリが施される。

136はわずかに外反する口縁端部で，灰白色の釉がかかる。137は褐灰色の釉のかかる碗である。138は体部下半が露胎である。

139は口縁端部が大きく内湾し，外面にわずかな指頭圧痕が見られ，内面には横方向に幅広いハケが施される。6条1単位の擂目がある。140は擂鉢の口縁部であり，上下に若干拡張する。141は擂鉢の底部付近であり，8本1単位の擂目が放射状に引かれている。

142～145はほぼ同形態の鍋であり，146を除いて口縁端部は断面方形を呈する。142・144・146の外面は指頭圧痕が施され，144の口縁部内面は横方向のハケが施される。

148～153は足釜の口縁部であり，内傾する口縁部の外面に鍔が付く。148は口縁端部の近くに低い鍔が付くが，149～153はしっかりした鍔が付き，鍔からの立ち上がりがやや長い。149・150・153の外面はハケ，150・151・153の内面はハケが施される。154は長い脚，155は短い脚であり，板ナデが施される。胴部内面は横方向のハケである。

156は口縁部がやや外反気味に直立し，口縁端部が少し外側に拡張する。内外面ともに回転ナデが施され，外面に自然釉がかかる。

157は瓦質土器であり，外面に成形痕が明瞭に残り，内面に指頭圧痕・ナデが施される。

158・159は「く」の字状に外反する甕で，158は胴部外面にヘラナデ・指頭圧痕，内面に横方向のヘラナデが施される。159の口縁端部はわずかに上に拡張する。160・161は緩やかに外反する口縁部を有し，160の内面は深いハケが施される。161の外面は強い板ナデ，内面は横方向のハケが施される。162は大形の甕である。

163・164は備前焼の甕で，163は折り返し口縁部である。

165の外面は格子状タタキ，166は平行タタキが施される。167は外面に浅い沈線を2本廻らし，内面には成形痕が明瞭に残る。168・169は平底である。

170はやや大形の鉢であり，口縁部と体部の境にわずかな稜を持ち，口縁部は直立する。内外面ともに成形痕が残る。

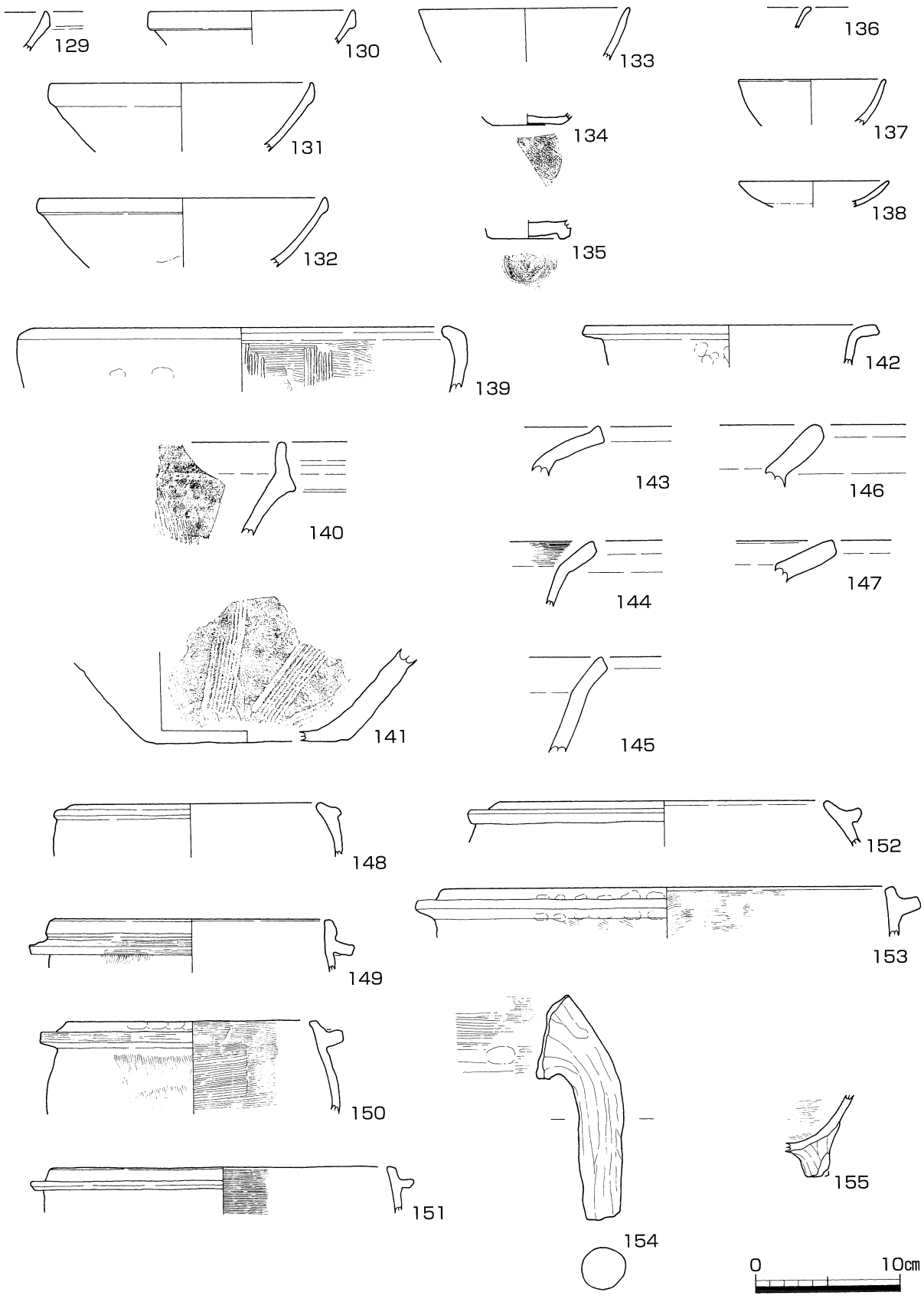
171は高杯の脚部であり，方形の透かしの一部が残存する。内外面は回転ナデが施され，内面上部に絞り目が残る。

172はイイダコ壺の口縁部であり，外面に指頭圧痕が施される。

173は瓦を不整な円形に加工した円盤であり，直径12cmを測る。176も瓦製であり，布目が施される。174・175・177～179は土器転用の円盤であり，ヘラナデが施される。174～178の直径は7～5cm，179は3.3cmである。

180は粘板岩の砥石の破片で，2面を使用している。

181～186は側面に溝を有する土錘である。186は全長6.7cmでやや小形であるが，その他は全長8.6～9.9cm，重さ210～429gを測る。187は中央に孔を有する土錘で，全長8.4cm，直径5.8cm，

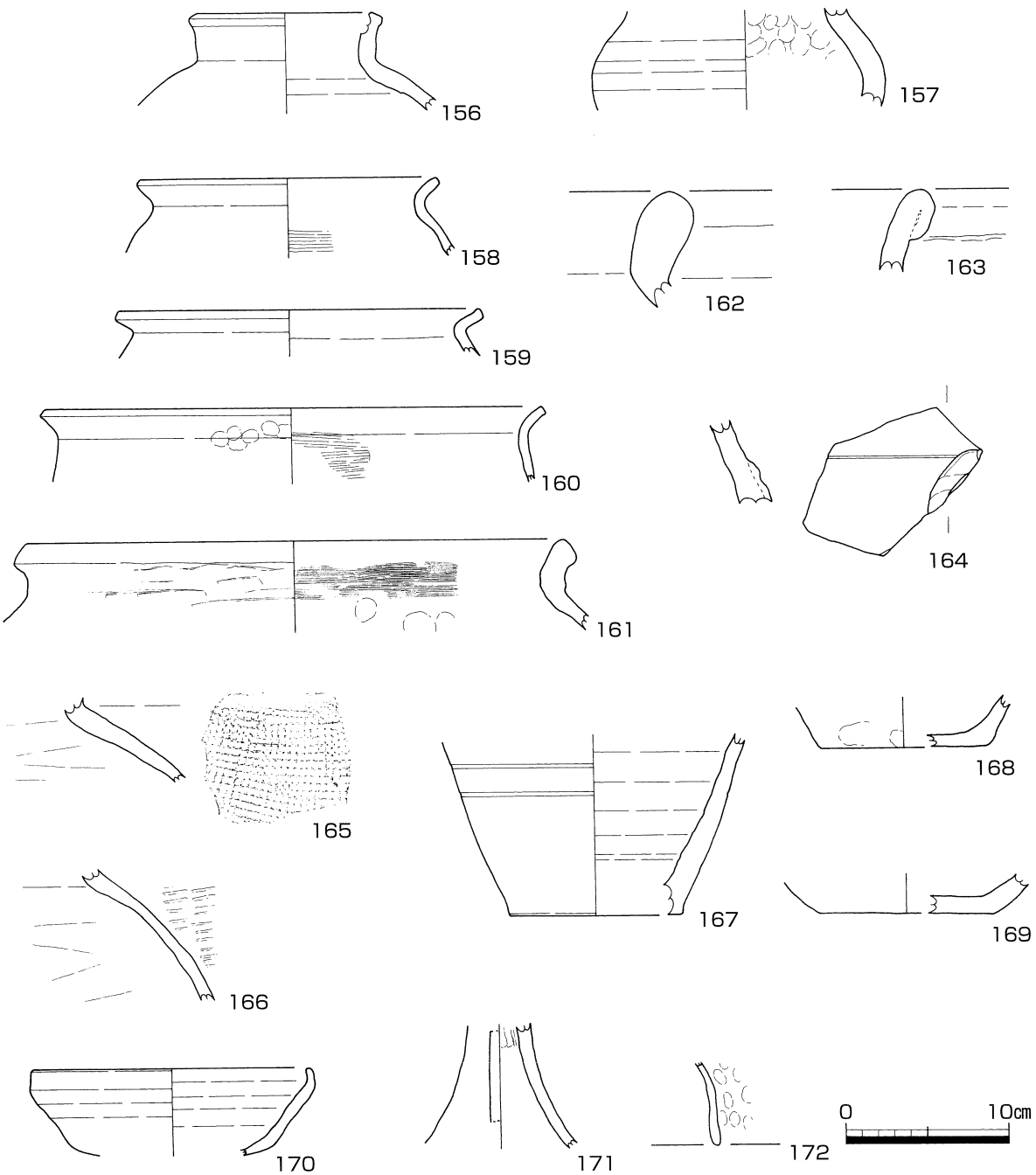


第14図　ＳＤ1302出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／４）

重さ290.9を測る。

188は広端面を欠損する丸瓦であり，凸面に「野原濱村无量壽院　天（文？）（以下欠損）九月（以下欠損）」の文字が刻まれている。凸面の調整は長軸方向に丁寧なナデが施され，凹面は細かな布目と幅２cmの粘土紐の痕跡が残存する。凹面内面には強くループ状に垂らす吊り紐痕が明瞭に見られる。凹面玉縁部は連続した面取りとなっている。凸面玉縁部と連結面の調整は板ナデが施される。凹面に斜め方向の緩弧線が残存し，粘土板の切断方法はコビキAである。

189は瓦当に巴文がみられる軒丸瓦であり，瓦当の下半を欠損する。外縁幅は広く，高さは低い。巴頭部は丸みを持ち，僅かにくびれを有し，尾はやや短い。凸面の調整は丁寧なナデが施

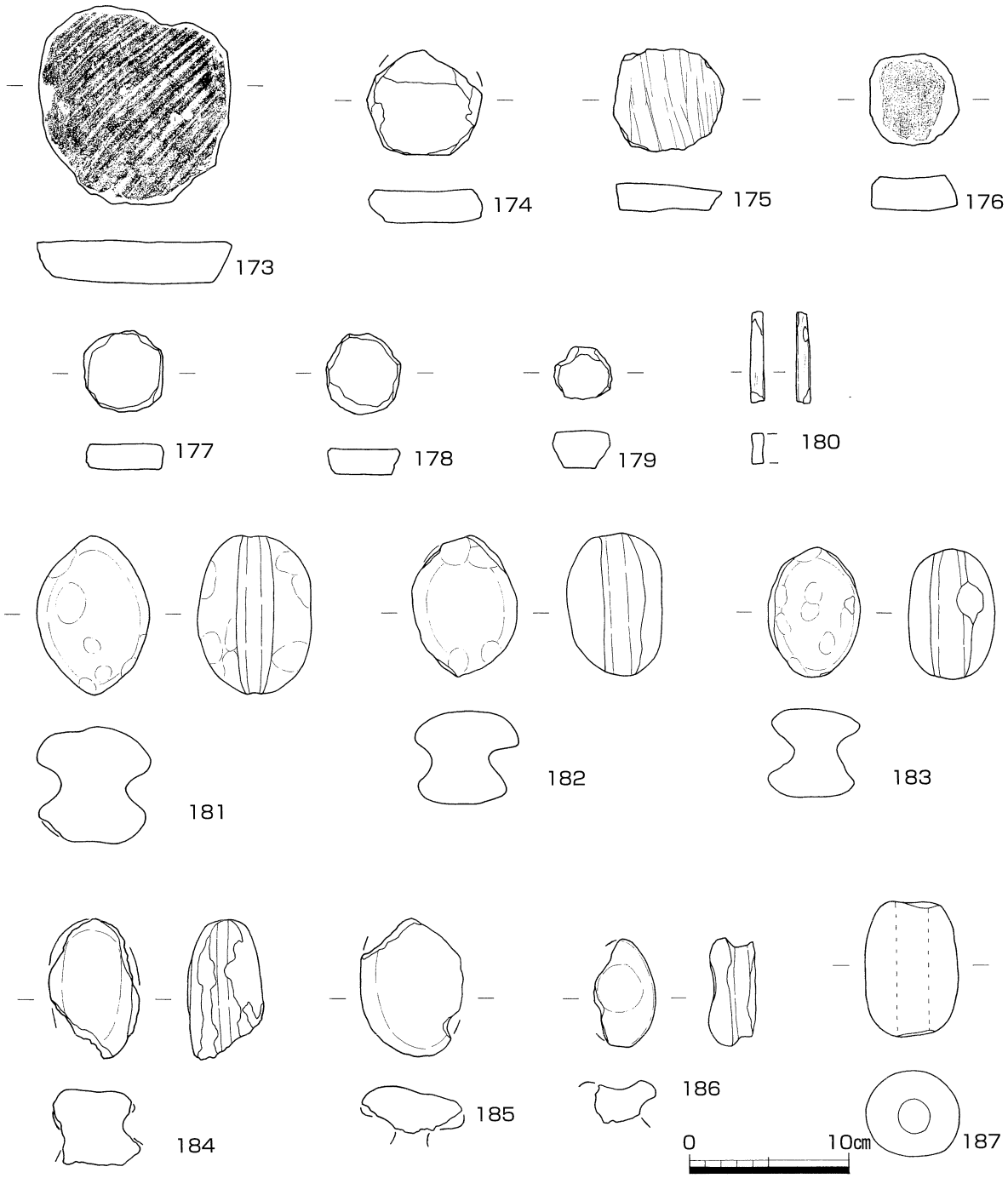


第15図　ＳＤ1302出土遺物実測図（３）（Ｓ：１／４）

され，凹面は細かな布目と幅２cmの粘土紐の痕跡が残存する。

190は玉縁の一部を欠損するがほぼ完形の軒丸瓦である。巴頭部は丸みを持ち，くびれを有し，尾はやや短い。珠文の間隔は広く，外縁幅は広く低い。凹面の玉縁連結部分に仕切りが設けられている。凸面の調整は長軸方向に丁寧なナデが施され，凹面は細かな布目と幅２cmの粘土紐の痕跡が残存する。192・193は巴文の軒丸瓦であり，尾は短く，珠文の間隔は広い。

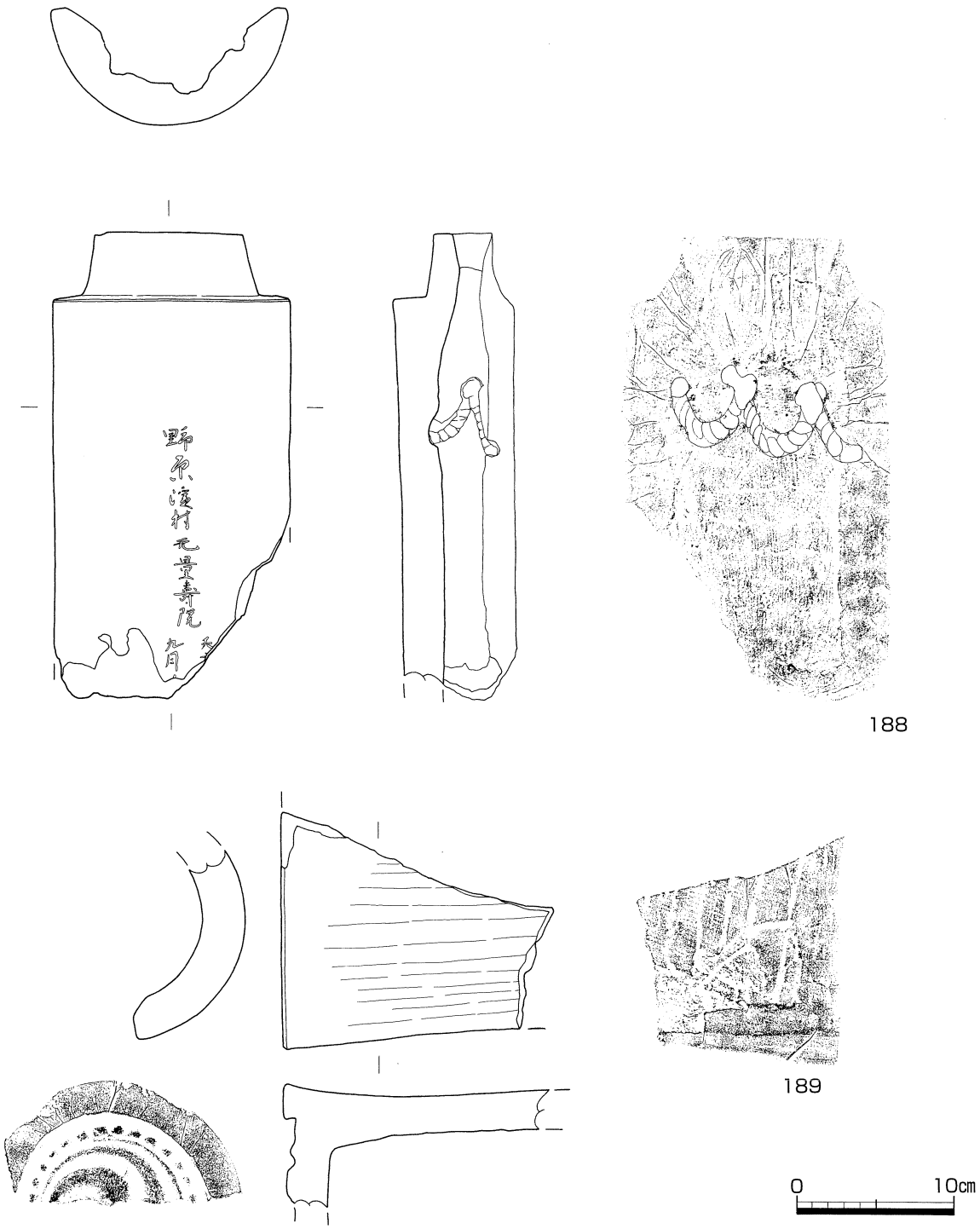
191は梵字文の軒丸瓦である。外縁幅は広く，その高さは低い。珠文の間隔は広く，内側に非常に細い界線が廻る。内区に阿弥陀如来（無量寿如来）を意味する梵字がある。



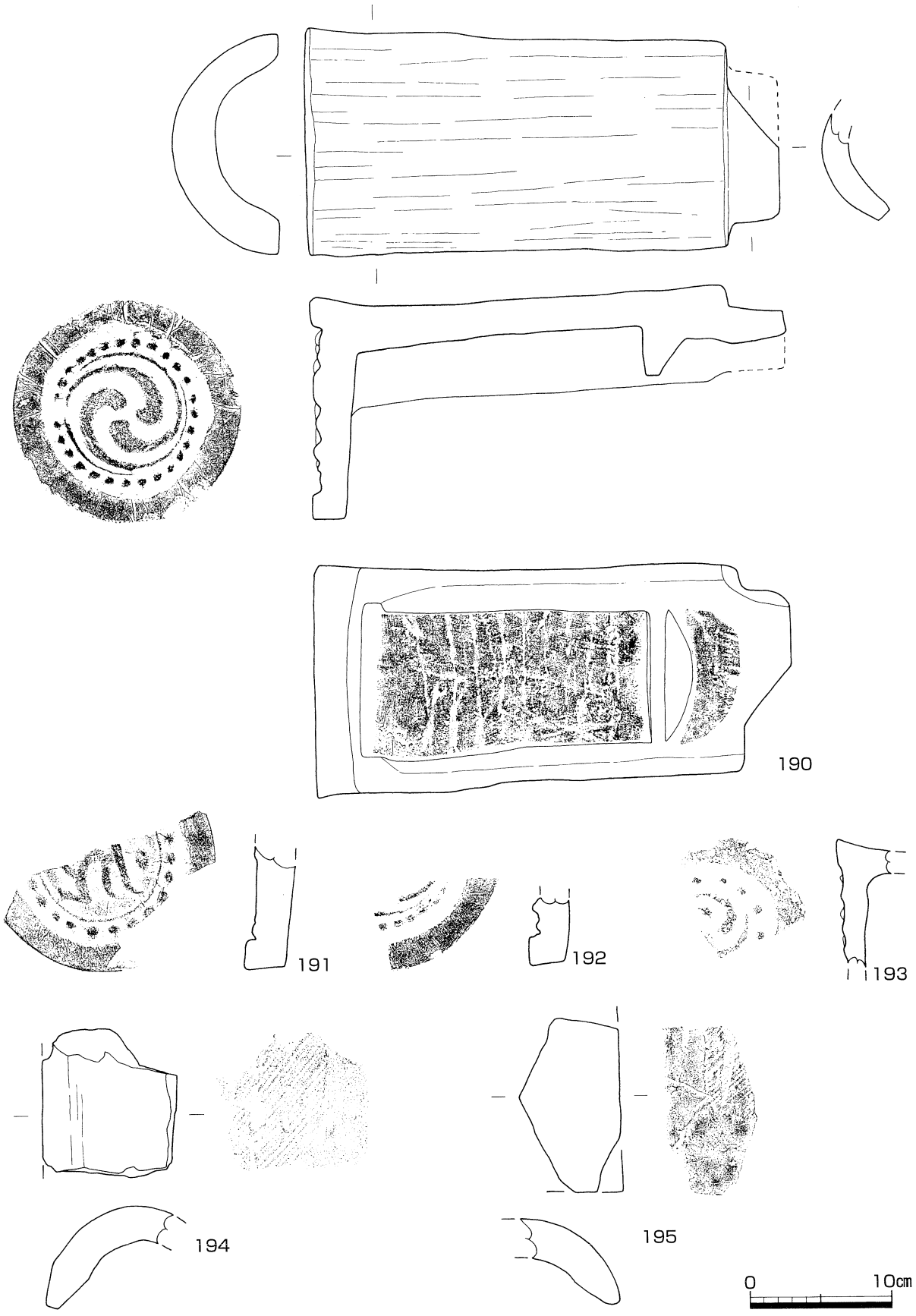
第16図　ＳＤ1302出土遺物実測図（４）（Ｓ：１／４）

194・195は丸瓦の破片であり，淡赤橙色を呈する。凸面はナデ，凹面には布目・内叩き痕が残存する。粘土板の切断方法はコビキAである。

196～202は波状文軒平瓦である。外縁の幅はやや広くなり，左右外縁幅は特に広くなる。界線は無く，波状は「重波文的波状文」であり，波の皺は３～５本である。顎裏面の調整は横方向のナデが施される。196・197は瓦当上縁を幅広く面取りし，顎後縁に狭い面取りが行われる。



第17図　ＳＤ1302出土遺物実測図（５）（Ｓ：１／４）



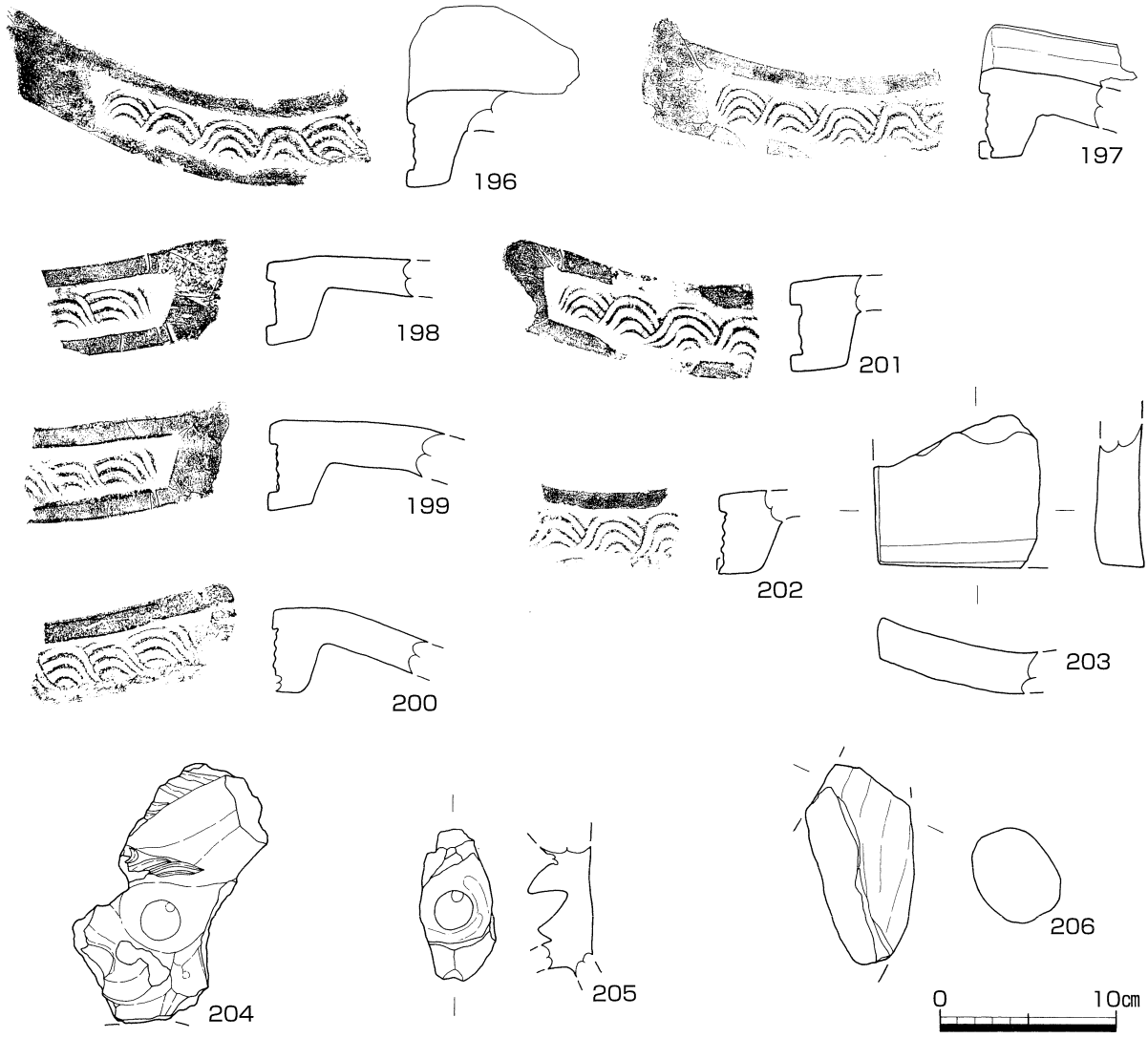
第18図　ＳＤ1302出土遺物実測図（６）（Ｓ：１／４）

197は顎部に圧痕が残存する。198は顎後縁に幅５㎜の面取りが行われ，凸面に横方向の板ナデが施される。凹面には幅２cmのヘラナデが横方向に施される。199は瓦当上縁を幅広く面取りし，顎後縁に狭い面取りが行われる。200は瓦当上縁を幅２㎜の面取りをし，顎後縁の依存状態が悪いがやや幅の広い面取りの痕跡が残る。201は瓦当周縁の面取りは行われていないが，瓦当上縁には凹面に対して幅1.7cmの非常に緩やかな傾斜がある。202は瓦当上縁に幅２㎜の面取り，顎後縁に幅５㎜の面取りがある。

203は平瓦であり，色調はにぶい橙色を呈する。凸面に斜め方向の緩弧線が残存する。凹面狭端側端・側面・狭端面はナデが施される。

204～206は鬼瓦の破片である。204は天空を睨みつける目と角の部分であり，205は目，206は角の一部である。

207は五輪塔の空輪・風輪で，石材は角礫凝灰岩である。空輪の直径は15.4cm，高さ11.5cmを測り，風輪の直径は16.1cm，高さ10.9cmを測る。遺存状態は良く，原形を保っている。208は五輪塔の水輪であり，石材は角礫凝灰岩である。直径は22cm，高さは15.3cmを測る。表面の風化が著しい。



第19図　ＳＤ1302出土遺物実測図（７）（Ｓ：１／４）

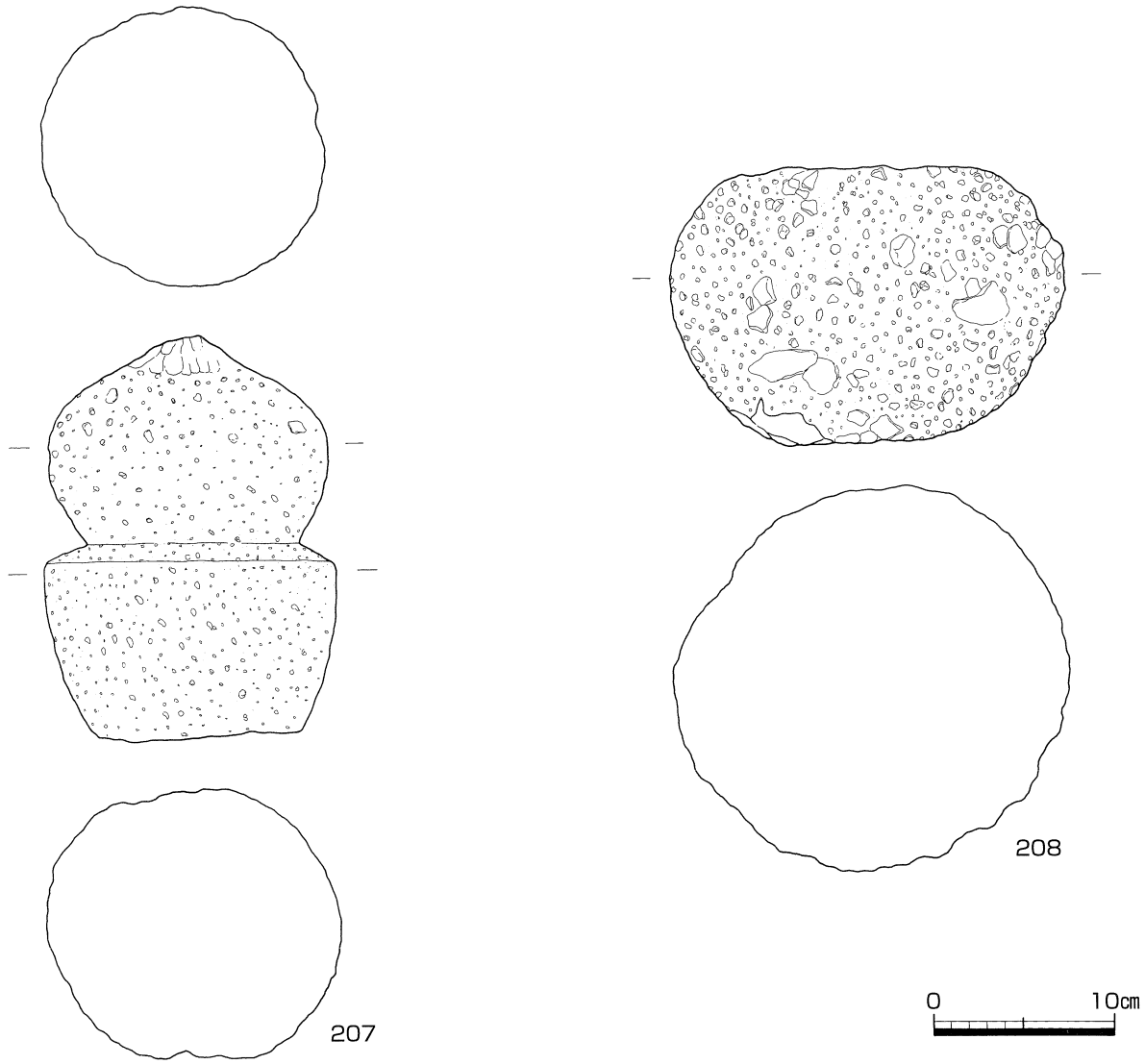
ＳＤ1303　（第21・22図）

調査区南壁中央から南東隅にかけて検出した溝であり，ＳＤ1001・ＳＥ1001・ＳＸ1001・ＳＫ1209に切られ，ＳＤ1301・ＳＸ1301を切っている。確認面のレベルは標高0.80m前後である。溝の方向はＮ－77°－Ｅであるが，ＳＤ1301より南側はやや方向を変える。検出した全長は11.90mを測り，上場の最大幅は溝の中央付近にあり1.40mである。溝の東側は近代の撹乱により上部を削平されている。確認面からの深さは溝の中央で0.46m，西端で0.24m，東端で0.20mを測る。底面のレベルはほぼ平坦であり，標高0.45m前後である。溝は段を有する掘り込みであり，上部は非常に緩やかであるが中央で急傾斜に落ち込む。埋土は灰白色シルト質細砂＋灰白色細砂の単一層である。

遺物は，土師質土器小皿（209･210），同杯（211～217），瓦器小皿（218），同椀（219～221），土師質土器羽釜（222），同足釜（223・226），同鍋（224），須恵器甕（225）である。

209・210は器高の低い小皿であり，内外面ともに摩滅しており調整は不明である。

211は口径10.4cm，底径7.0cm，器高2.9cmを測る。内外面の調整は回転ナデであり，底部は回転ヘラ切り後にナデが施される。212は口径10.0cm，底径6.0cm，器高2.9cmを測る。底部はやや上



第20図　ＳＤ1302出土遺物実測図（８）（Ｓ：１／４）

げ底気味である。体部外面に成形痕が残存する。内外面の調整は回転ナデが施され，底部は中央に板目，周縁にナデが施される。213･215は直線的な体部で，回転ナデが施される。214は内湾気味の体部である。216は体部の立ち上がりの緩やかな器形で，器高は低い。内外面の調整は回転ナデが施される。217の底部は回転ヘラ切り後にヘラナデ・指ナデが施される。

218は口径9.8cm，器高2.3cmを測り，体部外面の調整は指頭圧痕・ナデ，内面はヘラミガキ・ナデが施される。

219は椀の口縁部であり，体部外面の調整は指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面はナデ後にヘラミガキが施される。220・221は底部である。220は外面に回転ナデ，内面にナデが施される。221は低い高台を有し，内面にナデの後にヘラミガキが施される。

222は短く直立する口縁部と水平に太く伸びる鍔部であり，口縁端部と鍔端部に平坦面を有する。口縁部と鍔部の外面はヨコナデ，胴部外面は縦方向のハケ，内面は横方向のナデが施される。

223は内傾する口縁部に短い鍔を有する。口縁部外面はヨコナデ，胴部外面は指頭圧痕･ナデ，内面はヘラナデが施される。226は脚であり，ナデ・指頭圧痕が施される。

224の口縁部は胴部から緩やかに外反する。口縁端部はヨコナデ，口縁部内面は横方向の深いハケが施され，胴部外面は指頭圧痕・ヘラナデ，内面は板ナデが施される。

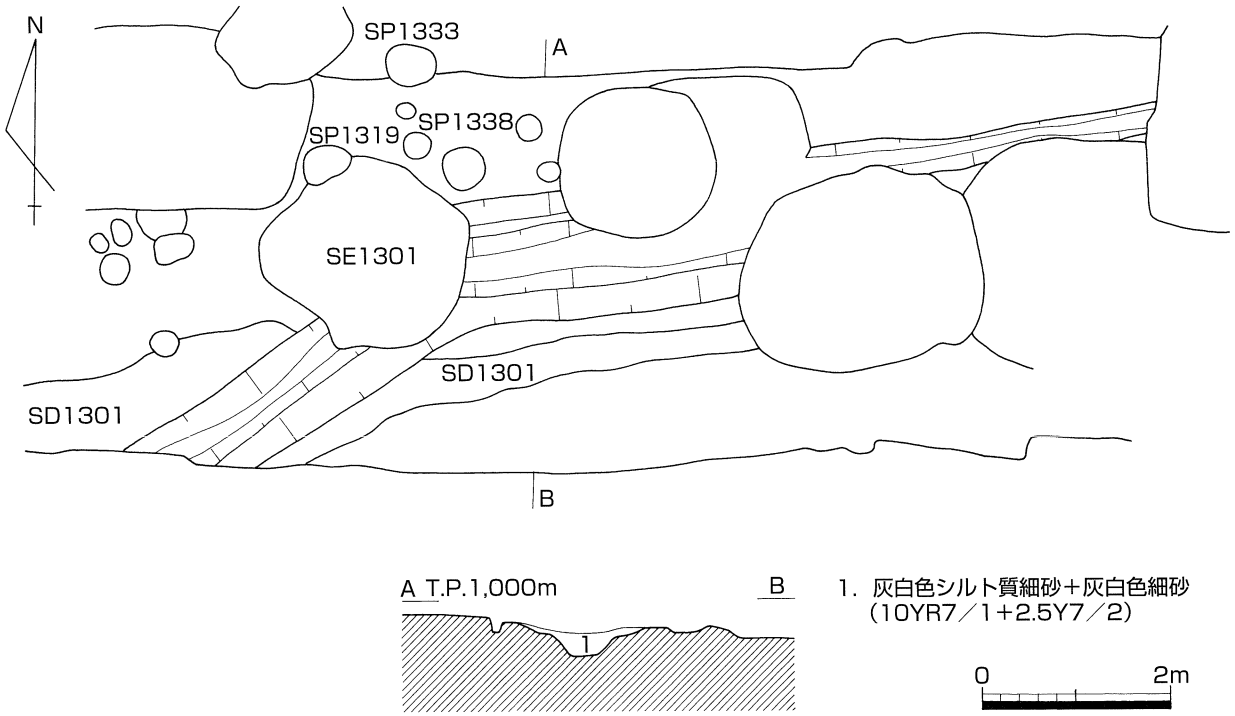
225は平底で，外面は指ナデ，内面ヘラナデ，底部は回転糸切り後にヘラケズリが施される。

ＳＤ1304　（第23～29図）

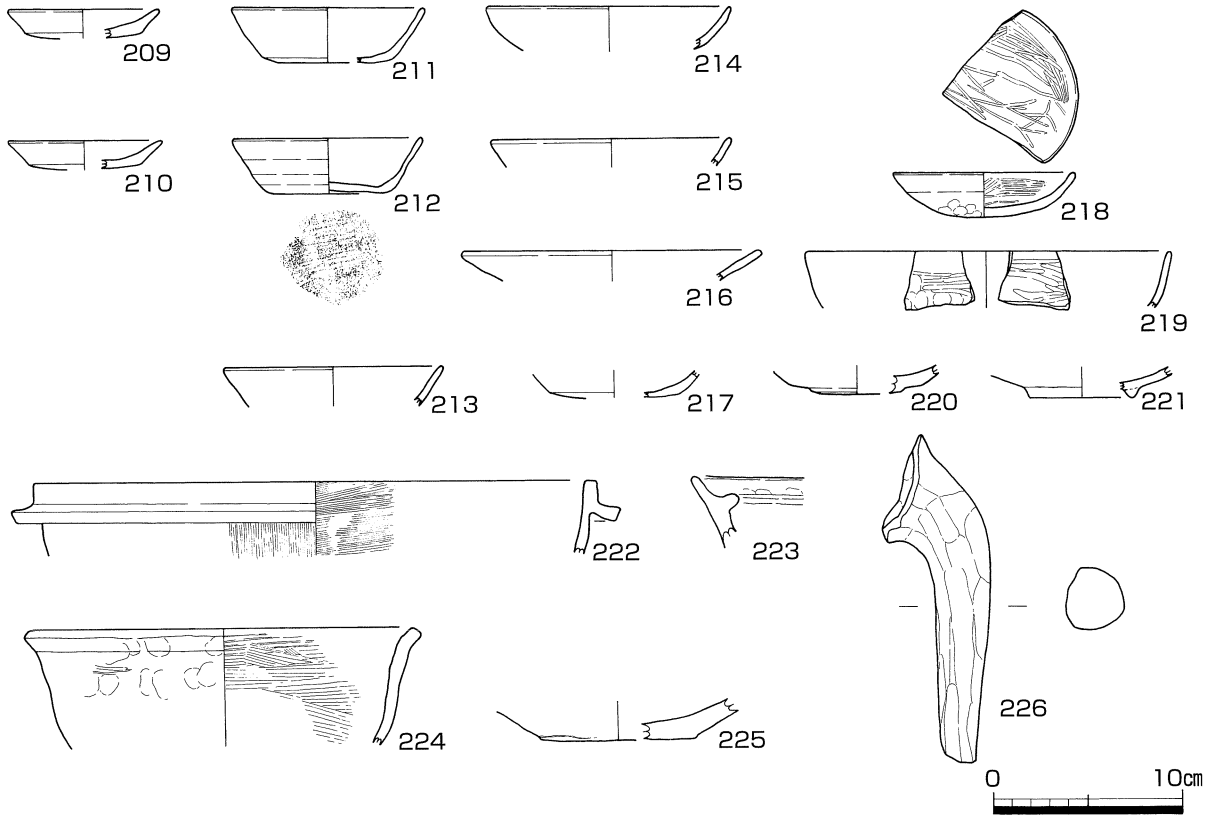
調査区の南側中央において検出した溝であり，南側の調査区外に延びている。この溝はＳＤ1001，ＳＤ1301・1302，ＳＥ1301に切られている。確認面のレベルは標高1.00ｍである。溝の方向はＮ－45°－Ｅを示す。検出した溝の全長は約11.80ｍであり，北端の幅は0.60ｍを測るが，南端では幅広くなっている。確認面からの深さは，南端部で0.25ｍを測り，底面のレベルはほぼ平坦である。溝の断面はＵ字形を呈する。埋土は黒褐色シルト質極細砂の単一層であり，わずかに木炭粒子を含んでいる。遺物の出土は溝の南端部に集中していた。

遺物は，土師質土器小皿（227～277），瓦器小皿（278～284），土師質土器杯（285～292），同椀（293～301），瓦器椀（302～342），白磁碗（343・344・346～348），青磁碗（345），須恵器高杯（349），土師質土器鍋（350），同甕（351），土錘（352･353），軒平瓦（354），カマド（355･356）である。

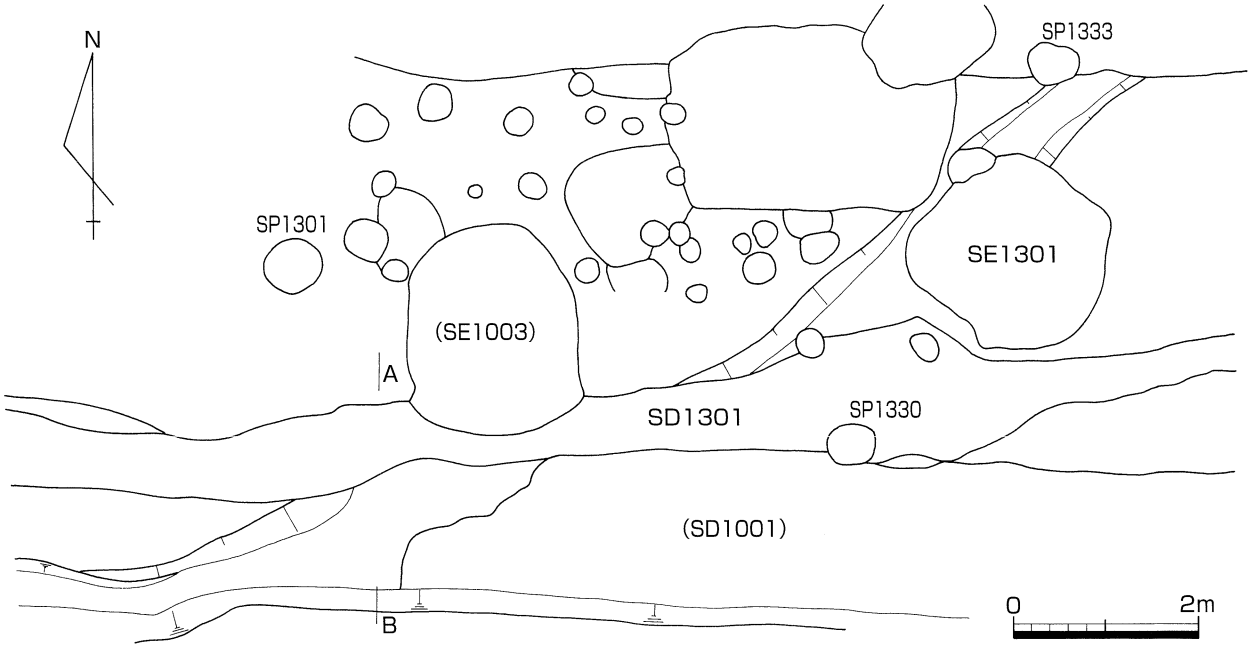
227～269は平底と体部の境が明瞭で器高の低い器形を呈し，270～277は底部から緩やかな傾斜で体部に至る器形である。227の底部は静止ヘラケズリの後に回転ヘラケズリが施される。228は内外面に回転ナデ後に指ナデ，底部はナデが施される。229は厚い底部で，口縁部にわずかな煤が付着する。230･234は直線的な体部で，底部はナデが施される。231は非常に低い器高の小皿で，上げ底気味の底部はナデが施される。232・233は底部に回転ヘラケズリが施され，233は薄い器厚である。235は厚い底部にナデが施される。236はやや不整形な器形であり，底部は回転ヘラ切り後に中央に板目，周縁に回転ヘラナデが施される。237～239は底部内面に指ナデが施される。237･238の底部は中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施され，239は回転ヘラ切り後に中央に板目が施される。240の底部は板目の後に周縁に回転ヘラケズリを施す。241は厚い器厚で，底部はナデが施される。242・243は底部と体部の境が若干不明瞭で，底部はナデが施される。244は厚い器壁で，底部は回転ヘラ切りが施される。245～251は外反気味の体



第21図　ＳＤ1303平・断面図（Ｓ：１／80）



第22図　ＳＤ1303出土遺物実測図（Ｓ：１／４）



第23図　ＳＤ1304平面図（Ｓ：１／80）

A

第24図　ＳＤ1304遺物出土状況実測図（Ｓ：１／20）

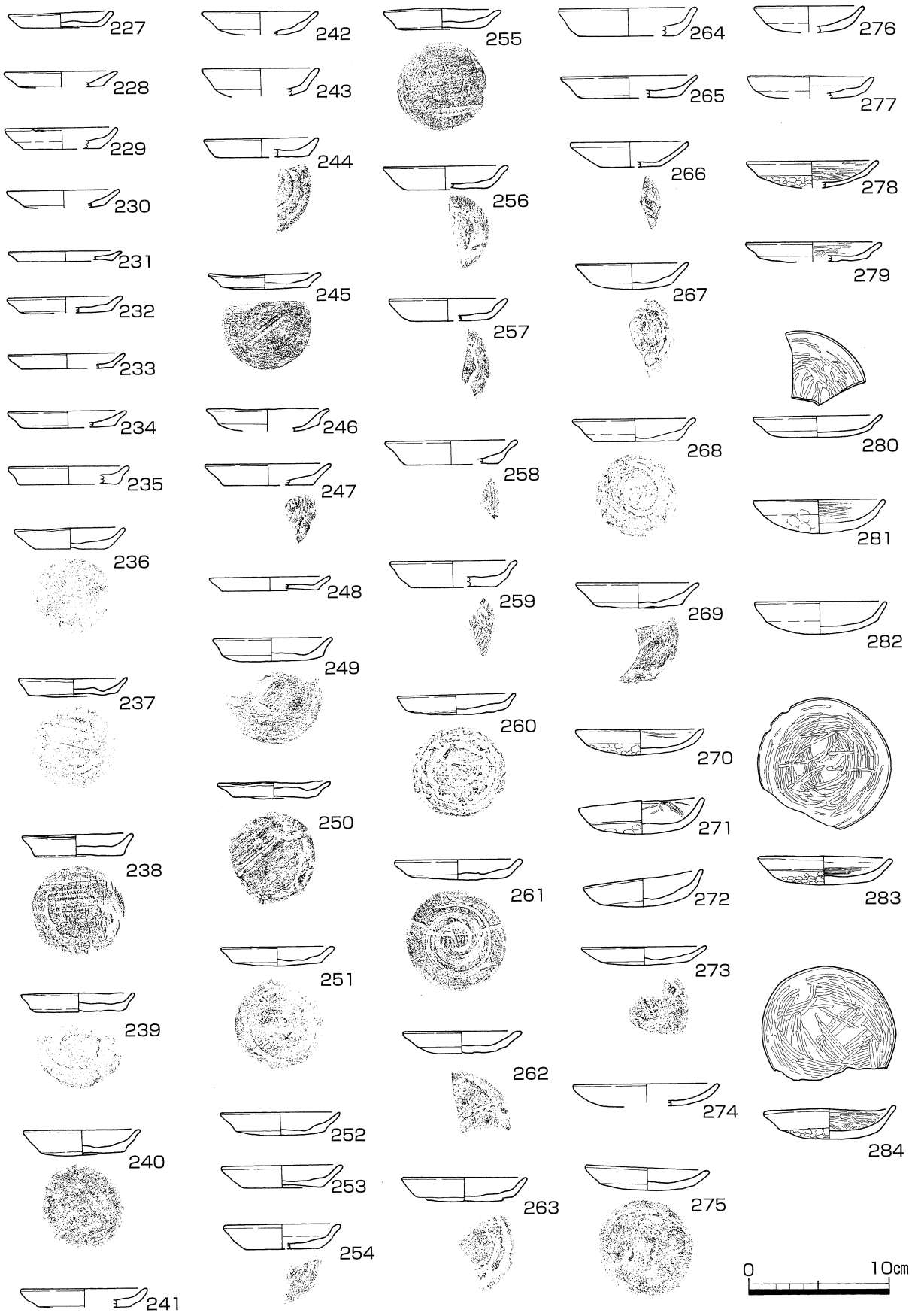
部である。245の底部は回転ヘラ切り後に中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施され，247は回転ヘラケズリ，249は中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施される。250は厚い底部で，不整形な器形である。内面は回転ナデ後に指ナデ，底部は回転ヘラ切り後に板目が施される。251の底部は回転糸切り後に中央に板目，周縁にナデが施される。252～254・256は回転ヘラ切りが施され，253の口縁部には煤が付着している。255の底部は中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施される。257は回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリ，258は回転糸切り，259は回転ヘラケズリが施される。260・262は回転ヘラ切り後に板目，261・263は回転ヘラ切り後に中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施される。264の底部は厚く，回転ヘラケズリが施され，265は回転ヘラケズリ・ナデが施される。266の体部は長く，底部は回転ヘラケズリが施される。267は回転ヘラ切り後にナデ，268は回転ヘラケズリ，269は回転ヘラ切り後に中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施される。270・271は不整形な器形で，体部外面は指頭圧痕とヘラナデ，内面は回転ナデ後にヘラミガキが施される。272･273の底面は回転ヘラ切り後にナデが施される。274の体部外面は指頭圧痕とヘラナデが施される。275は中央に板目，周縁に回転ヘラケズリが施される。277は回転ヘラ切りが施される。

278～284は体部と口縁部の境に稜を有する器形である。278の口縁部･体部内面はヘラミガキ，体部外面は指頭圧痕が施される。279･281～284の口縁部外面は回転ナデ，体部外面は指頭圧痕とナデ，内面はヘラミガキが施される。280の口縁部は回転ナデ，体部外面は静止ヘラケズリ・ナデ，内面はヘラミガキが施される。

285～287は内湾気味の体部で，286は内外面に成形痕が残存し，底部は板目･ヘラナデが施される。287の底部は中央に板目，周縁に回転ヘラナデが施される。288～290は体部の立ち上がりが緩やかで，289の底部は回転ヘラ切り後に中央に板目，周縁に回転ヘラナデが施される。291の底部は回転ヘラ切り後にナデが施される。292は外面回転ナデ，内面ナデである。

293～295は若干外反する口縁部を有し，293の体部はナデが施される。296～301は底部であり，296・300・301の内面はナデ・ヘラミガキが施される。297の底部中央は回転ヘラ切り後に回転ヘラナデが施される。301は黒色土器Ａ類で，底部は回転ヘラケズリが施される。

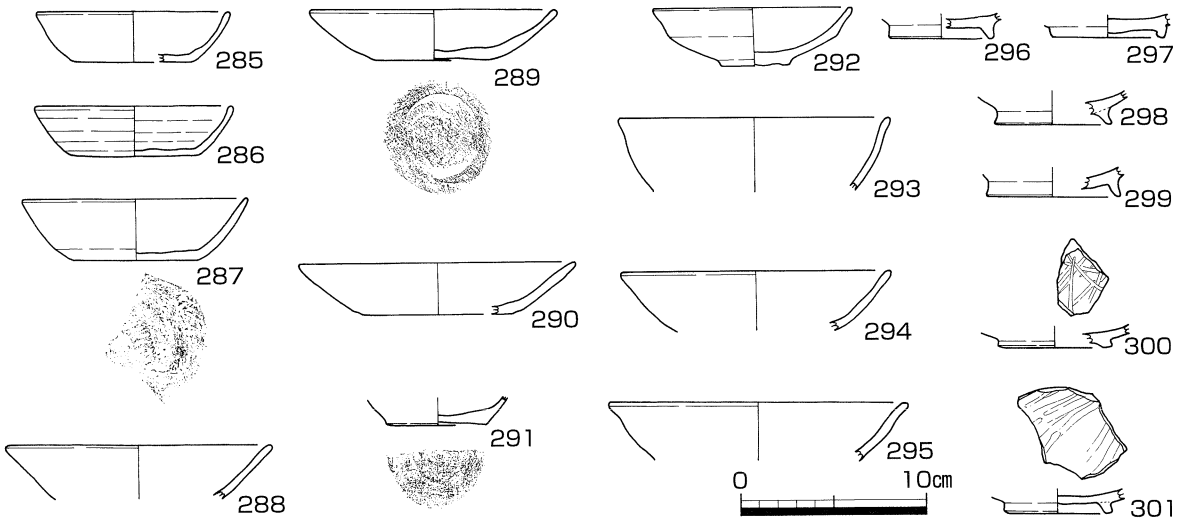
302～342は外面に指頭圧痕・ヘラミガキ，内面にヘラミガキを施す和泉型の瓦器椀であり，外面にわずかな段を持つ器形と持たない器形がある。高台は低く断面三角形である。302は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面はヘラミガキが施される。303は口縁部･底部に回転ナデ，体部外面に指頭圧痕の後にヘラナデ，内面にヘラミガキが施される。304の口縁部外面は回転ナデ後にヘラミガキ，内面は回転ナデ，体部外面は指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面はヘラミガキが施される。305は口縁部外面に回転ナデ後にわずかなヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。306･308･309・311・312は口縁部外面に回転ナデ後にわずかなヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕後にヘラミガキ，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。307は不整形な器形で，体部外面は指頭圧痕後にヘラミガキ，内面はまばらなヘラミガキが施される。見込みに格子状の暗文が見られる。310は口縁部に回転ナデ，体部外面に指頭圧痕後に若干ヘラミガキ，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。見込みに斜格子状の暗文が見られる。313の口縁部外面は回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面はわずかな指頭圧痕後にヘラミガキ，内面は細かなヘラミガキが施される。314



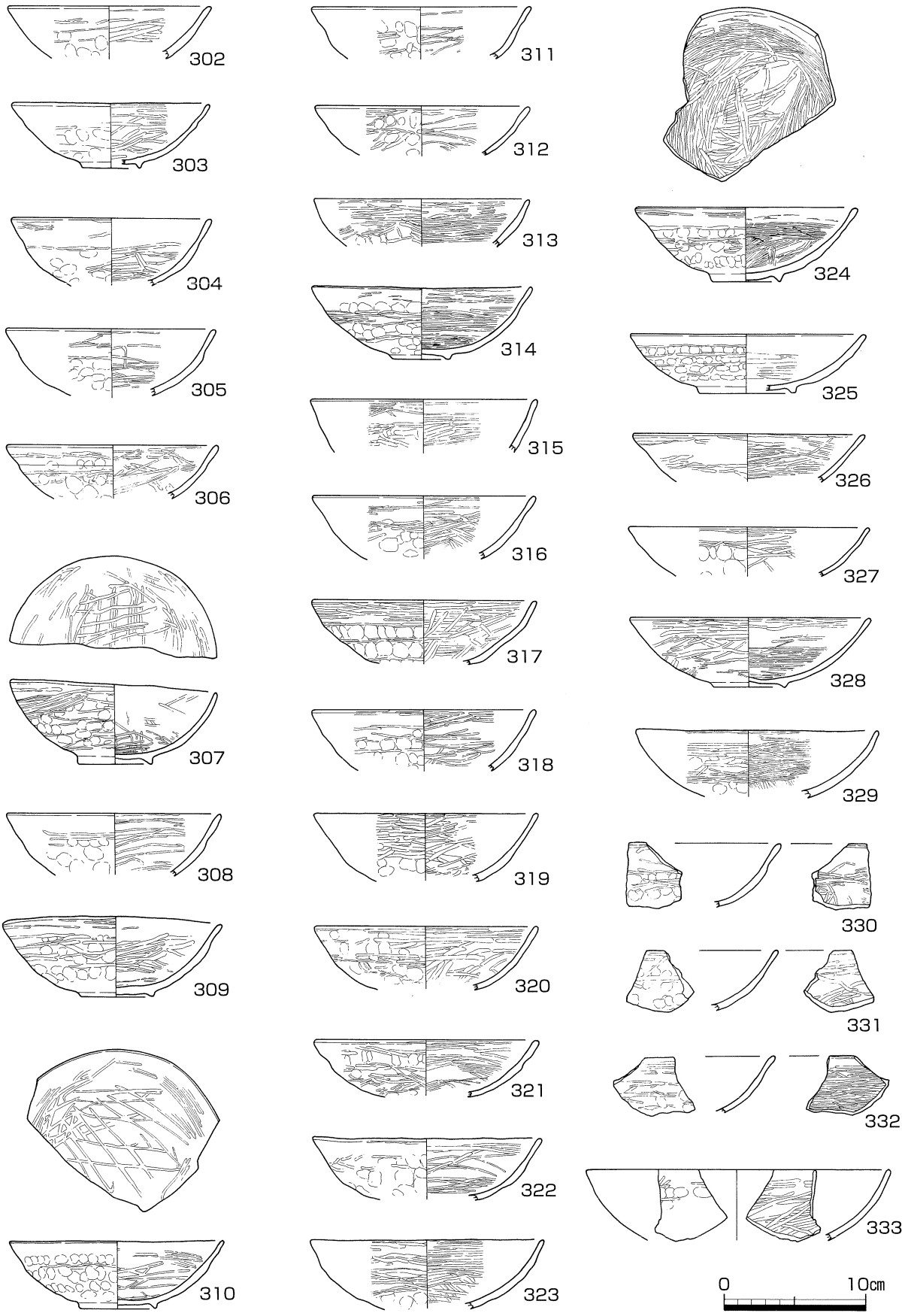
第25図　ＳＤ1304出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）

は断面四角形の高台を有し，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面はヘラミガキが施される。315・316は口縁部外面に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。317は口縁部に回転ナデ後に丁寧なヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕とヘラミガキを交互に施し，内面にヘラミガキが施される。318は口縁部に回転ナデ後にわずかなヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕とヘラミガキを交互に施し，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。319は口縁部に回転ナデ後に丁寧なヘラミガキ，体部外面は下半に指頭圧痕と上半にヘラミガキを施し，内面にヘラミガキが施される。320～322は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。323は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面は下半に指頭圧痕と上半にヘラミガキを施し，内面に丁寧なヘラミガキが施される。324は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕後にわずかなヘラミガキ，内面に丁寧なヘラミガキが施される。325の口縁部は回転ナデ，体部外面は指頭圧痕とヘラミガキを交互に施し，内面にヘラミガキがわずかに施される。326の口縁部と体部外面はわずかなヘラミガキ，体部外面はヘラミガキが施される。327は口縁部に回転ナデ後に若干のヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕の後に若干のヘラミガキ，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。328・329は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面にわずかな指頭圧痕後にヘラミガキ，内面に丁寧なヘラミガキが施される。330・331・333は体部外面にわずかな指頭圧痕とヘラミガキ，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。332は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕とヘラミガキを交互に施し，内面に丁寧なヘラミガキが施される。334～337は低く断面三角形の高台，338～341は低く端部に面のある高台を有する。334の見込みには斜格子状の暗文が施される。335・337・339・340は体部外面に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。336・338・342の内面は隙間の広いヘラミガキが施される。341は体部外面に指頭圧痕の後に若干のヘラミガキ，内面に隙間の広いヘラミガキが施される。

343の口縁部は外反し，344は内湾する。346・347は直線的な体部に玉縁状の口縁部を有する。体部の下半は露胎となっている。348はしっかりした高台を有し，体部外面は回転ヘラケズリが施される。



第26図　ＳＤ1304出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／４）



第27図　ＳＤ1304出土遺物実測図（３）（Ｓ：１／４）

345は碗の下半部である。

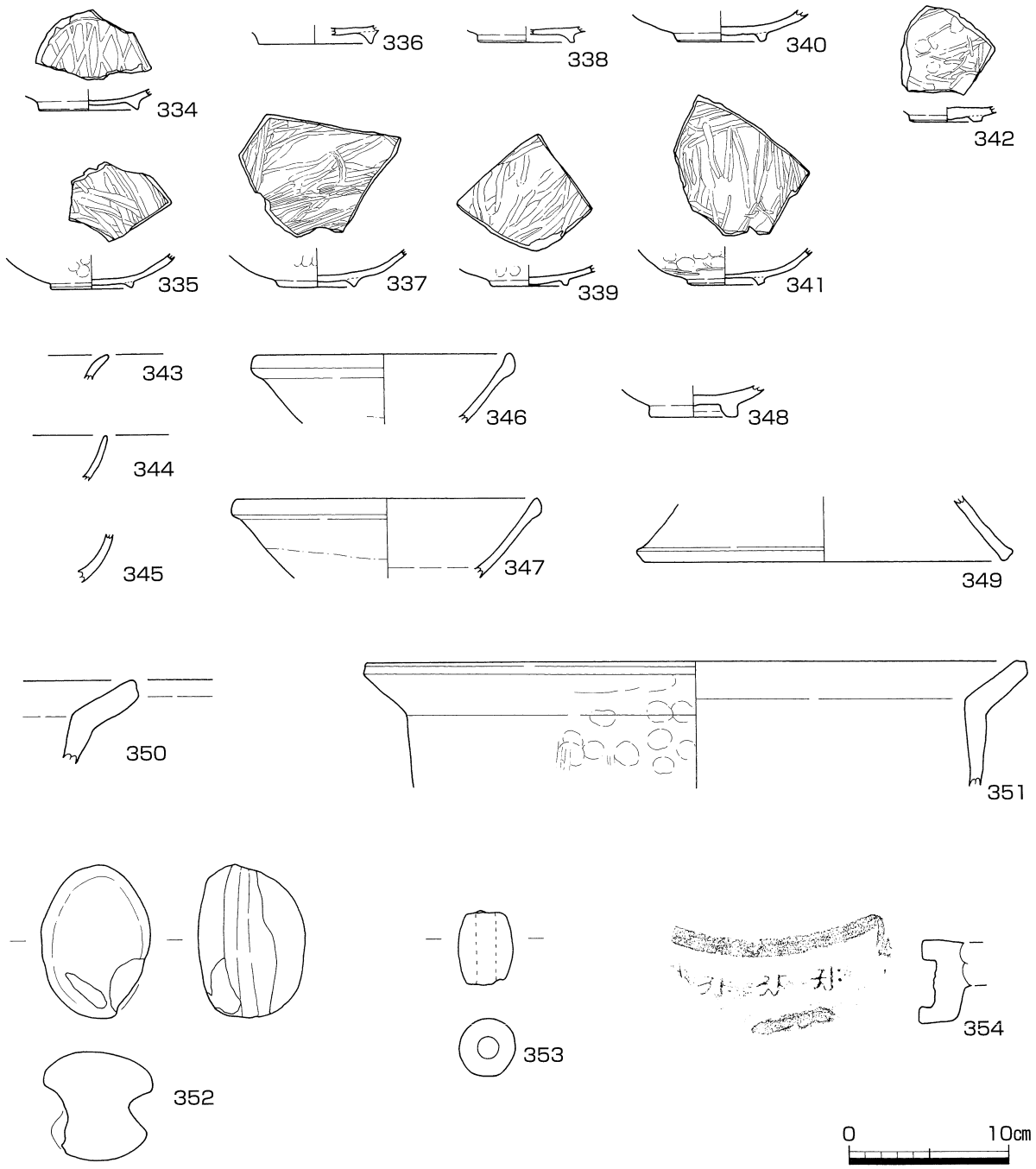
349は須恵器の高杯の脚部であり，内外面ともに回転ナデが施される。

350は口縁端部に面を有し，胴部は内傾する。口縁部はヨコナデ，胴部はナデが施される。

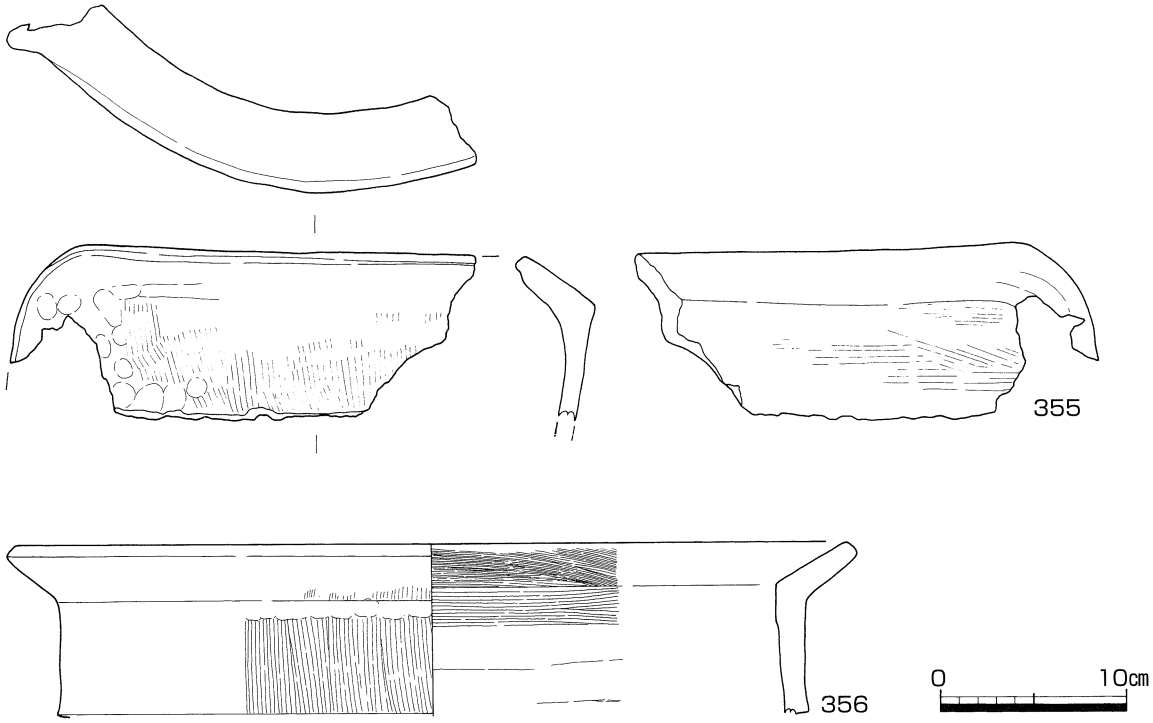
351の胴部は直立する。口縁端部はヨコナデ，口縁部・胴部外面は指頭圧痕とナデが施され，内面はヘラナデが施される。

352は側面に溝を有する形態の土錘であり，重さは356.7ｇを測る。353は中央に孔を有する形態の土錘であり，重さは42.7ｇを測る。

354は瓦当に梵字のある軒平瓦で，顎裏面の調整はヨコナデである。梵字は胎蔵界五仏を表し，大日如来・開敷華王・天鼓雷音を意味する３文字が残存する。



第28図　ＳＤ1304出土遺物実測図（４）（Ｓ：１／４）



第29図　ＳＤ1304出土遺物実測図（５）（Ｓ：１／４）

355・356はカマドの破片である。355は縦方向と横方向のハケが施され，356はカマドの上部であり，外面に粗いハケ，内面上部に横方向の粗いハケが施される。外面と内面下半には煤が付着している。

ＳＤ1305　（第30～32図）

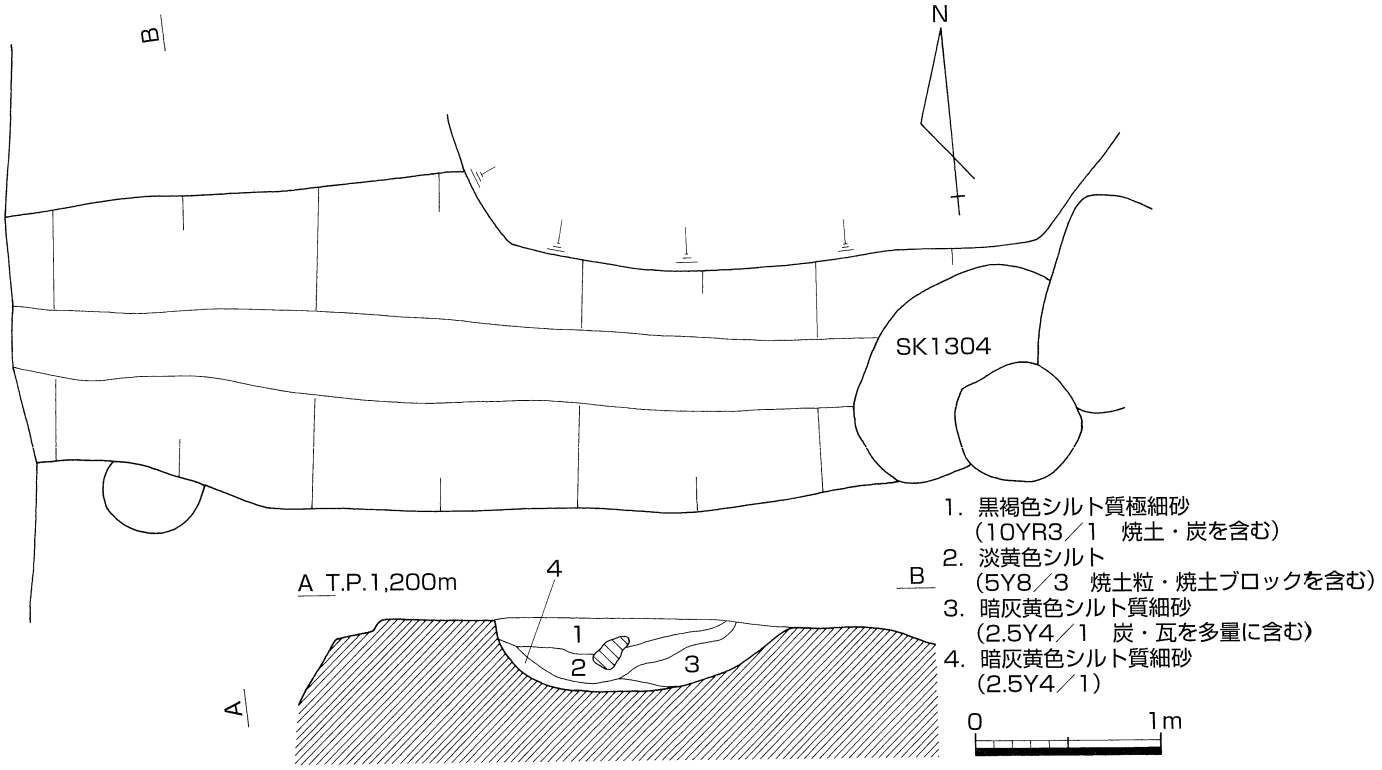
調査区西側中央において検出した溝であり，ＳＤ1302の上位に位置する。溝の東端はＳＫ1304と近代の撹乱に切られ，西側は調査区外に延びている。検出面のレベルは標高1.00m前後である。溝の方位は東西方向をなしＮ－95°－Ｅを示す。検出した溝の全長は約4.90m，幅は1.80mを測り，検出面からの深さは0.33mを測る。底面のレベルはほぼ平坦である。断面は船底形を呈し，北側の掘り込みは非常に緩やかな傾斜であるが，南側はやや急傾斜の掘り込みである。埋土は４層に分層でき，北側から流れ込んだような堆積状態をなしている。埋土の大部分を占める第１～３層は焼土粒子・炭・焼土ブロックを含み，特に第３層は炭と瓦を多量に含んでいる。

遺物は，土師質土器小皿（357～362），同杯（363～367），瓦器椀（368・369），青磁碗（370～372），磁器碗（373），陶器壺（374），土師質土器足釜（375），同鍋（376），軒丸瓦（377・378），丸瓦（379～381），文字瓦（382），梵字瓦（383），軒平瓦（384），道具瓦（385～387），土錘（388），スラグ（389）である。

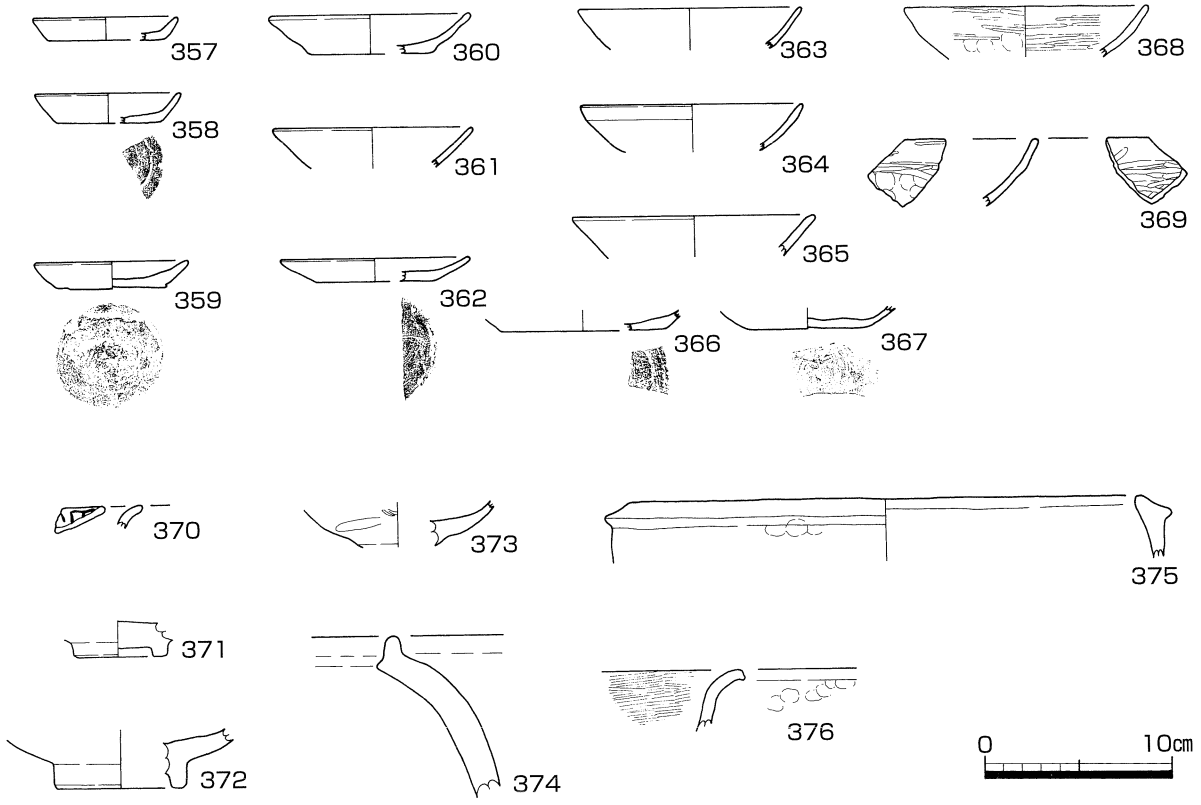
357～359は口径８㎝未満の小皿である。357の底部は回転ヘラケズリ・ナデが施され，358は回転ヘラ切りの後に回転ヘラケズリ，359は回転ヘラケズリが施される。

360～362は口径10.5㎝前後を測る小皿であり，体部は直線的でやや長い。362の底部は回転糸切りである。

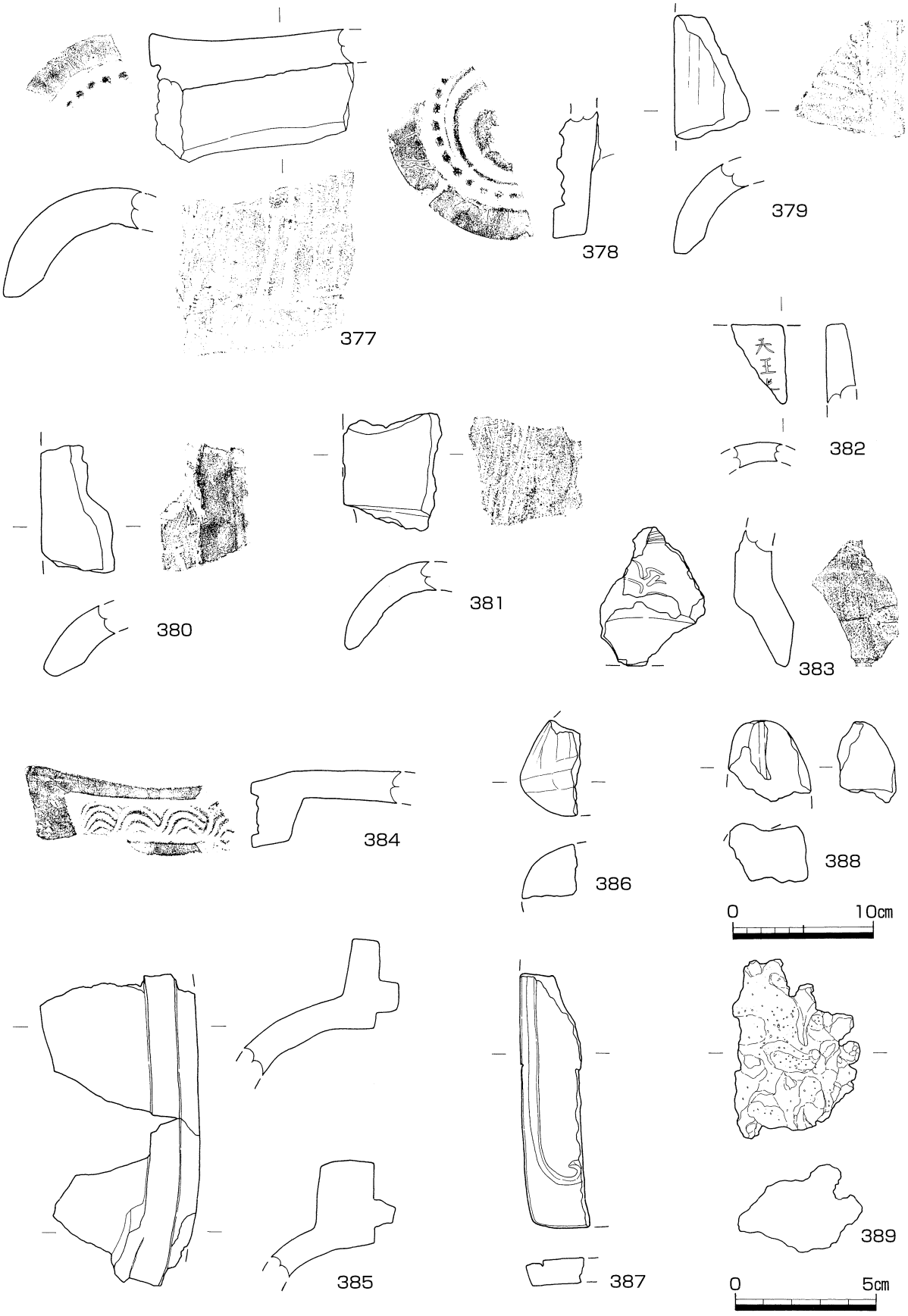
363～365は口径12～13㎝を測る杯である。363・365は回転ナデ，364は口縁部と体部内面に回転ナデ，体部外面にナデが施される。



第30図　ＳＤ1305平・断面図（Ｓ：１／４）



第31図　ＳＤ1305出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）



第32図　ＳＤ1305出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／２・１／４）

366の底部は回転ヘラ切りの後にナデが施される。367の底部は回転糸切りの後に回転ヘラナデ，底部内面中央にヘラナデが施される。

368・369は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面に隙間の大きなヘラミガキが施される。

370の口縁部は外反し，内面に雷文をめぐらす。371は厚い底部に高台が付き，畳付と底面は露胎である。372は高い高台が付き，見込みに蛇の目釉ハギがある。

374は球形の胴部に非常に短い口縁部が付く。内外面は回転ナデが施され，内面は無釉である。

377は珠文の一部が残存する軒丸瓦であり，珠文の間隔は広い。凸面は長軸方向のヘラナデが施され，凹面は細かな布目と幅２cmの粘土紐の痕跡が残存する。378は瓦当面の破片であり，外縁幅は広く，巴文の尾はやや長い。379･380は丸瓦部の破片，381は玉縁付近の丸瓦部であり，凸面はヘラナデ，凹面は布目が残存する。380の凹面にはループ状に垂らした吊り紐痕がみられる。382は丸瓦の玉縁であり，凸面に「天王□」の文字が刻まれている。383は丸瓦の玉縁付近であり，丸瓦部凸面に不動明王を意味する梵字が刻まれている。

384は「重波文的波状文」の軒平瓦であり，外縁の幅はやや広くなり，左外縁幅は特に広くなる。顎後縁に狭い面取りが行われる。凹面は長軸方向のヘラナデ，凸面の顎裏面接合部は板ナデが明瞭に残る。

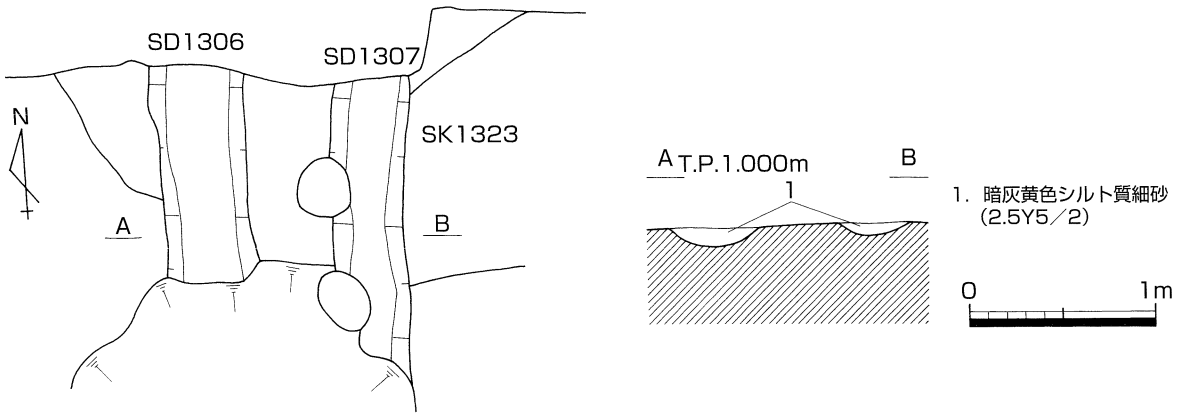
385は両面共にナデが施され，386は球形である。387は方形を呈し，「し」の字状に浅い溝があり，塼の可能性がある。

388は側面に溝を有する土錘である。

ＳＤ1306　（第33図）

調査区北西隅において検出した溝であり，ＳＤ1307の西側で並行に延びている。溝の南側は近代の撹乱に切られ，ＳＫ1323を切っている。検出面のレベルは標高0.72mである。溝の方向は南北方向をなしＮ－０°－Ｅを示す。検出した溝の全長は1.20m，幅は0.50m，検出面からの深さは0.10mを測る。底面のレベルは平坦である。断面は浅い船底状を呈する。埋土は暗灰黄色シルト質細砂の単一層である。

遺物は土師質土器の小皿・鍋の小片数点のみであり，図化できる遺物はない。



第33図　ＳＤ1306・1307平・断面図（Ｓ：１／40）

ＳＤ1307 （第33図）

調査区北西隅において検出した溝であり，ＳＤ1306の東側で並行に延びている。溝の南側は近代の撹乱を受け，ＳＫ1323を切っている。検出面のレベルは標高0.72ｍである。溝の方向は南北方向をなしＮ－０°－Ｅを示す。検出した溝の全長は1.50ｍ，幅は0.40ｍ，検出面からの深さは0.06ｍを測る。底面のレベルは平坦である。断面は浅い船底状を呈する。埋土は暗灰黄色シルト質細砂の単一層である。

遺物は土師質土器の小皿・杯・鍋の小片数点のみであり，図化できる遺物はない。

2．井戸

ＳＥ1301 （第34～36図）

調査区中央やや南寄りにおいて検出した井戸であり，ＳＤ1302とＳＤ1101の中間の位置である。本遺構はＳＤ1301・1303・1304と重複している。

検出面のレベルは標高0.85ｍ前後である。上端の平面形は西側に細く突き出る不整な円形を呈し，南北方向の直径は2.05ｍ，東西は2.20ｍを測る。検出面から最深部までの深さは1.25ｍである。掘り込みは急傾斜であるが，西側はやや緩やかになっており段を持っている。井戸の底面には１段ないし２段の石組が残存し，その下に曲物１段の井筒を検出した。井筒の直径は東西0.44ｍ，南北0.38ｍを測り，南方からの土圧によって内側に変形している。曲物は幅0.28ｍを測る３枚の板を曲げて作られており，内側に数枚の板を立てている。埋土は９層に分層でき，上位の第１層は焼土と炭を多量に含み，第３・４層は焼土と炭を含んでいる。最下層の第８・９層は黒褐色シルト質極細砂であり，上層の土と異なっている。石組の残存状態から考えると，第１～７層は埋め戻された土である。

遺物の大部分は上層より出土しており，井筒内の出土はほとんど無い。

遺物は，土師質土器小皿（390～395），同杯（396～398），同椀（399～401），白磁碗（402），青磁碗（403～407），磁器碗（408），陶器擂鉢（409），土師質土器足釜（410），同鍋（411･412），備前焼壺（413・414），硯（415），土錘（416），羽口（417～422），木製品（423）である。

390～393は口径8.8～9.6㎝を測る小皿であり，394･395は口径12.0㎝未満の小皿である。390は底部と体部の境に稜を有し，内外面とも摩滅している。391・392は口縁部と体部の境に僅かな稜があり，回転ナデが施され，392の口縁部に煤が付着している。393の底部は平底であり，回転ヘラケズリが施される。394･395は回転ナデが施され，395の口縁部に重ね焼きによる黒斑がある。

396は緩やかな傾斜の体部で，口縁部と内面に回転ナデ，体部外面上半に回転ナデ後にヘラナデ，下半にナデが施される。底部は回転糸切り後にナデが施される。397は口縁部と内面に回転ナデ，体部外面にヘラナデが施される。398は成形痕が残り，底部は回転ヘラ切りである。

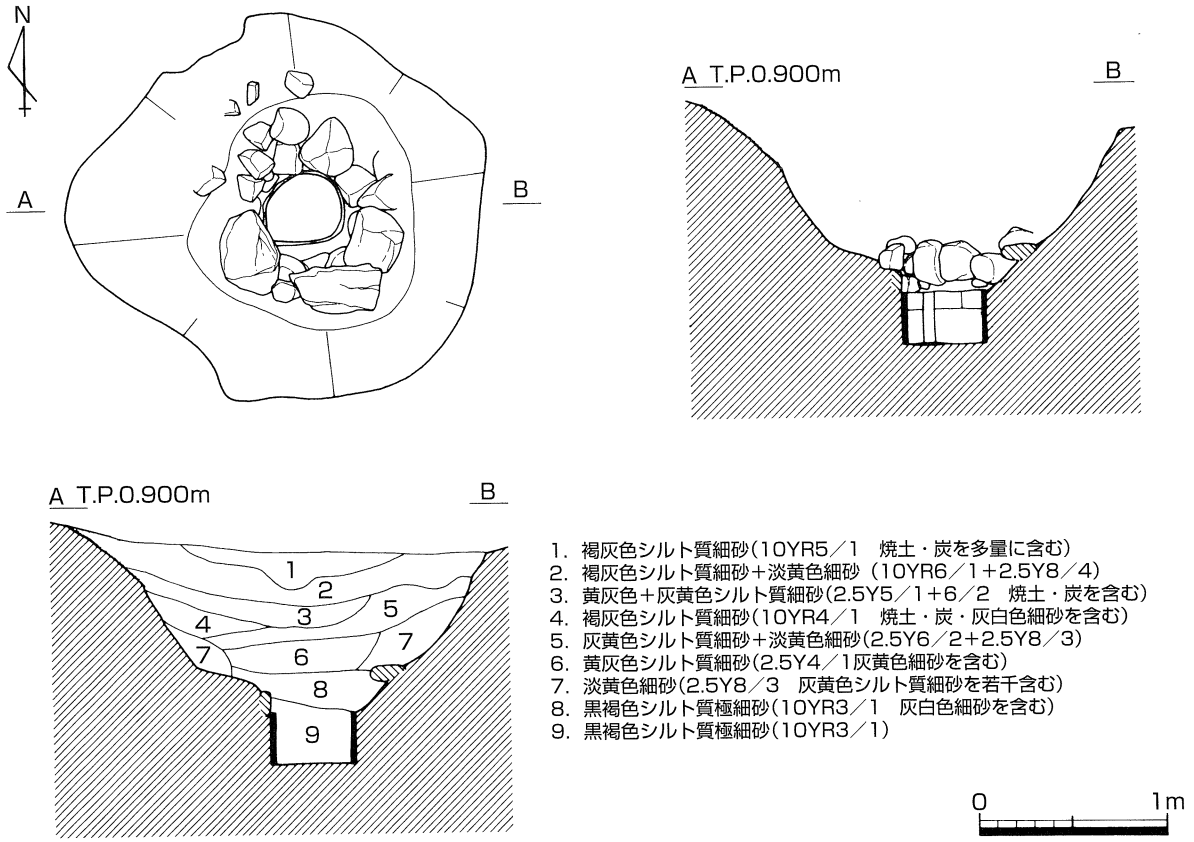
399は口縁部に回転ナデ後に僅かなヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。400は高い高台を有する。401の高台は断面四角形で内面にヘラミガキが施される。

402は玉縁状の口縁部である。403は口縁部の屈曲する碗で，内面に浅い櫛描文がある。404は鎬蓮弁文を配する。405は無文である。406の外面は花文が施される。

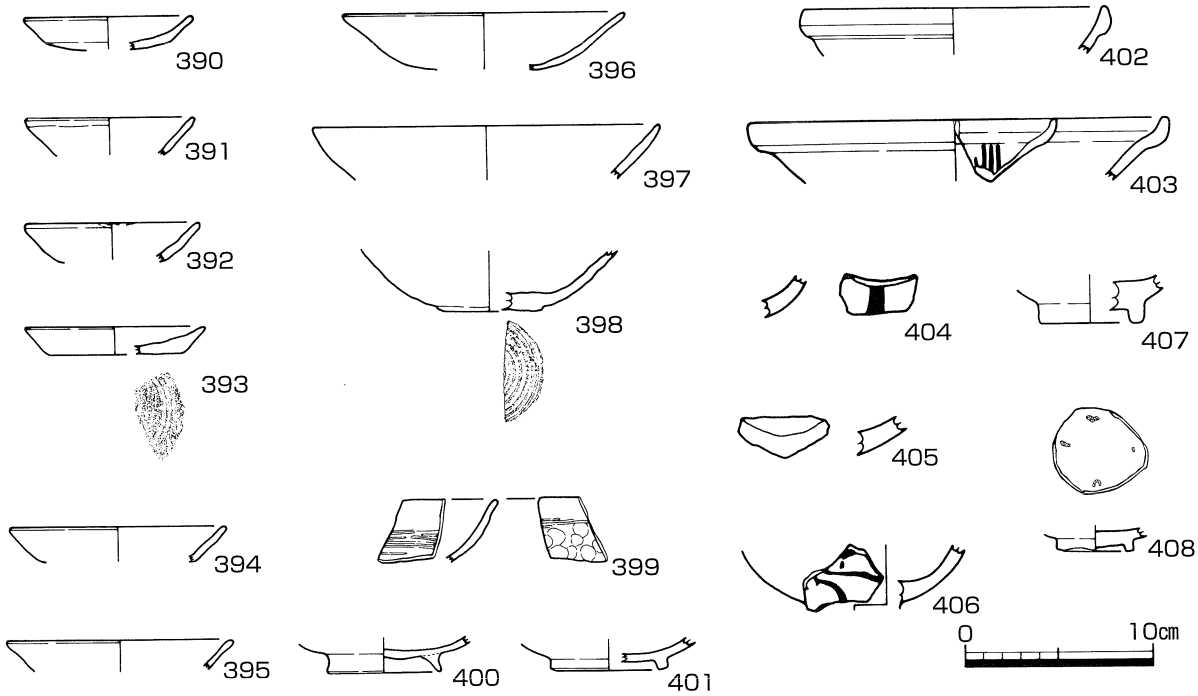
408は見込みに４ヶ所の砂目があり，畳付に４ヶ所の抉りがある。

409は８本１単位の擂り目がある。

413は直立する口縁部で，口縁端部がやや丸くなる。



第34図　ＳＥ1301平・断面図（Ｓ：１／40）

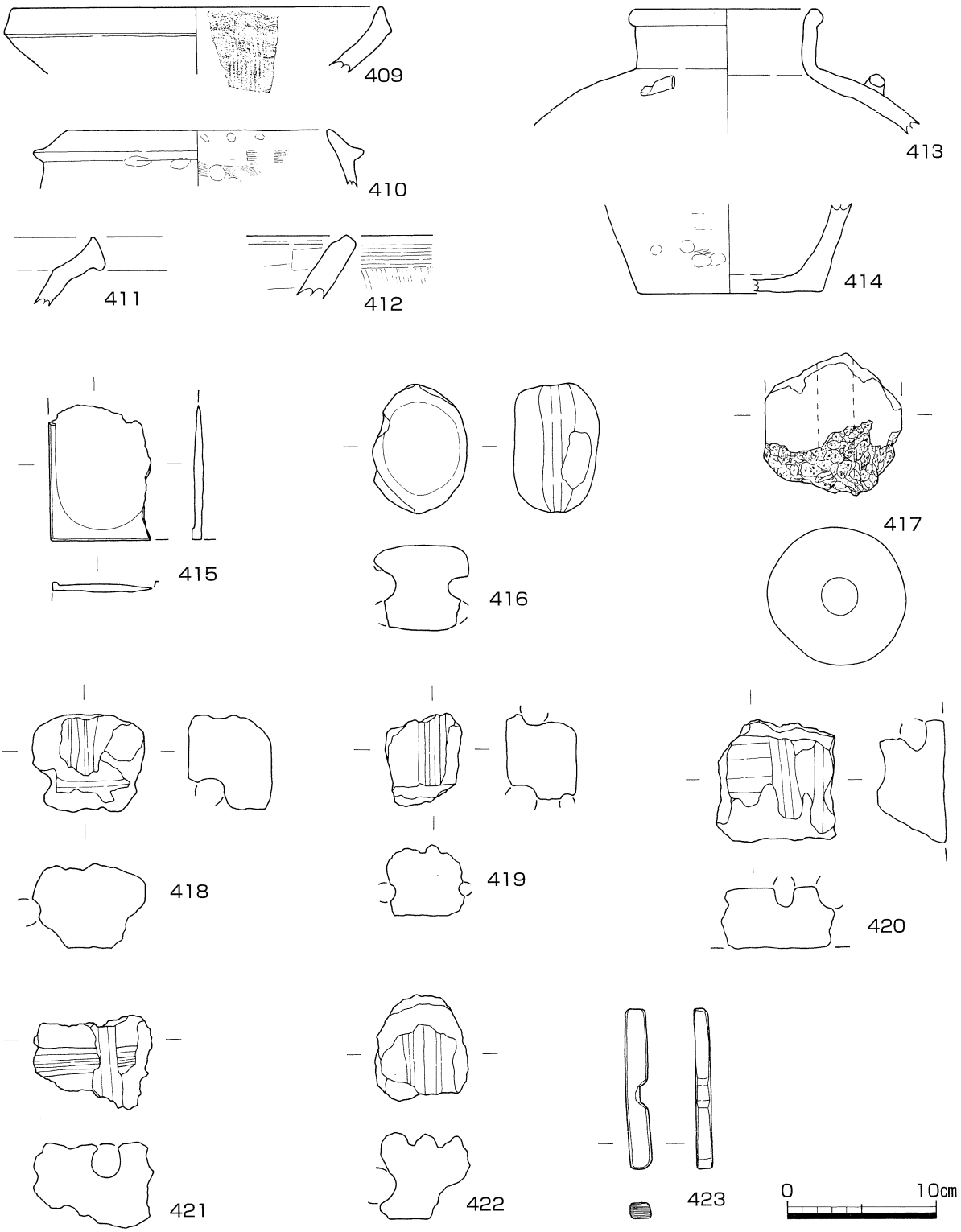


第35図　ＳＥ1301出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）

415は粘板岩製の硯の破片である。

416は側面に溝を有する土錘で，重さは273.2ｇである。

417は直径9.2cmを測る羽口で，中心に2.4cmの孔を有する。端面には多量のスラグが付着している。418～422は円形と三角形の孔を有する。

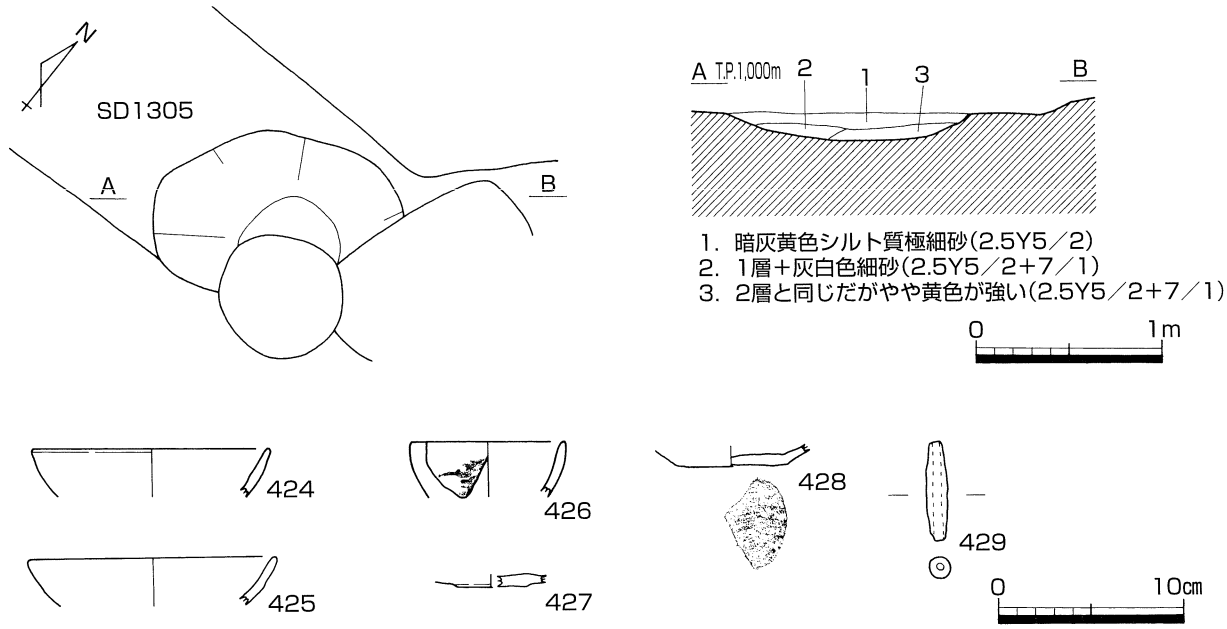


第36図　ＳＥ1301出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／４）

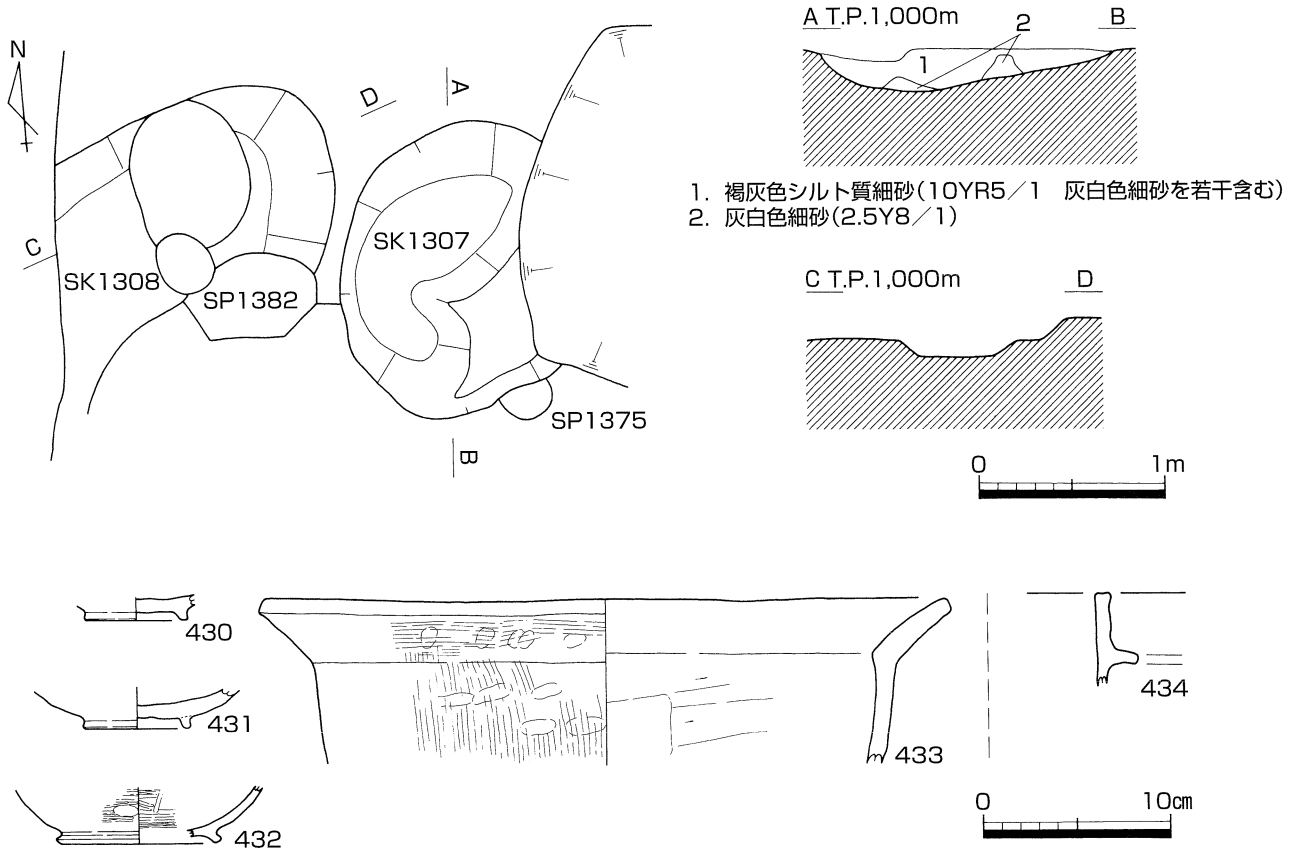
3. 土坑

ＳＫ1304 （第37図）

調査区の南西部において検出した土坑であり，ＳＤ1305を切り，ＳＸ1304と第２面のＳＢ1201のＰ－１に切られている。検出面のレベルは標高0.88mである。平面形は楕円形を呈し，



第37図　ＳＫ1304平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）



第38図　ＳＫ1307・1308平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）

長軸は1.34m，短軸0.56m以上を測る。深さは0.20mである。埋土は3層である。

遺物は，土師質土器杯（424・426～428），須恵器杯（425），土錘（429）である。

425は口縁部に回転ナデ，体部に指ナデが施され，口縁部には重ね焼きの黒斑がある。

426は口径8.2cmを測り，体部の立ち上がりは急傾斜である。体部外面に墨による文字が書かれているが，解読不明である。427の底部は回転糸切りが施される。428の底部はヘラ切り後にヘラナデが施され，内面に指ナデが施される。

429は細管状の土錘で，全長5.35cm，直径1.10cm，重さ5.3ｇである。

ＳＫ1307 （第38図）

調査区北西隅に位置する土坑であり，第3面の上層で検出した。本遺構の東側は近代の撹乱を受け，ＳＰ1375と重複する。検出面のレベルは標高0.88m前後である。平面形は円形を呈し，直径は1.60mを測る。最深部までの深さは0.22mで，東側に0.10m高い部分がある。埋土は2層に分かれるが，第1層褐灰色シルト質細砂が大部分を占める。

遺物は，土師質土器椀（430～432），同甕（433）である。

430は低い高台を有し，内外面共に摩滅している。431は断面四角形の高台を有し，体部外面にナデ，内面にヘラミガキが施される。底部中央は回転ヘラ切りが施される。432は断面四角形の高台を有し，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。

433は口縁端部に面を持ち，口縁部外面に横方向のハケ，内面にナデ，胴部外面に縦方向のハケ，内面に横方向の板ナデが施される。

ＳＫ1308 （第38図）

調査区北西隅でＳＫ1307の西側に位置する土坑であり，第3面の上層で検出した。本遺構の南側は近代の撹乱を受け，第2面のＳＰ1287に切られ，ＳＰ1382と重複する。検出面のレベルは標高0.88m前後である。平面形は検出された範囲で楕円形を呈すると考えられる。長軸は1.60m以上，短軸は0.95m以上を測る。深さは0.10mである。埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層である。

遺物は，瓦質土器羽釜（434）である。

ＳＫ1314 （第39図）

調査区北西側において検出した土坑であり，ＳＫ1313・1315・1326，ＳＰ1414・1416・1503・1504と重複する。検出面のレベルは標高0.88m前後である。平面形は北側に突き出る不整な楕円形を呈する。東西方向の長軸は1.40m，南北方向の短軸は1.25mを測る。検出面からの深さは0.38mである。断面は逆台形を呈する。埋土は質の全く異なる2層の土であり，人為的に埋め戻された可能性がある。

遺物は，土師質土器杯（435），同足釜（436～438），弥生土器高杯（439）である。

435は体部に回転ナデ，底部内面にナデが施される。底部は回転ヘラ切りである。体部内外面に成形痕がわずかに残る。

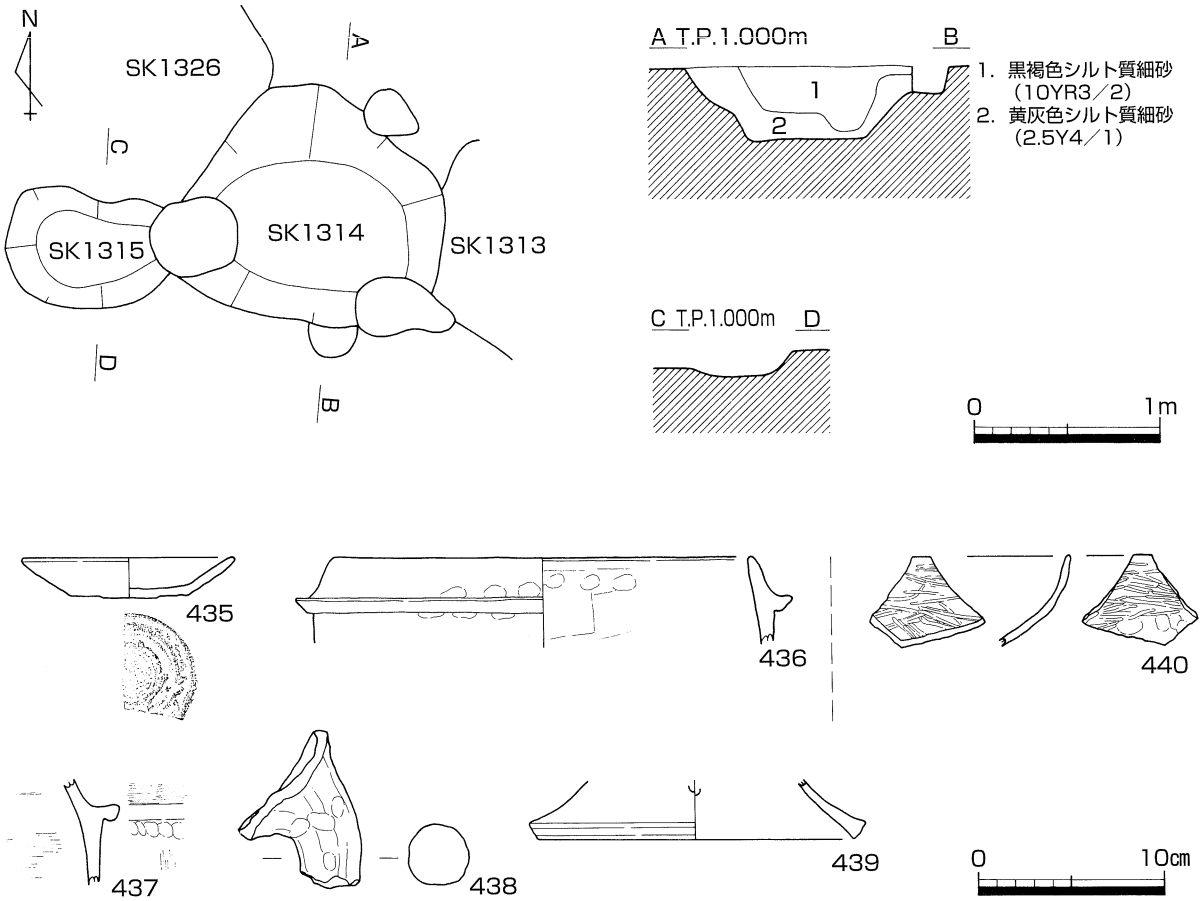
436は外面に鍔が水平に付き，鍔から口縁部までが長い。口縁部はヨコナデ，胴部内面は指頭圧痕の後に板ナデが施される。437の外面は指頭圧痕・ハケ，内面にハケが施される。

439は円孔を有する高杯の脚部である。

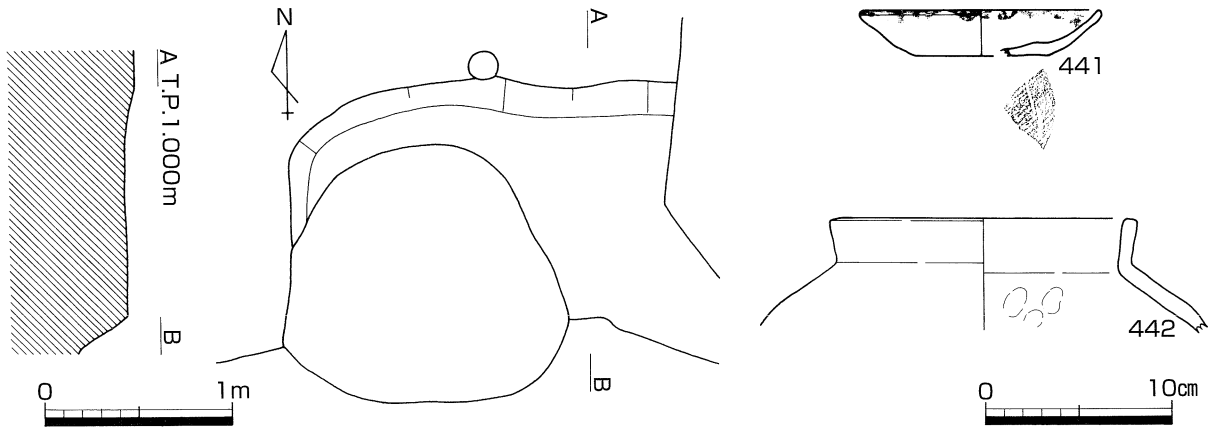
ＳＫ1315　（第39図）

調査区北西側において検出した土坑であり，ＳＫ1314の西側に位置する。ＳＫ1326，ＳＰ1503と重複する。検出面のレベルは標高0.88m前後である。平面形は不整な楕円形を呈する。東西方向の長軸は0.78m以上，南北方向の短軸は0.65mを測る。検出面からの深さは0.15mである。断面は逆台形を呈する。埋土は黄灰色シルト質細～粗砂の単一層である。

遺物は，瓦器椀（440）である。440は和泉型の椀であり，口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。



第39図　ＳＫ1314・1315平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）

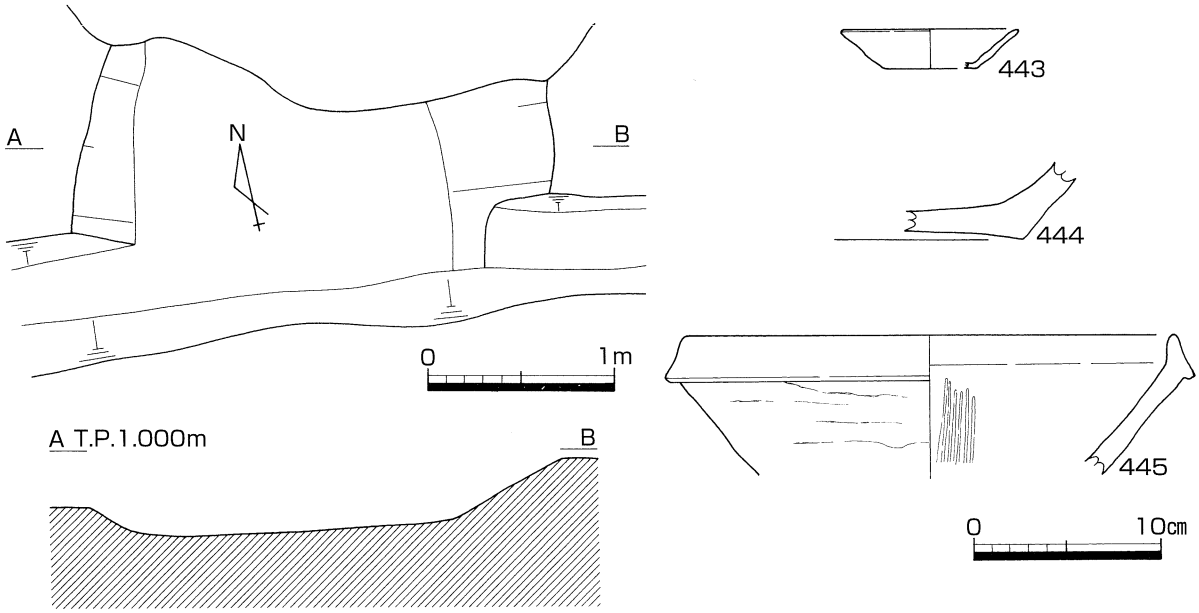


第40図　ＳＫ1319平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）

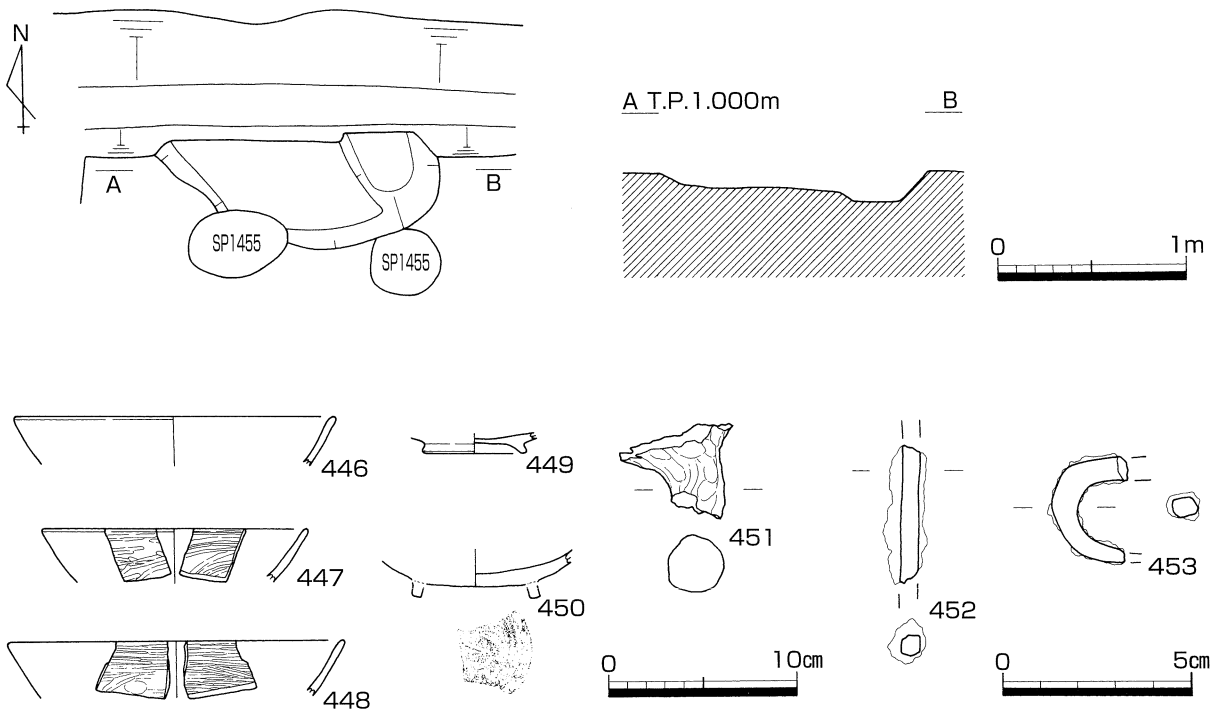
ＳＫ1319　（第40図）

調査区中央やや西寄りにおいて検出した土坑で，南側はＳＤ1302に切られ，東側は近代の撹乱を受ける。本遺構はＳＫ1328を切っている。検出面のレベルは標高0.87ｍである。平面形は不明であるが，隅丸方形あるいは楕円形と考えられる。検出できた東西方向の長さは2.00ｍ，南北方向は1.40ｍ，深さは0.06ｍを測る。埋土は黄灰色シルト質細～粗砂の単一層である。

遺物は，土師質土器杯（441），同壺（442）である。441は口縁部内外面に煤が付着しており，底部は板目が施される。442の口縁部は短く直立する。



第41図　ＳＫ1321平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）



第42図　ＳＫ1322平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／2，1／4，1／40）

ＳＫ1321　（第41図）

調査区南西隅において検出した土坑であり，南側の調査区外に広がる。西側は第１面ＳＸ1003に削平され，北側は第２面ＳＥ1201に切られている。検出面のレベルは標高0.95ｍである。平面形は全体を検出していないので不明であるが，円形と考えられる。東西方向の直径は2.55ｍを測る。検出面からの深さは0.40ｍであり，底面は平坦である。断面は逆台形を呈し，ゆるやかな傾斜の掘り込みである。埋土は黒褐色シルト質極細砂～細砂の単一層である。

遺物は，土師質土器小皿（443），陶器甕（444），同擂鉢（445）である。

443は口径9.6㎝を測る。445は備前焼である。

ＳＫ1322　（第42図）

調査区北西隅において検出した土坑であり，北側の調査区外に広がる。ＳＰ1455・1456と重複する。検出面のレベルは標高0.68ｍである。平面形は全体を検出していないので不明であるが，不整な円形と考えられる。検出できた東西方向の径は1.50ｍを測る。東側の底面にピット状の落ち込みがある。検出面からの最深部までの深さは0.15ｍであり，浅い部分で0.10ｍを測る。埋土は黄灰色シルト質細～粗砂の単一層である。

遺物は，土師質土器杯（446），須恵質土器杯（447･448），同椀（450），瓦器椀（449），土師質土器足釜（451），鉄釘（452・453）である。

447は口縁部に回転ナデ後にヘラミガキ，体部にナデ後にヘラミガキが施される。448は口縁部と体部内面に丁寧なヘラミガキ，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキが施される。

449は低い高台を有し，ナデが施される。

450は高台を欠損し，体部外面に回転ナデ，内面にナデが施され，底部は回転糸切りの後にナデが施される。

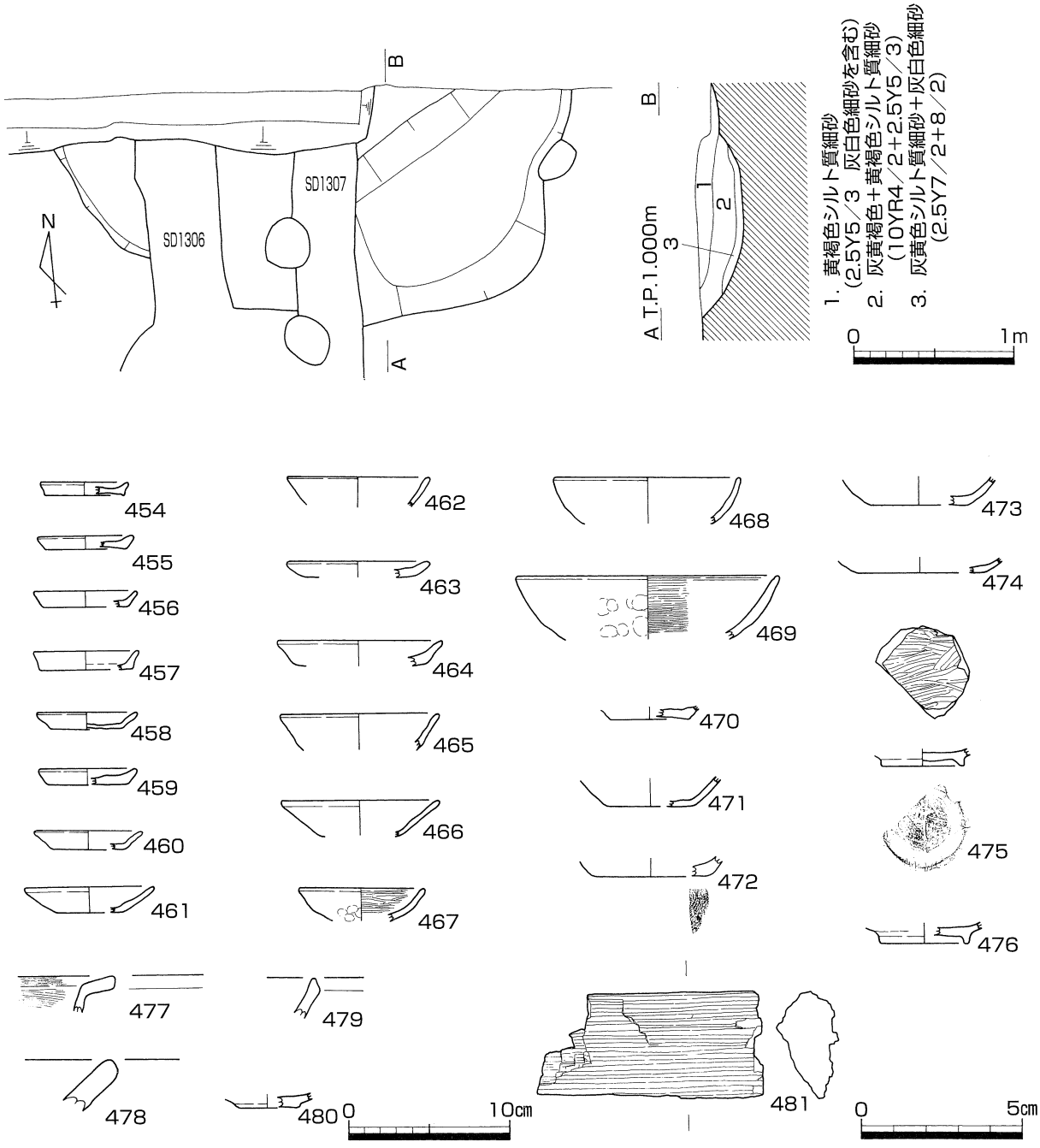
452・453は断面方形の釘である。

ＳＫ1323　（第43図）

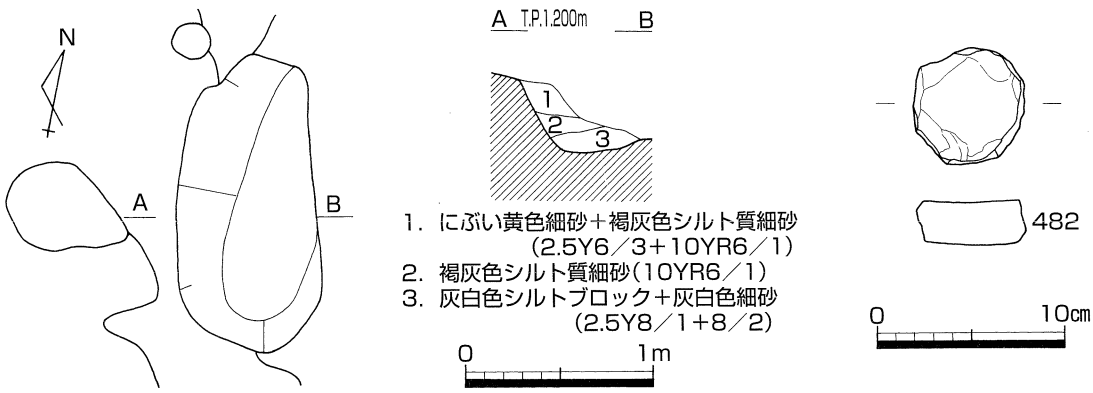
調査区北西隅において検出した土坑であり，ＳＫ1322の東側に位置する。本遺構は北側の調査区外に広がり，ＳＤ1306･1307に切られる。検出面のレベルは標高0.68～0.75ｍである。平面形は全体を検出していないので不明であるが，不整な円形と考えられる。検出できた東西方向の径は3.25ｍ，南北方向は0.95ｍを測る。東側の底面は深くなっている。検出面から最深部までの深さは0.24ｍであり，浅い部分で0.10ｍを測る。埋土はほぼ同様な土であるが，詳細に観察すると３層に分層できた。

遺物は，土師質土器小皿（454～466），瓦器小皿（467），土師質土器杯（468～474），須恵質土器椀（475），土師質土器椀（476），同鍋（477），同甕（478），須恵質土器捏ね鉢（479），磁器皿（480），珪化木（481）である。

454～457･459は口径5.4～6.4㎝を測り，外傾する短い口縁部を有する。454の底部は回転ヘラ切り，455・457は回転ヘラケズリ，456は回転糸切り，459は回転ヘラ切りの後に回転ヘラケズリが施される。458・460～462・464～466は体部の外傾度が強く長い器形である。458の底部外面は回転ヘラ切りの後に中央に板目，周縁に回転ヘラナデが施され，内面は指ナデが施される。460の底部は回転ヘラケズリ，461は回転糸切りが施される。463は口径8.7㎝を測り，短い体部である。底部は回転ヘラ切りの後にナデが施される。



第43図　ＳＫ1323平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／2，１／4，１／40）



第44図　ＳＫ1328平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，１／40）

467は口径7.8cmで，口縁部外面に回転ナデ，体部外面に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。

469は口縁部内面に浅い沈線が見られ，体部外面に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。470の底部は回転ヘラ切りの後に回転ヘラナデ，内面に指ナデが施される。471は底部に回転ヘラ切りの後に指ナデ，内面に指ナデが施される。472の底部は回転糸切り，473･474はナデが施される。

475は底部に板目，内面にヘラミガキが施される。

ＳＫ1328 （第44図）

調査区南西側において検出した土坑であり，ＳＫ1305の東側に位置する。本遺構は第２面のＳＥ1201・ＳＸ1202に切られる。検出面のレベルは標高0.97ｍである。平面形は不整な楕円形を呈する。検出できた南北方向の径は1.55ｍ，東西方向は0.75ｍを測る。検出面からの深さは0.40ｍである。断面は逆台形を呈する。埋土は３層に分層でき，自然堆積である。

遺物は瓦製円盤（482）である。

4．柱穴

ＳＰ1301 （第45図）

調査区中央やや南西寄りに検出した柱穴であり，単独で存在する。検出面のレベルは標高0.70ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.62ｍ，深さは0.13ｍを測る。埋土は灰黄色シルト質細砂・淡黄色細砂の単一層である。

遺物は，土師質土器小皿（483･484）である。483は厚い底部にやや長い体部であり，底部に静止糸切りの後に回転ヘラナデ，内面にナデが施される。484の底部は回転ヘラ切りの後に板目，内面にナデが施され，口縁部に煤が付着している。

ＳＰ1312 （第45図）

調査区中央やや南寄りに検出した柱穴であり，ＳＰ1311・1319と重複する。検出面のレベルは標高0.92ｍである。平面形は不整な円形を呈し，直径は0.22ｍ，深さは0.26ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂＋灰白色細砂の単一層である。

遺物は，土師質土器小皿（485）であり，底部は未調整である。

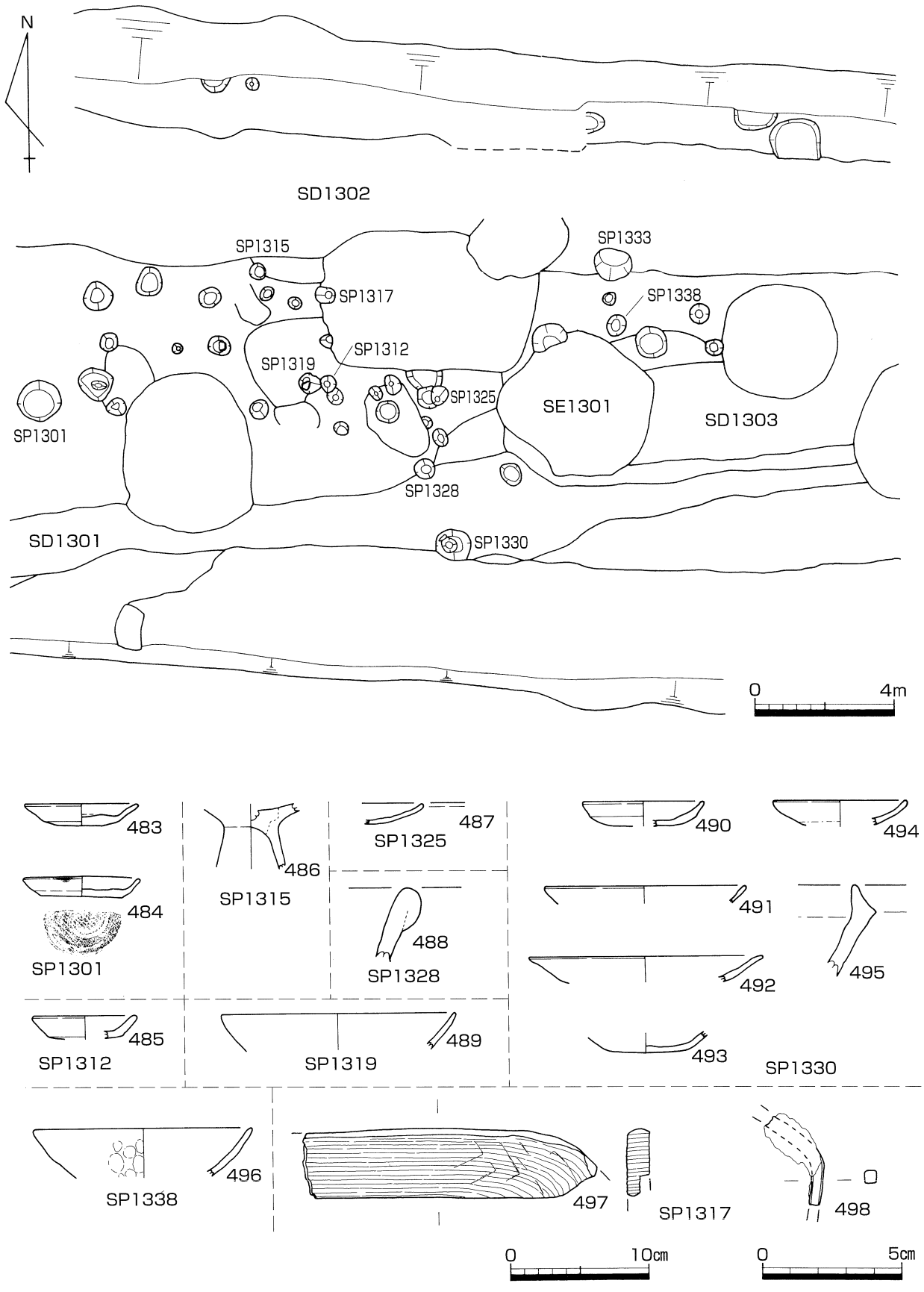
ＳＰ1315 （第45図）

調査区中央やや南寄りに検出した柱穴である。検出面のレベルは標高0.89ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.23ｍ，深さは0.08ｍを測る。埋土は暗灰黄色シルト質細砂＋灰白色細砂の単一層である。遺物は，弥生土器高杯（486）であり，内外面共に摩滅している。

ＳＰ1317 （第45図）

調査区中央やや南寄りに検出した柱穴である。検出面のレベルは標高0.92ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.25ｍ，深さは0.47ｍを測る。埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層であり，炭を若干含む。

遺物は，木製品（497），鉄釘（498）である。497は柾目で，加工痕を明瞭に残す。



第45図　ＳＰ1301～1338平面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／2，1／4，1／80）

ＳＰ1319　（第45図）

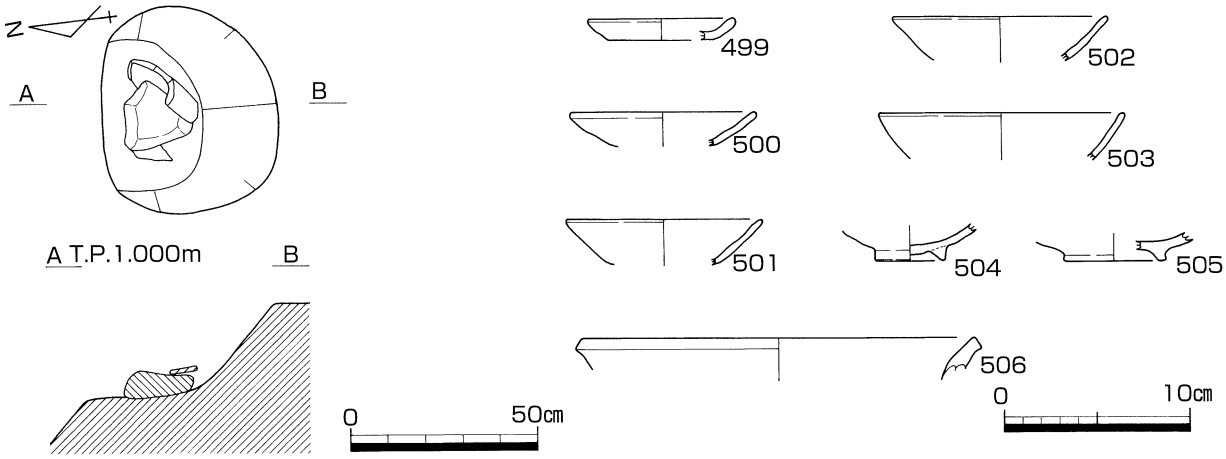
調査区中央やや南寄りに検出した柱穴であり，ＳＰ1312と重複する。検出面のレベルは標高0.92mである。平面形は不整な楕円形を呈し，長径は0.31m，短径0.28m，深さは0.15mを測る。埋土は褐灰色シルト質細砂で焼土と炭を含む。

遺物は，磁器碗（489）である。

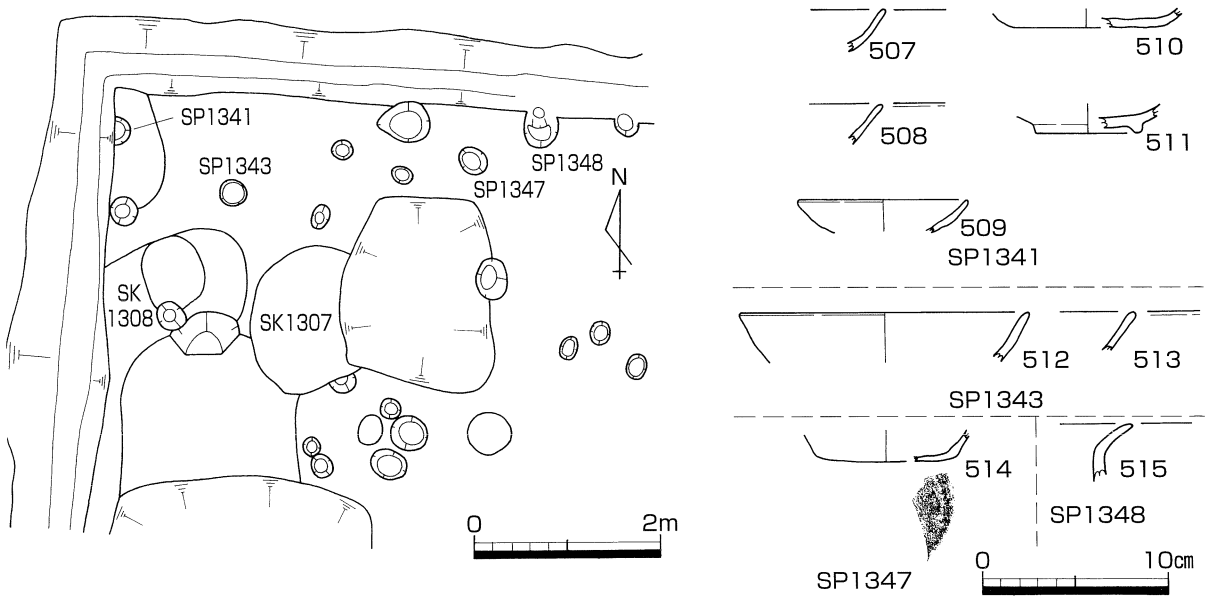
ＳＰ1325　（第45図）

調査区中央やや南寄りに検出した柱穴であり，ＳＰ1324と重複する。検出面のレベルは標高0.87mである。平面形は不整な楕円形を呈し，長径は0.45m，短径0.30m，深さは0.20mを測る。底面に段を有する。埋土は黄灰色シルト質細砂の単一層である。

遺物は，土師質土器小皿（487）で，器高が低い。底部はナデ，内面は指ナデが施される。



第46図　ＳＰ1333平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／20）



第47図　ＳＰ1341～1348平面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／80）

ＳＰ1328（第45図）

調査区中央やや南寄りに検出した柱穴であり，ＳＤ1301と重複する。検出面のレベルは標高0.85ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.30ｍ，深さは0.12ｍを測る。埋土は黄灰色シルト質細砂の単一層で，焼土粒子を含む。遺物は，備前焼甕（488）である。

ＳＰ1330（第45図）

調査区中央の南側に検出した柱穴であり，ＳＤ1001に切られ，ＳＤ1301と重複する。検出面のレベルは標高0.85ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.50ｍを測る。掘り込みは東側に段を有し，深さは0.45ｍである。埋土は黄灰色シルト質細砂で，焼土と炭を含む。

遺物は，土師質土器小皿（490），同杯（491～493），磁器皿（494），陶器擂鉢（495）である。490の底部はナデ，493は回転ヘラ切りの後にナデが施される。

ＳＰ1333（第46図）

調査区中央のやや東寄りに検出した柱穴であり，ＳＤ1302に切られる。検出面のレベルは標高0.90ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.53ｍ，深さは0.26ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂の単一層である。底面直上に丸瓦と石が出土する。

遺物は，土師質土器小皿（499～501），同杯（502・503），同椀（504），瓦器椀（505），須恵器甕（506）である。

499は短い体部，500・501は長い。505の内面はヘラミガキが施される。

ＳＰ1338（第45図）

調査区中央のやや東寄りに検出した柱穴であり，単独に存在する。検出面のレベルは標高0.86ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.27ｍ，深さは0.10ｍを測る。埋土は灰黄褐色シルト質細砂で，焼土と炭を含む。遺物は，瓦器椀（496）である。

ＳＰ1341（第47図）

調査区北西隅の上層で検出した柱穴であり，ＳＫ1306を切る。検出面のレベルは標高0.87ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.30ｍ，深さは0.08ｍを測る。埋土は褐灰色シルト質細砂で，灰白色細砂を若干含む。

遺物は，土師質土器小皿（507～509），同杯（510），同椀（511）である。

ＳＰ1343（第47図）

調査区北西隅の上層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.85ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.25ｍ，深さは0.18ｍを測る。埋土は灰白色＋淡黄色シルト質細砂。

遺物は，土師質土器杯（512・513）である。

ＳＰ1347（第47図）

調査区北西隅の上層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.87ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.28ｍ，深さは0.24ｍを測る。埋土は暗灰黄色シルト質細砂である。

遺物は，土師質土器杯（514）で，底部に板目の後にナデが施される。

ＳＰ1348（第47図）

調査区北西隅の上層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.85ｍである。平面形は楕円形を呈し，直径は0.38ｍ，深さは0.30ｍを測る。南側に段がある。埋土は黄灰色シルト質細砂である。遺物は，土師質土器甕（515）である。

ＳＰ1384（第48・49図）

調査区北西隅の下層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.69ｍである。平面形は円形を呈し，直径は0.32ｍ，深さは0.17ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂である。遺物は，土師質土器杯（516・517）で，516の底部は回転ヘラ切りの後に板目，517は回転ヘラナデが施される。

ＳＰ1400（第48・49図）

調査区北西側の下層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.80ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し，5個のピットが重なり合う。長径は0.90ｍ，短径0.45ｍ，深さは0.26ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋褐灰色シルト質細砂である。

遺物は，土師質土器小皿（518）で，底部は回転ヘラ切りの後にナデが施され，口縁部にわずかな煤が付着する。

ＳＰ1403（第48・49図）

調査区北西側の下層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.78ｍである。平面形は不整な円形を呈し，直径は0.70ｍ，深さは0.35ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋褐灰色シルト質細砂である。遺物は，須恵質土器捏ね鉢（523）である。

ＳＰ1416（第48・49図）

調査区北西側の下層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.89ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し，径は0.53×0.30ｍ，深さは0.24ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋褐灰色シルト質細砂である。遺物は，瓦製円盤（538）である。

ＳＰ1455（第48・49図）

調査区北西隅の下層で検出した柱穴であり，ＳＫ1322・ＳＰ1458と重複する。検出面のレベルは標高0.69ｍである。平面形は楕円形を呈し，径は0.50× 0.36ｍ，深さは0.14ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋黄灰色シルト質細砂である。

遺物は，土師質土器小皿（520），同椀（519･521）である。520は器高が低く，底部に回転ヘラ切りが施される。521は内外面とも回転ナデの後にヘラミガキが施される。

ＳＰ1458（第48・49図）

調査区北西隅の下層で検出した柱穴であり，ＳＰ1455・1459と重複する。検出面のレベルは標高0.69ｍである。平面形は不整な楕円形を呈し，長径は0.80ｍ以上，短径0.50ｍ，深さは0.14ｍを測る。埋土は灰白色細砂＋灰黄色シルト質細砂である。

遺物は，土師質土器杯（522）である。

ＳＰ1459　（第48・49図）

調査区北西隅の下層で検出した柱穴であり，ＳＫ1307に切られ，ＳＰ1458と重複する。検出面のレベルは標高0.68mである。平面形は不整な楕円形を呈し，長径は1.20m，短径1.00m，深さは0.28mを測る。埋土は灰白色細砂＋灰黄褐色シルト質極細砂である。

遺物は，須恵器椀（524），土師質土器杯（525～528），同椀（529），瓦器小皿（530），同椀（531・532），土師質土器甕（533），弥生土器壺（534）である。

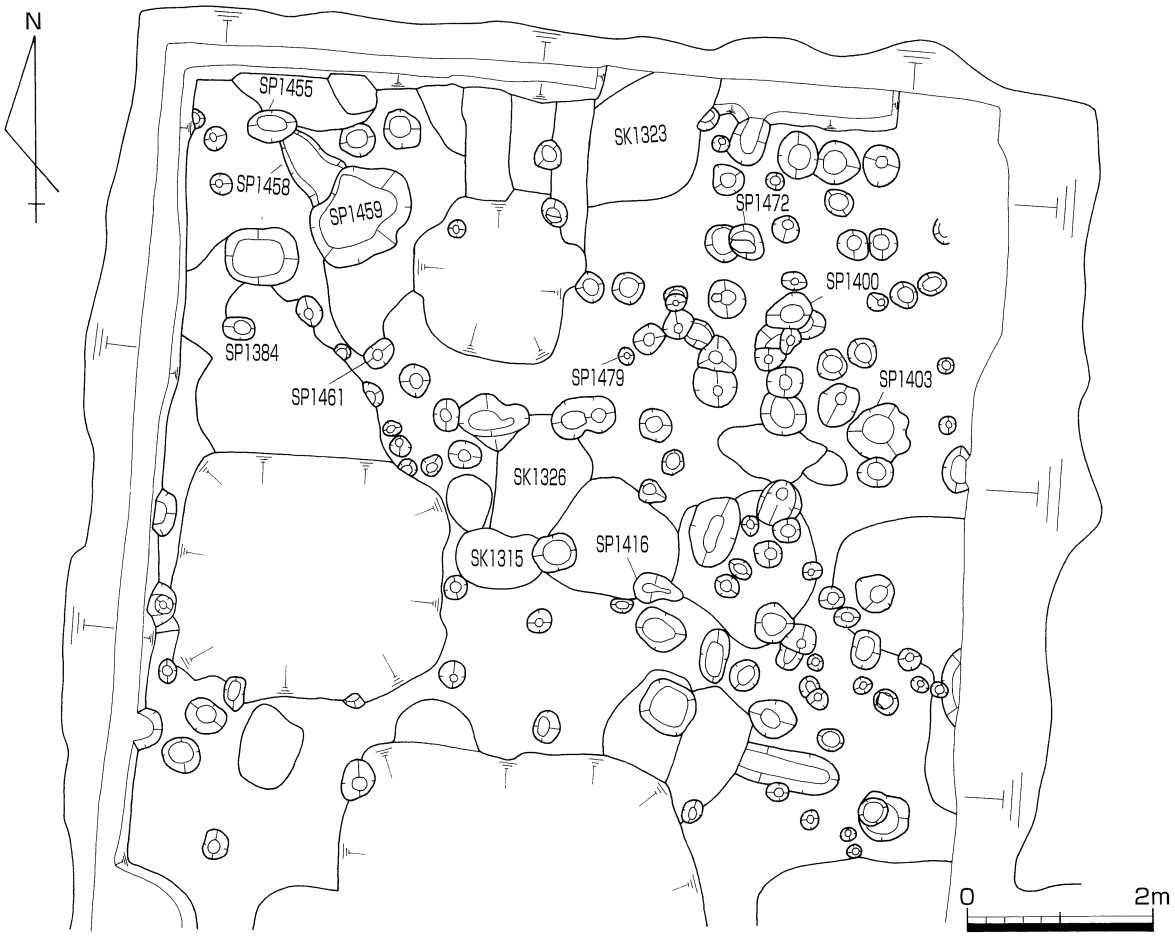
528の底部は中央に板目，周縁に回転ナデが施される。529の内面はヘラミガキが施される。530は外面に回転ナデ，内面にヘラミガキが施され，531･532は外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。

ＳＰ1461　（第48・49図）

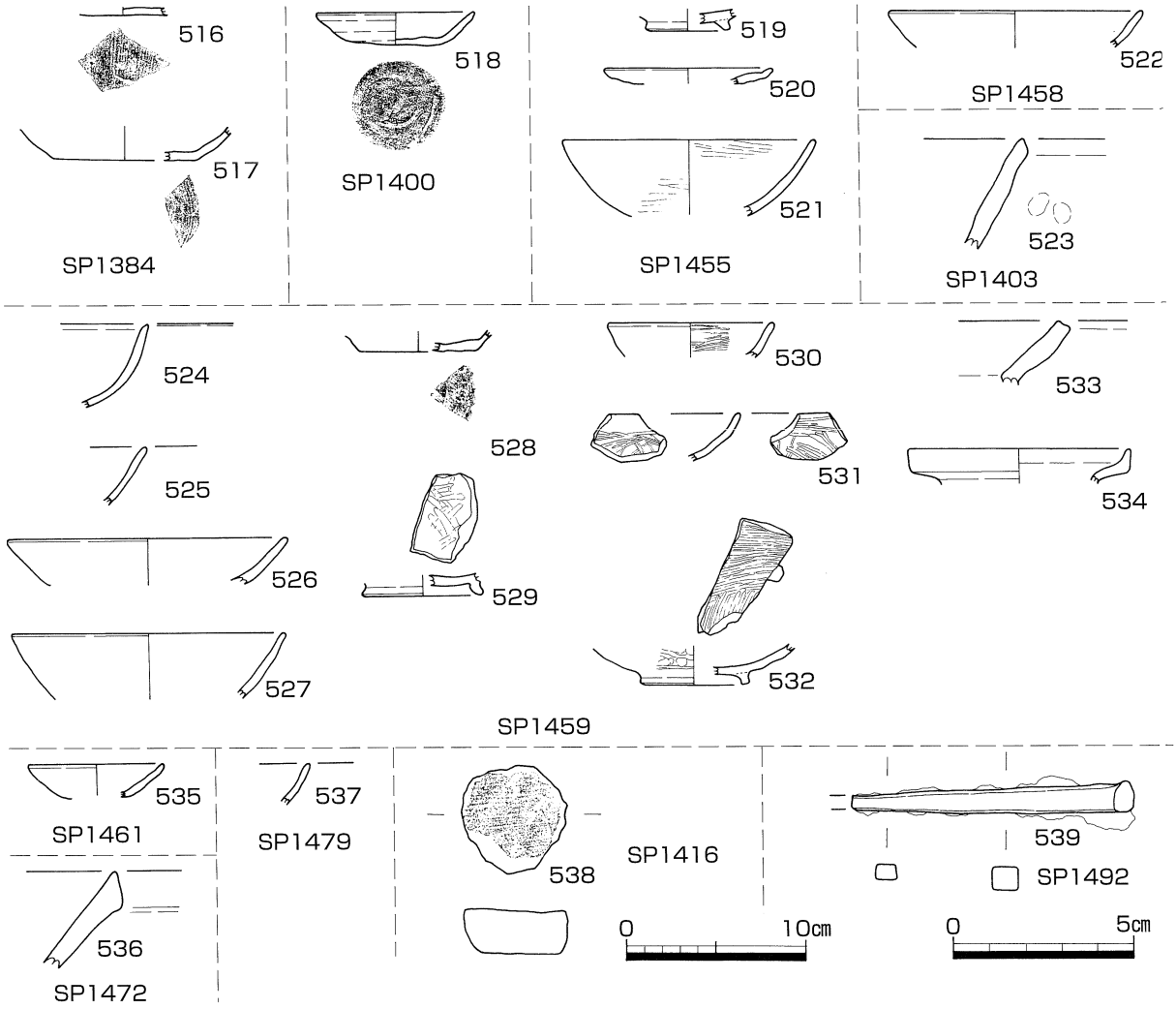
調査区北西隅の下層で検出した柱穴であり，ＳＫ1307に切られる。検出面のレベルは標高0.77mである。平面形は楕円形を呈し，径は0.34×0.24m，深さは0.22mを測る。埋土は灰白色細砂＋灰黄色シルト質極細砂である。遺物は，土師質土器小皿（535）である。

ＳＰ1472　（第48・49図）

調査区北西側の下層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.80mである。平面形は



第48図　ＳＰ1384～1479平面図（Ｓ：１／80）



第49図　ＳＰ1384～1492出土遺物実測図（Ｓ：１／2，１／４）

不整な円形を呈し，直径は0.34m，深さは0.23mを測る。底面直上に根石が残存する。埋土は灰白色細砂＋黄灰色シルト質極細砂である。遺物は，備前焼擂鉢（536）である。

ＳＰ1479　（第48・49図）

調査区北西側の下層で検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.79mである。平面形は円形を呈し，直径は0.17m，深さは0.10mを測る。埋土は淡黄色細砂＋黄灰色シルト質細砂である。遺物は，土師質土器杯（537）である。

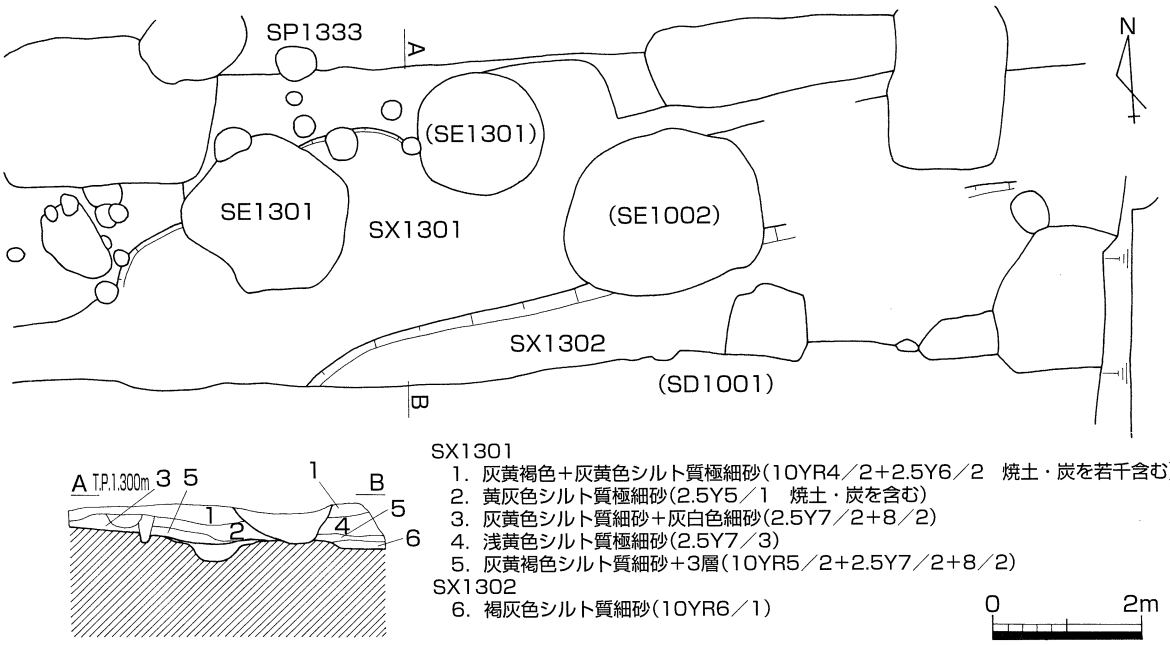
ＳＰ1492　（第７・49図）

調査区南西側において検出した柱穴であり，検出面のレベルは標高0.98mである。平面形は楕円形を呈し，径は0.50×0.38m，深さは0.35mを測る。埋土は灰色シルト質細砂である。遺物は，鉄釘（539）であり，断面は方形である。

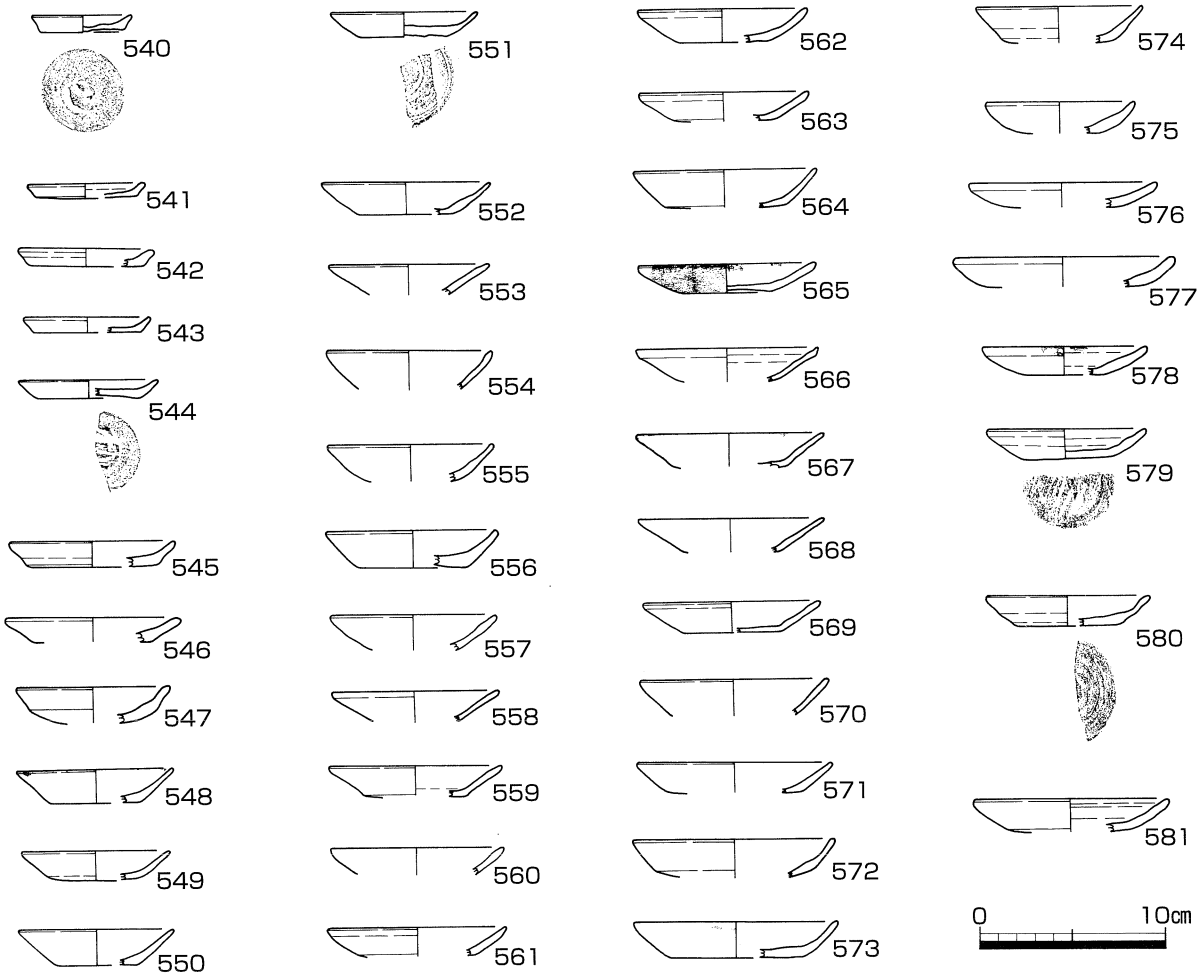
5．性格不明遺構

ＳＸ1301　（第50～64図）

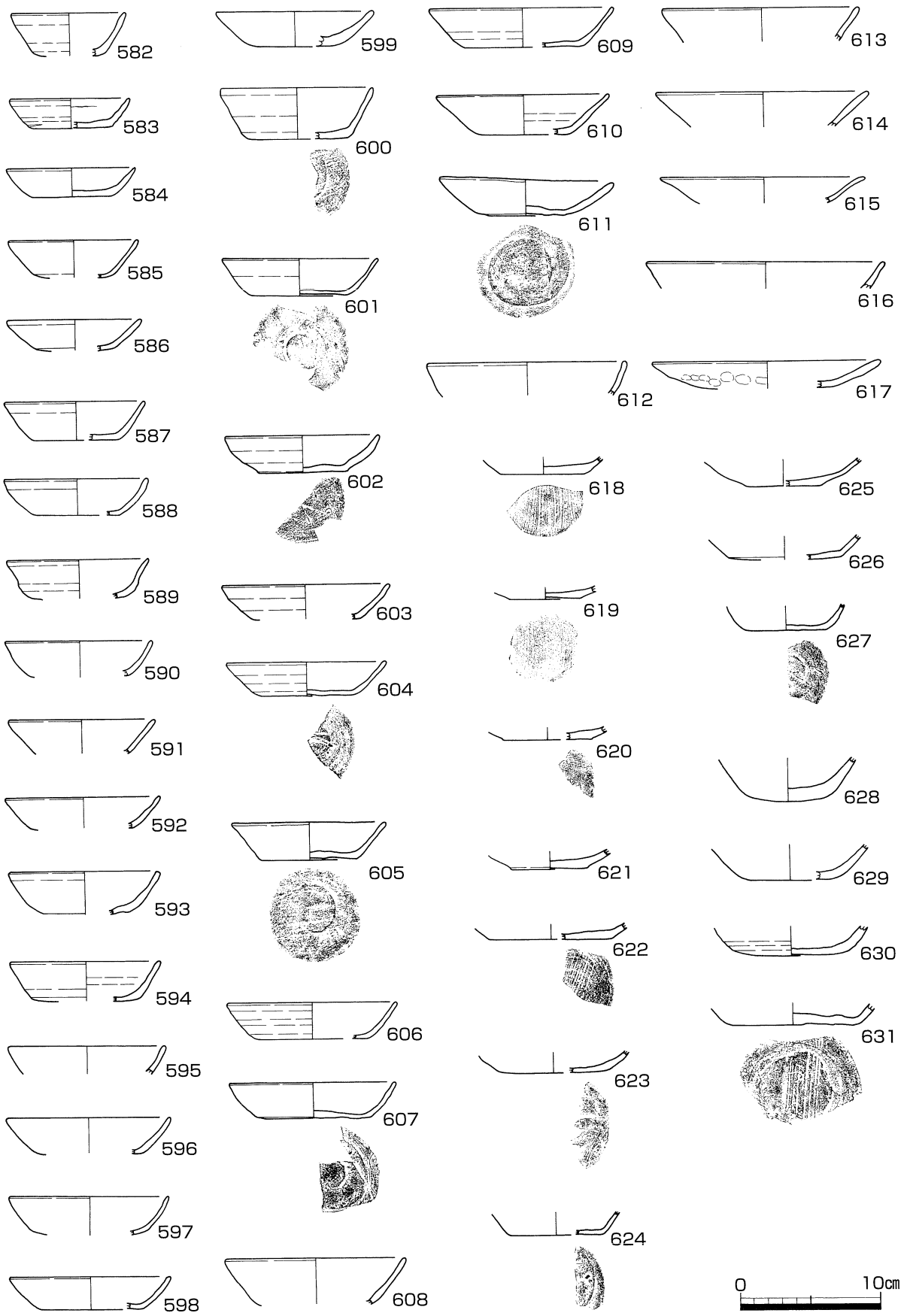
調査区中央部の南側のＳＥ1301周辺において検出した落ち込みであり，ＳＥ1301・ＳＤ1301・



第50図　ＳＸ1301・1302平・断面図（Ｓ：１／100）



第51図　ＳＸ1301出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）



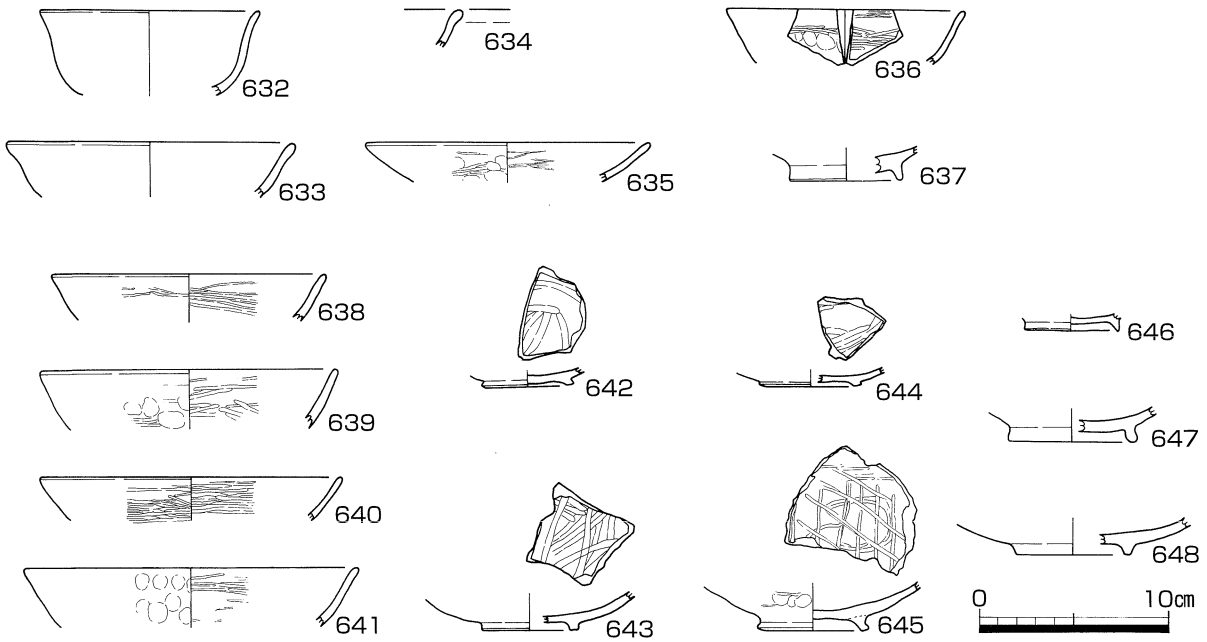
第52図　ＳＸ1301出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／４）

第１面ＳＥ1001・1002に切られている。検出面のレベルは標高0.86ｍである。平面形や規模は北辺の一部のみの検出であるため不明であるが，東はＳＥ1002付近まで，南はＳＤ1001まで広がる規模の大きな落ち込みである。検出面からの深さは0.20ｍを測り，掘り方は非常にゆるやかである。遺物は全域より多量に出土した。

遺物は，土師質土器小皿（540～581），同杯（582～631），同椀（632～634），須恵器杯（635・636），黒色土器椀（637），瓦器椀（638～648），青磁碗（649～662），同皿（663），同香炉（664），同水注（665），白磁杯（666～669），同碗（670・671），土師質土器鉢（672～674），須恵質土器鉢（675・676），土師質土器甕（677～685），須恵器甕（686・687），同壺（691），陶器甕（688・689・699～705），同壺（690・692～698），同擂鉢（706～715），土師質土器擂鉢（716），同鍋（717～720），同足釜（721～731），同羽釜（732），同風炉（733・734），同火鉢（735・736），同火舎（737），磁器蓋（738），同碗（739～743），弥生土器甕（744），土製品（745），石鍋（746・747），銭（748），青銅品（749），鉄釘（750・751），軒丸瓦（752），軒平瓦（753），鬼瓦（754），土錘（755～788），羽口（789～803）である。

540～545は外傾する短い口縁部をもつ小皿で，口径5.2～8.8cmを測る。540・543の底部は回転ヘラ切りの後にナデ，541はヘラナデ，542は回転ヘラ切り，544は回転ヘラ切りの後に中央を板目，周縁をナデが施される。

546～581は外傾するやや長い口縁部をもつ小皿で，口径8.0～11.6cmを測る。546はやや厚い器厚で，647は丸底気味の底部に回転ヘラ切りの後にナデが施される。548・567・578は口縁部に煤が付着している。551・562の底部は回転ヘラ切り，552はヘラナデ，555は回転ヘラケズリが施される。556は内外面に煤が付着する。565は外面のほぼ全面と口縁部内面の一部に煤が付着する。566は口縁部外面に稜を有する。569の底部は板目が施される。571・572の底部はナデが施される。573は内外面に煤が付着し，底部に回転糸切りが施される。577の底部は静止糸切りが施される。579は口縁部に煤が付着し，底部に板目・ナデが施される。580の底部は回転ヘラ切りの後にナデが施される。581の外面はナデが施される。



第53図　ＳＸ1301出土遺物実測図（３）（Ｓ：１／４）

582～589は口径7.8～10.0cm，590～605は10.0～11.0cm，606～613は11.0～14.0cm，614～617は14.0～17.0cmの杯である。583・589・590・592・603・610の底部はナデ，584・587は中央に板目，周縁にナデ，585・594・596・598・599はヘラナデ，586・597は回転ヘラナデ，588・607・609・611は回転ヘラ切りの後にナデ，593は静止ヘラケズリ，600・601・604・605は回転ヘラ切りの後に中央に板目，周縁にナデ，602は回転糸切りの後にナデ，606は板目の後にナデが施される。

618～620の底部は静止糸切り，621は回転糸切り，622･631は中央に板目，周縁にナデ，623･630は回転ヘラ切りの後にヘラナデ，624は回転ヘラ切り，626は回転ヘラ切りの後にナデ，627は回転ヘラ切りの後に板目，628・629はヘラナデが施される。

632～634の口縁部はやや外反する。637は黒色土器A類である。

642～646は低い高台であり，内面にヘラミガキが施される。445・446は斜格子状の暗文が見られる。647・648はやや高い高台を有する。

649・651・658は明確な鏑蓮弁文を刻む碗であり，650は体部外面に明確な鏑蓮弁文，内面に劃花文を刻んでいる。652･653は内面に片切彫りで劃花文を描く。659は底部露胎であり，見込みに細い劃花文が描かれる。660～661は口縁部の外反する碗である。

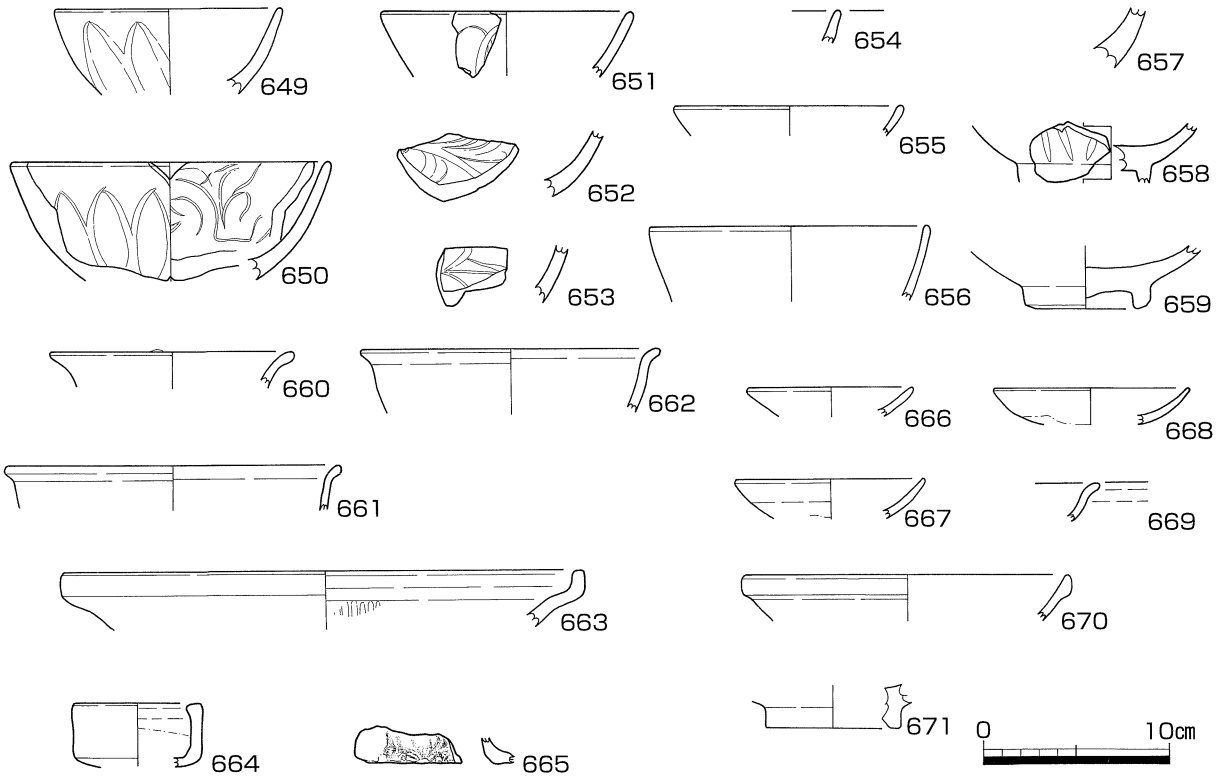
663は内面に印花文を持ち，664の内面下半は露胎である。

666～668の体部は内湾，669は外反する口縁部，670の口縁部は玉縁状である。

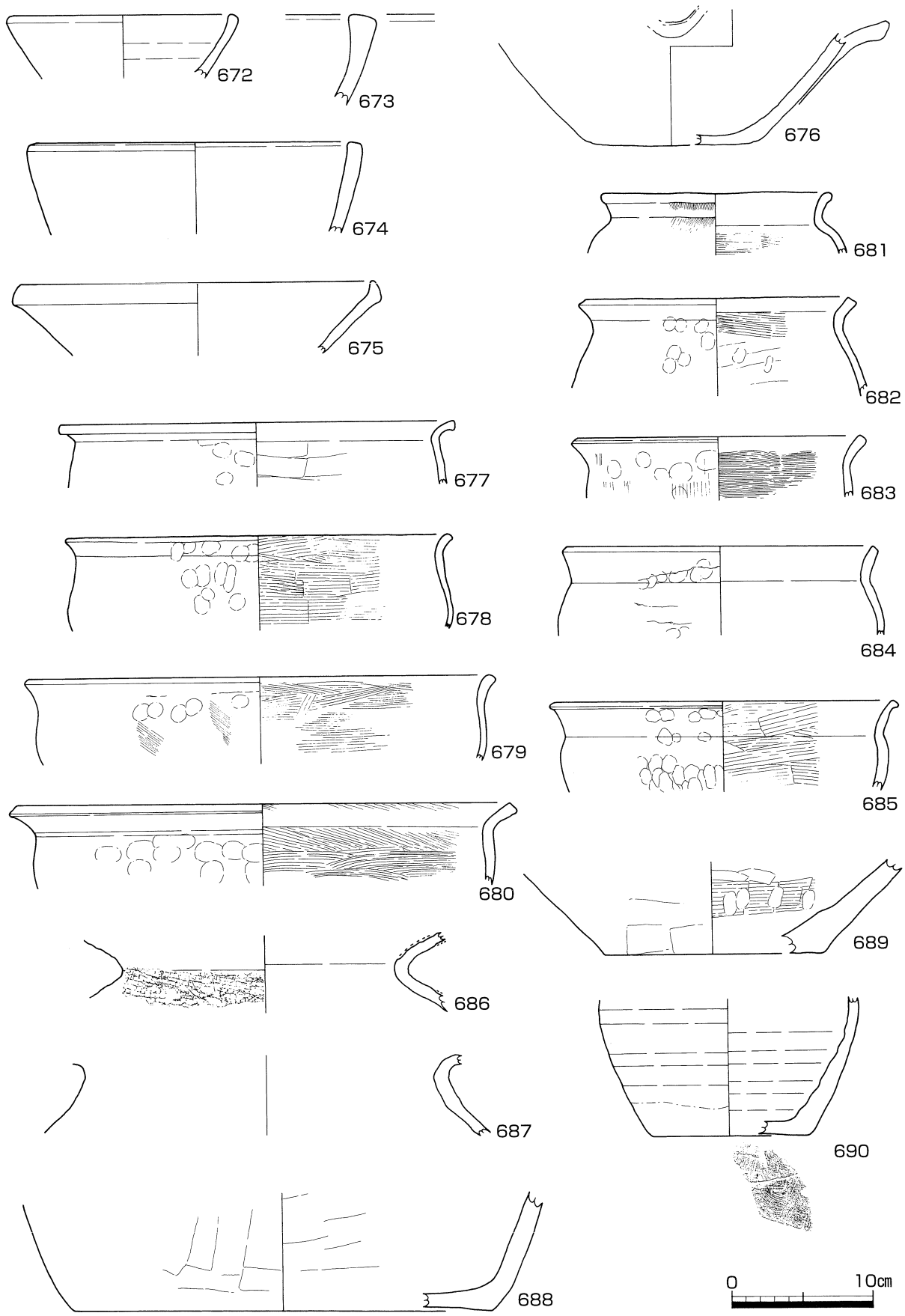
672～674は直線的な胴部であり，675・676は東播系の捏ね鉢で，676は片口を残存する。

677～680はやや長胴の甕，681～685は球形気味の胴部であり，外面は指頭圧痕，内面は横方向の明確なハケが施される。

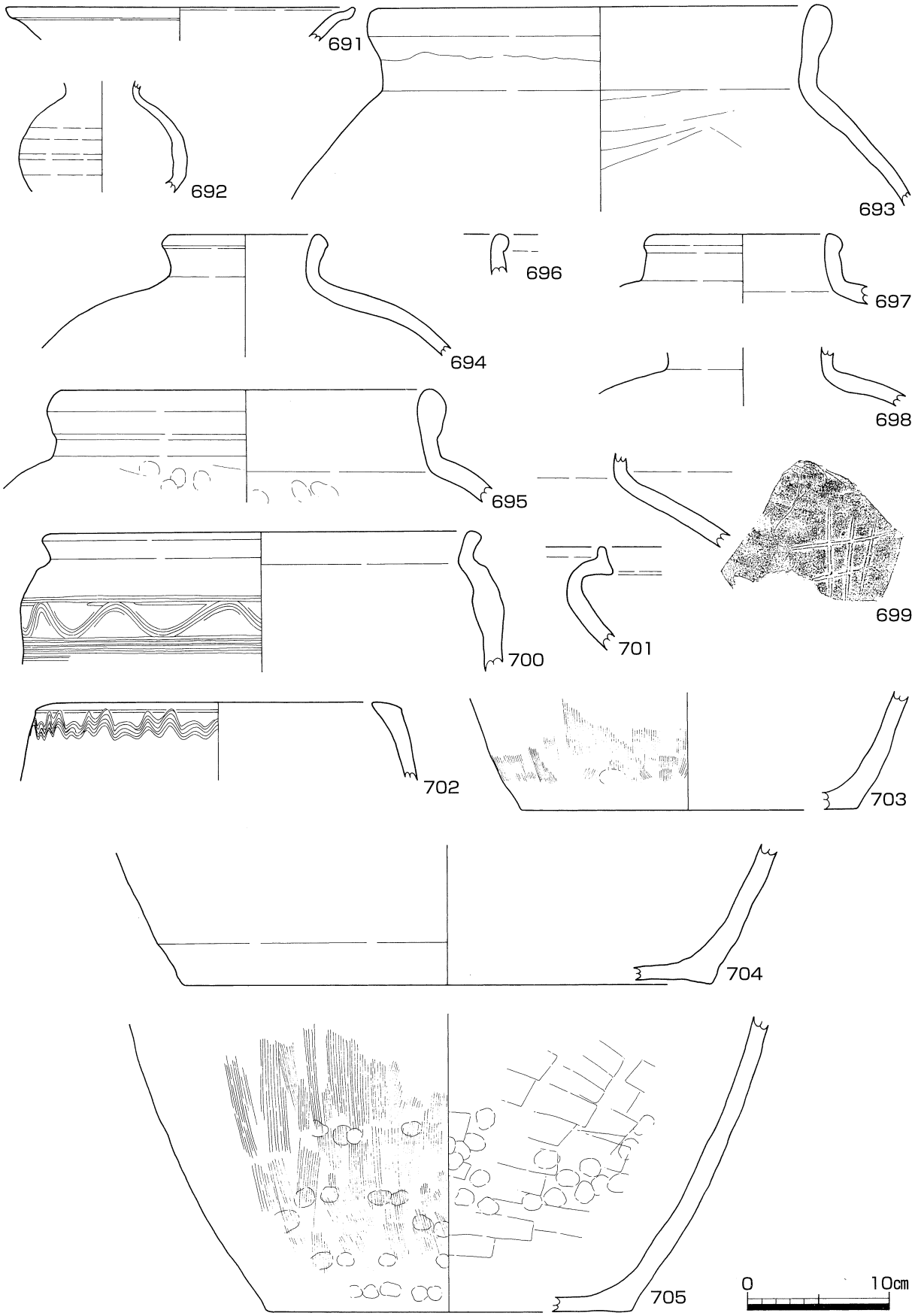
686の胴部外面に格子目タタキが施される。690の底部は回転糸切りの後にナデが施される。



第54図　ＳＸ1301出土遺物実測図（４）（Ｓ：１／４）



第55図　ＳＸ1301出土遺物実測図（５）（Ｓ：１／４）



第56図　ＳＸ1301出土遺物実測図（６）（Ｓ：１／４）

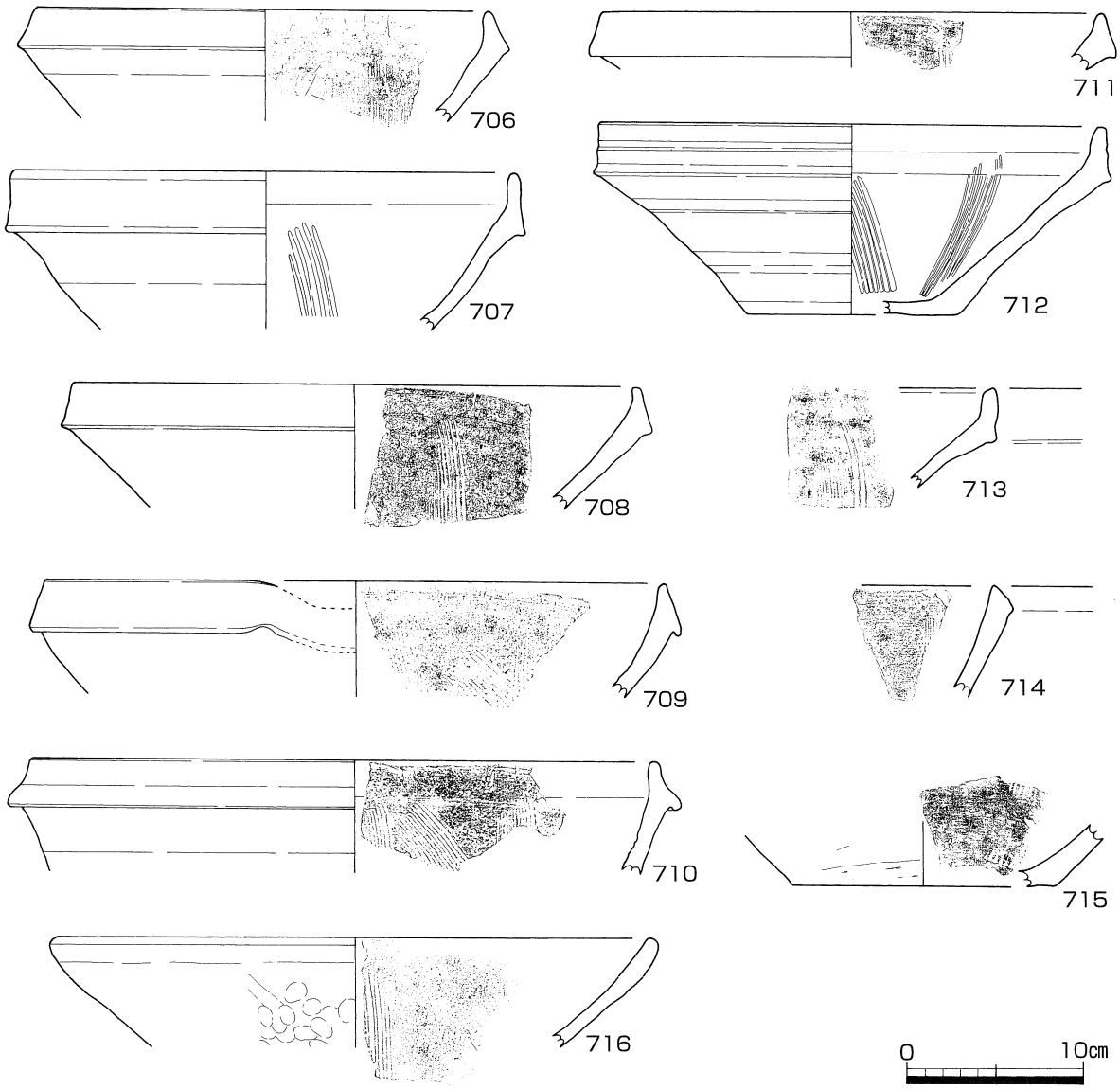
692～705は備前焼である。692は小型の壺で，693・695は口径31.6cmと26.0cmを測り，口縁部は直立し，端部は玉縁である。694･696～698は狭い口径で，短く直立する口縁部を有する。699は外面にヘラによる刻印が見られる。700は短い口縁部を有し，胴部外面に櫛描直線文２条と波状文１条を巡らす。702の口縁部は内傾し，外面に櫛描波状文１条を巡らす。

706～715は備前焼擂鉢で，口径25～35cmを測る。706～713の口縁部は上下に若干拡張し，709は片口の一部を残存する。716は直線的に口縁部に至り，外面に指頭圧痕が施される。

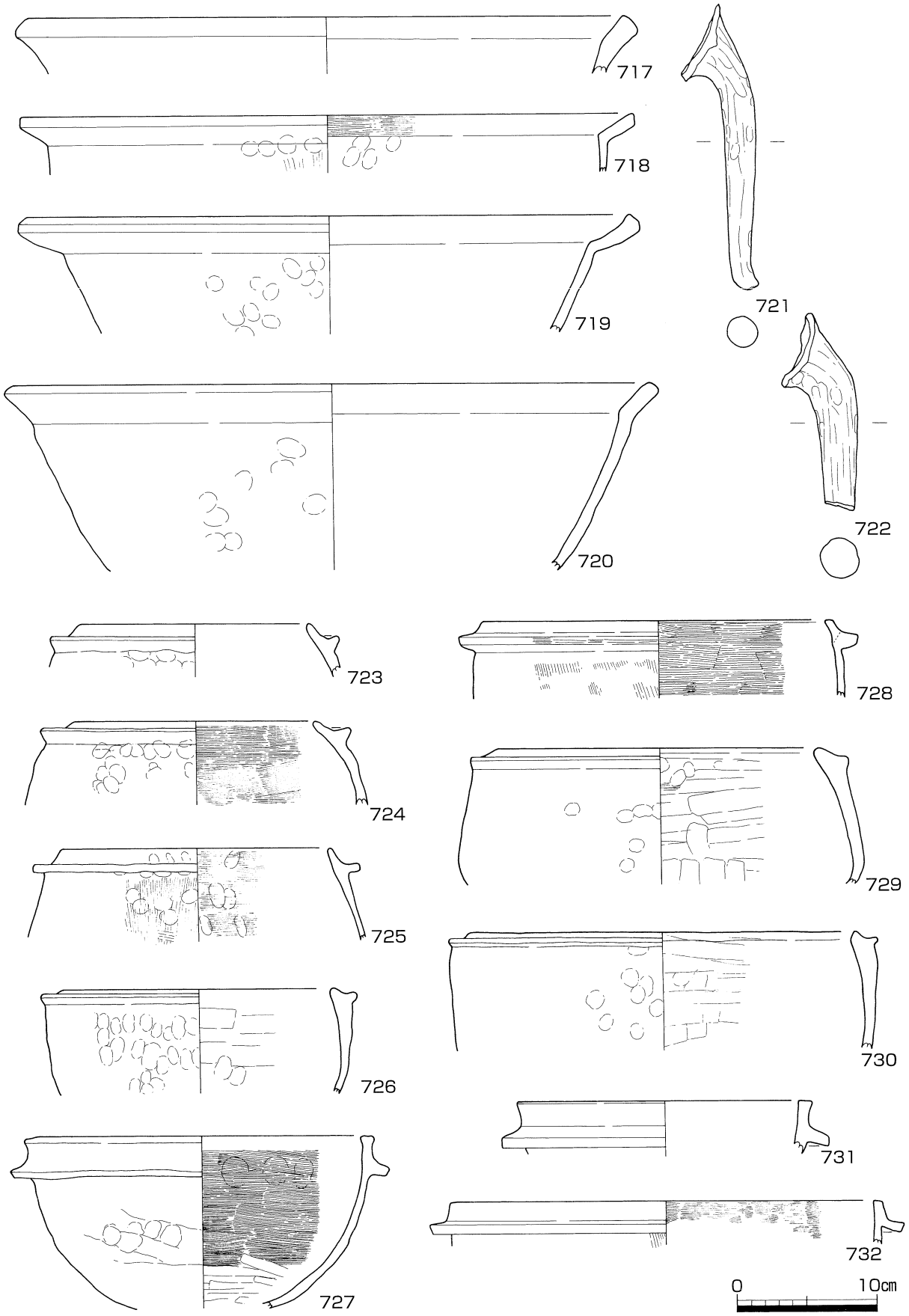
717～720は口径42～45cmを測り，直線的な口縁部と内湾気味の口縁部がある。

723～725・728の口縁部は内傾し，鍔から口縁部までがやや長い。胴部外面は指頭圧痕・ハケ，内面は横方向のハケが施される。726・729・730は口縁部のすぐ下に鍔があり，胴部外面は指頭圧痕，内面はヘラナデが施される。727・731は直立する口縁部である。

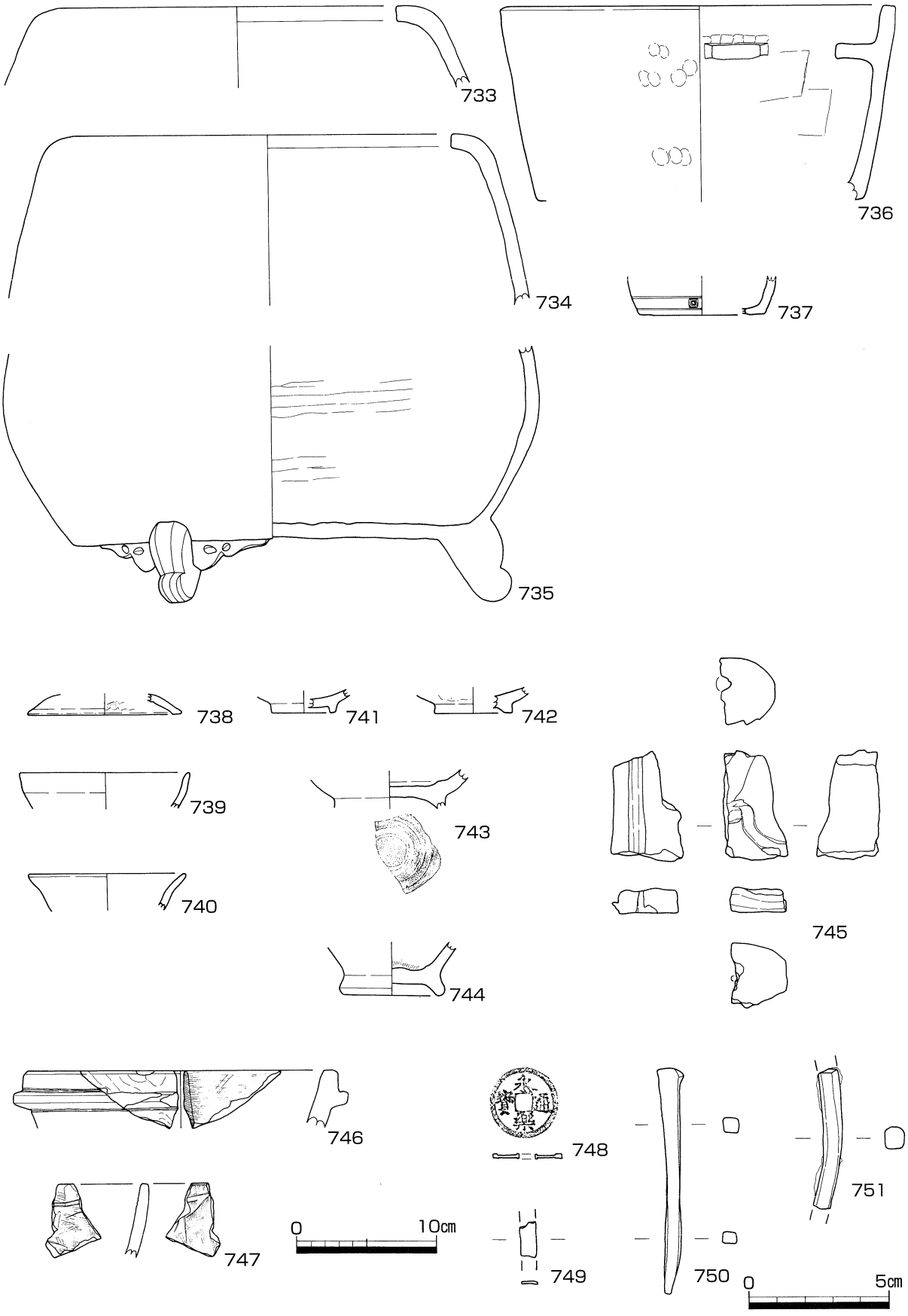
732は直立する口縁部に水平な鍔が付く。



第57図　ＳＸ1301出土遺物実測図（７）（Ｓ：１／４）



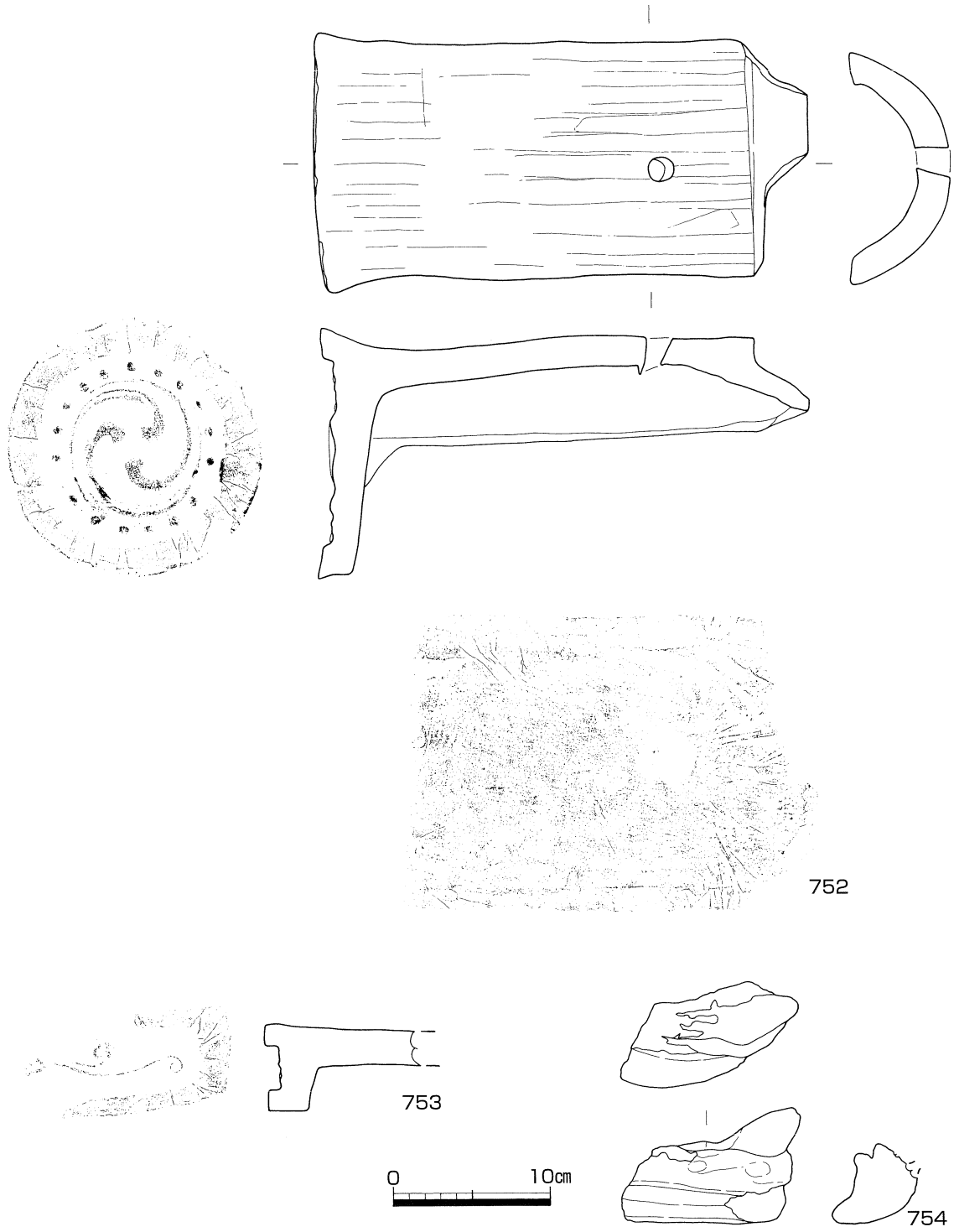
第58図　ＳＸ1301出土遺物実測図（８）（Ｓ：１／４）



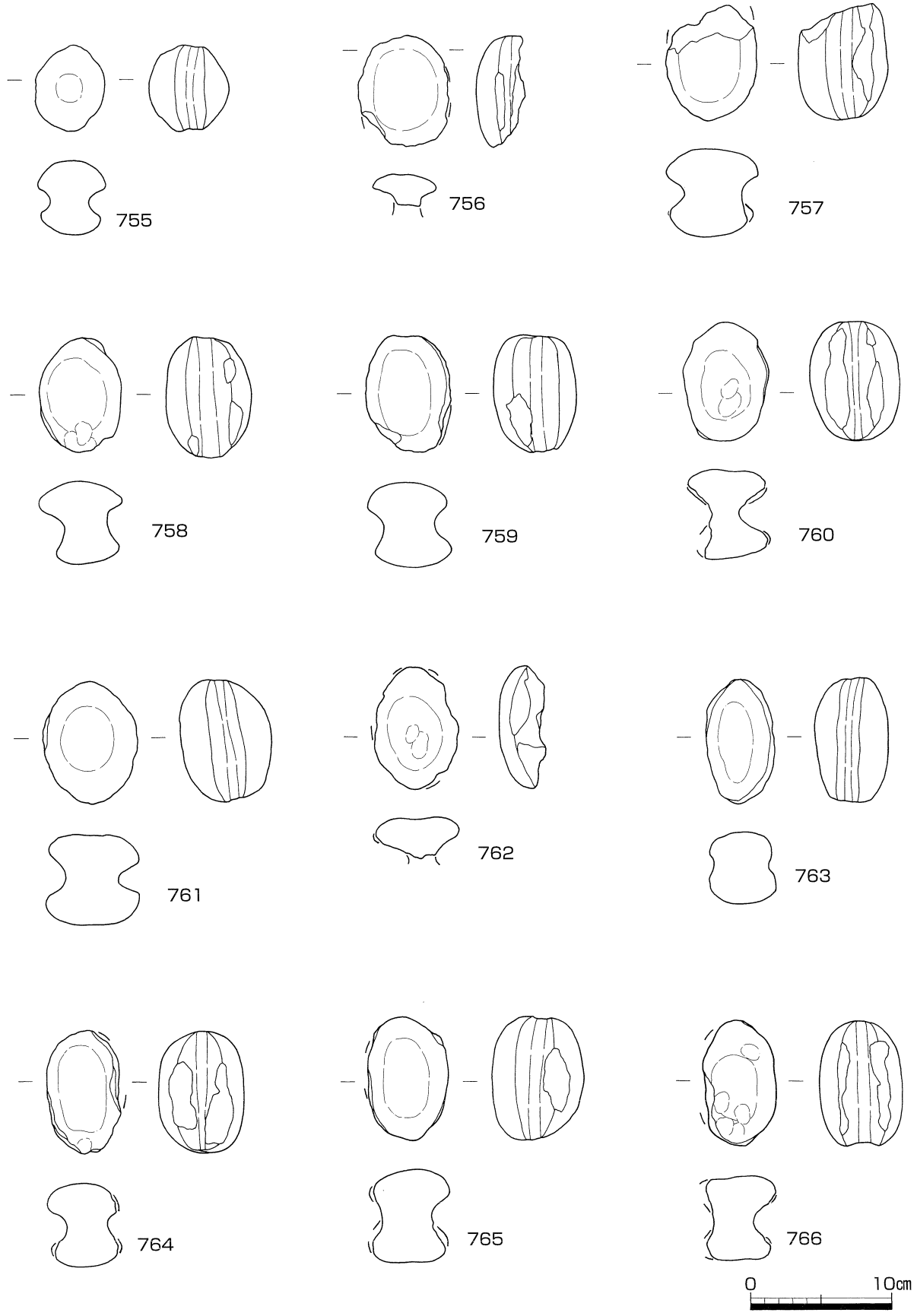
第59図　ＳＸ1301出土遺物実測図（９）（Ｓ：１／2，１／４）

733・734の口縁部は大きく内傾する。735は浅鉢形を呈する火鉢であり，底部外面の縁辺に3個の足を貼り付けている。外面はナデ，内面はヘラナデが施される。畿内出土の火鉢に酷似する。736は直線的な胴部の浅鉢形を呈し，内面に突起を有する。737は外面に四角の渦巻文のスタンプを押捺する。

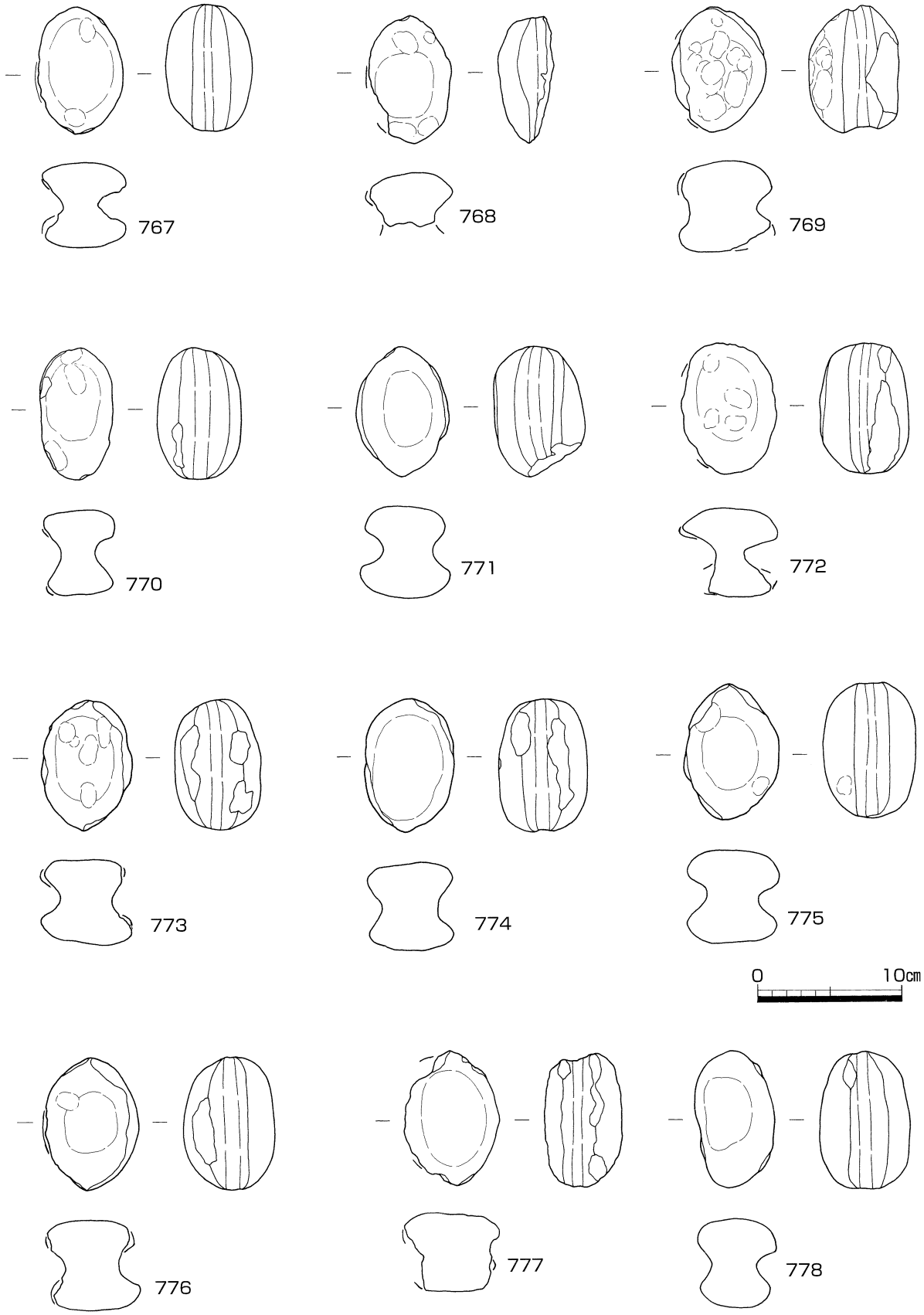
738は口縁部のみ施釉される。739は天目碗である。743の底部は回転糸切りが施される。



第60図　ＳＸ1301出土遺物実測図（10）（Ｓ：１／４）



第61図　ＳＸ1301出土遺物実測図（11）（Ｓ：１／４）



第62図　ＳＸ1301出土遺物実測図（12）（Ｓ：１／４）

745は土製仏像であり，頭部と左半身部を欠損する。仏像と接合しないが台座がある。仏像の現存高は7.7cmを測り，袈裟がわずかに残存する。

746・747は石鍋の破片であり，746は断面に擦痕があり転用されていた。746は口縁部直下に削り出された鍔がめぐり，747は鍔がなく，口縁部を丸くおさめる。

748は永楽６年（1408年）が初鋳の「永楽通宝」である。

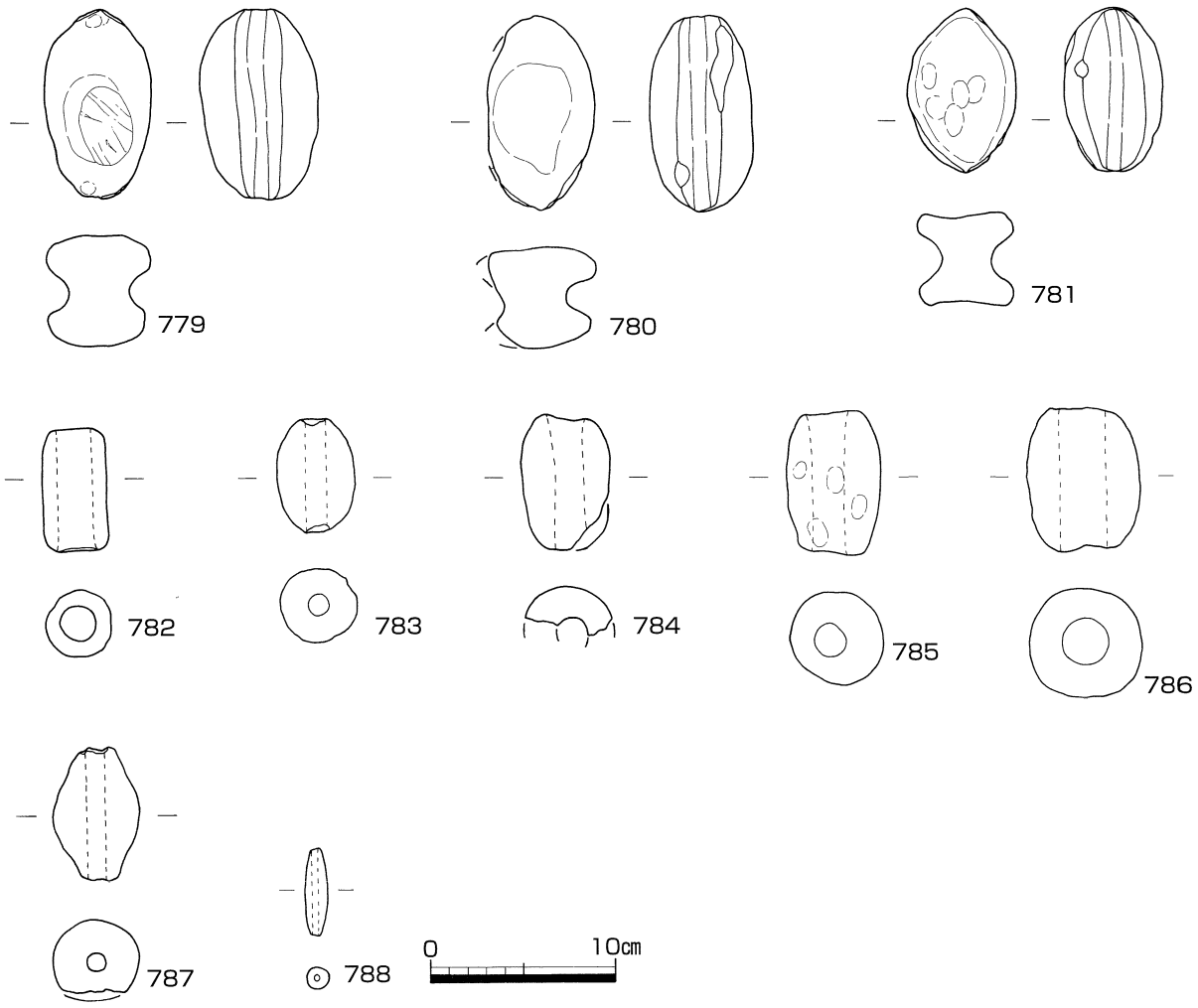
749は細い板状の青銅製品，750・751は断面方形の鉄釘である。

752は玉縁の一部を欠損する軒丸瓦であり，瓦当部に尾のやや長い巴文がある。凸面は長軸方向のヘラナデが施され，凹面は布目が残存しコビキＢにより切り取られる。瓦当裏面は横方向のナデと周縁に沿うナデが施される。

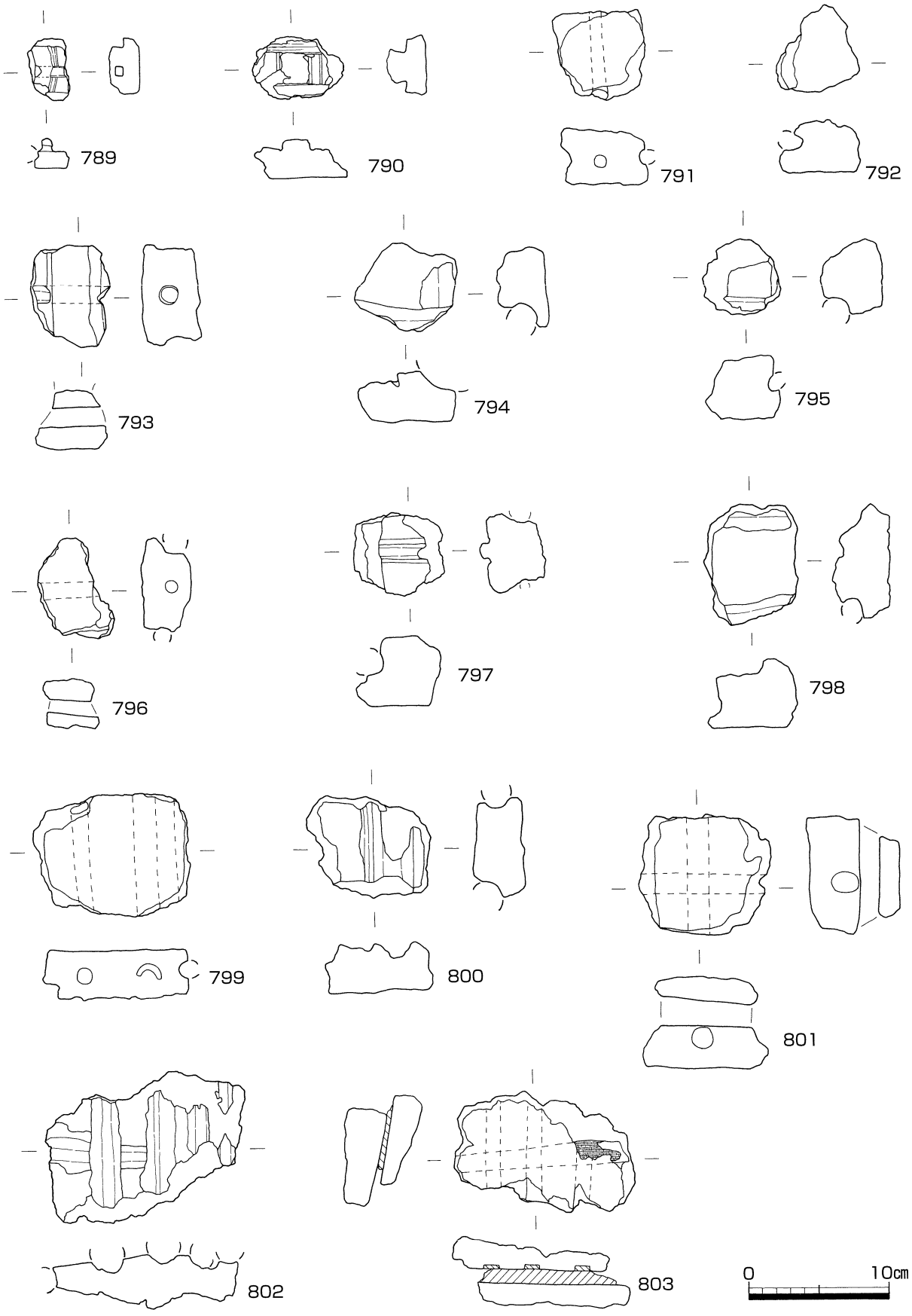
753は唐草文軒平瓦であり，瓦当上縁に幅広い面取り，顎後縁に幅狭い面取りが行われる。

755～781は側面に溝を有する土錘であり，重さは130～340ｇを測る。755～761の平面形はやや丸めの楕円形，762～780は先端が尖り気味の楕円形を呈し，781は中央部分にわずかに凹む平坦面を持つ。782～787は管状の土錘で，782は側面に直線を持つ長方形，783～786はやや長い楕円形，787は中央の広がる算盤玉状を呈する。788は細管状の土錘である。

789～803は断面円形・方形・三角形・三日月形の孔を有する羽口であり，803は孔の中に炭化材が残存する。



第63図　ＳＸ1301出土遺物実測図（13）（Ｓ：１／４）



第64図　ＳＸ1301出土遺物実測図（14）（Ｓ：１／４）

ＳＸ1302　（第50・65～67図）

調査区南東側のＳＥ1002の南東において検出した落ち込みであり，第１面ＳＥ1002・ＳＤ1001と第２面ＳＫ1209・ＳＸ1203に切られている。

検出面のレベルは標高0.67ｍ前後である。平面形や規模は北辺の一部のみの検出であるため不明であるが，ＳＫ1209の東側にも落ち込みが確認されており，規模の大きな遺構であると考えられる。検出面からの深さは0.09～0.17ｍを測り，掘り方はゆるやかである。底面はほぼ平坦である。埋土は褐灰色シルト質細砂の単一層である。本遺構はＳＸ1301の底面より深く掘り込まれているので別の遺構としたが，同一遺構である可能性も考えられる。遺物は全域より出土したが，特にＳＥ1002付近が多い。

遺物は，土師質土器小皿（804～811），同杯（812～825・827～829・833～838），須恵器杯（826・830），瓦器杯（831），土師質土器椀（832・839・840），瓦器小皿（841），同椀（842），青磁碗（843～848），同皿（849・850），緑釉陶器（851），白磁杯（852），同碗（853），磁器碗（854～856），備前焼壺（857・858），土師質土器甕（859），須恵器甕（860・861），備前焼擂鉢（862・863），須恵質土器捏ね鉢（864），土師質土器鍋（865），同足鍋（866～868），瓦質土器（869），石鍋（870），硯（871・872），土錘（873～876），鉄釘（877）である。

804・805は外傾する短い口縁部をもち，口径6.6cmと6.9cmを測る。806～811は口縁部のやや長い形態である。806の底部は回転ヘラ切りの後にナデ，807・809は回転ヘラ切りが施される。807の口縁端部は尖り，809は口縁部外面に面を有する。

812の底部は回転ヘラ切り，813は回転ヘラ切りの後に回転ヘラナデ・静止ヘラナデ，815・838は回転ヘラ切りの後にナデ，816・835～837は中央に板目，周縁にナデ，817・821・823・825はナデが施される。827～829は成形痕を明瞭に残す。

826は内外面に成形痕を残し，底部にヘラナデが施される。830の底部は回転ヘラ切りの後に中央に板目，周縁にナデが施される。

839は黒色土器Ａ類であり，840の内面はヘラミガキが施される。

841は左右不対称な器形で，底部に指頭圧痕，内面にヘラミガキが施される。842は小さな底部で，体部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。

843～846は明確な鎬蓮弁文を刻む碗であり，848は内面に劃花文を刻んでいる。

849・850は内面に印花文をめぐらす。

851は緑釉の碗破片である。852は白磁の杯で口径8.6cmを測り，853は口縁部が外反し，外面下半は露胎である。

855は天目碗で，856はわずかに口縁部が外反する。

857・858は備前焼であり，口縁部は直立する。857の口縁部外面に自然釉が付着する。

859は短く外反する口縁部で，胴部外面にタタキ，内面に板ナデが施される。860は頸部径33cmを測り，外面に格子状タタキが施される。

862・863は備前焼の擂鉢であり，862は口縁端部に面を有する。

864は須恵質土器捏ね鉢の底部付近であり，外面に明瞭な成形痕を残存する。底部中央はやや上げ底になる。

865の口縁部は直線的に外反し，外面にヨコナデ，内面に横方向のハケが施される。

866・867は内傾する口縁部で，口縁部外面のやや下に水平方向の鍔が付く。口縁部はヨコナデ，胴部外面上半は縦方向のハケ，下半は格子状タタキ，内面は指頭圧痕・ナデが施される。外

面には煤が付着している。

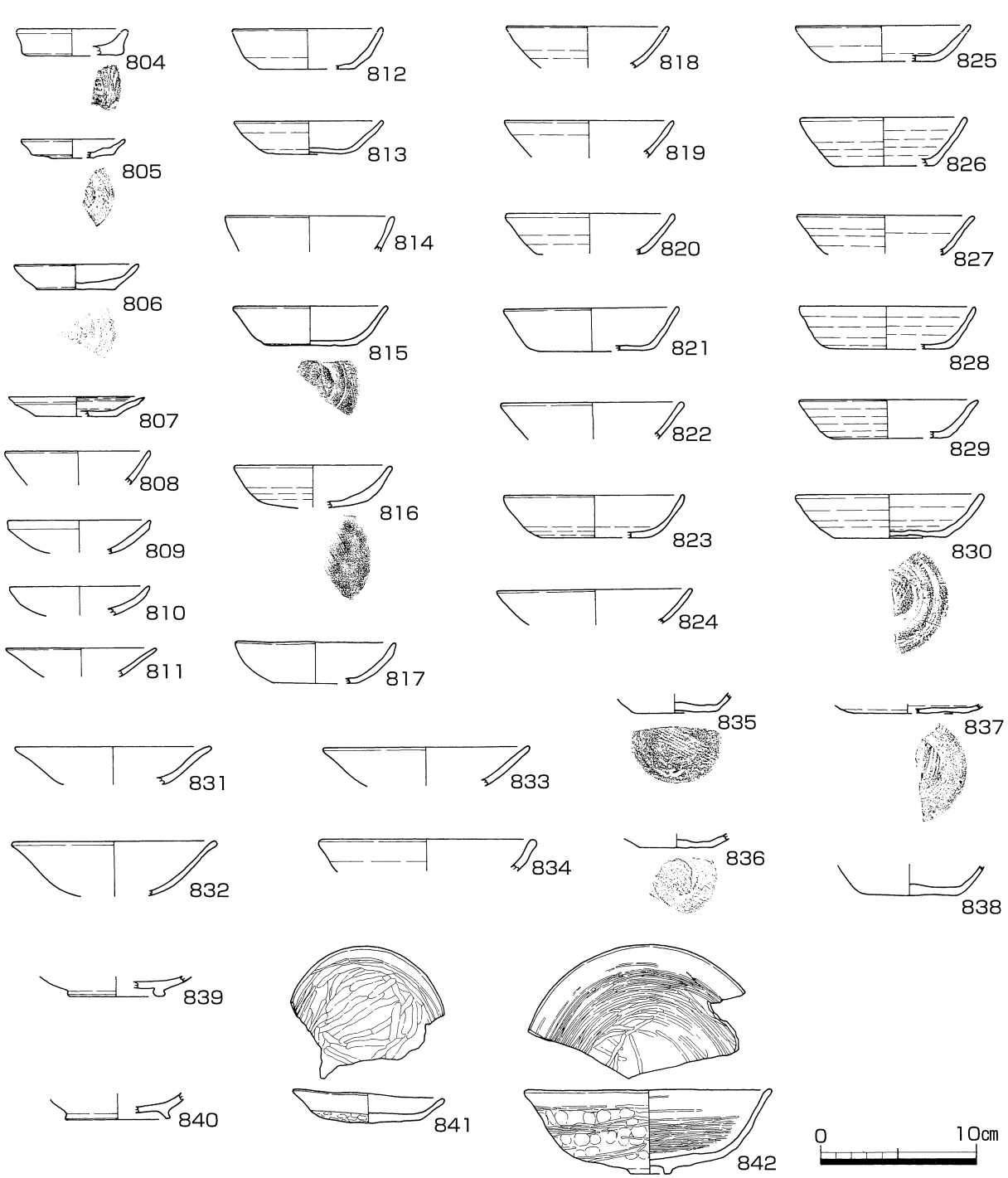
868は球形の胴部から外反する口縁部であり，足の一部を残存する。口縁部はヨコナデ，胴部外面は指頭圧痕と縦方向のハケ，内面は横方向のハケが明瞭に施される。

870は石鍋の破片で，内外面に仕上げの加工痕がみられる。

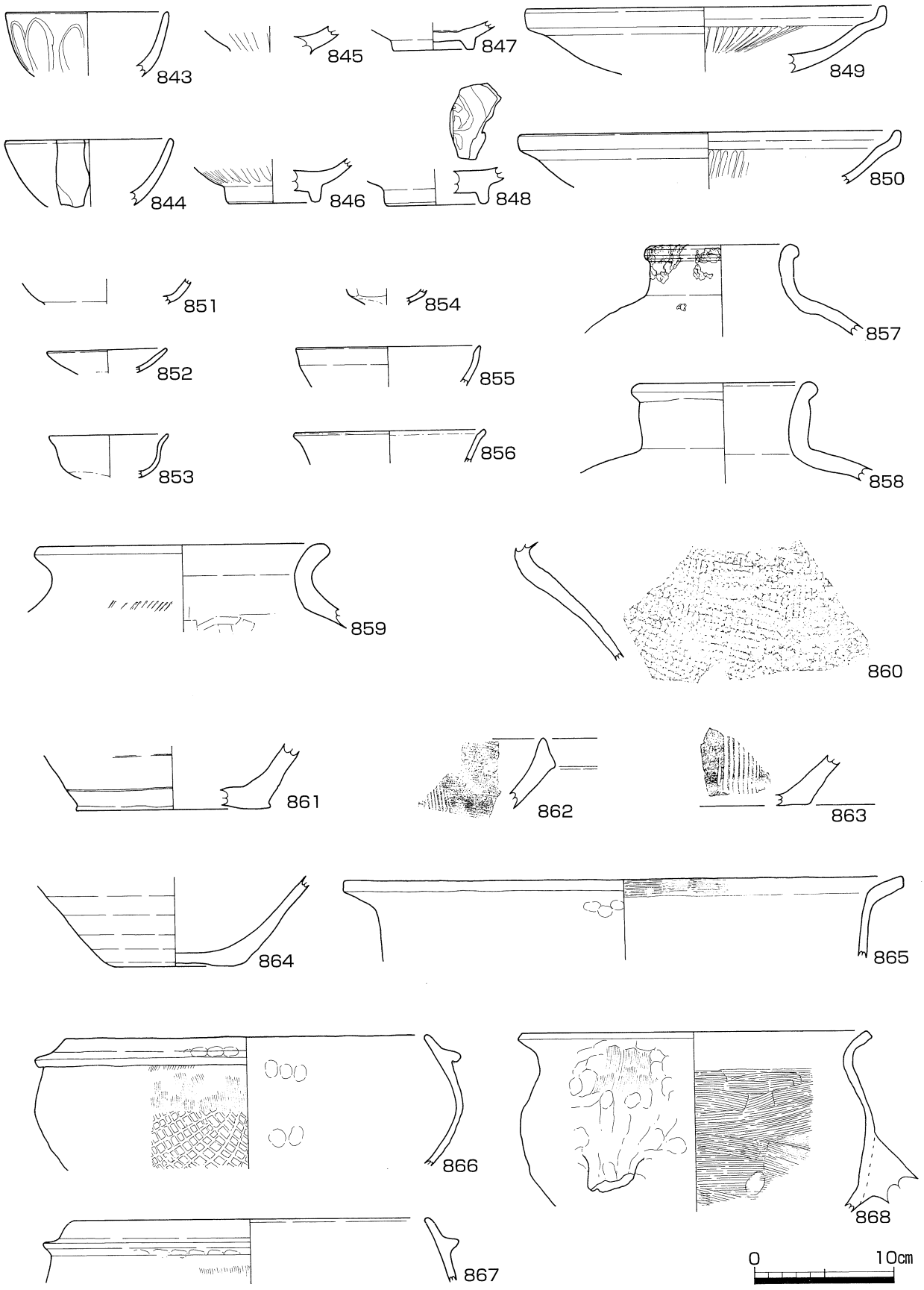
871・872は硯の破片であり，872の表面には研磨痕が明瞭に残る。

873～876は側面に溝を有する土錘である。

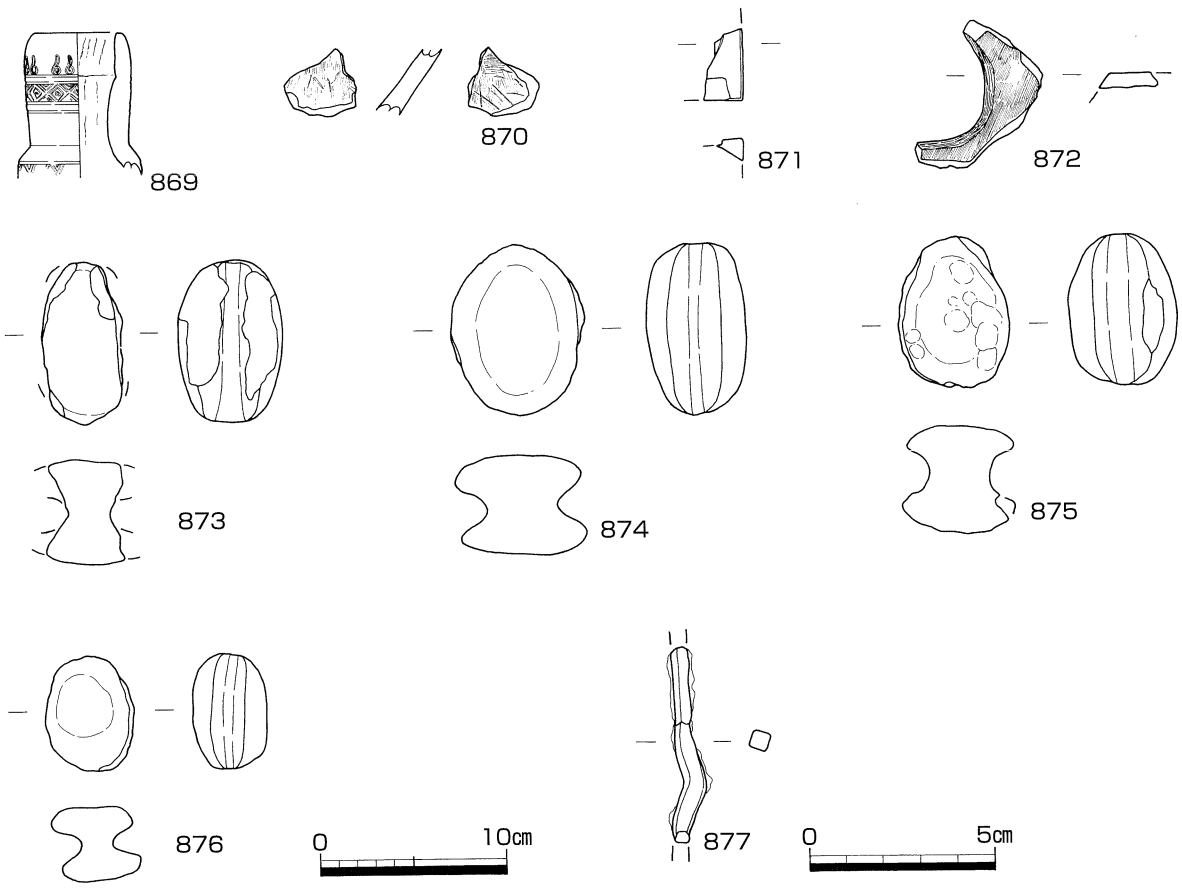
877は断面方形の鉄釘である。



第65図　ＳＸ1302出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）



第66図　ＳＸ1302出土遺物実測図（２）（Ｓ：１／４）



第67図　ＳＸ1302出土遺物実測図（３）（Ｓ：１／2，１／４）

ＳＸ1304　（第68図）

調査区南西部において検出した遺構であり，ＳＤ1305・ＳＫ1304を切り，第２面のＳＢ1201のＰ－１に切られる。検出面のレベルは標高0.90ｍである。東側は近代の撹乱を受け，平面形は不明である。南北長は1.17ｍ，東西長0.73ｍ以上を測る。深さは0.18ｍである。掘り込みは緩やかである。本遺構は検出された範囲で土坑の可能性もあるが，本報告書では性格不明遺構とする。

遺物は，土師質土器杯（878～882），同釜（883）である。

878～882は口径８㎝前後で、器高の高い杯である。色調・胎土は同一である。外面に墨書が見られるが，「法」と書かれている881以外は小片であり解読不可能である。

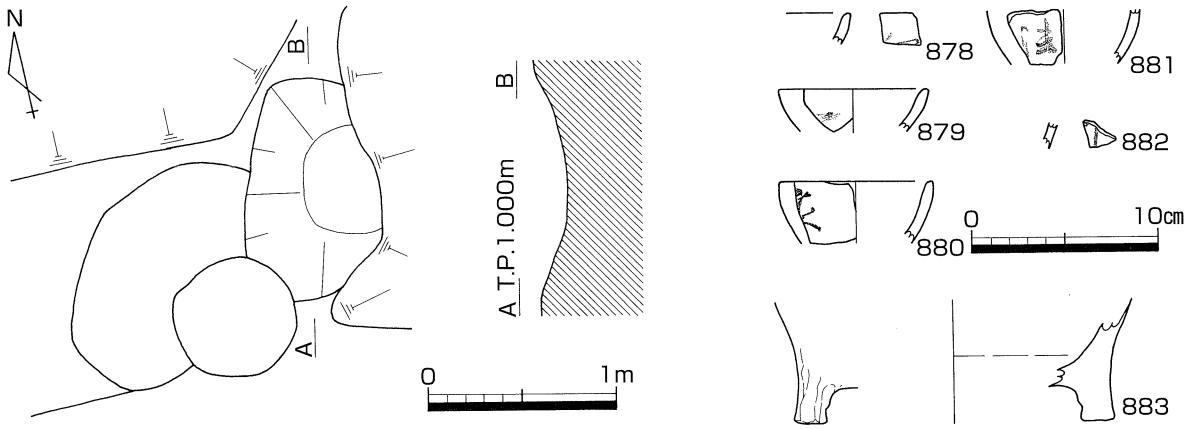
883は短い足の釜であり，ナデが施される。

ＳＸ1305　（第69図）

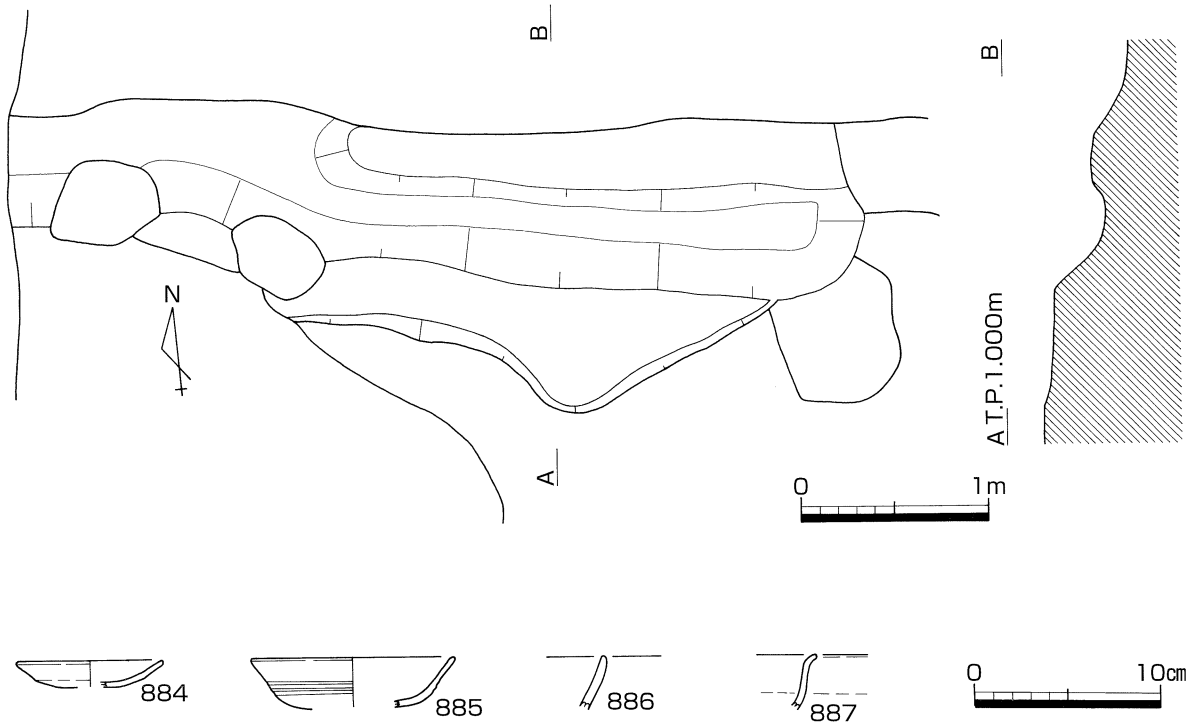
調査区南西部において検出した遺構であり，ＳＤ1302・ＳＰ1492に切られる。検出面のレベルは標高0.98ｍ前後である。平面形は不明であり，検出できた東西長は4.55ｍ，南北長1.50ｍ以上を測る。断面は段を有し，南側に深さ４㎝の浅い部分があり，その北側は急激に落ち込んで溝状になる。検出面から最深部までの深さは0.42ｍを測る。

遺物は，土師質土器小皿（884），同杯（885），瓦器椀（886），磁器碗（887）である。

884は口縁部に煤が付着し，底部にナデが施される。885は体部外面に沈線状の浅い凹みを有する。887は口縁部が外反する。



第68図　ＳＸ1304平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）



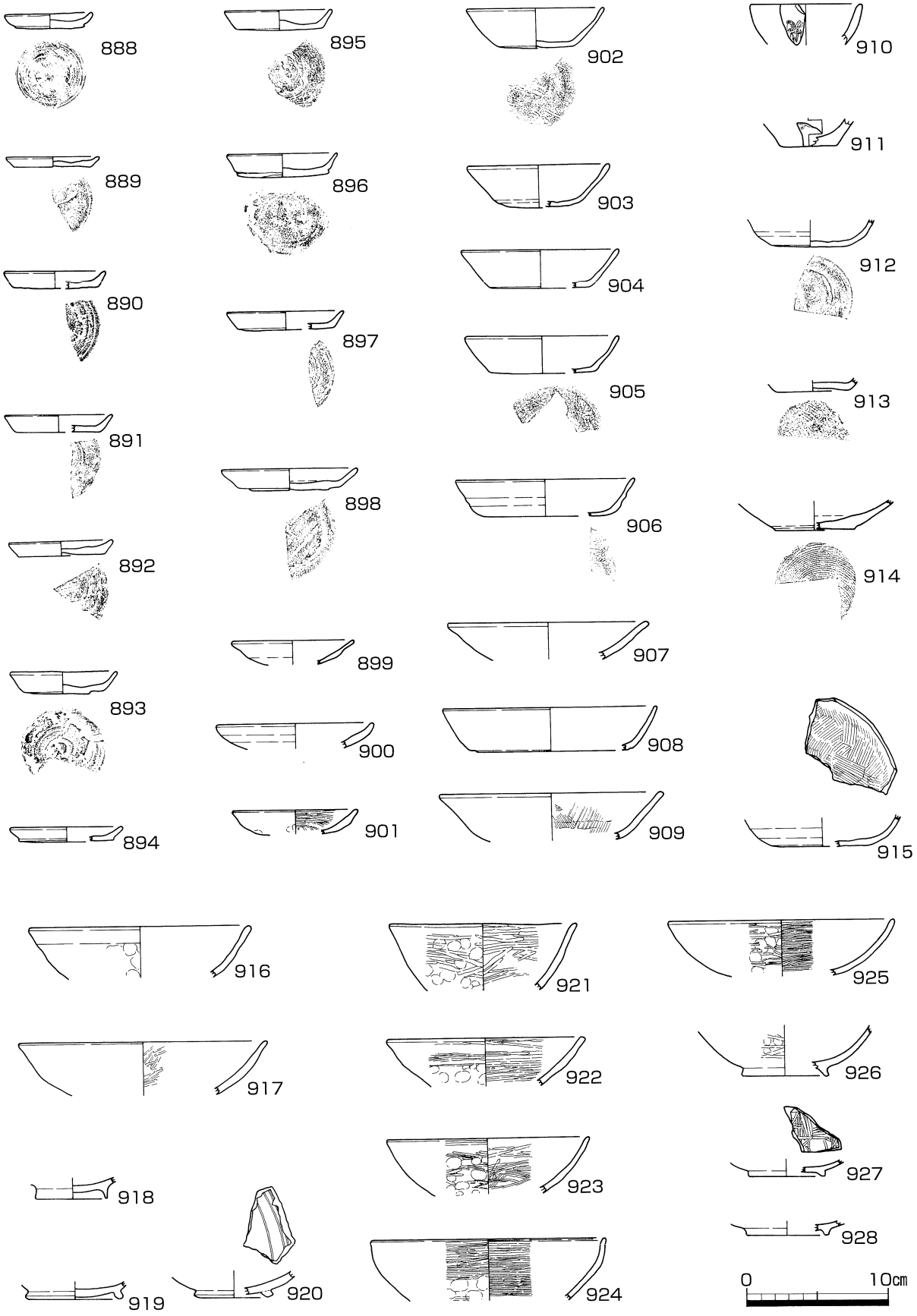
第69図　ＳＸ1305平・断面図および出土遺物実測図（Ｓ：１／4，1／40）

6. 包含層出土遺物　（第70～72図）

888～900は土師質土器小皿であり，888～897は短い口縁部，898～900はやや長い口縁部の器形である。888・892・898の底部は回転ヘラ切りの後に板目，889・895は回転ヘラ切りの後にナデ，890・894は回転ヘラ切り，891・896・897は回転ヘラ切りの後に回転ヘラケズリ，893は回転ヘラ切りの後にヘラナデが施される。

901は瓦器小皿であり，外面に指頭圧痕の後にナデ，内面にヘラミガキが施される。

902～912は土師質土器杯である。902・906の底部は中央に板ナデ，周縁に回転ヘラナデが施され，903・905は回転ヘラ切りの後に板目，904・912は回転ヘラ切りが施される。909の内面は縦方向のハケが施される。910・911は器高の高い杯で，外面に墨書が認められる。小片であり，解読は不可能である。911の底部は回転糸切りである。



第70図　第３面出土遺物実測図（１）（Ｓ：１／４）

913～915は須恵器杯であり，913・914の底部は回転糸切り，915の内面はハケが施される。

916～920は土師質土器椀であり，916の体部外面は指頭圧痕，917の内面はヘラミガキが施される。918は細い高台で内面にナデが施され，919・920は断面方形で低い高台を有し，920の内面には細い暗文がみられる。917・919・920は黒色土器A類である。

921～928は瓦器椀であり，921～923・926は外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面にヘラミガキが施される。924は口縁部と体部の境にわずかな稜を持ち，口縁部外面と内面に丁寧なヘラミガキ，胴部外面に指頭圧痕の後にヘラミガキが施される。925は外面に指頭圧痕の後にヘラミガキ，内面に丁寧なヘラミガキが施される。927・928は低い高台を有し，内面にヘラミガキが施される。

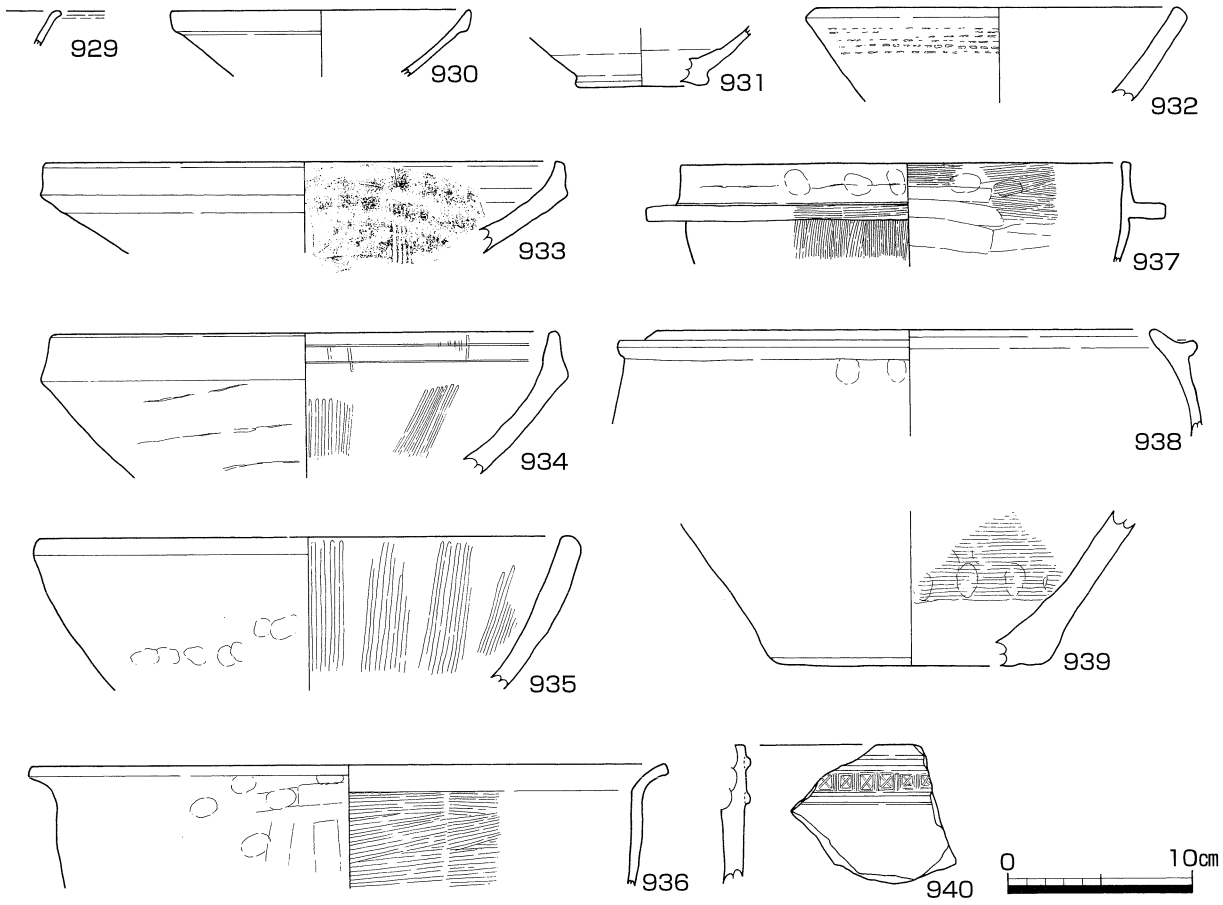
929～931は白磁碗であり，929の口縁部は外反し，930の口縁部は玉縁であり，931は見込みに圏線が廻る。

932は須恵器鉢で，外面に刺突痕がある。

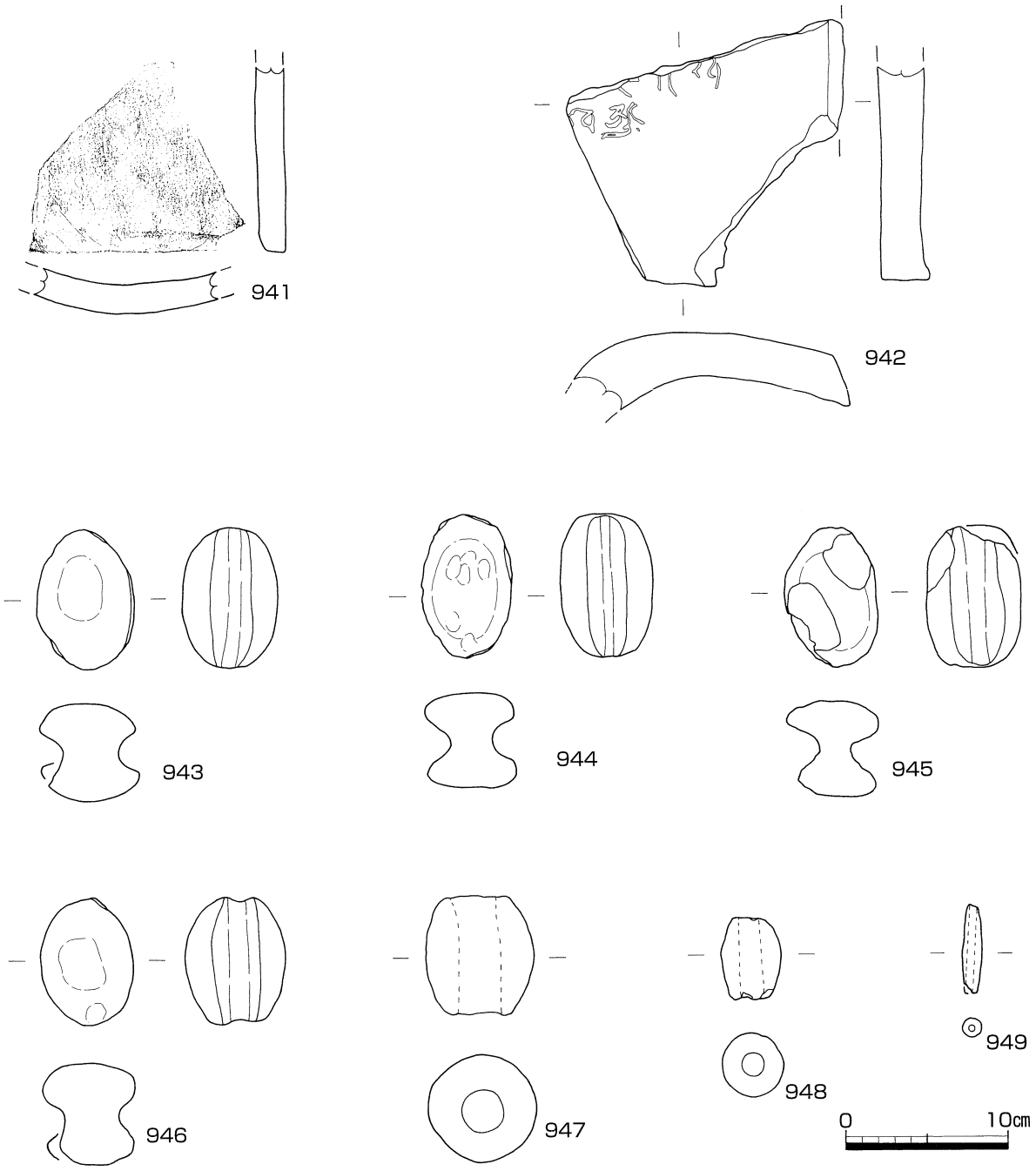
933・934は備前焼擂鉢であり，口縁部外面に面を持つ。

935は土師質土器擂鉢で，口縁端部は丸くおさめる。外面はナデと指頭圧痕が施され，内面に5本単位の擂目が刻まれる。

936は土師質土器鍋で，口縁部はゆるやかに外反する。胴部外面に指頭圧痕・ヘラナデ，内面に明確なハケが施される。



第71図　第3面出土遺物実測図（2）（S：1／4）



第72図　第３面出土遺物実測図（３）（Ｓ：１／４）

937は土師質土器羽釜で，口縁部は直立し，大きな鍔が水平方向に付く。口縁部と鍔部はヨコナデ，胴部外面は縦方向のハケが施され，内面は横方向のハケの後にヘラナデが施される。胴部外面と鍔下面は煤が付着する。

938は土師質土器足釜で，口縁部が内傾する。

939は備前焼甕で，内面に粗い横方向のハケが施される。

940は土師質土器の火鉢である。

941・942は平瓦で，941の凸面はナデ，凹面は板ナデが施される。942の凸面はヘラナデ，凹面はコビキＢがみられ，凸面に「真言」を表す５文字の梵字が残存する。

943～946は側面に溝を有する土錘，947・948は管状の土錘，949は細管状の土錘である。

第4章　自然科学的分析

第1節　高松市高松城跡出土木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所

1．試料

試料は高松市高松城跡から出土した容器2点，部材9点の合計11点である。

2．観察方法

剃刀で木口（横断面），柾目（放射断面），板目（接線断面）の各切片を採取し，永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3．結果

樹種調査結果（針葉樹3種）の表と顕微鏡写真を示し，以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）　マツ科マツ属［二葉松類］（Pinus sp.）

（遺物No. 2～7，9）

（写真No. 2～7，9）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で1～15細胞高のものと，水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属［二葉松類］はクロマツ，アカマツがあり，北海道南部，本州，四国，九州に分布する。

2）　ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）

（遺物No. 11）

（写真No. 11）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行は穏やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ，アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州，四国，九州に分布する。

3）　スギ科スギ属スギ（Cryptomeria japonica D. Don）

（遺物No. 1，8，10）

（写真No. 1，8，10）

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行は急であった。樹脂細胞は晩材部で接線

方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平であるスギは本州，四国，九州の主として太平洋側に分布する。

高松市高松城出土木製品同定表

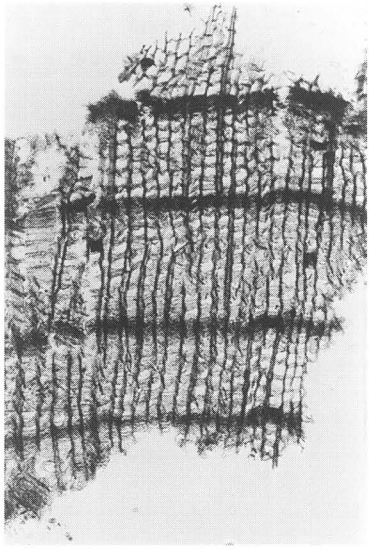
番号	遺　構	遺物番号	品　名	樹　　種
1	ＳＥ１２０１		曲物底板	スギ科スギ属スギ
2	ＳＥ１２０１		加工材	マツ科マツ属［二葉松類］
3	ＳＥ１２０１		板材	マツ科マツ属［二葉松類］
4	ＳＥ１２０１		板材	マツ科マツ属［二葉松類］
5	ＳＥ１２０１		板材	マツ科マツ属［二葉松類］
6	ＳＥ１２０１		板材	マツ科マツ属［二葉松類］
7	ＳＥ１２０１		板材	マツ科マツ属［二葉松類］
8	ＳＥ１２０１		板材	スギ科スギ属スギ
9	ＳＰ１３１７	４９７	加工材	マツ科マツ属［二葉松類］
10	ＳＥ１３０１	４２３	加工材	スギ科スギ属スギ
11	ＳＥ１３０１		曲物（井筒）	ヒノキ科アスナロ属

参考文献

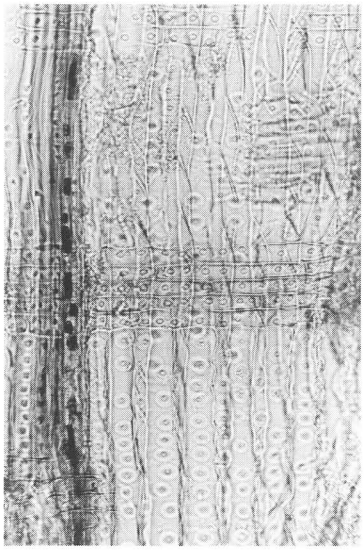
島地　謙・伊東隆夫　「日本の遺跡出土木製品総覧」　雄山閣出版（1988）
島地　謙・伊東隆夫　「図説木材組織」　地球社（1982）
伊東隆夫　「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」　京都大学木質科学研究所（1999）
木村四郎・村田　源　「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」　保育社（1979）
深澤和三　「樹体の解剖」　海青社（1997）

使用顕微鏡

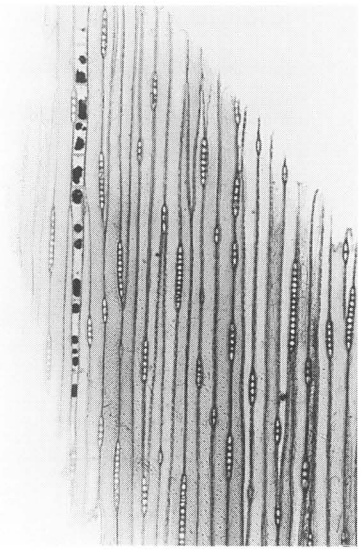
Nikon
MICROFLEX UFX-DX Type　115



木口×40

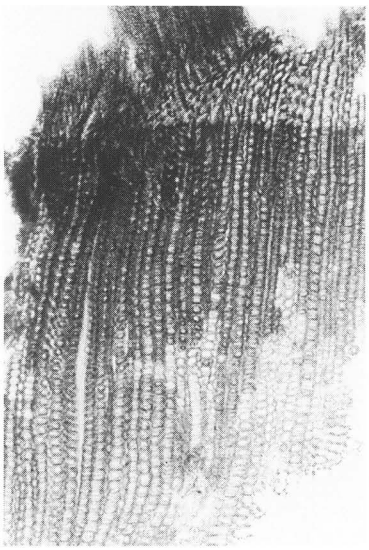


柾目×100

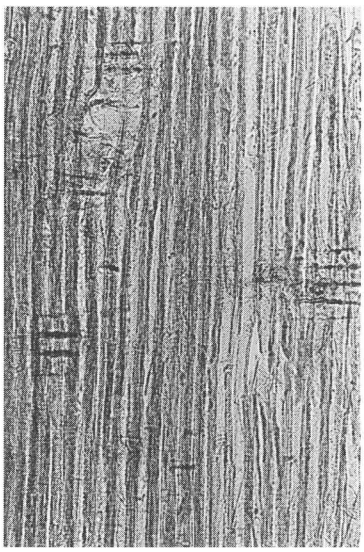


板目×40

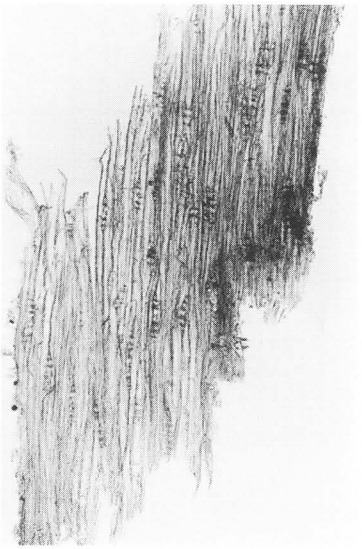
No－1　スギ科スギ属スギ



木口×40

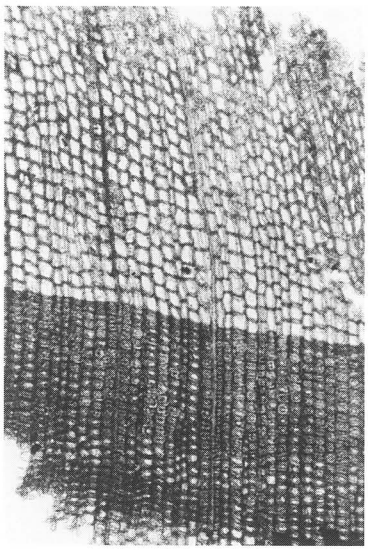


柾目×100

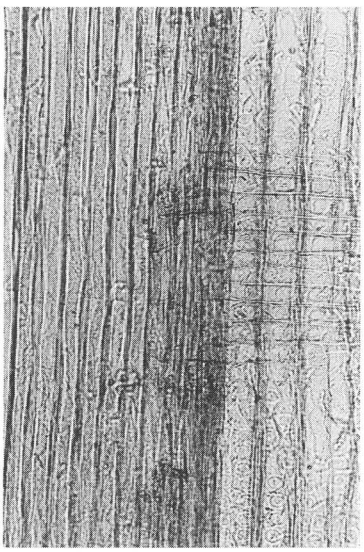


板目×40

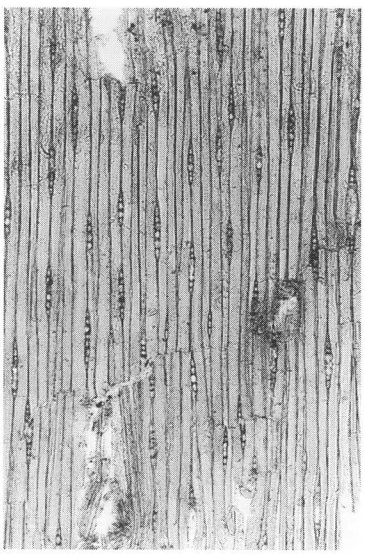
No－2　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

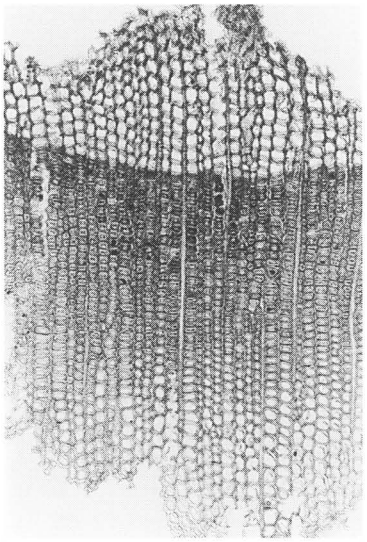


柾目×100

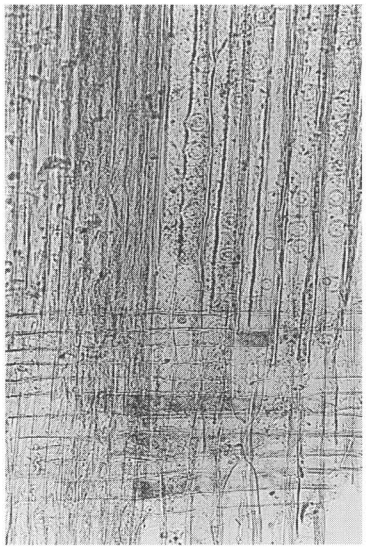


板目×40

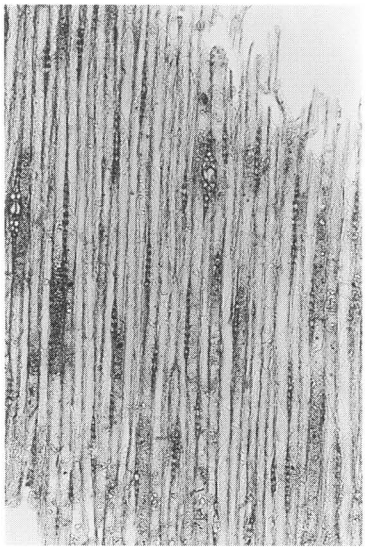
No－3　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

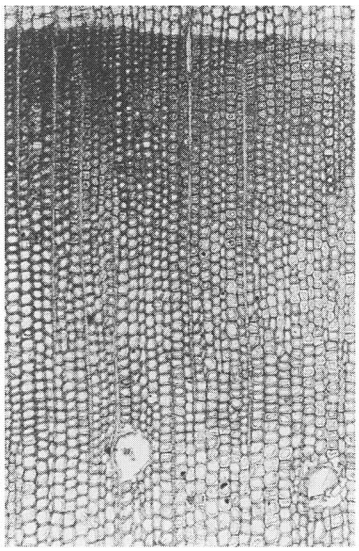


柾目×100

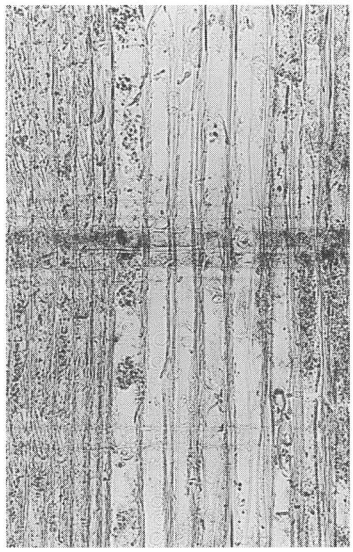


板目×40

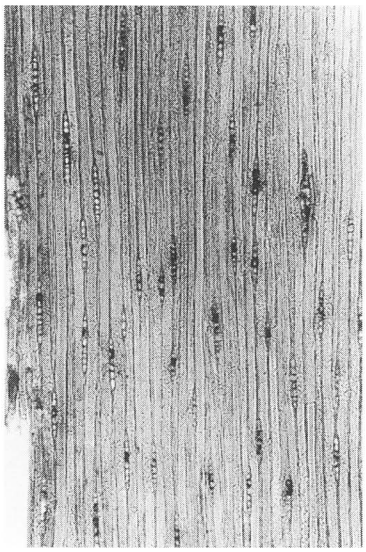
No－4　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

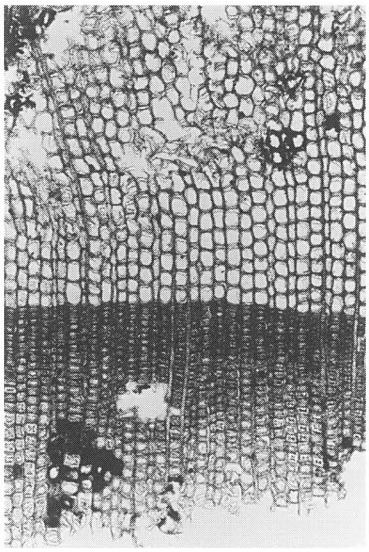


柾目×100

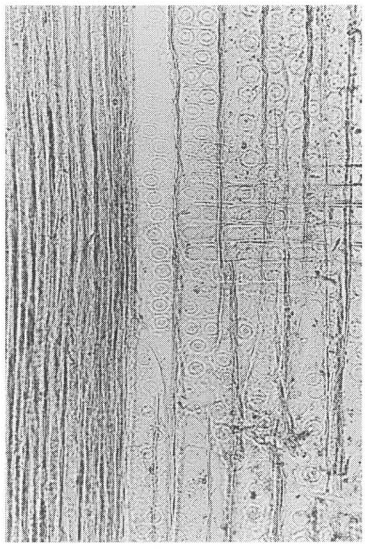


板目×40

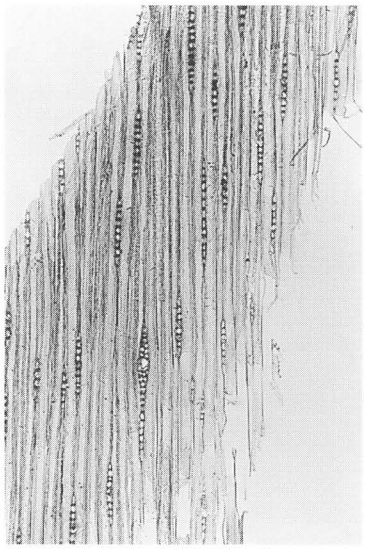
No－5　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

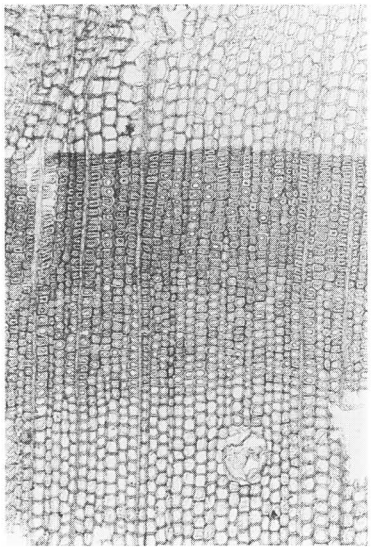


柾目×100

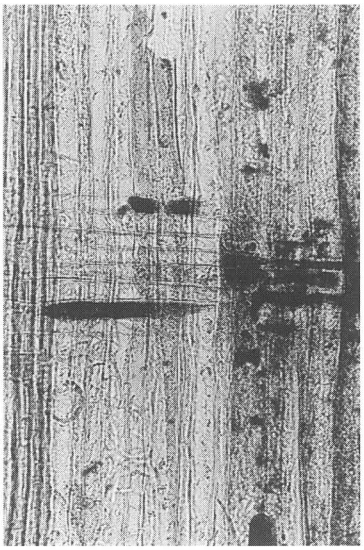


板目×40

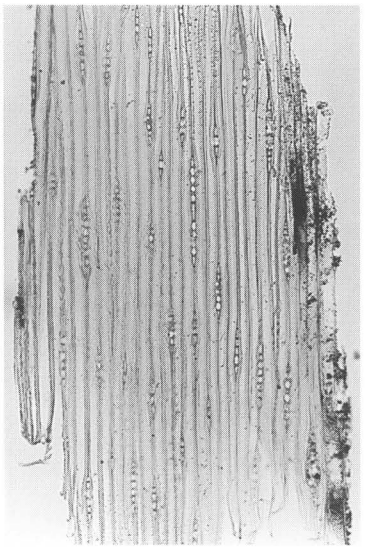
No－6　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

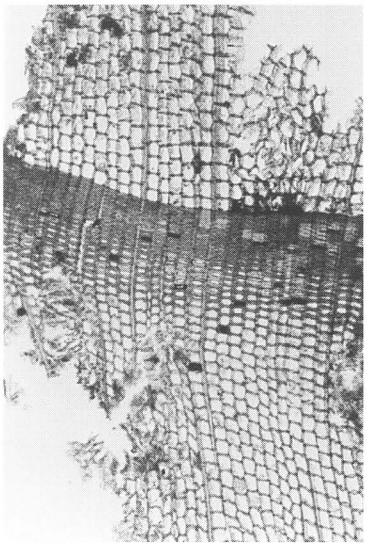


柾目×100

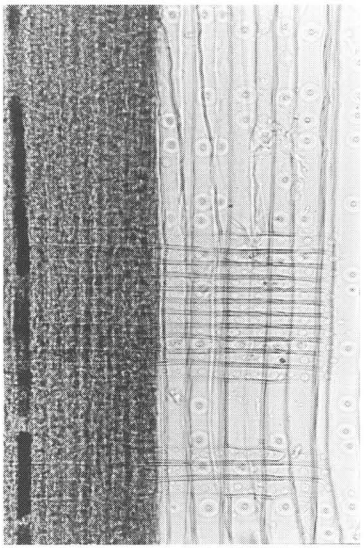


板目×40

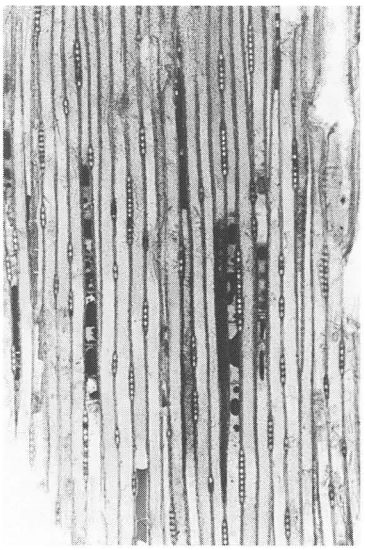
No－7　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

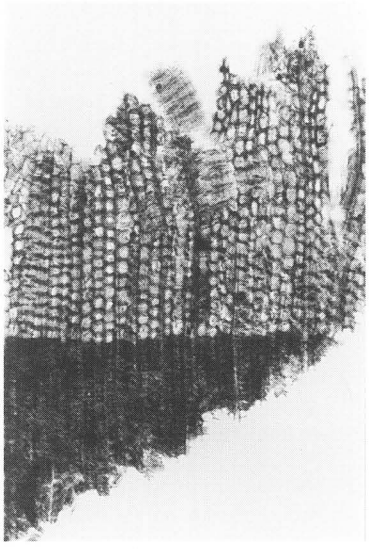


柾目×100

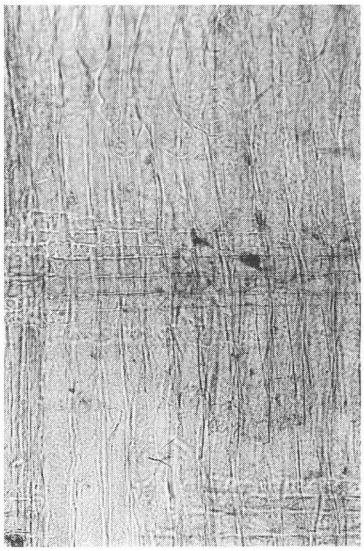


板目×40

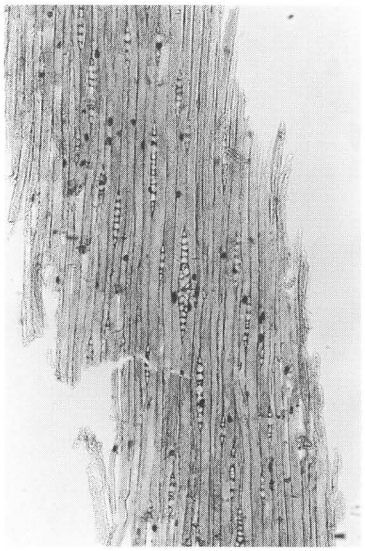
No－8　スギ科スギ属スギ



木口×40

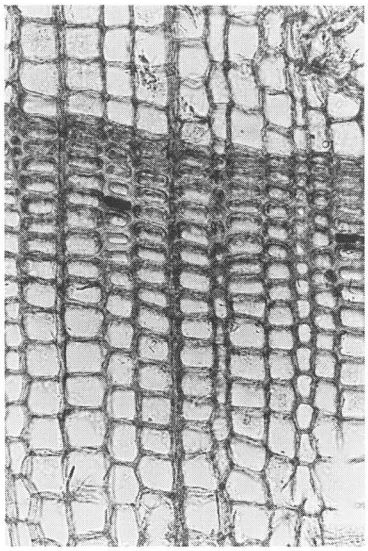


柾目×100

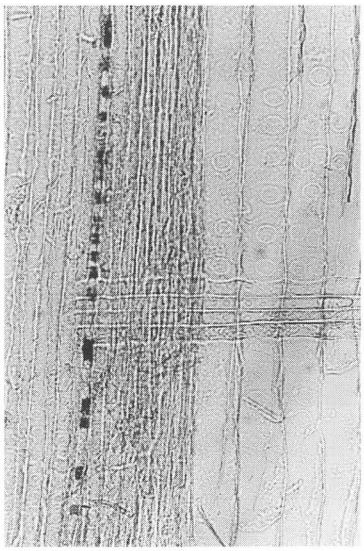


板目×40

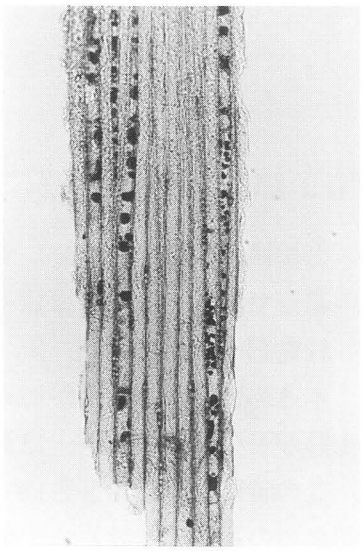
No－9　マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×40

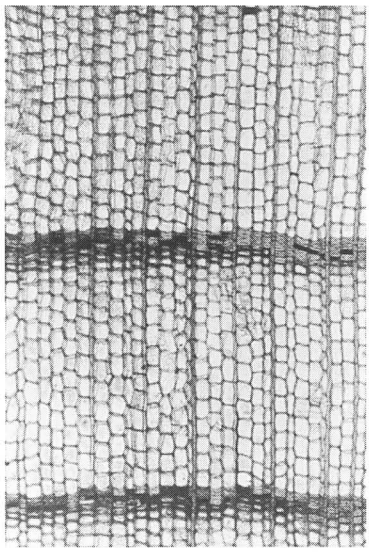


柾目×100

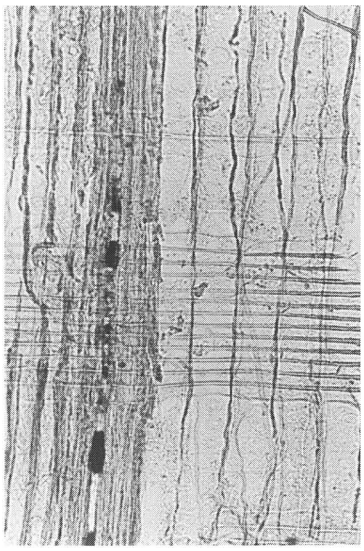


板目×40

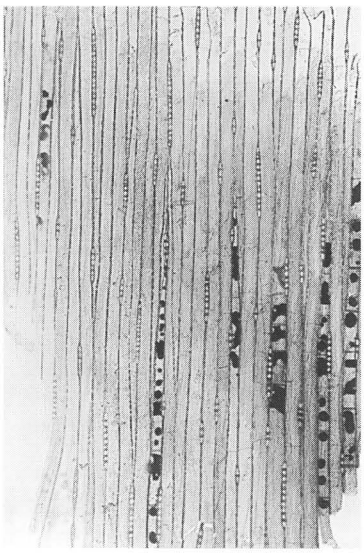
No－10　スギ科スギ属スギ



木口×40



柾目×100



板目×40

No－11　ヒノキ科アスナロ属

第5章　まとめ

第1節　遺構の変遷について

高松城跡（無量壽院跡）では3面の遺構面を検出したが，本書では最下層の第3遺構面のみの報告である。ここでは12～16世紀に比定される遺構の変遷に関して述べることとする。

12世紀～13世紀初頭

本遺跡において集落が初めて営まれるようになる時期である。遺構の埋土から須恵器や弥生土器が若干出土するが，12世紀以前の遺構は検出されていない。

この時期の遺構はＳＤ1304のみである。この溝は調査区南壁中央から北東方向に延びており，和泉型の瓦器椀をはじめ土師質土器小皿・瓦器小皿等の多量の土器が出土した。

15世紀～16世紀

ＳＥ1301・ＳＤ1301・1303・ＳＫ1314・1321・1322・1323は15世紀に比定される。ＳＥ1301は石組と曲物を組み合わせた構造の井戸であり，浜ノ町遺跡において検出されたＳＥ514・521とほぼ同様な構造であり，時期も同じである。ＳＤ1301・1303はほぼ同位置で，同方向に延びる溝である。

ＳＤ1302・1305・ＳＫ1304・ＳＸ1304は16世紀に比定される。当該期に属する遺構で最も注目すべきは，ＳＤ1302である。この溝はその規模が大きく，東西方向を向き直線的に延びる。第2節で論考するとおり，「野原濱村无量壽院」と刻まれた丸瓦が出土し，無量壽院の寺域を区画する境界線の溝である。

ＳＸ1301・1302の時期は13世紀～16世紀と推定される。

第2節　「無量壽院」について

今回の調査では，調査区中央を東西に延びるＳＤ1302から「野原濱村无量壽院」と刻まれた丸瓦が出土した。ＳＤ1302は幅1.60～2.25m，深さ0.60mを測り，ほぼ完形の青磁香炉や青磁碗・土師質土器をはじめとする多量の土器や丸瓦・平瓦・梵字瓦等の瓦類，五輪塔も出土しており，この地域が，天平11年（739年）行基が開創したと伝えられる讃岐国屈指の古刹の無量壽院跡であることが判明した。無量壽院の寺記によれば，天文年間（1532～1555年）に今の高松城にあたる八輪島に寺を移転したが，天正年間（1573～1592年）に高松城の城地となったため西方に移転したとある。調査では，無量壽院に直接関連する建物跡等は検出できなかったが，寺域を区画する境界線としての溝を確認することができたことは，高松城築城以前の状況を研究する上で重要な資料となる。

1．無量壽院の歴史・変遷

無量壽院の創建と変遷を記した史料としては，『増補三代物語』・『無量壽院随願寺記』・『御領分中寺々由来』・『全讃史』・『讃岐國名勝図会』・『北野天満宮一切経』・『親長卿記』が一般的に知られているが，明治45年に発行された『紫山随願寺無量壽院の記』を現在の無量壽院のご好意で実見する機会があり，ほとんど普及していない書物であるので，『増補三代物語』・『讃岐國

名勝図会』・『北野天満宮一切経』・『親長卿記』と共に本報告書に収録する。

無量壽院は，高松市御坊町に現存する真言宗御室派の寺であり，紫山随願寺と号する。その創建は，天平11年（739年）に光明皇后の発願により行基が坂田郷室山のふもと（現，西春日町）に寺を建立したと伝えられる。行基は自ら無量寿仏を刻んで安置された（増補三代物語・無量壽院随願寺記・御領分中寺々由来・全讃史・讃岐國名勝図会）。ただし，『紫山随願寺無量壽院の記』には稲荷山の嶺より栗林村宮脇村の総称である八輪島に建立したとしている。

弘仁年間（810～824年）に空海が寺を修造し，仏像を安置供養し経三巻を製作した。嵯峨天皇が曼荼羅・仏器を寄付し，談議所としての宣旨を天皇より賜る（御領分中寺々由来・讃岐國名勝図会・紫山随願寺無量壽院の記）。

仁和年間（885～889年）に菅原道真が坂田郷橋詰の無量壽院を館にしていた（増補三代物語）。菅原道真が香川元茂に当院の由来を聞き，この院に七日参籠し付近の池水に映る姿を模写して奉納した。この影像はその後に紛失するが，貞享３年（1686年）に小豆郡草加部村江田与一左衛門祐長が当寺に返した（増補三代物語・讃岐國名勝図会・紫山随願寺無量壽院の記）。

昌泰年間（898～901）に当寺初代住職の観賢は寛平法皇より御祈願所の勅宣を賜る（紫山随願寺無量壽院の記）。観賢は坂田郷の秦氏出身で，聖宝の弟子となり般若寺を開き，弘法大師信仰の基礎を固めた人である。観賢に関する記載は『紫山随願寺無量壽院の記』に詳しい。

白河法皇は特に信仰が厚く，伽藍興隆の詔を下した。大治４年（1129年）に法皇崩御すると，住持覚道が中野町付近に法皇の陵（白河陵）を築いた。その後，亀山天皇も厚く信仰し伽藍再興し，嘉元３年（1305年）に天皇が崩御した後，宮脇町石清尾神社付近に陵（亀山陵）を築いた（讃岐國名勝図会・紫山随願寺無量壽院の記）。

応永年間（1394～1428年）に虚空蔵院（与田寺）の増叶が寺を中興する（讃岐國名勝図会・紫山随願寺無量壽院の記）。『讃岐國名勝図会』に名前が載っている宥範僧正と増叶僧正については『紫山随願寺無量壽院の記』に詳しい。

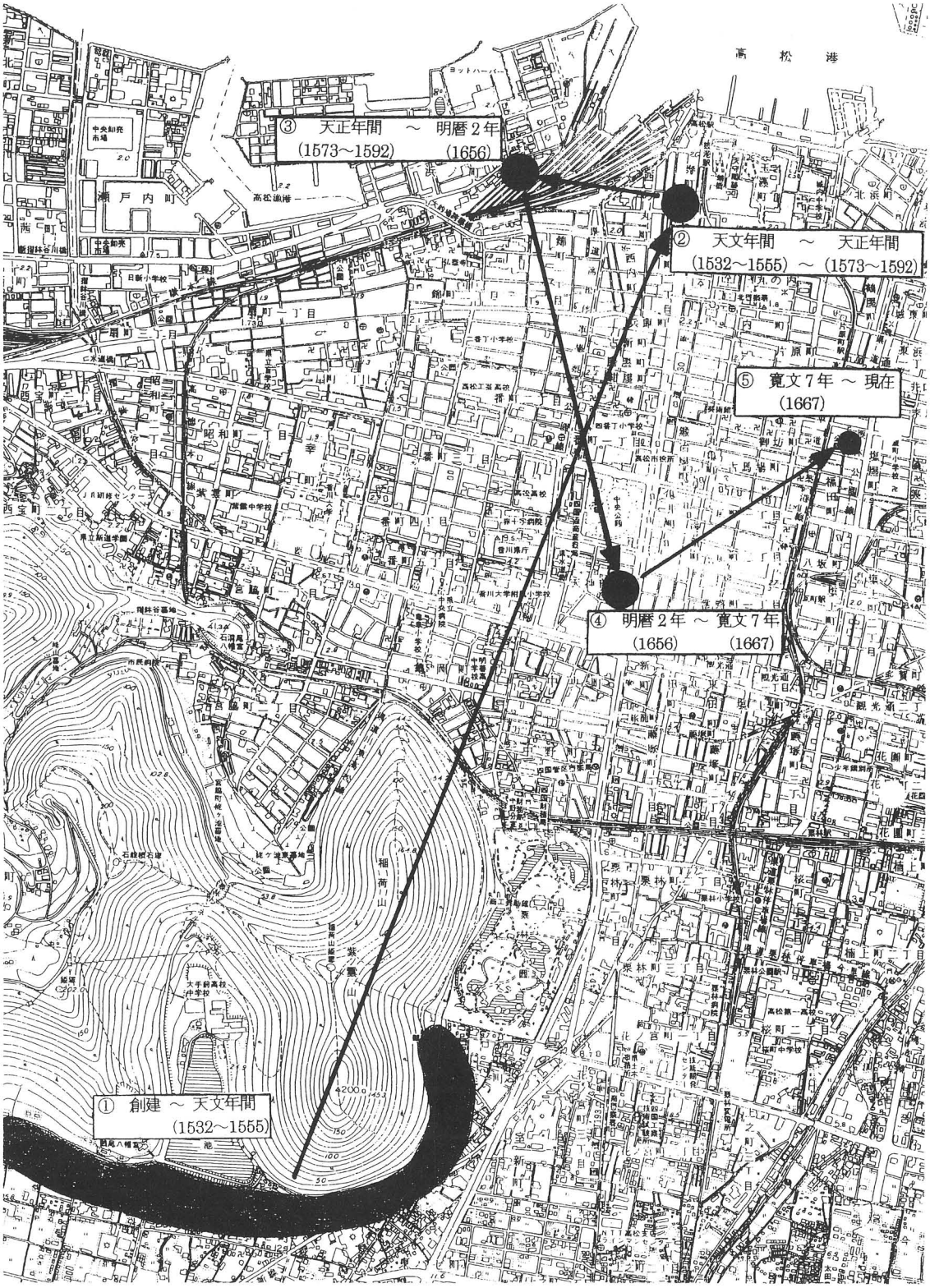
応永19年（1412年）に虚空蔵院の僧増範が願主となって勧進書写した『北野天満宮一切経』には「讃州野原無量壽院住善海」の名がみえ，奥書に「野原無量壽院」「野原西浜極楽寺」「野原福成寺」などの高松市内に現存する真言宗寺院名が散見できる。甘露寺権大納言藤原親長の日記である『親長卿記』文明５年（1473年）３月24日条によれば，大覚寺門跡の関白鷹司房平息性深僧正が讃州坂田無量壽院の極官のことについて奏聞したことが知られ，『讃岐國名勝図会』には住持増専を権僧正に任じた同年７月７日付の宣旨写を載せている。

天文年間（1532～1555年）に兵火にかかり伽藍が焼失し，寺は野原郷八輪島に移転した。八輪島は高松城の城域にあたる（増補三代物語・讃岐國名勝図会）。ただし，『紫山随願寺無量壽院の記』には「因縁厚き八輪島より宿り島に移転するに至れり。宿り島とは即ち現今の玉藻城地是なり。」と記しており，場所は同一だが地名については他の史料と異なる。

天正15年（1587年）讃岐に入国した生駒親正が天正16年（1588年）に高松城を築城するにあたって，当寺は西の方（浜ノ町）に移転する。その地点は後に御船蔵となる所であり，近世まで談義所という地名が残っていた。

寛永19年（1642年）京都御室御所仁和寺の末寺となり，寛永21年～明暦元年（1644～1655年）は無住となり，寺は荒廃する（紫山随願寺無量壽院の記）。

明暦２年（1656年）御船蔵を作るために寺は中村（天神前）の浄願寺東南に移転する。塔頭吉祥寺と蓮花寺は残る。享保年間（1716～1736）の「高松城下図」には跡地の海岸に御船蔵が



第73図　無量壽院の変遷図

描かれている。

寛文４年（1664年）藩主松平頼重から米30俵が合力米として給される（御領分中寺々由来・寺社記）。

寛文７年（1677年）松平修理様長屋の建築により法華宗大乗寺の跡地であった御坊町に移転した。弘化年間（1844～1848年）に作成された「弘化年間高松城下絵図」には松平修理様長屋と無量壽院の所在地が記されている。無量壽院は現在に至るまで同所に所在する。

元禄14年（1701年）山田郡六条村青木免で53石３斗が寄進される（寺社記・紫山随願寺無量壽院の記）。

昭和20年に高松空襲により堂宇・寺宝を焼失する。昭和22年に再建される。

2. 調査成果と歴史的史料の整合

無量壽院の天平11年の創建から現在に至るまでの移転をまとめると次のとおりである。

天平11年	坂田郷の室山の麓に創建
天文年間	野原郷八輪島に移転
天正16年以後	高松城築城に伴い西の方（浜ノ町）に移転
明暦２年	中村（天神前）の浄願寺東南に移転
寛文７年	法華宗大乗寺の跡地（御坊町）に移転

史料により若干の相違部分もあるが，無量壽院は今までに所在地を少なくとも４回移転していたことが史料上に記録されている。その変遷を図化したのが第73図である。

今回の調査で検出したＳＤ1302より出土した文字瓦（188）は，

野原濱村无量壽院　天（文）（以下欠損）

九月（以下欠損）

の文字が刻まれている。「野原」は平安期の『和名抄』香川郡十二郷の一つであり，笶原と表記される。中世になると，康治２年（1143年）８月19日の太政官牒案に「野原（条）野原郷」と見るのが初見であり，嘉元４年（1306年）６月12日の『昭慶門院御領目録案』が郷名として記載される最後である。その後，『北野天満宮一切経』に「讃州野原」と見える。つまり，平安時代から室町時代にかけて高松城下町及び宮脇・西浜・福岡・東浜・中ノ村・上ノ村・今里の範囲は「野原」と呼ばれていた。前述したように，無量壽院は天文年間に高松城の城域にあたる八輪島に移転し，天文16年に生駒親正が高松城を築城するにあたって，当寺は西の方（浜ノ町）に移転した。今回の調査区は，高松城の内堀と中堀の間に位置しており，まさに城域である。「野原濱村無量壽院」の下の「天」は，次の字の一部「一」が残存するのみであるが史料の記事との関連から「天文」の年号を表すと考えられる。さらに，青磁香炉・墨書土器・青磁椀や五輪塔や梵字瓦・波状文軒平瓦等が文字瓦と同一の溝から出土した。この遺物の時期は16世紀後半に比定される。溝の南側には土製仏像や墨書土器・青磁椀や梵字瓦・波状文軒平瓦等を出土する遺構が検出されている。ＳＤ1302は寺域を区

第74図　ＳＤ1302出土文字瓦拓影（75％縮少）

画する北側の境界線としての性格を有する溝であり，ＳＤ1302より南側の地域が寺域であったと考えられる。これらのことを総合的に検討すると，今回の調査区は天文～天正年間に所在していた無量壽院の寺域であったことが判明した。

第３節　第３面出土の瓦について

瓦が出土した遺構はＳＤ1302・1304・1305・ＳＸ1301であり，その種類は丸瓦・平瓦・梵字瓦・鬼瓦・道具瓦である。

軒丸瓦はすべて三巴文であり，外縁幅は広く低く，丸い巴頭部はくびれを有し，尾が細長く，外区の珠文が小さく数多いという16世紀の特徴を有するが，瓦当の文様はわずかに違いがある。189・190・192・377・378は尾が細長く，珠文が28個前後であり，752は尾が細長いが，珠文の間隔がやや広くなり19個を数える。193は珠文の間隔が752と同じだが，尾が短い。

軒丸瓦を含める丸瓦は，形態や調整の違いによりいくつかに分かれる。188・380は，凹面の細かな布目と粘土紐の痕跡･吊り紐痕，コビキＡを特徴とする。190は，凹面の玉縁連結部分の仕切り･細かな布目と粘土紐の痕跡を特徴とする。194･195は，淡赤橙色の色調，凹面の布目･内叩き痕，コビキＡを特徴とする。752は，間隔の広い珠文，凹面の布目，コビキＢ，瓦当裏面の横方向ナデ・周縁に沿うナデ，釘孔を特徴とする。

軒平瓦は「波状文」と「唐草文」であるが，後者は753の１点のみである。波状文軒平瓦は外縁の幅はやや広く，左右外縁幅は特に広くなり，界線は無く，波の皺は３～５本である。瓦当周縁の面取りの違いにより５分類できる。196・199は瓦当上縁に幅広い面取り，顎後縁に狭い面取り，197は瓦当上縁を面取り，198･384は顎後縁を面取り，200･202は瓦当上縁に幅狭い面取り，顎後縁に広い面取り，201は面取りをしていない。唐草文軒平瓦（753）は瓦当上縁に幅広い面取り，顎後縁に狭い面取りがされている。

本遺跡出土の波状文軒平瓦は，摂津四天王寺出土の「甲子」銘の波状文軒平瓦と長岡京市の勝龍寺城出土の波状文軒平瓦に文様が類似している。四天王寺例は1564年製作で，勝龍寺例は1568～1572年頃製作された瓦である。この製作年代は無量壽院が八輪島に所在していた時期であり，本遺跡出土の波状文軒平瓦は文字瓦（188）と同時期のものであると考えられる。

梵字瓦は，ＳＤ1302の191，ＳＤ1304の354，ＳＤ1305の383，第３面の942の４点である。191は軒丸瓦で，阿弥陀如来を意味する「キリーク」があり，354は軒平瓦で，胎蔵界五仏を意味する梵字がある。383は丸瓦で，不動明王を意味する「カーン」を刻む。942は平瓦で，凸面に「真言」の一文を刻んでいる。

第４節　高松城築城以前の高松

中世の高松は港町であったことが，文安２・３年（1445・1446年）の『兵庫北関入船帳』によって知られている。その史料には，兵庫北関に入船した多くの讃岐船が記載されており，その中に「野原」を船籍地としたものがみられる。応永19年（1412年）の『北野天満宮一切経』奥書には，「野原西浜極楽寺」「野原無量壽院」「野原福成寺」などの真言宗寺院名が散見でき，これらの寺院を建てられるだけの経済的基盤を有する港町であったと考えられる。高松城築城以前の高松については，『南海通記』巻之廿下の「讃州新高松府記」に，西側と東側に海が湾入

画する北側の境界線としての性格を有する溝であり，ＳＤ1302より南側の地域が寺域であったと考えられる。これらのことを総合的に検討すると，今回の調査区は天文～天正年間に所在していた無量壽院の寺域であったことが判明した。

第３節　第３面出土の瓦について

瓦が出土した遺構はＳＤ1302・1304・1305・ＳＸ1301であり，その種類は丸瓦・平瓦・梵字瓦・鬼瓦・道具瓦である。

軒丸瓦はすべて三巴文であり，外縁幅は広く低く，丸い巴頭部はくびれを有し，尾が細長く，外区の珠文が小さく数多いという16世紀の特徴を有するが，瓦当の文様はわずかに違いがある。189・190・192・377・378は尾が細長く，珠文が28個前後であり，752は尾が細長いが，珠文の間隔がやや広くなり19個を数える。193は珠文の間隔が752と同じだが，尾が短い。

軒丸瓦を含める丸瓦は，形態や調整の違いによりいくつかに分かれる。188・380は，凹面の細かな布目と粘土紐の痕跡･吊り紐痕，コビキＡを特徴とする。190は，凹面の玉縁連結部分の仕切り･細かな布目と粘土紐の痕跡を特徴とする。194･195は，淡赤橙色の色調，凹面の布目･内叩き痕，コビキＡを特徴とする。752は，間隔の広い珠文，凹面の布目，コビキＢ，瓦当裏面の横方向ナデ・周縁に沿うナデ，釘孔を特徴とする。

軒平瓦は「波状文」と「唐草文」であるが，後者は753の１点のみである。波状文軒平瓦は外縁の幅はやや広く，左右外縁幅は特に広くなり，界線は無く，波の皺は３～５本である。瓦当周縁の面取りの違いにより５分類できる。196・199は瓦当上縁に幅広い面取り，顎後縁に狭い面取り，197は瓦当上縁を面取り，198･384は顎後縁を面取り，200･202は瓦当上縁に幅狭い面取り，顎後縁に広い面取り，201は面取りをしていない。唐草文軒平瓦（753）は瓦当上縁に幅広い面取り，顎後縁に狭い面取りがされている。

本遺跡出土の波状文軒平瓦は，摂津四天王寺出土の「甲子」銘の波状文軒平瓦と長岡京市の勝龍寺城出土の波状文軒平瓦に文様が類似している。四天王寺例は1564年製作で，勝龍寺例は1568～1572年頃製作された瓦である。この製作年代は無量壽院が八輪島に所在していた時期であり，本遺跡出土の波状文軒平瓦は文字瓦（188）と同時期のものであると考えられる。

梵字瓦は，ＳＤ1302の191，ＳＤ1304の354，ＳＤ1305の383，第３面の942の４点である。191は軒丸瓦で，阿弥陀如来を意味する「キリーク」があり，354は軒平瓦で，胎蔵界五仏を意味する梵字がある。383は丸瓦で，不動明王を意味する「カーン」を刻む。942は平瓦で，凸面に「真言」の一文を刻んでいる。

第４節　高松城築城以前の高松

中世の高松は港町であったことが，文安２・３年（1445・1446年）の『兵庫北関入船帳』によって知られている。その史料には，兵庫北関に入船した多くの讃岐船が記載されており，その中に「野原」を船籍地としたものがみられる。応永19年（1412年）の『北野天満宮一切経』奥書には，「野原西浜極楽寺」「野原無量壽院」「野原福成寺」などの真言宗寺院名が散見でき，これらの寺院を建てられるだけの経済的基盤を有する港町であったと考えられる。高松城築城以前の高松については，『南海通記』巻之廿下の「讃州新高松府記」に，西側と東側に海が湾入

188

190

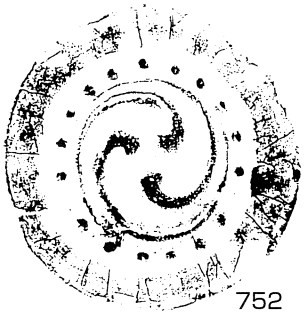
378

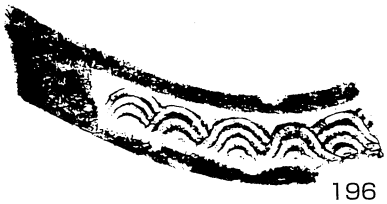
193

189

192

377


752


196

199

384

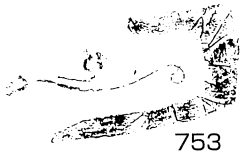
202

197

201

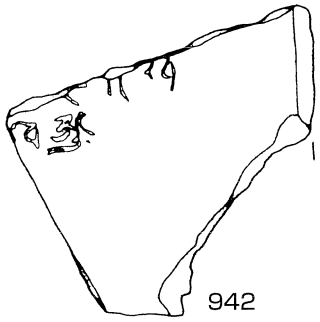
200

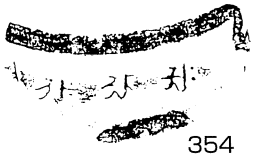
198


753

191

383


942


354

382

しその間に砂洲が突き出す地形と西濱・東濱という漁村の存在が記載されている。近年の発掘調査により，高松城周辺には古代末から中世の遺跡が存在することが判明し，当時の港町の実態が解明されつつある。本遺跡の北西に位置する高松城跡（西の丸町地区）では，11世紀前半～13世紀前半のと考えられる礫敷遺構や船着場と考えられる木組，木製の碇が検出され，遺跡の立地と搬入品の多さなどから港湾施設関連の遺跡である。本遺跡の西側の浜ノ町遺跡では13世紀末から15世紀末にかけての掘立柱建物や井戸・溝等の遺構が検出され，海浜部に立地する集落を確認した。出土遺物には多様な搬入品や土錘が多量に含まれており，この集落は物資流通と漁業を経営基盤としていたと考えられる。扇町一丁目遺跡では14世紀前葉～15世紀末の遺構・遺物が確認されている。また，現高松城の東側に位置する高松城跡（東の丸町地区）には16世紀後半以前の漁民の墓群が検出されている。現高松城の南側の高松城跡（丸の内地区）で13世紀末～14世紀前葉の井戸が検出され，高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）では中世末葉の井戸・溝が検出されている。このように，高松城築城以前には砂堆や中洲の上に集落や数多くの寺院が存在していたことが明確になってきた。従来は遠浅の海を埋め立てて高松城が築かれたと思われていたが，大きな経済的基盤を有する中世都市を立ち退かせて築かれたのである。

引用文献・参考文献

「親長卿記一」『増補史料大成』 増補史料大成刊行会　臨川書店　1965

「北野天満宮一切経」『大日本史料　第七編之十六』東京大学史料編纂所　1957

増田休意『増補三代物語』阪口友太郎編集　三代物語刊行会　1992

「無量壽院髄願寺記」『香川叢書　第一』 香川県　1939

「御領分中宮由来・同寺々由来」『新編　香川叢書　史料篇』 香川県教育委員会　1979

「全讃史」『復刻讃岐叢書（第一）国譯全讃史』 中山城山　1972

『口訳全讃史付三教一帰論訓釈』 中山城山　1991

「讃岐國名勝図会」『日本名所風俗図会　14　四国の巻』 松原秀明編　角川書店　1981

『紫山随願寺　無量壽院の記』 手塚靈巖編　無量壽院保存會　1970

香西成資『南海通記』 歴史図書社　1976

角川書店 『角川　日本地名大辞典　37香川県』 1985

四国新聞社 『香川県大百科事典』 1984

日本史広辞典編集委員会編　1997 『日本史広辞典』山川出版社

大嶋和則 『(財) 松平公益会事務所改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（作事丸)』 高松市教育委員会ほか　1999

大嶋和則 『香川県弁護士会会館建設に伴う発掘調査報告　高松城跡（松平大膳家中屋敷)』 高松市教育委員会ほか　2002

大嶋和則 「高松城跡（西内町)」『平成15年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2004

小川賢・片桐節子 『新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（松平大膳家上屋敷)』 高松市教育委員会ほか　2004

香川県教育委員会 『高松城東の丸跡発掘調査報告書』 1987

川畑聰 「扇町一丁目遺跡」『平成13年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2002

川畑聰ほか 「高松城跡（都市計画道路高松海岸線）」『平成13年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2002
川畑聰 『史跡高松城跡地久櫓台発掘調査概報－平成11～13年度調査－』 高松市教育委員会　2003
川畑聰 「史跡高松城跡（三の丸）」『平成14年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2004
川畑聰 『史跡高松城跡地久櫓台発掘調査概報－平成14～15年度調査－』 高松市教育委員会　2004
川畑聰 「高松城跡（丸の内）」『平成15年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2004
川畑聰 「史跡高松城跡（二の丸）」『平成15年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2004
北山健一郎 『香川県歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　1999
佐藤竜馬 『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第4冊　空港跡地遺跡Ⅳ』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2000
佐藤竜馬 『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第4冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2003
末光甲正 『紺屋町遺跡』 高松市教育委員会　2003
乗松真也ほか 『平成12年度サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告　浜ノ町遺跡　高松城跡（西の丸町地区）　西打遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2001
乗松真也 『平成13年度サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告　浜ノ町遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2002
乗松真也ほか 『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第6冊　高松城跡（浜ノ町地区）』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2004
藤好史郎 『高松港頭土地区画整理事業平成7年度埋蔵文化財発掘調査概報　高松城跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　1996
古野徳久ほか 『平成11年度サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告　高松城跡（西の丸町）・浜の町遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2000
古野徳久ほか 『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第3冊　高松城跡（西の丸町地区）　浜ノ町遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2001
松本和彦 『高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（丸の内地区）』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2003
松本和彦ほか 『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第5冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅲ』（財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　2003
森下友子 「高松城下の絵図と城下の変遷」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　研究紀要』Ⅳ （財）香川県埋蔵文化財調査センターほか　1996
中世土器研究会編 『概説　中世の土器・陶磁器』 真陽社　1995
山崎信二 『中世瓦の研究』 雄山閣出版株式会社　2000
山本英之・大嶋和則 『史跡高松城跡整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　史跡高松城跡（地久櫓台・三ノ丸跡）』 高松市教育委員会　1999
山元敏裕・中西克也 「高松城跡（丸の内）」『平成15年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松市内遺跡発掘調査概報』 高松市教育委員会　2004

無量寿院関係文書（抜粋）

『親長卿記』　《増補史料大成　親長卿記一》

文明五年三月

廿四日　陰、参内、（下姿）、八幡宮護國寺權別當事、大法師龐清壇、望申、（景盆執申）、奏聞、勅許、讃州坂田無量壽院極官事、大覺寺僧正執申、同奏聞、可任人體歟、猶可尋決云々、

廿七日　晴、讃州坂田無量壽院事、以盛卿猶子之由申之、進上以量状了、此上者勅許、

『北野天満宮一切経』　《東京大學史料編纂所編纂「大日本史料　第七編之十六」》

成　大般若波羅蜜多經卷第二百六十一

右筆讃岐國野原之福成寺金剛資宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百六十三

右筆讃岐國野原福成寺宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百六十四

右筆讃州野原福成住僧金資宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百六十五

右筆讃州野原之福成寺金資宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百六十六

右筆讃岐國野原福成寺之金資宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百六十七

右筆讃野原福成寺金資宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百六十八

右筆讃州无量壽院之善海

大般若波羅蜜多經卷第二百六十九

右筆讃岐國野原福成寺金資宋玄

大般若波羅蜜多經卷第二百七十

大願主金剛資覺藏

右筆讃州野原福成寺之宋玄

生年六十四才

應永十九年（壬辰）卯月十四日書寫了、

珠　大般若波羅蜜多經卷第五百二十一

右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十二

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十三

本願聖讃州覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十四

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十五

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十六

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十七

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十八

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百二十九

本願聖覺藏　　右筆讃州野原善海

大般若波羅蜜多經卷第五百三十

應永十九曆卯月六日於當宮書寫畢、

本願聖人覺藏

右筆讃州野原無量壽院之善海

欲

法集經卷第一

右筆讃州野原無量壽院住僧佛子善海

一校畢、

法集經卷第二

右筆讃州野原住金剛佛子善海

一校畢、

爲有悅禪定尼、

法集經卷第三

應永十九年艾人二日、任筆書畢、

右筆讃州野原無量壽院住善海

一校畢、

法集經卷第四

一校畢、

應永十九年艾人八日、任本染筆了、

讃州野原住金剛執善海

法集經卷第五

應永十九年艾人十一日、任本染筆了、

金剛佛子勤息善海讃州

一校筆、

法集經卷第六

應永十九年五月十三日書寫畢、
右筆釋伽懲曩金資善海
本願覺藏
一校畢、
觀察諸法行經卷第一
右筆讃州野原無量壽院善海
一校畢、
觀察諸法行經卷第二
應永十九年卯月廿六日書寫畢、
右筆讃州野原住善海
一校畢、
觀察諸法行經卷第三
一校畢、
應永十九年卯月廿八日書畢、
右筆讃州野原無量壽院住善海
觀察諸法行經卷第四
一校畢、
應永十九天卯月晦日書寫畢、
右筆讃州野原無量壽院金剛資善海

『増補三代物語』　《阪口友太郎編纂》

○無量寿院　紫山随願寺　真言宗　京都御室仁和寺末寺　在野方町　法華宗大乗寺跡と云　天平年中行基来　問民之所疾苦　対曰　昔在景行帝時　海中有大魚　忽起洪濤覆舟食人　帝深憂之　迺勅皇子倭武尊殺之（事詳見後）　爾来風雨不和　水旱疾疫荐臻　占之大魚為祟於是行基　欲卜地建寺以追福安其霊矣適々過坂田室山下　忽無量寿仏瑞現　紫雲覆其上迺建寺於其地　自造無量寿仏像安之　為大魚之追薦焉　又住々海浜立魚霊堂祀之　自斯之後　邦内又安年穀大稔矣　一説曰　光明皇后（大織冠之女也）　請于行基而創此寺云
嵯峨帝時　空海来此寺　大聖観世音　無大持明仙倶説法　空海聴之嘆異焉　遂詣闕奏営真言譚院　而祈震祚之泰阯　香川郡諸密場並隷此寺　貞観中藤原朝臣重秀　奉勅来会見群児嬉戯　有一童子相之不凡　紫雲一片覆其上　問之此邑人秦氏之子也遂出家為聖宝尊師弟子所謂観賢僧正是也（小字阿古麿）　山号原号宝照　以数有紫雲瑞現　因改号紫山　観賢　増善　増叶　宥範　増宣之諸僧正　相継而住持綸旨尚存　讃岐七壇議所之一　而壮麗奇観冠於南国矣　聖武　延喜　朱雀　村上　嵯峨　後嵯峨　後花園　亀山　諸帝王最帰依此寺蔵名器霊宝　有院宣及信施之法具　事詳有縁起　天正之乱　賊徒将焚伽藍　不動明王忽自護摩堂趨出而救火　賊徒大畏而逃去　因称曰趨出不動　空海所造也　中葉遷寺於中ノ村又徙八輪島即今城地也　又及生駒親正築城於之地　遷諸船室地　至今呼其地曰壇議所　又遷城南（浄願寺前御長屋地）　五六転遷不安其居　正保中徙於今地　迺法華宗大乗寺迹也于時有台命禁不受不施　大乗寺僧固執不屈　故逐其僧廃寺　遂以邦命遷此寺於其迹云

○靈宝什物如左

本尊無量寿仏（長三尺行基作）　薬師如来　聖観音菩薩　趨出不動（並弘法大師作）　四天王（源光院寄附）　聖観音（雲慶作）　十一面観音（仏師春日作）　地蔵菩薩（恵心作）　弥勒　愛染　弘法大師　観賢僧正像（並作者不知）　不動　虚空蔵　出山釈迦　弥勒　毘沙門　梵天　日天　月天　真言十六祖（十六幅　以上並増阡作）　同八祖（八幅　七幅弘法画　弘法一幅増阡画）　正面弥陀　文珠（並土佐将監画）　涅槃像　十王　観音（並唐画公子行）　金胎大日種子（二幅覚鑁書）　不動（同上）　不動（金岡画）　右剱左剱不動（二幅）　不動（並妙沢画）　十二天　金胎曼荼羅　金剛薩埵　般若菩薩（並唐画思恭）　弥陀（恵心画）　不動（弘法画）　六字名号（弘法書）　弘法大師（智証画）　仏舎利（智証請来）　五大明王　金部五種鈴　四面大黒　玉幡二枚（並光仁帝蔵）　法華経一部（聖武帝与光明皇后書写蔵　後菅家傍加国字）　蓮糸弥陀三尊曼荼羅（中将姫織）　地蔵（雪舟画）　天神像（仁和中菅家守此邦　屢々遊此寺与住持相善　于時菅家寓同郷橘詰館　今其墟曰天神領　俗曰橘詰御殿　及其去也　自画其像留之　因国之時　同郷有森出羽者　掠此像　其女嫁小豆島豪家因翫此像　其家荐有怪　占之菅神為祟　於是蔵此像于某寺　其像以夢故遷此寺）　両部曼荼羅（増善僧正画）　三千仏像（三幅各一千仏　十二月七日仏名会）　十三仏　愛染　愛宕本地像　雨宝童子　荒神（以上並名画　不知何人之所画）　王羲之筆蹟（以竹織之　或曰　晋時未有今体之詩未審　然其書不凡　江都開帳時　佐々木玄竜写時年十三）　妙印鈔二部八十巻（先住宥範僧正著）　僧正中移転於善通寺　後還遷化此寺　事詳見八宮縁起　応永中増阡僧正住持　応仁中増善僧正住持　並有其券　文明中増専法印住持有綸旨　寺領六十石　在山田郡六条　　△二宗触頭

○無量寿院跡　在室

『讃岐國名勝図会』　《松原秀明編集・角川書店発行「日本名所風俗図会」十四》

無量寿院　（同所にあり。紫山随願寺。往古七談議所の一なり。真言宗、京都仁和寺末寺）寺領五十三石三斗。

本堂、本尊正観音（弘法大師作）護摩堂、不動明王（興教大師作。走り出の不動また鼠突の不動ともいふ）

薬師堂（薬師如来、弘法大師作。篦原薬師といへり。阿弥陀如来、行基大士作。十一面観音、仏師春日作。大日如来・地蔵尊、並びに聖徳太子御作）聖天堂　客殿（阿弥陀如来、覚鑁上人作。不動尊、同作）経蔵（本尊大日如来、鑑真和尚作）地蔵堂（石像）鎮守社（二宮大明神・蘇葉倶羅明神・秋葉大権現・荒神）

菅神（御自筆。仁和年中、菅丞相当国御任国のとき、香川元茂といふ者当寺の由緒申し上げしかば、ここの寺に七日参籠し、その時傍の池水を鑑として自ら写したまふ所の真影なり。当寺無住の時所在を失す。そののち小豆島草加部の村長江田与一左衛門祐長の手に入りしかど、霊夢をかうぶりしことありて当寺に返す。貞享二年五月の事なり。江田与一左衛門うら書きあり）

寺記曰く、行基菩薩はじめこの寺を坂田郷室山の麓に創建し紫雲山随願寺といふ。弘法

大師のとき修造して七談議所の一となし壮厳の大伽藍なり。白河法皇の特勅にて興隆ありしゆゑ、大治四年崩御ののち住持覚道奏請して陵を築きて歳時に薦福の勤め怠らざりける。今中村菅神の社西南野中にあり。亀山天皇この寺を興復あり。嘉元三年崩御ののち、この陵をも築きて追福怠らざりける。今石清尾社頭を陵跡といふ。同社亀山廟の額今なほ存す。宥範僧正当時住職のとき、安祥寺の法流を伝ふ。妙祥の末弟是阡は『妙印抄』一冊のみを持ち去り、八十巻の抄この寺に伝へたり。元徳二年にその功なりたりといふ。三年善通寺に移転して東北院を造営あり。観応三年寂す。応安四年、贈僧正の宣旨をたまへり。増阡僧正は大内郡虚空蔵院と当寺の職務なり。当寺は三宝院憲深方の法流をつたへ、虚空蔵院は義能方の法流を伝ふ。文明十三年九月八島寺開帳のとき、細川守護代と寒川氏と権威をあらそひ合戦に及び、八栗寺および山田郡の数寺当寺に属する事、寒川郡宝蔵院の記にみえたり（今按ずるに、文明五年三月山名宗全卒、六月勝元卒。そののち両家和ぼくとなり京師は静謐なれども、政元幼年ゆゑ家老権威をあらそひ、僧法師まで武事にあづかりしとみえたり）。当寺坂田郡にありしは文明の記に分明なり。今その地に寺跡の名を呼べり。天文のころ天下一統乱国になり、僧法師まで兵具をたづさへ領主援兵を出だせし事あり。そののち兵火にかかり八輪島へうつる、今の城地これなり。天正年中西の方へ寺を移す、今の御舟蔵これなり、談議所といふ。塔頭吉祥寺・蓮花寺は今にのこれり。明暦二年中村にうつる、浄願寺東南、今の御長屋地これなり。寛文七年また今の地にうつる、この地は法華宗大乗寺のあとなり。

末寺六ヶ寺、その所に出だす。

宝物〇法華経（八巻、光明皇后御筆。半は聖武天皇宸翰、天皇御寄附。菅丞相当国御任国の時和点を加へたまふ、希代珍物なり）阿弥陀三尊蓮曼荼経（中将姫、御髪と蓮糸とを以ておりたまふゆゑにはすのまんだらといふ）五大尊（弘法大師筆ならびに嵯峨天皇御寄附）灌頂道具その外仏器十一種（金銅舎利塔、仏舎利一顆並びに同御寄附）仏舎利（智證大師将来）阿鑁二字（興教大師筆）真言八祖次第（弘法大師筆）弘法大師像　真言伝法十六祖（並びに増阡僧正筆）不動明王（弘法大師筆）弘法大師（智證大師筆。智證帰朝ののち仏舎利一顆をそへこの寺の御影堂にをさむ）滝見観音（金岡筆）大木屑不動尊（弘法大師作）愛宕本地（覚鑁上人筆）愛染明王（聖宝僧正筆）般若心経（弘法大師筆）阿弥陀如来（恵心僧都筆）不動明王（弘法大師筆。増阡僧正所持）同（妙沢筆）虚空蔵尊（増阡僧正筆）弘法大師十王図（十幅）十二天（並びに同筆）文殊菩薩（土佐将監筆）不動明王（弘法大師筆）十三仏（金岡筆）地蔵尊（雪舟筆）御経笥（伝教大師筆）当寺縁起（良純法親王御筆）灌頂教曼荼羅（増専僧正筆）大日経妙印抄八十巻（宥範僧正自筆）阿弥陀（恵心僧都筆）不動尊（二幅、観賢僧正筆・増阡僧正筆）菅神講式（世尊寺行能卿筆）大般若経（全部、奥書あり、左に記す）

大般若経奥書曰く、

一校了　三条富小路中光院
五条京極経師上座

文安二丁卯七五

住持増専僧正宣旨写

文明五年七月七日　宣旨
法印増専

宣任権僧正

蔵人右近衛権中将藤原公兼奉

大永年中の綸旨これを略す。
当寺に賜ふ女房奉書写
御嘉れいのくわんしゆまゐりめでたく覚しめし候
わたくしへもめでたくいただきまゐらせそろ　かしく
その余、仏像・書画あまたありといへども一々挙ぐるにいとまあらず。

『紫山　隨願寺　無量壽院の記』

《手塚靈巖編輯・無量壽院保存會事務所》

抑も當院は人皇四十五代聖武天皇の御宇天平十一年、行基菩薩の開基し給ひし所なり。是より先き人皇十二代景行天皇の御宇、一大惡魚ありて船を覆へし人を食ひ、四國の近海を荒すこと頻々として、海上の往來危險極りなし。天皇之を聞召して深く宸襟を惱まし給ひ惡魚退治の大命を小碓皇子の息、靈公に下し給ふ。靈公命を拜して讃岐に下向し、苦心慘憺終に之を誅戮す。天皇靈公の武勇絶倫にして能く大命を全くしたるを賞して讃岐を賜ひしかば、靈公讃岐に止住す、世之を讃留靈王と稱す。是より萬民初めて安堵の思をなす。然るに惡魚の怨念當國に祟りをなし、比年風雨順を失ひ五穀實らず國中の人民苦しむこと年久しかりき。行基菩薩當國行化の時此事を聞き、我れ一寺を建立して此災殃を拂ひ、人民の苦患を除かんと決心し、各所を踏査して地理を撿す。偶々一人の老翁あり菩薩に告て曰く、

是より東方に當りて山あり寶照山と名く、山北の海邊に不思議の地あり八輪嶋と稱す、常に地中より光明を放ち山上には紫雲靉く、雲中に阿彌陀如來示現し無量の菩薩、明王、龍神等に圍繞せられて微妙の法を説く、輪王輪寶に乘じて來御し、佛足を頂禮して説法を聽聞す、時に天照大神輪王の聞法を知ろしめし諸神を從へて亦た聞法の座に列なり給ふ。彼の輪寶に八輻輪あり故に其止まる所を八輪嶋と云ふ、我れ親たり此奇瑞を見たり今貴僧の尋ぬる靈地此所に過ぎたるはなし、速に伽藍を建立して願望を遂げ給へ

と、菩薩即ち其地に赴き山上に登りて見給ふに、其靈祥奇瑞實に老翁の言の如し。是に於て彌陀三尊の靈像を勸請し、惡魚怨念の退散を祈られしに、果して其驗ありて風雨時に順ひ百穀豊熟し、人民喜ぶこと限りなし。菩薩狀を具して此の顚末を天皇に奏聞しけるに叡感斜ならず、伽藍造營の勅許を下し給ひ、且つ金光明經、仁王經、法華經并に寶照山、無量壽院、隨願寺の三額を御寄附あらせられしを以て、直に土木の工を起し佛閣僧坊日ならすして竣功す、これ當院の濫觴なり。

此の八輪嶋とは即ち稻荷山の嶺より栗林村宮脇村の總名なれば、現今高松市の所在地が篦原の庄と稱し、滿目荒寥たる一漁村たりし時よりも尚ほ已前の地名なれば、之に依りて當院が如何に古き關係を當地に有するかを知るべく、又た當地開發の動機が遠く當院造營の昔時に萠せるを知ることを得べし。

其後嵯峨天皇の弘仁年間、宗祖弘法大師當院に錫を留め、大聖觀世音菩薩并に金剛力士及び現在千佛の尊像を造りて安置供養し給ひ、且又圖記、秘記、緣記の三卷を製作して此靈地の殊勝なる旨を記述し、以て天皇に奏聞し給ひしかば深く叡信あらせられ、彌陀三尊の曼荼羅一軸并に五種鈴、四面器等の佛器を御寄附し給ひ、剩へ勅願所として又た眞言傳法の談議所として、

寶祚延長の祈願をなし之を永世の恒規とすべき宣旨を下し賜ふに至れり。當院を談議所と稱するはこれが爲なり。

天皇御寄附の曼荼羅及び佛器は幸にして現存すれども、弘法大師御製作の圖記秘記緣記の三巻は、何れの世に紛失したりけむ今は存せず、實に惜むべきの至りなり。然れども現今當院所藏の緣起は此の三巻に依りて記述したるものなれば、之を讀まば又以て其大要を知ることを得べし。

天地麗氣記に依れば、光孝天皇の仁和年中菅原道實公當國在任の時香川元茂公に告ぐるに當院創建の由來を以てす、公之を聞き然らば我れ試むることありとて、七日間當院に參籠し、本尊の寶前に於いて至心に祈請せしかば、靈驗空しからずして心願成就せり。公深く之に感じ附近の池水に姿を映つし、之を摸寫して當院に奉納し、且つ聖武天皇御寄附の法華經に訓點を加へらる。此經今現に當院に祕藏す、實に天下無比の靈寶なりと謂ふべし。管公奉納の影像は何れの時に紛失したりけむ所在明かならざること年久しかりしが、輾轉して小豆郡草加部村江田與左衛門祐長の家に藏せり、然るに貞享三年祐長靈夢の告を蒙り、終に之を當院に奉納し今日に至る迄當院に祕藏す、洵に奇異のことならずや。

宇多天皇は深く弘法大師の靈德と眞言宗の法門とを御信仰あらせられ、寶算三十一歳にして位を皇太子に讓り、本覺大師を戒師として眞言宗の出家となり、父君光孝天皇の御本願に依りて建立せる仁和寺に入らせ給ふ、是れ即ち寬平法皇なり。當院初代の住職たる觀賢僧正、當院由緒の神靈なる所以を法皇に奏上しけるに、直に御祈願所の勅宣を下し賜へり。

朱雀天皇の承平元年法皇寶算六十一歳にして崩御し給ふや、天皇は法皇と觀賢僧正との道交淺からざりしたことを追憶し給ひ、御陵を當院に築き奉るべきの宣旨を下し賜ひしを以て、謹て之を室山の傍なる觀賢僧正の廟所と相並べて築き奉り、毎年七月十九日嚴肅に御追福を祈り奉れり。特に承平七年は法皇の七周年御忌と觀賢僧正の十三回忌とに當りしかば、同年七月十九日勅使下向して御菩提を祈り且つ

延喜の帝は高野大師に法衣を贈れり朕何ぞ觀賢に送らざらんやとの勅書に一襲の紫衣を添へて觀賢僧正の廟所に下し賜へり。僧正の面目、寺門の光榮、何物か之に過ぎんや。初め栗林公園附近一帶の山は之を寶照山と稱せしが、行基菩薩登臨の時紫雲靉靆しを以て紫雲山と改稱せり、然るに今回紫衣御下賜の恩典を辱うしたるに依り、此の光榮を後世に紀念せんが爲めに、改て紫山と號す。

觀賢僧正は當院初代の住職にして、弘法大師四世の法孫なり。

俗姓は秦氏、香川郡阪田村の人なり。或る年聖寶尊師（勅謚理源大師）讃岐下向の時、路傍の水を掬して手を洗ふ、偶々其邊りに兒童數輩遊戲しつゝありしが、一人の童子尊師に謂て曰く其水は不浄なりと、尊師答て曰く諸法に浄不浄なしと、童子言下に反問して曰く若し浄不浄なくんば何ぞ手を洗ふの要あらんやと。學德廉備の尊師も其道理ある反問に屈服して一語なく、熟々其顔貌を見るに聰明英智の相あり、因て父母に請うて京都に携へ歸り弟子となす、是れ即ち觀賢僧正なり。嗚呼栴檀は二葉より香しく蛇は一寸にして人を呑むの概あり。後年宇多、醍醐兩帝の御歸依を辱うし、學德一世に冠絶せし僧正は、幼少の時既に其器の非凡なりしこと此の如し。稍長して書を讀むに其強記常人の企て及ぶ所にあらず。深く密教を研究し兼て三論の教義を學び、共に其蘊奥を極む。寬平七年聖寶尊師に就て傳法灌頂を受け、新に般若寺を建立して大に教法を開演す。又た屢々南都興福寺の維摩會の講師を勤め、盛名遠近に高し。昌泰三年仁和寺の別當となり、延喜九年東寺の長者

となりて一宗を統御す。同十年東寺の御影供を修業す、天皇勅して永世の恒規となし給ふ。同十四年夏旱す、天皇僧正に勅を下し、神泉苑に於て孔雀經の祕法を修せしめ給ふ、第三日に至りて甘雨大に降る天皇叡感斜ならず厚く之を賞し給ふ。此年石山寺に住す。同十九年醍醐寺の座主となる、此職僧正を以て嚆矢とす。同□十一年某夜、宗祖遍照金剛天皇の御夢に入りて奏して曰く、吾が法衣弊朽す願くば之を惠み給へと。天皇覺めて後深く之を感銘し給ひ、直に新衣一襲を調製し、僧正を廟使として之を高野山に送らしめ給ふ。僧正勅を奉じて登山し、定窟を開きしに雲霧朦朧として尊容を拝すること能はず。大に慚愧して罪障を懺悔し至心に祈願すること少時、感應空しからず雲霧漸く晴れて尊容此に現はる。恭しく之を拝すれば鬚髪長く垂れて地に至る、因て之を剃り法衣を更へ奉る、これ御衣更の濫觴なり。此時天皇宗祖に弘法大師の諡號を賜ふ、蓋し僧正の奏請に基くものなり御衣更の際弟子淳祐傍に在りしに而かも宗祖の尊容を拝すること能はず僧正乃ち淳祐の手を執りて定體を摸索せしめらる。後に至る迄其手の香氣芬々として失せず、故に淳祐を香の僧正と稱し、其手寫せし經典を香の聖教と稱す。同年高野山の座主を兼任す。延長三年僧正に進み、此年六月十一日晏然として寂す年七十三。僧正奢はす所の書、不動略次第一巻、五大力祕釋一巻、五大明王義一巻、如意輪次第一帖、文珠次第一巻、胎藏次第一巻、阿眉駄密記一帖、神供次第一巻、結縁灌頂私記一巻、大疏鈔四巻、水歡喜天次第一巻、三摩耶戒式一巻、後七日由緒作法一巻等あり。

其他醍醐、村上、白河、後嵯峨、龜山、後花園等の聖帝相繼で當院を御信仰あらせられ、勅旨、院宣、官符等を下し賜ひしこと一再にあらず。就中白河天皇は伽藍興隆の詔勅を下し給ひ、叡信殊に篤くましませしを以て、大治四年七月七日崩御あらせらるゝや、當時の寺務法印覺道上人奏請して御陵を築き御菩提を祈り奉る。宥範上人の發心求法記に北天神の社より未申二丁計りに當つて御陵ありと云へるもの即ち是なり。思ふに是れ現今當市中野天神の社より未申の方位に當れる十番町の白河塚なるものなるべし。即ち大護寺より西方約一丁を隔てたる地に一本の松樹の在る所なり。此地近頃まで白河屋敷と稱せり。茲に記して歴史家の參考に供す。

龜山天皇も亦た伽藍造營の勅詔を下し給ひ、當院を御祈願所として御歸依甚だ深くましませしが、嘉元三年九月十五日崩御あらせられしを以て、先例に準じて御陵を築き御菩提を祈り奉る。此御陵は現今の石清尾八幡宮の後に在りと云ふ。當院の舊記に依れば此龜山廟を八幡宮に勸請したるものなり。彼の三代物語に石清尾八幡宮の社務所に藏する寶物に、龜山廟と云へる額ありと記せるに徵するも、此説の誤りなきを證するに足らんか。石清尾の山を龜山と稱するは蓋し之に基因せしものなるべし。是に依りて之を見れば、龜山帝の御陵及び石清尾八幡宮と當院とが、如何に深き關係を有するかを知ることを得べし。明治二年一月十九日神佛判然の際、石清尾八幡宮の御本地佛并に御旅堂の本尊を始め、其他之に附屬せる佛像等は總て之を當院に遷座して奉安せり。これ豈に當院と深き關係あるが爲めにあらずや。

上に既に述べし如く當院は行基菩薩開基の勝地、弘法大師止住の靈場たるのみならず、上は歴代皇室の御歸依を受け、下は萬人の尊信を集めたる所なれば、其住僧も初代の觀賢僧正を始めとし、學德兼備の名僧少なからず。覺道上人の如きも數度上洛して天顔に咫尺し奉りしより察せば、一代の高僧たりしは疑を容れず。唯だ惜むらくは上人の傳記現存せず、其行化の跡今日之を尋ぬるに由なし、嘆ずべきの至りなり。上人の後を紹ぎて當院の法席を董せしは、彼の有名なる宥範僧正なり。

宥範僧正は當國那珂郡櫛梨村の人にして、龜山天皇の御宇文永七年に生る。幼にして同郡

の新善光寺に入りて剃髪し浄土教を學ぶ。一夜夢に梵僧現はれ、數巻の聖經を出し諸人をして任意に之を取らしむ。僧正一軸を取りて披見するに梵字にして讀むこと能はず。因て問て曰く是れ何の經ぞや、梵僧曰く密教なり汝斯教に縁ありと。覺めて後此夢告を信じ、直に當院に來りて覺道上人の弟子となり大貳房と號す。時に年十七歳なりき。夫より八年間上人に就て兩部の大經并に小野の法流を受學し、造詣する所頗る深し。二十五歳にして高野山に登りしかど、事故の爲に留まること能はず、下りて下野國に行き鶏足寺の學頭賴尊阿闍梨に從て三寶院の法流を受く。同國衣寺の妙浄上人は大日經奥之疏に精通せる點に於て、日本一の碩學なり。僧正就て傳授を受けんことを請ふ、上人曰く我れ往年泉涌寺の願行上人の請を容れて、將に東寺に於て奥之疏を講傳せんとするに際し上人の訃音に接して此事を果さず、爾來講經の意を絶つこと年久し、故を以て許諾すること能はず、奥州宮崎郡如法寺の道性法印は斯道の大家なりと聞く、汝行きて傳授を受くべしと。僧正已むことを得ず、衣寺を辭して奥州に出發す。此年旱魃にて五穀實らず餓死する者多し、斯る狀態なれば食を得ること甚だ難し、僧正上人より惠まれし串柿二連を携へ、松葉を取りて之に交へ食し、十三日間にして如法寺に着し、道性法印に面會して奥之疏講傳のことを請ひしに、法印は之を講じたることなしとて謝絶せられたり。僧正大に失望して空しく歸途に就く。九十里の長程、宿るに家なく食ふに物なし、或は野の臥し或は山に寢ね路傍の蕗を取りて食ひ、小川の水を掬し飲みて僅かに餓を凌ぎ、具さに千辛萬苦を嘗て漸く衣寺に歸着し、妙淨上人に告ぐるに事の由を以てす。上人涙を流して之を慰撫し、且其熱心に感じて終に奥之疏を傳講す。爾後十餘年間上人に隨從して受學し其奥義を極む。正安元年上人伊豆國走湯山遍照院に於て講經の時、僧正に告て曰く、古來奥之疏には末鈔なく學者の不便少からず、汝既に其幽旨を得たり宜く之を作りて後學に貽せよと。僧正師命を受け平生受傳する所を記して三十巻となす、上人一讀して妙印抄と名けらる。其後嘉暦の末年、更に僧補して八十巻となす。德治元年讃岐に歸り、覺道上人の命に依りて當院を董す。僧正下野在學の時、妙浄上人より安祥寺に行きて慧運流を受けよと勸められしことありしを以て、延慶二年同寺に行き光譽上人に謁して傳授し、爾來十八年間往來して終に其祕奥を究め盡す。研學の熱誠實に後世の好模範なりと謂ふべし僧正性煙霞を好み深く世塵の喧囂を厭ひ、覺道上人に請うて當院を引退し、小松の小堂に閑居す。然るに元德二年善通寺の衆徒來りて同寺の頽廢を嘆き、僧正に請ふに興隆の事を以てす。初は之を辭せしかども再三の懇請已み難く、終に之を諾して同寺に移住し、曆應年中堂塔伽藍の興隆全く竣功せしを以て復た小松の小堂に歸臥せらる。僧正或時象頭山に登り、此山は金毘羅大權現相應の靈地なりとて之を勸請して一寺を建つ、是れ即ち象頭山松尾寺金光院の開基なり。されば善通寺並に象頭山の今日あるは全く僧正の賜ものなりと謂ふべし。僧正の著書は妙院抄の外に大日經疏科文十巻、阿鑁樂鈔三十五巻、大事口決十巻、供養法疏聞書二巻等なり。觀應三年七月一日寂す、年八十三。弟子宥源の奏請に依りて應安三年七月朔日勅して僧正に贈補し給ふ。

宥範僧正の後、寺門漸次衰運に向ひ、堂塔伽藍頽廢して又た昔日の盛觀を止めざるに至りしが、僧叶僧正來りて大に興隆に力を盡し、再び舊觀に復することを得たり。僧正は實に當院の中興開山と稱すべき大德なり。

僧叶僧正は大内郡與田の鄉西村、安藝右衛門盛正の子にして、後光嚴天皇の貞治五年三月朔日に生る。脚裏に空海の二字ありしを以て宗祖大師の再來なりと稱せらる。生れながら

にして能く歩み、又た空を仰ぎて叶の字を唱へしと云ふ。幼少の時土砂を集めて佛塔の形を造り、或は之に佛像を畫くを以て遊戯となす。一日同村の神宮寺に至る、增慧法印之を見て稱嘆して曰く他日大法を興隆せん者此子なりと、終に父母に請うて弟子となし龍德房と名く。長ずるに及び果して非凡の大德となり、事相教相の奥義に達するのみならず、又た佛畫に妙を得、其作品の今日に傳れるものを見るに、筆力雄健、氣品高尚眞に逼るの感あり。應永年間當院に在住して中興の大業を完成す。僧正は世に稀れなる興隆家にして、啻に當院を恢興したるのみならず、仁尾の覺城院、與田の虚空藏院、備前の瑜伽山蓮臺寺等を興隆して何れも中興の祖と仰がれ、遺功尚ほ今日に殘れり。應永十九年二月勅ありて權僧正の位に補せられしを見れば、其學德の如何に高かりしかを知るに足るべし。然れども僧正の傳記の完全なるもの現存せず、一代の事跡其詳細を知ること能はざるは深く遺憾とする所なり。僧正晩年與田の虚空藏院に住せしが其終る所を知らず、傳へ云う同院西手の山上より現身に都史蛇天に往詣したるなりと。僧正の脱ぎ捨てたる草履の在りし所に石塔を建てゝ墓となす。

長尾村寶藏院の記録に依れば、後土御門天皇の文明年間には、八栗寺を始め山田郡の諸寺院は悉く當院の末寺たりしが如し、又た以て其盛大なりしを證するに足る。然るに天文の頃國中亂れて麻の如く群雄所々に割據して戰爭絶ゆることなく、僧侶に至る迄兵器を携ふるに至り、國民一日も安穩の思なし。斯る狀態なりしかば結構壯大なりし當院も不幸にして兵火に罹りて灰燼となり、終に因緣厚き八輪嶋より宿り嶋に移轉するに至れり。宿り嶋とは即ち現今の玉藻城地是なり。城地は元と海濱の一小孤嶋なりしが、往昔吉備津姫命當國へ渡御の際、船を此嶋に着けて暫く鎭座あらせられ、夫より一の宮へ移り給ひし因緣に由りて宿り嶋と稱す、當院を此嶋に移せし後神跡を記念せんが爲めに社を建てゝ勸請し奉り。今に至りて依然一の宮明神を鎭守とし九月二十九日を祭日とせり、これ城地を宿り島と稱する所以をり。讃岐史要には城地を八輪島と稱する由を記せども、これ恐くは誤りならん歟、何となれば八輪島と云へる名稱は上に既に述ぶるが如く、八輻の輪寶飛來して止まりしに起因するものにて、城地に關係なきこと明白なればなり。

天正十六年生駒雅樂公新城を築かんと欲して地理を撿し、宿り島の要地なるに着眼し、當時の住僧增秀法印に向て、一の宮明神并びに當院を西濱に移轉すべき旨命令せられしを以て已むる得ずして此所に移る。即ち現今停車場の西に當れる地にして維新前御舟藏と稱せし所なり、故に此地近頃迄其字を談議所と稱せり。今の蓮花寺、吉祥寺は當時の塔頭寺院たりしなり。

當院は往昔より多數の末寺を有し、一個獨立の本山なりしが、寛永十九年十一月二十七日京都御室御所仁和寺の末寺となれり。

寛永二十一年より明暦元年に至る十二年間は無住にて、諸般の寺務は蓮花寺住職之を擔任するの有様となり、随て堂塔伽藍も自然荒廢に傾きけるが、此年御室御所より當寺の敷地を所望せられしに依りて中の村に移轉す。即ち現今の浄願寺の前より南は中の村に及びしと云ふ。然るに其後幾ばくもなく、修理様屋敷新築の爲め又た移轉せざる可らざるに至り、寛文七年野方町なる日蓮宗不受不施派大乘寺の跡に移れり。是れ即ち現今七十間町に在る紫山、無量壽院、隨願寺なり。

寛文四年龍雪院源英公より山田郡六條村青木免に於て、五十三石三斗の寺領を寄附せられ且つ諸役を免除せらる。

當院古來末寺頗る多く、元と石清尾八幡宮の別當たりし五智院并に其末寺たる圓滿院、浄光院、

西願寺、觀音寺、極樂寺、覺王寺等の諸寺院は寛文八年舊藩主より石清尾八幡宮の別當を命ぜられしに依り、仁和寺の末寺となりしと雖も、夫より已前は何れも當院の末寺たりしなり。又た中野天神の別當たりし鶴林寺、行泉寺も天和三年舊藩主の命に依りて天台宗に改宗せしと雖も、元と當院の末寺たりしなり。加之のみならず文明年間には山田郡の諸寺院も悉く當院の末寺なりしと云ふを以て見れば、其數の多かりしこと略ぼ推知するを得べし。然れども種々の因縁に依りて或は離末し或は退轉して、現今僅かに左の五ヶ寺を有するのみ。

蓮花寺　海室山慈眼院と號す文安元年に建立せし所なり境内に大松樹あり西行法師の植ゑしものなりとて土人之を西行松と稱す

吉祥寺　平照山安樂院と號す應德年中の再建となりと云ふ境内に松樹あり鶴賀松と稱す

東福寺　長壽山如意輪院と號す萬治三年沙門僧見の再建する所なり初め御舟藏の西に在りしが延享元年今の地に移りしと云ふ

多聞寺　寶塔山最勝院と號す元祿年間再建せし所なり當寺に古來より大黑天あり是を饅原の大黑と稱す

清光寺　法閑山廣嚴院と號す明治初年迄は西福寺と號せり往昔阿野郡南部府中に在りしが天正年間兵火に罹り元和年中今の地に移る

已上略して無量壽院創建の由緒及び其今日に至る迄の沿革の大要を述べ了れり。之を要するに當院は德化千歳に芳しき行基菩薩が、國土人民を救はんとの大慈悲心より、八輪島の勝地をトして建立したる靈地なり。若し夫れ菩薩の來りて此勝業を起さゞりせば、當國の民永く惡魚の怨念に苦しめられて、其堵に安んずること能はざりしならん。されば吾が讃岐の今日ある所以のもの、洵に當院創建の昔に其源を發せりと云ふも強ち過言にはあらざるべし。聖武天皇を始め奉り嵯峨、宇多、醍醐、朱雀、村上、白河、後嵯峨、龜山、後花園等歴代天皇の叡信と代々國主の歸依とを辱うすることを得たる、豈に之が爲めにあらずとせんや、加之のみならず、宗祖弘法大師觀賢僧正、覺道上人、宥範僧正、增昨僧正等の高僧碩德止住して、德を布き化を垂れて恩澤を今日に遺し給ふあり、誰か之を仰がざるを得んや。殊に當院は今の高松市が篦原の庄と稱せし時よりも、尚古き八輪島の昔に於て建立せられたる古跡たるのみならず、當市の氏神たる石清尾八幡宮と密接の關係を有し、并て宿り島の歴史を談るべき好史料たるを以て、當院の緣起は啻に當院一院のことたるのみならず、又た實に吾が香川縣及び高松市に取りて看過すべからざる一大史實なり。此の如き由緒ある當院も創立已來年を閲すること千有餘歳、地を易ふること五回、其間世の變遷に伴うて幾多の盛衰隆替を經たり。目下の現狀は之を往古の盛觀に比して其百分一にだも及ばず、小衲宿緣ありて當院繼承の一員に加はり、一念此に至る毎に轉た今昔の歎に堪へざるなり。因て今回別紙規則書の如く保存會を組織し、寺門維持の方法を確立し、益々佛法を興隆して上は皇化の萬一を補け奉り、下は國利民福を增進し以て列聖叡信の鴻恩と先師諸德の本懐とに酬答せんと欲す。希くは有緣の檀信徒諸氏、此の微衷を諒して應分の賛助をなし給はんことを。

無量壽院出土遺物観察表

※法量の（ ）は，残存値を表す。

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師質土器 Ⅲ	7.9	5.7	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転糸切後にナデ
2	土師質土器 Ⅲ	7.4	6.0	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
3	土師質土器 Ⅲ	7.8	6.1	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラナデ
4	土師質土器 Ⅲ	8.0	6.8	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
5	土師質土器 Ⅲ	8.6	6.4	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
6	土師質土器 Ⅲ	8.6	6.0	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
7	土師質土器 Ⅲ	9.4	7.8	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白7.5YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
8	土師質土器 Ⅲ	8.8	7.3	1.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
9	土師質土器 Ⅲ	8.4	6.4	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：淡黄2.5Y8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
10	土師質土器 Ⅲ	9.0	6.2	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
11	土師質土器 Ⅲ	8.0	3.2	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
12	土師質土器 Ⅲ	9.2	6.8	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	底面：ナデ
13	土師質土器 Ⅲ	9.0	6.2	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラケズリ
14	土師質土器 Ⅲ	8.6	5.0	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，回転ナデ
15	土師質土器 Ⅲ	10.0		(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ，内外面に煤付着
16	土師質土器 Ⅲ	8.6	5.2	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
17	土師質土器 Ⅲ	8.6	5.6	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
18	土師質土器 Ⅲ	7.9	5.8	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡黄2.5Y8/4 内面：淡黄2.5Y8/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラナデ
19	土師質土器 Ⅲ	8.4	6.4	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙7.5YR7/6	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラナデ
20	土師質土器 Ⅲ	10.1	6.4	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
21	土師質土器 Ⅲ		6.2	(0.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	1mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
22	土師質土器 Ⅲ		6.4	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の長石を含む	底面：回転糸切
23	土師質土器 Ⅲ		5.0	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
24	土師質土器 Ⅲ	5.6		(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/2	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：ハケメ
25	土師質土器 Ⅲ		5.0	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
26	土師質土器 杯			(3.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・長石を含む	
27	土師質土器 杯	15.0		(2.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	
28	土師質土器 椀	14.4		(3.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：灰白10YR8/2	2mm以下の石英・長石を含む	
29	土師質土器 杯	14.6		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
30	土師質土器 杯	14.2	6.2	3.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
31	土師質土器 杯	16.2		(3.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
32	土師質土器 杯	18.0		(2.5)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰白N7/ 内面：灰白5Y7/2	1mm以下の石英・長石を含む	
33	土師質土器 椀	12.6		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	
34	土師質土器 椀	13.6		(2.8)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
35	土師質土器 椀	15.0		(2.8)	外面口縁端部：回転ナデ 体部：ナデ 内面口縁端部：回転ナデ 体部：ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
36	土師質土器 椀	14.7		(3.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
37	須恵器 Ⅲ	10.0	8.4	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰5Y7/1	密	底面：指頭圧痕
38	瓦器 Ⅲ	10.4	8.2	1.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰5Y4/1 内面：灰5Y4/1	0.5mm以下の石英・長石を含む	内面：窯印 底面：指頭圧痕後にナデ
39	瓦器 Ⅲ	9.2		2.2	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	密	和泉型
40	瓦器 椀	13.8		(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：黒N2/ 内面：灰白2.5Y8/2	密	
41	瓦器 椀	14.0		(3.2)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	
42	瓦器 椀	13.0		(3.9)	外面口縁部：回転ナデ 体部：若干の指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰白5Y7/1	密	
43	瓦器 椀	15.6		(3.3)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰白N7/	密	
44	瓦器 椀	14.7		(2.6)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ	外面：暗灰N3/ 内面：暗灰N3/	密	
45	瓦器 椀	15.0		(2.4)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰白5Y7/1	密	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
46	瓦器 椀	15.2		(3.3)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ヘラミガキ，指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の石英・長石を含む	
47	瓦器 椀	17.0		(1.5)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
48	瓦器 椀	15.8		(3.6)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ヘラナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰白N7/	密	
49	瓦器 椀	16.8		(3.6)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	0.5mm以下の微砂を含む	
50	瓦器 椀	16.4		(4.7)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕，ヘラナデ 内面：分割ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	密	
51	瓦器 椀	15.6		(3.6)	外面：ヘラミガキ，指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
52	瓦器 椀	17.0		(4.6)	外面口縁：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	
53	瓦器 椀	16.8		(4.0)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
54	瓦器 椀	17.6		(4.5)	外面：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	やや密	
55	土師質土器 椀		8.2	(1.7)	外面：回転ナデ 内面：ヘラナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：なで
56	土師質土器 椀		6.3	(2.2)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
57	瓦器 椀		4.8	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
58	瓦器 椀		5.0	(2.6)	外面体部：ナデ，指頭圧痕 高台：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
59	瓦器 椀		5.4	(1.9)	外面高台：回転ナデ 体部：ナデ，指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
60	白磁 碗	17.3		(5.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白7.5Y7/1 素地：灰白5Y8/1	精良	内面：貫入
61	白磁 碗			(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白10Y8/1 素地：灰白N8/	密	
62	備前焼 擂鉢			(8.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰赤10R5/2 内面：灰N6/	やや粗	
63	備前焼 擂鉢			(5.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：褐灰7.5YR4/1 内面：褐灰7.5YR4/1	密	
64	備前焼 擂鉢			(5.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰赤2.5YR4/2 内面：灰褐7.5YR5/2	2mm以下の細～微砂を含む	
65	備前焼 擂鉢			(8.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：赤褐10R4/3 内面：灰赤10R4/2	密	
66	備前焼 擂鉢		18.0	(3.3)	外面：ナデ，ヘラケズリ 内面：回転ナデ	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：にぶい赤褐5YR4/3	粗	
67	備前焼 擂鉢		12.0	(4.8)	外面：ヘラナデ 内面：回転ナデ	外面：赤灰2.5YR5/1 内面：灰赤2.5YR5/2	1mm以下の石英・長石を含む	
68	土師質土器 甕			(3.5)	外面：ヨコナデ，ナデ 内面：ハケ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR7/4	2mm以下の石英・長石を含む	
69	須恵器 壷	12.4		(6.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰オリーブ7.5Y4/2 黒10YR2/1 素地：灰N6/	やや粗	
70	瓦質土器 捏ね鉢	33.2		(6.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ	外面：灰N4/ 内面：灰白2.5Y7/1	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
71	土師質土器 甕	34.0		(5.7)	外面口縁部：回転ナデ 胴部：ナデ 内面口縁部：回転ナデ 胴部：ナデ	外面：灰褐7.5YR4/2 内面：明褐灰7.5YR7/2	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	接合痕
72	陶器 甕		33.6	(9.2)	外面胴部：ハケ，未調整 底部：ヘラナデ 内面：ヘラナデ，ナデ	外面：褐灰10YR5/1 内面：灰褐7.5YR5/1	密	
73	陶器 甕		35.6	(8.4)	外面体部下半：ハケ，ヘラケズリ 底部：ヘラナデ 内面体部下半：ヘラナデ 底部：ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：褐灰10YR5/1	密	
74	土師質土器 足釜	42.6		(6.4)	外面口縁部：ヨコナデ 胴部：ナデ 内面：浅いハケ，ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	外面：煤化
75	平瓦			厚さ 2.5	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	外面：黄灰2.5Y6/1 内面：灰白2.5Y7/1	1～2mmの細砂を多量に含む	
76	鉄斧	全長 12.2	幅 7.6					
77	土師質土器 皿	6.8	5.4	0.9	外面：回転ナデ 内面：摩滅	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
78	土師質土器 皿	6.6	5.0	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面:にぶい黄橙10YR7/4 内面:にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
79	土師質土器 皿	8.0	6.8	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後に指ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
80	土師質土器 皿	8.2	6.2	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
81	土師質土器 皿	9.8	7.6	1.0	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	3mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
82	土師質土器 皿	7.8	4.2	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	
83	土師質土器 皿	8.1	4.1	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
84	土師質土器 皿	9.0	5.6	(1.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石・金雲母を少々含む	
85	土師質土器 皿	9.0	7.4	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡橙5YR8/4 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
86	土師質土器 皿	8.7	6.3	1.6	外面：回転ナデ，回転ヘラ切 内面：回転ナデ回転	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
87	土師質土器 皿	9.1	5.4	(1.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙2.5YR7/6	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
88	土師質土器 皿	9.8		(1.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
89	土師質土器 杯	10.0	4.7	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を少々含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
90	土師質土器 杯	10.8	7.0	2.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Ｙ R7/4 内面：にぶい橙7.5Ｙ R7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
91	土師質土器 杯	10.6		(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5Ｙ R8/3 内面：灰白7.5Ｙ R8/2	2mm以下の石英・長石を含む	
92	土師質土器 杯	11.6	7.0	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5Ｙ R7/6 内面：橙5Ｙ R7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
93	土師質土器 杯	11.2	7.8	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5Ｙ R7/6 内面：橙5Ｙ R7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
94	土師質土器 杯	10.9	5.1	2.5	外面：回転ナデ，板ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	口縁端部：煤付着，底面：静止板ナデ
95	土師質土器 杯	10.8	7.6	2.4	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：明褐灰7.5YR7/2 内面：明褐灰7.5YR7/2	1mm以下の石英・長石・金雲母を少々含む	底面：ナデ
96	土師質土器 杯	10.8	7.6	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Ｙ R8/2 内面：浅黄橙10Ｙ R8/3	3mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
97	土師質土器 杯	10.9		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Ｙ R8/2 内面：灰白10Ｙ R8/2	1mm以下の石英・長石を含む	ロクロ痕明瞭
98	土師質土器 杯	11.0		(2.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙7.5Ｙ R8/3 内面：浅黄橙7.5Ｙ R8/4	1mm以下の石英・長石を含む	
99	土師質土器 杯	12.8		(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5Ｙ R7/6 内面：橙5Ｙ R6/6	0.5mm以下の長石・角閃石を含む	
100	土師質土器 杯	11.2	9.2	2.5	外面：回転指ナデ 内面：回転指ナデ	外面：灰白10Ｙ R8/2 内面：灰白10Ｙ R8/2	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：ナデ
101	須恵器 杯	14.0	10.2	(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Ｙ8/1 内面：灰白7.5Ｙ8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
102	土師質土器 杯		5.2	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Ｙ R7/4 内面：にぶい橙7.5Ｙ R7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：ナデ
103	土師質土器 杯		4.7	(2.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5Ｙ R7/4 内面：にぶい橙7.5Ｙ R7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：板目
104	土師質土器 杯		6.2	(0.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Ｙ R8/2 内面：灰白10Ｙ R8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
105	土師質土器 杯		6.0	(1.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙10Ｙ R8/3 内面：浅黄橙10Ｙ R8/3	2mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
106	土師質土器 杯		8.0	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5Ｙ R8/3 内面：浅黄橙7.5Ｙ R8/3	2mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後にヘラナデ
107	土師質土器 杯		9.6	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Ｙ R8/2 内面：浅黄橙10Ｙ R8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
108	土師質土器 杯		5.2	(1.2)	外面：回転ナデ 内面体部：回転ナデ 中央：回転ナデ後に一方向からのナデ	外面：浅黄橙7.5Ｙ R8/4 内面：灰白10Ｙ R8/2	2mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
109	土師質土器 杯		7.8	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Ｙ8/2 内面：灰白2.5Ｙ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
110	土師質土器 鉢			(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5Ｙ R7/6 内面：橙7.5Ｙ R7/6	微砂，長石・石英を含む	外面に墨書
111	土師質土器 鉢			(3.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5Ｙ R8/4 内面：浅黄橙7.5Ｙ R8/4	1mm以下の石英・長石を少々含む	
112	土師質土器 鉢		5.2	4.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	内面煤付着
113	土師質土器 鉢	9.2	5.0	4.6	外面：回転ナデ，静止糸切 内面：回転ナデ	外面：橙5Ｙ R7/6 内面：橙5Ｙ R7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：静止糸切
114	土師質土器 鉢		4.2	(5.0)	外面：ナデ 内面：ナデ，指頭圧痕	外面：浅黄橙10Ｙ R8/3 内面：にぶい橙5Ｙ R7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
115	土師質土器 鉢		4.4	(2.2)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面:にぶい黄橙10Ｙ R7/4 内面:にぶい黄橙10Ｙ R7/2	1mm以下の石英・長石，0.5mm以下の雲母を含む	底面：ハケメ
116	土師質土器 鉢		4.6	(1.4)	外面：摩滅 内面：ナデ，指頭圧痕	外面:にぶい黄橙10Ｙ R7/2 内面：灰褐7.5Ｙ R6/2	1mm以下の石英・長石を含む	
117	土師質土器 椀	15.4		(3.6)	外面口縁：回転ナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：灰白2.5Ｙ8/1 内面：灰白2.5Ｙ8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
118	土師質土器 椀	15.3		(3.7)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰白10Ｙ R8/2 内面：暗灰N3/	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	内面：黒色
119	土師質土器 椀		6.8	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡黄2.5Ｙ8/3 内面：黄灰2.5Ｙ4/1	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	内面：黒色
120	土師質土器 椀		6.4	(1.2)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：橙7.5Ｙ R7/6 内面：赤橙10R6/8	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
121	土師質土器 椀		5.8	(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Ｙ8/1 内面：灰白2.5Ｙ8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
122	瓦器 椀			(2.9)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	密	
123	瓦器 杯	14.4		(2.4)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：丁寧なヘラミガキ	外面：灰白5Ｙ7/1 内面：灰白2.5Ｙ7/1	密	
124	瓦器 椀	13.6		(4.3)	外面口縁：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白2.5Ｙ7/2 内面：灰N5/	密	内面：黒色
125	瓦器 椀	18.0		(3.7)	外面口縁：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	密	
126	青磁 碗			(3.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：明緑灰7.5GＹ7/1 素地：灰N6/	密	
127	青磁 碗			(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰5Ｙ6/1 素地：灰オリーブ5Ｙ6/2	密	
128	青磁 香炉	7.3	4.0	6.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：明緑灰10GY7/1 胎：灰白N7/	密	接合痕，脚3（内1欠）
129	白磁 碗			(2.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白7.5Ｙ7/1 素地：灰白N8/	精良	
130	白磁 碗	14.2		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白7.5Ｙ7/1 素地：灰白5Ｙ7/1	精良	
131	白磁 碗	18.2		(4.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白5Ｙ7/1 素地：灰白5Ｙ8/1	精良	
132	白磁 椀	20.2		(4.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白10Ｙ7/1 素地：灰黄2.5Y7/2	精良	
133	白磁 碗	14.7		(3.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白7.5Ｙ7/1 素地：灰白N8/	精良	
134	白磁 碗		4.8	0.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白10Ｙ7/1 素地：灰白N8/	精良	底面：静止ヘラケズリ
135	白磁 碗		6.0	(1.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白5Ｙ7/1 素地：灰白5Ｙ8/1	精良	底面：回転糸切後に回転ヘラケズリ
136	磁器 碗			(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白N8/ 素地：灰白N8/	精良	
137	磁器 碗	10.2		(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：褐灰5Ｙ R4/1 素地：灰7.5Ｙ R6/1	密	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
138	磁器 皿	10.6		(2.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白2.5Y8/1 素地：灰白5Y8/1	精良	
139	土師質土器 擂鉢	29.0		(4.5)	外面口縁部：回転ナデ 胴部：摩滅 内面口縁部：回転ナデ 胴部：幅の広いハケ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の石英・長石・金雲母を含む	
140	備前焼 擂鉢			(6.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰赤2.5YR4/2 内面：にぶい赤褐2.5YR5/3	1mm以下の微砂を含む	
141	備前焼 擂鉢		14.2	(6.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい赤褐2.5YR5/4 内面：灰赤2.5YR4/2	1mm～3mmの微～粗砂を含む	
142	土師質土器 鍋	20.4		(2.8)	外面口縁部：回転ナデ 胴部：指頭圧痕 内面口縁部：回転ナデ 胴部：ヘラナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
143	土師質土器 鍋			(3.5)	外面口縁部：ヨコナデ 内面口縁部：ヨコナデ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	密	
144	土師質土器 鍋	50.0		(4.6)	外面口縁端部：ナデ，ハケ 口縁部・胴部：指頭圧痕，ナデ 内面口縁部：ハケ 胴部：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	
145	土師質土器 鍋			(6.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	やや密	
146	土師質土器 鍋	41.6		(4.4)	外面口縁端部：回転ナデ 口縁部：ハケ，指頭圧痕 内面口縁端部：回転ナデ 口縁部：ヘラナデ，ナデ	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：灰褐7.5YR6/2	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	
147	土師質土器 鍋	38.0		(2.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
148	土師質土器 足釜	18.2		(3.8)	外面口縁部：回転ナデ 胴部：ヘラナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の石英・長石を含む	
149	土師質土器 足釜	19.1		(3.7)	外面口縁部：回転ナデ 胴部：ハケ 内面口縁部：回転ナデ 胴部：ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR6/2	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
150	土師質土器 足釜	17.6		(6.5)	外面口縁部：ナデ 体部：ハケ 内面：ハケ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
151	土師質土器 足釜	24.0		(3.3)	外面口縁部：ヨコナデ 胴部：ナデ 内面：浅いハケ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	外面：黒斑
152	土師質土器 足釜	22.6		(3.2)	外面：ヨコナデ，ナデ 内面：ヨコナデ，ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
153	土師質土器 足釜	31.4		(3.5)	外面口縁部：回転ナデ 胴部：ハケ 内面：ハケ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	2.5mm以下の石英・長石を多く含む	
154	土師質土器 足釜			(15.6)	外面脚部：板ナデ 内面胴部：指頭圧痕,ヨコハケ	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の石英・長石・金雲母を少々含む	
155	土師質土器 足釜			(5.6)	外面脚部：ヘラケズリ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：浅黄橙10YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	
156	備前焼 壺	10.6		(6.0)	外面：回転ナデ，自然釉 内面：回転ナデ	外面：にぶい赤褐7.5R5/3 内面：灰赤2.5YR5/2	やや粗	外面：自然釉付着
157	瓦質土器 壺			(6.1)	外面：回転ナデ 内面：指頭圧痕，ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	やや粗	
158	土師質土器 甕	18.0		(4.8)	外面口縁部：ヨコナデ 胴部：ヘラナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコナデ，ナデ 胴部：ナデ，ハケ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の長石・角閃石・金雲母を含む	
159	土師質土器 甕	23.0		(2.9)	外面口縁部：ヨコナデ 胴部：ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 胴部：ヘラナデ	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	
160	土師質土器 甕	30.4		(4.6)	外面：指頭圧痕 内面口縁部：回転ナデ 胴部：深いハケ	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
161	土師質土器 甕	33.0		(5.6)	外面口縁部：ヨコナデ 頸部：板ナデ，ナデ 内面口縁～頸部：ヨコナデ 体部：ハケ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：明赤褐5YR5/6	1mm以下の石英・長石を含む	
162	土師質土器 甕			(7.0)	外面：摩滅 内面：ヨコナデ	外面：灰5Y4/1	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	
163	備前焼 甕			(5.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：褐灰7.5YR5/1	やや粗	外面：自然釉付着
164	備前焼 甕			(9.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：黒褐5YR3/1 内面：暗赤灰10R3/1	密	貼文 沈線1条
165	須恵器 甕			(5.2)	外面：格子目タタキ 内面：ヘラナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
166	須恵器 壺			(8.1)	外面：平行タタキ，自然釉 内面：ヘラナデ	釉：灰白10YR8/2 素地：褐灰10YR5/1	1mmの細砂，0.5mm以下の微砂を含む	
167	須恵器 壺		10.8	(11.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N4/	やや密	沈線2条
168	土師質土器 甕		10.2	(3.1)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の石英・長石・雲母を含む	
169	須恵器 甕		10.8	(2.5)	外面：回転ナデ 内面：摩滅	外面：明褐灰5YR7/1 内面：灰5Y6/1	3～5mmの細礫，0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切後にナデ
170	土師質土器 鉢	17.0		(5.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の石英・長石を含む	
171	須恵器 高杯			(6.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，絞り目	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	2～3mmの石英，0.5mmの微砂を含む	透かし3箇所
172	土師質土器 イイダコ壺			(5.1)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ナデ	外面：橙7.5YR6/6 内面：褐7.5YR4/6	1mm～2mmの石英・長石・角閃石を含む	
173	土製土器 円盤	直径 12.0		厚さ 2.7		外面：灰N5/ 内面：灰N4/		重さ：473.0g
174	土製土器 円盤	直径 7.0		厚さ 2.0		外面：灰白10Y7/1 内面：にぶい橙7.5YR7/3		重さ：98.7g
175	土製土器 円盤	直径 6.8		厚さ 1.8	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	外面：にぶい赤褐5YR5/4	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：102.9g
176	土製土器 円盤	直径 5.8		厚さ 2.1		外面：灰N6/ 内面：灰N4/		重さ：80.2g
177	土製土器 円盤	直径 5.0		厚さ 1.6		外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y7/1		重さ：51.7g
178	土製土器 円盤	直径 5.1		厚さ 1.6		外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6		重さ：46.9g
179	土製土器 円盤	直径 3.4		厚さ 2.5		外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6		重さ：26.7g

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
180	砥石	長さ (5.8)	幅 (0.8)	厚さ 1.9				粘板岩
181	土錘	長さ 9.9	幅 7.0	厚さ 7.2	外面：ナデ	外面：灰黄褐10YR5/2	8mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：42.9ｇ
182	土錘	長さ 7.8	幅 6.5	厚さ 6.0	外面：ナデ	外面：橙5ＹＲ6/6	4mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：278.6ｇ
183	土錘	長さ 8.1	幅 5.8	厚さ 5.5	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：209.6ｇ
184	土錘	長さ 8.75	幅 5.35	厚さ 4.6	外面：ナデ	外面：橙5ＹＲ7/6	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：173.4ｇ
185	土錘	長さ 8.6	幅 6.25		外面：ナデ	外面：灰白10ＹＲ8/2	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：125.6ｇ
186	土錘	長さ 6.7	幅 3.8	厚さ 3.0	外面：ナデ，中央に凹面み	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：59.4ｇ
187	土錘	長さ 8.4	幅 5.8		外面：ナデ	外面：灰褐7.5ＹＲ6/2	5mm以下の石英・長石を含む	重さ：290.9ｇ
188	丸瓦	長さ (29.2)	幅 14.8		凹面：布目 凸面：ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	「野原濱村無量寿院」の文字有り
189	丸瓦	長さ (17.0)	幅 (14.7)		凹面：布目 凸面：ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	
190	丸瓦	長さ (33.8)	瓦当径 (16.5)		凹面：布目 凸面：ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	三巴文
191	丸瓦		瓦当径 (15.8)			外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	梵字
192	丸瓦		瓦当径 16.0	顎長 2.6	瓦裏面：ナデ 瓦当顎：ナデ，瓦当側を面取	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰白Ｎ7/	密	巴文 珠文6個（残）
193	丸瓦	長さ (3.6)	瓦当径 13.0		凹面：横方向のナデ，凸面：板ナデ 瓦当裏面：ナデ，指頭圧痕	外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y7/1	密	三巴文 珠文5個（残）
194	丸瓦	長さ (10.4)			凹面：布目，コビキＡ，側辺を面取 凸面：板ナデ？	外面：淡赤橙2.5ＹＲ7/3 内面：灰白7.5ＹＲ8/1	密	
195	丸瓦	長さ (12.1)			凹面：布目 凸面：ナデ	外面：にぶい橙5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙5ＹＲ7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
196	平瓦	長さ (9.6)	幅 (20.4)		凹面：ナデ 凸面：ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	波状文
197	平瓦	長さ (9.1)	幅 (16.8)	瓦当厚 4.9	凹面：ナデ，瓦当端を面取 瓦当裏：横方向のナデ	外面：灰Ｎ6/ 内面：灰Ｎ4/	密	波状文
198	平瓦	長さ (7.3)	幅 (10.5)		凹面：ナデ 凸面：ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	波状文
199	平瓦	長さ (9.7)	幅 (11.5)	顎長 2.5	凹面：ナデ，面取 凸面：板ナデ，横方向のナデ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	密	波状文
200	平瓦	長さ (8.8)			凹面：ナデ，瓦当端を面取 凸面：：摩滅のため不明	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ6/	密	波状文
201	平瓦	長さ (4.0)	幅 (14.0)		凹面：ナデ 凸面：ナデ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	密	波状文
202	平瓦	長さ (3.3)	幅 (8.7)		凹面：ナデ 凸面：ナデ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	密	波状文
203	平瓦	長さ (8.5)	幅 (9.4)		凹面：板ナデ，面取 凸面：板ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：橙7.5ＹＲ7/6	密	2次焼成？
204	鬼瓦	長さ (14.3)				外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	密	
205	鬼瓦	長さ (8.4)				外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ6/	密	
206	鬼瓦	長さ (11.0)				外面：灰Ｎ4/	密	
207	五輪塔（空・風輪）	空輪直径 15.4 風輪直径 16.1		空輪高さ 11.5 風輪高さ 10.9			角礫凝灰岩	
208	五輪塔（水輪）	直径 22.0		15.3			角礫凝灰岩	
209	土師質土器 皿	7.8	6.2	(1.5)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	0.5mm以下の微砂を含む	磨滅
210	土師質土器 皿	8.2	6.0	(1.5)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙7.5ＹＲ8/3 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	0.5mm以下の微砂を含む	磨滅
211	土師質土器 杯	10.4	7.0	2.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Ｙ8/2 内面：灰白10Ｙ8/2	2mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
212	土師質土器 杯	10.0	6.0	2.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，板目	外面：灰白2.5Ｙ8/1 内面：灰白2.5Ｙ8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ナデ
213	土師質土器 杯	11.8		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5ＹＲ8/4 内面：浅黄橙7.5ＹＲ8/4	1～2mmの石英，0.5mmの微砂を含む	
214	土師質土器 杯	13.0		(2.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白10ＹＲ8/2 内面：灰白10ＹＲ8/2	0.5mm以下の微砂を多量に含む	
215	土師質土器 杯	12.8		(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰5Y6/1 内面：灰Ｎ7/	0.5mm以下の微砂を含む	
216	土師質土器 杯	15.8		(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10ＹＲ8/2 内面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
217	土師質土器 杯		7.0	(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Ｙ8/1 内面：灰白10ＹＲ8/2	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ，指ナデ
218	瓦器 皿	9.8		2.3	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	1mmの石英，0.5mmの微砂を含む	和泉型
219	瓦器 椀	19.4		(3.1)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：黄灰2.5Y6/1 内面：灰白2.5Y7/1	0.5mm以下の微砂を若干含む	
220	瓦器 椀		4.8	(1.5)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰Ｎ4/ 内面：灰Ｎ4/	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
221	瓦器 椀		5.8	(1.6)	外面体部：剥離 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	0.5mm以下の微砂を含む	
222	土師質土器 羽釜	29.0		(4.0)	外面：ヨコナデ 内面：ハケ	外面：浅黄橙10ＹＲ8/4 内面：浅黄橙10ＹＲ8/4	1mm以下の石英・長石を含む	
223	土師質土器 足釜			(3.8)	外面口縁部：ヨコナデ 胴部：指頭圧痕，ナデ 内面：ヘラナデ	外面:にぶい黄橙10ＹＲ7/4 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
224	土師質土器 鍋	20.3		(6.4)	外面：指頭圧痕後にヘラナデ 内面口縁部：ハケ 板ナデ	外面：にぶい赤褐5YR5/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1.5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
225	須恵器 甕		8.3	(2.2)	外面：指ナデ 内面：ヘラナデ	外面：灰Ｎ6/ 内面：灰Ｎ6/	1mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切後にヘラケズリ
226	土師質土器 足釜			長さ 17.3	外面：ナデ	外面：褐灰10ＹＲ6/1 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
227	土師質土器 皿	7.4	6.0	1.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/3 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：静止ヘラケズリ後に回転ヘラケズリ
228	土師質土器 皿	8.0		(1.1)	外面口縁部：回転ナデ後にナデ 内面口縁部：回転ナデ後にナデ	外面：灰白2.5Ｙ8/1 内面：灰白2.5Ｙ8/1	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
229	土師質土器 皿（灯明皿）	7.7	5.4	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	1mm以下の石英・長石を含む	口縁部煤付着 底面：ナデ
230	土師質土器 皿	8.0	5.8	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
231	土師質土器 皿	8.0	6.6	0.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：ナデ
232	土師質土器 皿	8.2	6.4	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/1	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラケズリ
233	土師質土器 皿	8.2	6.4	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラケズリ
234	土師質土器 皿	8.3	6.8	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：灰白10Y R8/2	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
235	土師質土器 皿	8.2	6.8	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/1	2mmの石英，1mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
236	土師質土器 皿	7.6	4.9	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5Y R8/6 内面：浅黄橙7.5Y R8/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラナデ
237	土師質土器 皿	7.6	6.2	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/2 内面：浅黄橙10Y R8/2	2mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
238	土師質土器 皿	7.8	6.0	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
239	土師質土器 皿	7.8	5.8	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/1	2mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
240	土師質土器 皿	8.0	6.0	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：にぶい橙5Y R7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
241	土師質土器 皿	9.0	6.8	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/3	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：ナデ
242	土師質土器 皿	8.2	6.0	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5Y R7/4 内面：にぶい橙5Y R7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
243	土師質土器 皿	8.2	6.5	2.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：ナデ
244	土師質土器 皿	8.2	6.8	1.3	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/3	1mm以下の石英・長石・金雲母を少々含む	底面：回転ヘラ切
245	土師質土器 皿	8.0	6.4	1.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：明褐7.5Y R7/2 内面：浅黄橙7.5Y R8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラナデ
246	土師質土器 皿	8.8		(1.6)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙10Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	1mm以下の微砂を含む	
247	土師質土器 皿	9.0	6.4	1.5	外面：回転ナデ 内面：摩滅	外面：浅黄橙10Y R8/4 内面：浅黄橙10Y R8/3	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
248	土師質土器 皿	8.8	6.8	0.9	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：橙7.5Y R7/6 内面：橙7.5Y R7/6	1mm以下の石英・長石を含む	
249	土師質土器 皿	8.8	4.8	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
250	土師質土器 皿	8.0	6.0	1.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後に指ナデ	外面：灰白10Y R8/1 内面：灰白10Y R8/2	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
251	土師質土器 皿	8.2	6.2	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：にぶい黄橙10Y R7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
252	土師質土器 皿	8.5	6.4	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰黄褐10Y R5/2 内面：褐灰10Y R6/1	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	底面：回転ヘラ切
253	土師質土器 皿（灯明皿）	8.6	5.6	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白7.5Y R8/2	1mm以下の石英・長石を含む	口縁端部煤付着 底面：回転ヘラ切
254	土師質土器 皿	8.4	5.2	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白7.5Y R8/2	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラケズリ
255	土師質土器 皿	8.2	6.0	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5Y R7/6 内面：淡橙5Y R8/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
256	土師質土器 皿	8.8	6.0	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5Y R8/4 内面：浅黄橙7.5Y R8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
257	土師質土器 皿	8.4	5.6	1.6	外面体部：ナデ 内面体部：ナデ	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰黄2.5Y7/2	0.5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ
258	土師質土器 皿	9.1		(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	2mm以下の石英・長石を若干含む	底面：回転糸切
259	土師質土器 皿	9.0	6.0	1.9	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラケズリ
260	土師質土器 皿	8.2	6.8	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/4 内面：浅黄橙10Y R8/5	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
261	土師質土器 皿	8.7	6.9	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラナデ
262	土師質土器 皿	8.5	6.2	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ後に板目
263	土師質土器 皿	8.8	6.7	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/4	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラケズリ
264	土師質土器 皿	10.0	6.8	2.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/3	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラケズリ
265	土師質土器 皿	9.8	7.4	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙5Y R7/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ，ナデ
266	土師質土器 皿	8.4	4.4	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ
267	土師質土器 皿	8.2	5.8	1.8	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
268	土師質土器 皿	8.6	6.0	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5Y R8/4 内面：浅黄橙7.5Y R8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
269	土師質土器 皿	8.8	6.6	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10Y R8/3 内面：浅黄橙10Y R8/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ，板目
270	土師質土器 皿	9.2	2.5	1.8	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：回転ナデ，ヘラミガキ	外面：にぶい黄橙10Y R7/3 内面：にぶい黄橙10Y R7/2	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
271	土師質土器 皿	8.9	1.3	2.3	外面：回転ナデ，指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ，ナデ	外面：灰N5/ 内面：黄灰2.5Y5/1	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
272	土師質土器 皿	8.7	6.6	2.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
273	土師質土器 皿	9.0	6.4	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
274	土師質土器 皿	10.4		(1.3)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/3 内面：浅黄橙7.5Y R8/3	1mm以下の石英・長石を少々含む	
275	土師質土器 皿	8.5		1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y R8/2 内面：灰白10Y R8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラケズリ
276	土師質土器 皿	7.7	4.8	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5Y R7/4 内面：にぶい橙7.5Y R7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
277	土師質土器 皿	9.0	6.2	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
278	瓦器 Ⅲ	9.4		(1.9)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
279	瓦器 Ⅲ	9.6	8.0	1.3	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	底面：指頭圧痕，ナデ
280	瓦器 Ⅲ	9.0	7.6	1.5	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：静止ヘラケズリ，ナデ
281	瓦器 Ⅲ	9.3		2.3	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：灰白N8/ 内面：灰N5/	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
282	瓦器 Ⅲ	9.1		2.3	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
283	瓦器 Ⅲ	9.4		1.9	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：回転ナデ，ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白N8/ 内面：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：指頭圧痕
284	瓦器 Ⅲ	9.2	3.3	2.4	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：指頭圧痕
285	土師質土器 杯	10.4	6.3	2.7	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の微砂を含む	
286	土師質土器 杯	10.3	7.0	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ヘラナデ
287	土師質土器 杯	11.0	6.6	3.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白N8/ 内面：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：板目後に回転ヘラナデ
288	土師質土器 杯	14.0		(2.9)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
289	土師質土器 杯	12.5	7.0	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：浅黄橙7.5YR8/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ヘラナデ
290	土師質土器 杯	14.9	8.2	2.8	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
291	土師質土器 杯		5.2	(1.5)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
292	土師質土器 杯	10.5	3.7	3.1	外面口縁部：回転ナデ 体部：回転ヘラケズリ，ナデ 内面：ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
293	土師質土器 椀	14.4		(4.0)	外面口縁部：回転ナデ 体部：ナデ 内面口縁部：回転ナデ 体部：ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石・金雲母を少々含む	内面体部：黒斑
294	土師質土器 椀	14.1		(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	2mm以下の石英・長石を含む	
295	土師質土器 椀	16.0		(3.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙10YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	
296	土師質土器 椀		5.6	(1.3)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ,ヘラミガキ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
297	土師質土器 椀		6.0	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：ヘラナデ	外面:にぶい黄橙10YR7/4 内面:にぶい黄橙10YR7/4	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	回転ヘラ切後に回転ヘラナデ
298	土師質土器 椀		6.0	(1.9)	外面体部：回転ナデ 高台：ナデ 内面：ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
299	土師質土器 椀		7.5	(1.6)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
300	土師質土器 椀		6.2	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：明褐灰7.5YR7/2 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
301	土師質土器 椀		5.2	(1.3)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白5Y8/1 内面：暗灰N3/	1～2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ　内面：黒色
302	瓦器 椀	14.2		(3.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
303	瓦器 椀	13.8	4.0	4.6	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にナデ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
304	瓦器 椀	14.0		(4.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
305	瓦器 椀	14.8		(4.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N7/	0.5mm以下の微砂を含む	
306	瓦器 椀	15.0		(3.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	
307	瓦器 碗	14.4	5.2	6.0	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	密	内面：格子状暗文 和泉型
308	瓦器 椀	15.0		(4.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
309	瓦器 椀	15.4	5.1	5.1	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
310	瓦器 椀	14.8	5.0	4.7	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
311	瓦器 椀	15.4		(3.7)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	1mm以下の微砂を含む	
312	瓦器 椀	15.2		(3.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
313	瓦器 椀	15.2		(3.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	外面に暗文
314	瓦器 椀	15.4	4.0	5.1	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ヘラミガキ，ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
315	瓦器 椀	16.0		(3.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	0.5mm以下の微砂を含む	
316	瓦器 椀	15.6		(4.5)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
317	瓦器 椀	15.8		(4.5)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
318	瓦器 椀	16.0		(4.2)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
319	瓦器 椀	15.8		(4.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
320	瓦器 椀	16.0		(4.4)	外面：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
321	瓦器 椀	16.0		(4.0)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
322	瓦器 椀	16.2		(4.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1mm以下の微砂を含む	
323	瓦器 椀	16.6		(4.9)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にナデ，ヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
324	瓦器 椀	15.8	4.8	5.2	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
325	瓦器 椀	16.4	6.4	4.2	外面：口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：暗灰N3/ 内面：灰白2.5Y7/1	1mmの細砂，0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
326	瓦器 椀	16.4		(3.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	1mm以下の石英・微砂を含む	
327	瓦器 椀	17.0		(3.5)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰白5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	
328	瓦器 椀	17.0		(4.9)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1～2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
329	瓦器 椀	16.0		(4.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
330	瓦器 椀			(4.6)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白5Y7/1 内面：灰白5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	
331	瓦器 椀			(3.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
332	瓦器 椀			(4.0)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ヘラミガキ，指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
333	瓦器 椀	21.6		(5.0)	外面：指頭圧痕，ナデ，ヘラミガキ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
334	瓦器 椀		6.2	(1.3)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ後に暗文	外面：灰N4/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
335	瓦器 椀		5.0	(2.1)	外面体部：指頭圧痕，ナデ 高台：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：灰N7/ 内面：灰N4/	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
336	瓦器 椀		7.0	(1.2)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ,ヘラミガキ	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白5Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	
337	瓦器 椀	4.8		(2.4)	外面体部：指頭圧痕 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
338	瓦器 椀		6.0	(1.0)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
339	瓦器 椀		4.8	(1.2)	外面体部：指頭圧痕，ナデ 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	密	
340	瓦器 椀		5.6	(1.9)	外面体部：指頭圧痕，ナデ 高台：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰白5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ後にナデ
341	瓦器 椀		4.0	(2.3)	外面体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1～2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
342	瓦器 椀		4.6	(9.0)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：青灰5PB5/1 内面：暗青灰5PB3/1	1mm以下の微砂を含む	
343	白磁 碗			(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白5Y7/2 素地：灰白N8/	精選	
344	白磁 碗			(2.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：淡黄5Y8/3 素地：灰白5Y8/2	精良	
345	青磁 碗			(3.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白10Y6/1	精良	
346	白磁 碗	16.0		(4.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白10Y8/1 素地：灰白N8/	精良	
347	白磁 碗	18.6		(4.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白10Y8/1 素地：灰白7.5Y8/1	精良	
348	白磁 碗		5.5	(2.0)	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	釉：淡黄5Y8/3 素地：灰白10Y7/1	精良	
349	須恵器 高杯		22.2	(4.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を多量に含む	
350	土師質土器 鍋	27.6		(5.1)	外面：ヨコナデ，ナデ 内面：ヨコナデ，ナデ	外面：灰褐5YR6/2 内面：にぶい橙5YR6/3	2mm以下の石英・長石を含む	
351	土師質土器 甕				外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面口縁部：ヨコナデ，ヘラナデ 体部：ヘラナデ	外面：灰褐10YR6/1 内面：灰黄褐10YR6/2	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
352	土錘	長さ 9.4	幅 6.6	厚み 6.6	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	5mm以下の石英・長石を含む	重さ：356.7g
353	土錘	長さ 4.5	幅 3.5	厚み 3.5	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：42.7g
354	軒平瓦	長さ (2.6)	幅 (13.0)	瓦当厚 5.1	凹面：布目，瓦当端を横方向のナデ 瓦当裏：横方向のナデ	外面：灰5Y6/1 内面：灰N5/	密	梵字
355	カマド	(31.8)		(9.0)	外面：指頭圧痕，指ナデ，タテハケ 内面：ナデ，ヨコハケ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：灰褐5YR4/2	1～2mmの石英・長石・雲母・角閃石を含む	
356	カマド	(44.6)		(9.2)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：粗いハケ 内面口縁部：ハケ 体部：ハケ，板ナデ	外面：灰褐5YR4/1 内面：灰褐7.5YR4/1	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	内外面：煤付着

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
357	土師質土器 皿	7.6	6.0	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/3 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/3	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ，ナデ
358	土師質土器 皿	7.6	5.6	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：浅黄橙7.5ＹＲ8/3	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ
359	土師質土器 皿	8.0	5.8	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5ＹＲ7/6 内面：橙7.5ＹＲ7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
360	土師質土器 皿	10.5	6.8	2.1	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白2.5Ｙ8/2 内面：灰白2.5Ｙ8/2	1～3mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
361	土師質土器 皿	10.7		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
362	土師質土器 皿	10.2	6.2	1.3	外面：摩滅 内面：回転ナデ	外面：橙7.5ＹＲ7/6 内面：橙7.5ＹＲ6/6	1mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切
363	土師質土器 杯	12.0		(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10ＹＲ7/1 内面：灰白10ＹＲ7/1	0.5mm以下の微砂を含む	
364	土師質土器 杯	11.8	7.6	2.5	外面口縁部：回転ナデ 体部：ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5ＹＲ7/6 内面：橙7.5ＹＲ7/6	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
365	土師質土器 杯	13.0		(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	0.5mm以下の微砂を含む	
366	土師質土器 杯		8.8	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5ＹＲ8/4 内面：浅黄橙10ＹＲ8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
367	土師質土器 杯		6.3	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ヘラナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転糸切後に回転ヘラナデ
368	瓦器 椀	12.8		(2.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ4/	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
369	瓦器 椀			(3.6)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰Ｎ4/ 内面：灰Ｎ4/	0.5mm以下の微砂を含む	
370	青磁 碗			(1.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Ｙ6/2 素地：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を若干含む	
371	青磁 碗		4.9	(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Ｙ6/2 素地：灰白N8/	1～2mmの石英を若干含む	
372	青磁 碗		6.6	(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰5GＹ6/1 素地：灰白N7/～ にぶい赤褐2.5Y4/4	0.5mm以下の微砂を多量に含む	
373	磁器 碗			(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白N7/ 素地：灰白10ＹＲ7/1	0.5mm以下の微砂を若干含む	
374	陶器 壷	29.0		(8.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：極暗赤褐7.5R2/3 素地：にぶい赤褐7.5R4/3	1mm以下の微砂を含む	
375	土師質土器 足釜	27.0		(3.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ 内面：ヘラナデ	外面：浅黄橙10ＹＲ8/4 内面：橙5ＹＲ7/6	1mm以下の微砂を含む	
376	土師質土器 鍋			(3.1)	外面：指頭圧痕後にナデ 内面：ハケメ	外面：にぶい橙5ＹＲ6/4 内面：にぶい橙5ＹＲ6/4	1～3mm石英・長石・角閃石を含む	
377	軒丸瓦	長さ (14.4)	幅 (9.8)	厚さ 2.6	凹面：布目 凸面：ヘラナデ	外面：灰Ｎ4/ 内面：灰Ｎ5/	密	
378	軒丸瓦			厚さ 2.6		外面：灰N4/	密	
379	丸瓦	長さ (6.0)	幅 (5.3)	厚さ 2.5	凹面：布目 凸面：ヘラナデ	外面：褐10YR4/6 内面：明赤褐5YR5/6	やや密	
380	丸瓦	長さ (9.0)	幅 (5.2)	厚さ 2.0	凹面：布目 凸面：ヘラナデ	外面：橙5ＹＲ6/6 内面：にぶい橙5ＹＲ6/4	密	
381	丸瓦	長さ (8.4)	幅 (6.6)	厚さ 2.1	凹面：布目 凸面：ヘラナデ	外面：橙5ＹＲ7/6 内面：橙5ＹＲ6/6	やや粗	
382	文字瓦	長さ (5.6)	幅 (3.9)	厚さ 2.1	凹面：ナデ 凸面：ナデ	外面：灰Ｎ4/ 内面：灰Ｎ4/	密	「天王□」
383	梵字瓦	長さ (10.0)	幅 (7.5)	厚さ 2.6	凹面：布目，ヘラケズリ 凸面：ナデ	外面：灰Ｎ4/ 内面：灰Ｎ4/	密	梵字
384	軒平瓦	長さ (13.7)	幅 (15.0)	瓦当高 4.6	凹面：縦方向のナデ，瓦当端を面取 凸面：縦方向のナデ，横方向の板ナデ 瓦当裏：横方向のナデ	外面：灰Ｎ5/ 内面：灰Ｎ5/	密	波状文
385	道具瓦	長さ (11.0)	幅 22.2	厚さ 1.9	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	密	
386	道具瓦	長さ (6.5)	幅 (4.2)		外面：ヘラナデ	外面：灰N4/	1mm以下の微砂を若干含む	
387	道具瓦	長さ (17.8)	幅 (4.3)	厚さ 1.7	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰Ｎ6/ 内面：オリーブ灰2.5ＧＹ6/1	密	
388	土錘	長さ (5.7)	幅 5.5	厚さ 4.0	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
389	スラグ							
390	土師質土器 皿	9.0	6.6	(1.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白10ＹＲ8/2 内面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
391	土師質土器 皿	8.8		(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5ＹＲ7/6 内面：橙5ＹＲ7/6	0.5mm以下の微砂を含む	
392	土師質土器 小皿	9.2		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡黄橙2.5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙5ＹＲ7/4	0.5mm以下の微砂を含む	
393	土師質土器 皿	9.6	7.0	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5ＹＲ7/4 内面：にぶい橙5ＹＲ7/4	0.5mm以下の微砂を多量に含む	底面：回転ヘラケズリ
394	土師質土器 皿	11.4		(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5ＹＲ7/4 内面：橙5ＹＲ7/6	0.5mm以下の微砂を含む	
395	土師質土器 皿	12.0		(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10ＹＲ8/1 内面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
396	土師質土器 杯	15.0		(3.0)	外面口縁部：回転ナデ 体部：回転ナデ後にヘラミガキ 内面：回転ナデ	外面：灰白N8/ 灰褐：7.5YR6/2	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切後にナデ
397	土師質土器 杯	18.6		(2.5)	外面口縁部：回転ナデ 体部：ヘラナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Ｙ7/1 内面：灰白2.5Ｙ8/2	0.5mm以下の微砂を含む	
398	土師質土器 杯		5.6	(3.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白N8/ 灰褐：灰白N8/	0.5mm以下の微砂を若干含む	
399	土師質土器 椀			(3.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕 内面口縁部：回転ナデ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：にぶい黄橙10ＹＲ7/3 内面：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を若干含む	
400	土師質土器 椀		6.0	(1.9)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白10ＹＲ8/2 内面：灰白10ＹＲ8/2	0.5mm以下の微砂を含む	
401	土師質土器 椀		5.2	(1.7)	外面：摩滅 内面：ナデ	外面：にぶい黄橙10ＹＲ7/2 内面：暗灰N3/	0.5mm以下の微砂を含む	内面：黒色
402	白磁 碗	16.4		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白7.5Y8/1 素地：灰白7.5Y7/1	精選	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
403	青磁 碗	22.4		(3.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白N7/1	精選	内面：鎬蓮弁文
404	青磁 碗			(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白N8/	精選	
405	青磁 碗			(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白5Y7/1	精選	
406	青磁 碗			(3.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N7/	精選	外面：花文
407	青磁 椀		5.4	(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：明緑灰10GY7/1 素地：灰白N7/	精選	
408	磁器 碗		4.0	(1.2)	外面：ナデ 内面：ナデ	釉：灰白10YR8/1 素地：灰白5YR8/1	密	見込みに砂目，高台に抉り
409	陶器 擂鉢	24.4		(4.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	2mmの石英，1mm以下の微砂を含む	
410	土師質土器 足釜	16.6		(3.9)	外面：ヨコナデ 内面口縁部：指頭圧痕後にヨコナデ 胴部：指頭圧痕後にハケ	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：灰黄褐10YR4/2	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
411	土師質土器 鍋			(5.5)	外面口縁部：ヨコナデ 胴部：指頭圧痕後，ナデ 内面：回転ナデ後にナデ	外面：灰黄褐10YR4/2 内面：にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の石英・長石・雲母を含む	
412	土師質土器 鍋			(4.2)	外面：粗いハケ 内面：板ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
413	備前 壷	12.1		(8.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白2.5Y8/2 素地：褐灰5YR4/1	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
414	備前 壷	12.4		(5.9)	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：回転ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面:にぶい黄褐10YR5/3	1mmの微砂，5mmの小石を含む	内外面・底面：煤付着
415	硯	長さ (8.8)	幅 (6.7)			外面：灰赤10R4/2 内面：灰赤10R4/2		粘板岩
416	土錘	長さ 8.5	幅 6.2		外面：ナデ	外面：橙7.5YR6/6	1mm～5mm以下の石英・長石を含む	重さ：273.2g
417	羽口	長さ (9.4)	直径 9.2			外面：褐灰10YR6/1	3mm以下の石英・長石を含む	スラグ付着
418	羽口					外面：にぶい橙2.5YR6/4	6mm以下の石英・長石・雲母を含む	
419	羽口					外面：にぶい橙10YR6/4	8mm以下の石英・長石・雲母を含む	
420	羽口					外面：にぶい橙10YR6/3	5mm以下の石英・長石，1mm以下の雲母を含む	
421	羽口					外面：にぶい橙7.5YR7/4	5mm以下の石英・長石を含む	
422	羽口					外面：にぶい赤褐2.5YR5/4	1～5mm以下の石英・長石・雲母を含む	
423	木製品	全長 10.6	幅 1.4	厚さ 1.0				
424	土師質土器 杯	12.8		(2.6)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
425	須恵器 杯				外面：回転ナデ 内面：指ナデ	外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	
426	土師質土器 杯	8.2		(3.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/6 内面：にぶい橙7.5YR6/6	1mm以下の石英を含む	外面に墨書（『華』あるいは『達』？）
427	土師質土器 杯				外面：摩滅 内面：指ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	回転糸切
428	土師質土器 杯		6.2	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：褐灰10YR5/1 内面：褐灰10YR5/1	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：ヘラ切後にヘラナデ
429	土錘	長さ 5.4	直径 1.1		外面：ナデ	外面：明赤褐2.5YR5/6	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：5.3g
430	土師質土器 椀		5.6	(1.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰N4/	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	内面：黒色
431	土師質土器 椀		5.8	(2.1)	外面体部：ナデ 高台：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：オリーブ黒5Y3/1 内面：淡黄2.5Y8/3	1mm以下の石英・微砂を含む	底面：回転ヘラ切
432	土師質土器 椀		8.2	(3.0)	外面体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	0.5mm以下の微砂を含む	
433	土師質土器 甕	36.4		(8.7)	外面：指頭圧痕後にハケ 内面口縁部：ナデ 体部：板ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：にぶい褐7.5YR5/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
434	瓦質土器 羽釜	26.0		(5.0)	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：灰N4/ 内面：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を含む	
435	土師質土器 椀	11.4	6.4	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/4	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切
436	土師質土器 足釜	22.4		(4.7)	外面：ヨコナデ，指頭圧痕 内面：指頭圧痕後に板ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の石英・長石を含む	
437	土師質土器 足釜			(5.6)	外面：ハケ，指頭圧痕 内面：ハケ	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
438	土師質土器 足釜				外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の石英・長石を含む	
439	弥生土器 高杯		16.8	(3.2)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	円孔：1個残存
440	瓦器 椀			(4.8)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
441	土師質土器 杯	12.6	7.2	2.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	0.5mm以下の微砂を含む	口縁部内外面：煤付着 底面：板目
442	土師質土器 壷	15.2		(6.0)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1mm以下の微砂を含む	
443	土師質土器 皿	9.6	5.2	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：灰白10YR8/1	0.5mm以下の微砂を含む	
444	陶器 甕			(4.2)	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	2mm以下の石英・長石を含む	底面：ヘラナデ
445	備前 擂鉢	26.4		(7.5)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：灰褐7.5YR5/2	2mm以下の石英・長石を含む	
446	土師質土器 杯	17.0		2.6	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	内面：黒色
447	須恵質土器 杯	13.9		(2.9)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白5Y7/1 内面：灰白5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
448	須恵質土器 杯	17.8		(3.0)	外面口縁部：ヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：暗灰N3/ 内面：灰白10Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	
449	須恵質土器 椀		5.6	(1.1)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ	外面：黄灰2.5Y5/1 内面：黄灰2.5Y5/1	0.5mm以下の微砂を多量に含む	底面：ナデ
450	瓦器 椀			(2.0)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切後にナデ
451	土師質土器 足釜			(5.3)	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
452	鉄釘	長さ (3.7)	幅 1.3	厚さ 1.2				
453	鉄釘	長さ (3.9)	幅 2.1	厚さ 0.7				
454	土師質土器 皿	5.4	5.0	0.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切
455	土師質土器 皿	5.8	5.0	0.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ
456	土師質土器 皿	6.4	5.4	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：浅黄橙7.5YR8/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切
457	土師質土器 皿	6.4	5.8	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ
458	土師質土器 皿	6.2	4.6	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，回転ヘラナデ
459	土師質土器 皿	6.0	5.0	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ
460	土師質土器 皿	6.7	4.2	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラケズリ
461	土師質土器 皿	8.0	4.0	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切
462	土師質土器 皿	8.8		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	0.5mm以下の微砂を若干含む	
463	土師質土器 皿	8.7	7.4	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面:にぶい黄橙10ＹＲ7/3 内面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・微砂を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
464	土師質土器 皿	10.4	8.4	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の微砂を含む	
465	土師質土器 皿	10.0		(2.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	0.5mm以下の微砂を含む	
466	土師質土器 皿	10.0		(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	
467	瓦器 皿	7.8		(2.0)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰5Y5/1	0.5mm以下の微砂を含む	
468	土師質土器 杯	11.8		(2.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の微砂を含む	
469	土師質土器 杯	13.2		(4.0)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：灰白10ＹＲ8/2	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	
470	土師質土器 杯		5.0	(0.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後に指ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラナデ
471	土師質土器 杯		5.8	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後に指ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：浅黄橙10ＹＲ8/4	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に回転指ナデ
472	土師質土器 杯		7.0	(1.2)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転糸切
473	土師質土器 杯		6.0	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/3	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
474	土師質土器 杯		8.4	(1.9)	外面：回転ナデ，ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：灰黄褐10YR5/2	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
475	須恵器 椀		5.2	(1.1)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：灰N6/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：板目
476	土師質土器 椀		5.6	(1.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
477	土師質土器 鍋	40.0		(2.3)	外面：ヨコナデ 内面口縁部：ハケ後にヨコナデ 体部：ハケ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	
478	土師質土器 甕	36.8		(3.2)	外面：ヨコナデ，ナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：にぶい褐7.5YR6/3	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
479	須恵器 捏ね鉢			(2.5)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	1mm以下の微砂を含む	
480	磁器 皿		3.6	0.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白5Y7/1 内面：灰白5Y7/2	微砂を若干含む	
481	珪化木							
482	円盤 (瓦)	直径 6.3		厚さ 2.2		外面：灰白10YR8/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2		重さ：94.5g
483	土師質土器 皿	8.0	3.5	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：橙5YR6/6	1mm以下の微砂を多量に含む	底面：静止糸切後に回転ヘラナデ
484	土師質土器 皿	8.2	6.0	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：浅黄橙10ＹＲ8/3 内面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目 口縁端部：煤付着
485	土師質土器 皿	7.2	5.4	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	1mm以下の微砂を含む	底面：未調整
486	弥生土器 高杯			(4.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
487	土師質土器 皿			(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の微砂を若干含む	
488	備前焼 甕			(5.3)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：褐灰5YR4/1	1mm以下の石英・細砂を含む	
489	磁器 碗	16.8		(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白5Y7/2 素地：灰白7.5Y7/1	密	
490	土師質土器 皿	8.6		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
491	土師質土器 杯	14.4		(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の微砂を含む	
492	土師質土器 杯	16.8		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の微砂を含む	内面：ロクロ成形痕
493	土師質土器 杯		6.0	(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
494	磁器 皿	9.7		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰白5Y8/1 素地：灰白5Y8/1	密	
495	備前焼 擂鉢			(6.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰赤2.5YR4/2 内面：にぶい赤褐2.5YR5/3	1mm～1cmの石英・粗砂を含む	
496	瓦器 椀	15.6		(3.5)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面口縁部：回転ナデ 体部：ヘラミガキ	外面：暗灰N3/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を多量に含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
497	木製品	長さ (20.8)	幅 (5.0)	厚さ 1.7				
498	鉄釘	長さ (4.0)	幅 0.4×0.4					
499	土師質土器 皿	7.8	5.6	1.1	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白10ＹＲ8/2 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	
500	土師質土器 皿	10.0		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
501	土師質土器 皿	10.4		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10ＹＲ8/3 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mmの石英，1mm以下の微砂を含む	
502	土師質土器 杯	11.6		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の微砂を含む	
503	土師質土器 杯	13.4		(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	
504	土師質土器 椀		3.6	(1.9)	外面：剥離 内面：摩滅	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰N4/	1mm以下の石英・長石を含む	内面：黒色
505	瓦器 椀		5.4	(1.5)	外面：ナデ，回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	1mm以下の石英・長石を含む	
506	須恵器 甕	20.9		(2.4)	外面：タタキ 内面：ヨコナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	2mm以下の石英・微砂を含む	
507	土師質土器 皿			(2.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
508	土師質土器 皿			(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1mm以下の微砂を含む	
509	土師質土器 皿	9.0		(1.7)	外面：ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	
510	土師質土器 杯		8.4	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
511	土師質土器 椀		5.6	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・長石を含む	
512	土師質土器 杯	15.3		(2.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白10YR8/2 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
513	土師質土器 杯			(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
514	土師質土器 杯		6.2	(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後にナデ
515	土師質土器 甕			(3.1)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい黄橙10YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR5/3	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
516	土師質土器 杯			(2.0)	外面：回転ヘラ切後に静止ヘラケズリ 内面：回転ナデ後に指ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：にぶい黄橙10YR7/4	2mm以下の石英・微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
517	土師質土器 杯		8.0	(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラナデ
518	土師質土器 皿	8.5	4.0	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
519	土師質土器 椀		4.2	(1.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の微砂を若干含む	
520	土師質土器 皿	9.4	8.6	0.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：橙2.5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
521	土師質土器 椀	14.0		(4.2)	外面：回転ナデ後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：黄灰2.5Y4/1	密	内面：黒色
522	土師質土器 杯	14.0		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の微砂を含む	
523	須恵器 捏ね鉢			(6.2)	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰白5Y8/1	2mm以下の石英・微砂を含む	東播系
524	須恵器 椀			(3.3)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・雲母を含む	
525	土師質土器 杯			(4.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰N7/ 内面：灰N7/	1mm以下の微砂を若干含む	
526	土師質土器 杯	15.4		(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	2mm以下の石英・長石を含む	
527	土師質土器 杯	15.0		(3.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
528	土師質土器 杯		6.2	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面:にぶい黄橙10ＹＲ7/3 内面:にぶい黄橙10ＹＲ7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面中央：板目　周縁：回転ナデ
529	土師質土器 椀		6.6	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：オリーブ黒5Y3/1	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	内面：黒色
530	瓦器 皿	9.2		(1.9)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を若干含む	
531	瓦器 椀			(2.6)	外面口縁部：回転ナデ 体部：ヘラミガキ 内面口縁部：回転ナデ 体部：ヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
532	瓦器 椀		6.0	(2.2)	外面：指頭圧痕，ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の石英・長石を含む	
533	土師質土器 甕			(3.6)	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：灰黄褐10YR6/2	1～2mm以下の石英・長石・雲母を含む	
534	弥生土器 壷	12.4		(1.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい褐7.5YR5/4 内面：灰黄2.5Y6/2	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
535	土師質土器 皿			(2.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の微砂を含む	
536	備前焼 擂鉢	7.4	3.9	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
537	土師質土器 杯			(5.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：明赤褐2.5YR5/6	1mm以下の微砂を含む	
538	円盤 (瓦)	直径 5.7		厚さ 2.5		外面：灰N6/ 内面：灰N6/		重さ：84.5g
539	鉄釘	長さ (7.9)	幅 0.4～0.7					
540	土師質土器 皿	5.2	4.5	0.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/6 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
541	土師質土器 皿	6.4	5.6	0.8	外面：回転ナデ 内面：摩滅	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ヘラナデ
542	土師質土器 皿	7.4		(0.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
543	土師質土器 皿	6.8	5.8	0.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：浅黄橙10YR8/3	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
544	土師質土器 皿	7.6	5.4	1.0	外面：回転ナデ，指ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：灰白10YR8/2	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
545	土師質土器 皿	8.8	7.2	1.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Ｙ8/2 内面：灰白2.5Ｙ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラナデ
546	土師質土器 皿	9.9	6.4	(1.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：浅黄橙10YR8/3	0.5mm以下の微砂を多量に含む	
547	土師質土器 皿	8.0		(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
548	土師質土器 皿	8.4	4.8	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	口縁部：煤付着 底面：回転ヘラナデ
549	土師質土器 皿	8.0	4.6	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	底面：ヘラナデ
550	土師質土器 皿	8.2	4.4	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
551	土師質土器 皿	7.8	4.6	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
552	土師質土器 皿	9.1	5.2	1.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ヘラナデ
553	土師質土器 皿	8.5		(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	
554	土師質土器 皿	8.8		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
555	土師質土器 皿	9.0		(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラケズリ
556	土師質土器 皿（灯明皿）	9.0	5.8	2.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1～2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	内外面：煤付着
557	土師質土器 皿	9.0		(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙2.5YR6/6 内面：にぶい橙2.5YR6/4	1mm以下の石英・長石を含む	
558	土師質土器 皿	9.0	4.8	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	
559	土師質土器 皿	9.2	5.6	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	
560	土師質土器 皿	9.4		(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
561	土師質土器 皿	9.6	6.4	(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙5YR7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	
562	土師質土器 皿	9.0	5.1	1.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
563	土師質土器 皿	8.8		(1.5)	外面：回転ナデ後にナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
564	土師質土器 皿	9.8	6.6	(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙7.5YR7/3 内面：にぶい黄橙7.5YR7/3	3mm以下の石，0.5mm以下の微砂を含む	
565	土師質土器 皿（灯明皿）	9.1	4.6	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：静止ヘラナデ 口縁部内面～底部外面煤付着
566	土師質土器 皿	9.8		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
567	土師質土器 皿（灯明皿）	10.0	6.2	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙2.5YR6/6 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の微砂を若干含む	内外面：煤付着
568	土師質土器 皿	10.0	5.2	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
569	土師質土器 皿	5.0	9.2	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR6/3 内面：にぶい橙5YR6/3	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ヘラナデ
570	土師質土器 皿	5.0		(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/3 内面：にぶい橙5YR6/4	2mm以下の石英・長石を含む	
571	土師質土器 皿	10.3		(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙2.5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
572	土師質土器 皿	10.8	8.2	(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡橙5YR8/4 内面：橙5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
573	土師質土器 皿（灯明皿）	10.9	7.0	1.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ヘラナデ	外面：灰白2.5YR8/2 内面：灰白2.5YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転糸切 内外面：煤付着
574	土師質土器 皿	9.0		(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石を含む	
575	土師質土器 皿	7.8	4.4	(1.7)	外面：ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	
576	土師質土器 皿	10.2	6.4	1.3	外面：ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目
577	土師質土器 皿	11.6	8.4	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：静止糸切
578	土師質土器 皿	9.0	4.2	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	口縁部:煤付着 底面：ナデ
579	土師質土器 皿（灯明皿）	8.4	4.6	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	口縁端部煤付着 底面：板目，ナデ
580	土師質土器 皿	8.6	5.3	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	3mmの石英，1mm以下のb微砂を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
581	土師質土器 皿	10.4	6.6	(1.7)	外面：ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石を含む	
582	土師質土器 杯	7.8		(3.0)	外面：回転ナデ，ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	
583	土師質土器 杯	8.3	5.9	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，接合痕	外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y7/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
584	土師質土器 杯	9.0	5.4	2.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：浅黄2.5Y7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ナデ
585	土師質土器 杯	9.0	5.8	(2.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ヘラナデ
586	土師質土器 杯	9.4	5.8	(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラナデ
587	土師質土器 杯	9.8	5.8	2.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ナデ
588	土師質土器 杯	10.0	6.0	2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Y R8/2 内面：灰白7.5Y R8/2	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
589	土師質土器 杯	9.9	7.0	(2.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/4	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
590	土師質土器 杯	10.4	7.6	(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
591	土師質土器 杯	10.3		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	外面：黒斑あり
592	土師質土器 杯	11.0	7.2	(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
593	土師質土器 皿	10.4	6.4	(3.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：静止ヘラケズリ
594	土師質土器 杯	10.6	7.8	(2.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰5Y5/1 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：ヘラナデ
595	土師質土器 杯	11.2		(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
596	土師質土器 杯	11.6	7.8	(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
597	土師質土器 杯	11.4		(2.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：黄灰2.5Y5/1 内面：褐灰5YR6/1	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラナデ
598	土師質土器 杯	11.2	7.6	(2.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ヘラナデ

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
599	土師質土器 杯	11.2	5.2	2.5	外面：回転ナデ，ヘラナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ヘラナデ
600	土師質土器 杯	10.6	7.0	3.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
601	土師質土器 杯	11.0	6.4	2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
602	土師質土器 杯	10.8	6.2	2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切後にナデ
603	土師質土器 杯	11.8	7.8	(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1～2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
604	土師質土器 杯	11.3	6.4	2.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
605	土師質土器 杯	10.8	6.9	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
606	土師質土器 杯	12.0		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ナデ
607	土師質土器 杯	11.8	8.2	2.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
608	土師質土器 杯	12.7		(3.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	内外面口縁部：黒斑あり
609	土師質土器 杯	13.0	8.0	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
610	土師質土器 杯	12.2	6.6	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
611	土師質土器 杯	12.4	6.8	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石・角閃石を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
612	土師質土器 杯	14.2		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N7/ 内面：灰N7/	密	
613	土師質土器 杯	13.6		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Y8/1 内面：灰白N8/	0.5mm以下の微砂を多く含む	
614	土師質土器 杯	15.0		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：褐灰10YR6/1 内面：灰白2.5Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	
615	土師質土器 杯	14.4		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10Y8/1 内面：灰白7.5Y7/1	0.5mm以下の石英・長石を含む	
616	土師質土器 杯	17.0		(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・微砂を含む	
617	土師質土器 杯	16.0	9.4	(1.9)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	内面：黒斑あり
618	土師質土器 杯		6.0	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を含む	底面：静止糸切
619	土師質土器 杯		5.1	(0.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：静止糸切
620	土師質土器 杯		6.4	(0.9)	外面：ハケナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：静止糸切
621	土師質土器 杯		5.2	(1.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転糸切
622	土師質土器 杯		8.8	(1.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：褐灰10YR5/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラナデ
623	土師質土器 杯		8.0	(1.5)	外面：回転ナデ後にヘラケズリ 内面：回転ナデ後にヘラナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラナデ
624	土師質土器 杯		7.0	(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
625	土師質土器 杯		5.4	(1.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：灰白10YR8/2	0.5mm以下の石英・長石を含む	
626	土師質土器 杯		8.3	(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
627	土師質土器 杯		6.2	(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
628	土師質土器 杯		6.2	(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：黒褐10YR3/1	1mm以下の石英・長石を含む	内面：黒斑 底面：ヘラナデ
629	土師質土器 杯		7.0	(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
630	土師質土器 杯		8.4	(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5Y8/1 内面：灰白7.5Y8/1	1mm以下の微砂を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
631	土師質土器 杯		8.4	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：灰白N8/ 内面：灰白N8/	密	底面中央：板目 周辺：回転ヘラナデ
632	土師質土器 椀	11.6		(4.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：褐灰5YR4/1	1mm以下の微砂を含む	
633	土師質土器 椀	15.1		(3.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
634	土師質土器 椀			(2.0)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
635	須恵器 杯	15.0		(2.1)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：灰白10YR7/1 内面：灰白10YR7/1	1mm以下の微砂を若干含む	
636	須恵器 杯	12.8		(2.9)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：灰白10YR7/1	微砂を若干含む	
637	黒色土器A類 椀		6.0	(1.8)	外面：回転ナデ 内面：摩滅	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白N7/	1mm以下の石英・長石を含む	
638	瓦器 椀	14.4		(2.5)	外面：回転ナデ後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1mm以下の微砂を若干含む	
639	瓦器 椀	16.0		(3.2)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕，ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1mm以下の微砂を若干含む	
640	瓦器 椀	15.9		(2.3)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
641	瓦器 椀	17.8		(3.2)	外面：指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：黒褐2.5Y3/1 内面：黒褐2.5Y3/1	微砂を含む	
642	瓦器 椀		5.0	(0.9)	外面高台：ヨコナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
643	瓦器 椀		5.2	(2.0)	外面体部：指頭圧痕 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
644	瓦器 椀		5.6	(0.9)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
645	瓦器 椀		6.0	(2.5)	外面：指頭圧痕 内面：ヘラミガキ，暗文	外面：灰N4/ 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
646	瓦器 椀		5.1	(0.9)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ，暗文	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：灰白N7/	1mm以下の微砂を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
647	瓦器 椀		6.8	(1.9)	外面高台：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白5Y8/1 内面：灰白5Y8/1	0.5mm以下の微砂を含む	
648	瓦器 椀		3.0	(2.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の石英・長石を含む	
649	青磁 碗	11.8		(4.5)	外面：鎬蓮弁	釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白N8/1	密	
650	青磁 碗	16.8		(6.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精密	外面：蓮花文
651	青磁 碗	13.4		(3.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精選	外面：蓮花文
652	青磁 碗			(3.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精選	
653	青磁 碗			(3.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精選	
654	青磁 碗			(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：緑灰7.5G6/1 素地：灰白N7/	精選	
655	青磁 碗	12.2		(1.6)		釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	密	
656	青磁 碗	14.8		(4.0)		釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	密	
657	青磁 碗			(3.2)		釉：明緑灰10GY7/1 素地：灰白N8/1	密	
658	青磁 碗			(3.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：緑灰5G6/1 素地：灰白N7/	精選	外面：蓮花文
659	青磁 碗		6.6	3.3	外面：回転ヘラケズリ，施釉（高台内側露胎） 内面：施釉	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白10Y7/1	密	見込み文様あり 中国龍泉窯系 内外面：貫入
660	青磁 碗	13.0		(1.9)		釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	密	
661	青磁 碗	17.6		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰オリーブ7.5Y5/2 素地：灰白10Y7/1	精選	
662	青磁 碗	15.6		(3.4)		釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白N8/	密	
663	青磁 皿	27.8		(3.0)		釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	密	
664	青磁 香炉	7.0		(3.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰2.5GY6/1 内面：灰白N7/	精選	
665	青磁 水注					釉：オリーブ灰10Y5/2 素地：灰白N8/	精選	
666	白磁 杯	8.8		(1.7)	外面：回転ナデ，施釉 内面：回転ナデ，施釉	釉：透明 素地：灰白2.5Y8/1	密	
667	白磁 杯	10.2		(2.1)	外面：回転ナデ，施釉（体部・下半露胎） 内面：回転ナデ	釉：透明 素地：灰白2.5Y8/1	密	
668	白磁 杯	10.2		(1.9)	外面：回転ナデ，施釉（体部下半露胎） 内面：施釉	釉：透明 素地：灰白5Y8/1	密	
669	白磁 杯			(2.1)	外面：回転ナデ，施釉 内面：回転ナデ，施釉	釉：透明 素地：灰白5Y8/1	密	
670	白磁 碗	16.4		(2.4)	外面：回転ナデ，施釉 内面：回転ナデ，施釉	釉：透明 素地：灰白7.5Y8/1	密	
671	白磁 碗		7.2	(2.3)	外面：回転ナデ 施釉（高台畳付より内側露胎） 内面：施釉	釉：明緑灰10GY8/1 素地：灰白5Y8/1	密	
672	土師質土器 鉢	15.4		(4.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：赤10R5/6 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
673	土師質土器 鉢	40.0		(6.5)	外面：ヨコナデ，ヘラナデ 内面：板ナデ	外面：灰N5/0 内面：灰N5/0	1～2mmの石英，1mm以下の微砂を含む	
674	土師質土器 捏鉢	22.4		(6.6)	外面：摩滅 内面：ヘラナデ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1～2mm以下の石英・長石を含む	
675	須恵器 鉢	25.0		(5.1)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：灰白2.5YR8/1 内面：灰白2.5YR8/1	1mmの石英，1mm以下の微砂を含む	東播系
676	須恵器 鉢	12.0		(9.8)	外面：回転ナデ 内面：指ナデ，ナデ	外面：灰白N8/ 内面:灰白N7/	1～4mmの石英・細礫を含む	東播系
677	土師質土器 甕	28.0		(4.6)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
678	土師質土器 甕	27.4		(6.7)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ハケ 体部：板ナデ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	外面：煤付着
679	土師質土器 甕	33.2		(6.1)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ハケ，ナデ 内面：ハケ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：橙5YR6/6	2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：煤付着
680	土師質土器 甕	35.0		(5.9)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面口縁部：ハケ後にナデ 体部：ヨコハケ	外面：にぶい褐7.5ＹＲ7/3 内面：にぶい褐7.5ＹＲ6/4	1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	外面体部：煤付着
681	土師質土器 甕	16.2		(4.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：タテハケ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ヨコハケ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
682	土師質土器 甕	19.0		(7.0)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコナデ，ハケ 体部：ヘラナデ，指頭圧痕	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい橙5YR6/4	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	
683	土師質土器 甕	21.0		(4.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，タテハケ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ヨコハケ	外面：にぶい橙10YR7/2 内面：にぶい橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	
684	土師質土器 甕	21.8		(6.4)	外面口縁部：ヨコナデ，接合痕 体部：指頭圧痕，接合痕 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mmの細砂を含む	
685	土師質土器 甕	25.0		(6.4)	外面口縁部：指頭圧痕，回転ナデ 体部上半：指頭圧痕 内面：ハケ	外面：橙7.5YR6/6 内面：橙7.5YR6/6	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
686	須恵器 甕			(5.8)	外面頸部：ナデ 体部：格子目タタキ 内面頸部：ヘラナデ 体部：ナデ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	密	剥離が著しい
687	須恵器 甕			(5.8)	外面：剥離 内面：剥離	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰黄2.5Y7/2	やや粗	
688	陶器 甕	30.0		(8.4)	外面：回転ナデ 内面：ヘラナデ	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：褐灰2.5Y4/1	1mm以下の石英・長石を含む	
689	陶器 甕		15.6	(6.6)	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ，ナデ	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	3mm以下の石英・長石を含む	底面：未調整

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
690	陶器 壺		11.0	(9.8)	外面：回転ナデ，ヘラナデ 内面：回転ナデ	釉：浅黄5Y7/3 素地：灰N5/	0.5mm以下の微砂を若干含む	底面：回転糸切後にナデ
691	須恵器 壷	24.6		(2.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N6/	微砂を含む	瓦質
692	備前焼 壺			(7.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N6/	密	
693	備前焼 壷	31.6		(14.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ，自然釉 内面口縁部：ヨコナデ 体部：板ナデ，ヘラナデ	外面：にぶい赤褐2.5YR4/3 内面：灰赤2.5Y4/2	やや密	
694	備前焼 壷	10.6		(8.6)	外面：回転ナデ，自然釉 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	やや密	外面体部：自然釉付着
696	備前焼 壺			(2.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，自然釉	外面：黒N2/ 内面：オリーブ灰2.5GY6/1	やや密	
697	備前焼 壷	12.0		(4.9)	外面：回転ナデ，自然釉 内面：回転ナデ，ヘラナデ	外面：にぶい赤褐2.5Y4/3 内面：灰N4/	やや密	外面：自然釉付着
698	備前焼 壺			(4.2)	外面：回転ナデ，自然釉 内面：回転ナデ	外面：黄灰2.5Y4/1 内面：灰N5/	やや密	
699	備前焼 甕			(6.7)	外面：ナデ 内面：ヘラナデ，ナデ	外面：褐灰10YR6/1 内面：灰褐7.5YR5/2	1mm以下の微砂を多量に含む	外面：ヘラ記号あり
700	備前焼 甕	28.0		(10.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：褐7.5YR4/4 内面：褐灰7.5YR6/1	やや粗	沈線文，波状文
701	備前焼 甕			(6.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰オリーブ5Y5/2 素地：にぶい褐7.5YR5/4	1mm以下の微砂を若干含む	自然釉付着
702	備前焼 甕	26.0		(5.3)	外面：回転ナデ，ヘラナデ 内面：回転ナデ	外面：黒褐10YR3/1 内面：灰N4/	1～3mmの細～粗砂を含む	波状文
703	備前焼 甕	23.4		(8.3)	外面体部：タテハケメ，指頭圧痕 底部：ヘラナデ 内面：回転ナデ	外面：灰赤7.5R4/2 内面：暗赤灰7.5R4/1	やや密	内面：自然釉付着
704	備前焼 甕	37.4		(9.9)	外面：ヘラナデ 内面：ナデ，ヘラケズリ，回転ナデ	外面：明赤褐5YR5/6 内面：にぶい赤褐2.5YR5/4	1～3mmの細砂，0.5mmの微砂を含む	底面：ヘラナデ
705	備前焼 甕	26.0		(21.1)	外面：タテハケメ，指頭圧痕 内面：板ナデ，指頭圧痕	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：褐灰5YR5/1	やや密	
706	備前焼 擂鉢	25.2		(6.2)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ，擂目	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/4	2～5mmの細礫，0.5mm以下の微砂を含む	
707	備前焼 擂鉢	28.0		(8.8)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ，擂目	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
708	備前焼 擂鉢	32.0		(6.7)	外面：ナデ 内面：ナデ，擂り目	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：灰白2.5YR8/2	密	
709	備前焼 擂鉢	34.8		(6.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：褐灰7.5YR4/1 内面：黄灰2.5Y4/1	1mm以下の微砂を含む	
710	備前焼 擂鉢	33.7		(6.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，擂目	外面：にぶい赤褐2.5YR5/4 内面：灰赤2.5YR4/2	1～2mmの石英，細砂を若干含む	
711	備前焼 擂鉢	28.2		(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，擂り目	外面：灰黄褐10YR4/2 内面：黄灰2.5Y4/1	1mm以下～3mmの石英・長石を含む	
712	備前焼 擂鉢	28.6	11.8	10.6	外面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコナデ 体部：回転ナデ	外面：灰赤10R4/2， 暗灰黄2.5Y5/2 内面：灰赤10R4/2	1～3mmの細砂，0.5mm以下の微砂を含む	底面：ナデ
713	備前焼 擂鉢			(5.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，擂目	外面：明赤灰10R4/1 内面：明赤灰10R4/1	1mmの石英，0.5mmの微砂を含む	
714	備前焼 擂鉢			(6.3)	外面：回転ナデ，ナデ 内面：回転ナデ	外面：明赤褐2.5YR5/6 内面：明赤褐2.5YR5/6	やや密	
715	備前焼 擂鉢		14.8	(3.5)	外面：ヘラケズリ 内面：ナデ，擂り目	外面：にぶい赤褐5YR5/3 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	
716	土師質土器 擂鉢	33.0		(6.1)	外面：ヨコナデ，指頭圧痕 内面：ヨコナデ，ヘラナデ	外面：灰5Y4/1 内面：オリーブ黒5Y3/1	4mm以下の石英・長石を角閃石を含む	
717	土師質土器 鍋	42.0		(4.1)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ	外面：褐灰7.5YR4/1 内面：にぶい褐7.5YR5/3	3mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	外面：煤付着
718	土師質土器 鍋	43.6		(4.2)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：タテハケ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコハケ 体部：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
719	土師質土器 鍋	42.8		(8.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ	外面：黒褐7.5YR3/1 内面：にぶい褐7.5YR5/4	1mm以下の石英・長石を含む	外面：煤付着
720	土師質土器 鍋	45.0		(13.2)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/4	3mm以下の石英・長石・雲母を含む	外面：煤付着
721	土師質土器 足釜			(20.4)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
722	土師質土器 足釜			(14.1)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
723	土師質土器 足釜	16.2		(3.8)	外面口縁部：ナデ 体部：指頭圧痕 内面：ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
724	土師質土器 足釜	16.9			外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕 内面：ヨコハケ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙.5YR6/4	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	体部外面：煤付着
725	土師質土器 足釜	19.0			外面口縁部：ヨコナデ，指頭圧痕 体部：タテハケ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコハケ，指頭圧痕 体部：ヨコハケ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母を含む	
726	土師質土器 足釜	19.0		(7.5)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕 内面：ヘラナデ	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい赤褐5YR5/4	3mm以下の石英・長石・雲母を多量に含む	
727	土師質土器 足釜	24.9		(12.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕後にハケ，板ナデ	外面：灰白10YR8/1 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外面：接合痕
728	土師質土器 足釜	25.2		(5.4)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：ハケ後にヘラナデ 内面：ハケ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を少々含む	
729	土師質土器 足釜	22.8		(9.7)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ヘラナデ，指頭圧痕	外面：にぶい褐7.5YR5/3 内面：灰黄褐10YR5/2	1mm～3mm以下の石英・長石を含む	
730	土師質土器 足釜	27.6		(8.5)	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ヘラナデ，指頭圧痕	外面：灰黄褐10YR5/2 内面：褐灰10YR6/1	1mm以下の長石・角閃石・雲母を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
731	土師質土器 足釜	21.2		(4.0)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ，板ナデ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N8/	密	
732	土師質土器 羽釜	29.6		(3.1)	外面口縁部：ヨコナデ 鍔部：ヨコハケ 体部：タテハケ 内面：ヨコハケ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
733	土師質土器 風炉	22.5		(5.8)	外面：ヨコナデ，ヘラミガキ 内面：ヨコナデ	外面:にぶい黄橙10ＹＲ7/3 内面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	1mm以下の長石・雲母を含む	
734	土師質土器 風炉	26.0		(12.1)	外面：ナデ，ヘラミガキ 内面：回転ナデ，ヘラナデ	外面：にぶい橙2.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
735	土師質土器 火鉢		29.0	(18.0)	外面：ナデ 内面：ヘラナデ，ナデ	外面：橙2.5ＹＲ6/6 内面：橙5ＹＲ6/6	1mm以下の石英，長石，金雲母を含む	
736	土師質土器 火鉢	27.4		(13.4)	外面口縁部：ヨコナデ 脚部：指頭圧痕，ヘラナデ，ナデ 内面：板ナデ	外面：黄灰2.5Y5/1 内面：灰5Y6/1	やや密	
737	土師質土器 火舎	9.0		(2.8)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：黄灰2.5Y6/1	0.5mm以下の微砂を含む	脚部欠損，渦巻文のスタンプ
738	磁器 蓋	10.7		(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，施釉（口縁部）	釉：オリーブ黄7.5Y6/3 素地：灰白10YR7/1	密	
739	磁器 碗	12.0		(2.5)	外面：回転ナデ，施釉 内面：回転ナデ，施釉	外面：黒7.5Y2/1 内面：灰白7.5Y7/1	密	
740	陶器 碗	11.2		(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰褐5YR6/2 内面：灰赤2.5YR5/2	やや密	
741	磁器 碗		4.6	(1.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，施釉	釉：灰オリーブ7.5Y6/2 素地：にぶい黄橙10YR6/4	密	
742	磁器 碗		5.4	(1.8)	外面：回転ナデ，施釉（高台露胎） 内面：施釉	釉：淡黄2.5Y8/3 素地：灰白2.5Y8/1	密	
743	磁器 碗			(2.7)	外面：回転ナデ，回転糸切， 施釉（高台内側露胎） 内面：回転ナデ，施釉（見込のみ）	釉：オリーブ黄7.5Y6/3 素地：灰白2.5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切，回転ヘラナデ
744	弥生土器 甕	7.4		(3.8)	外面：ナデ 内面：ハケメ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR5/3	3mm以下の石英・長石・雲母を含む	
745	土製品	人形 残存高 7.7 座 残存高 1.8	人形 残存幅 4.5 座 残存幅 4.0		外面：ナデ 内面：上下に貫通する穿孔	外面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
746	石鍋	21.4		(4.0)			滑石	石鍋を加工して再使用
747	石鍋			(5.1)			滑石	
748	銭	径 2.5		厚さ 1.5				永楽通宝
749	青銅品	長さ (1.2)	幅 0.7	厚さ 0.1				
750	鉄釘	長さ (8.0)	幅 0.2～0.6					
751	鉄釘	長さ (5.0)	幅 0.7×0.8					
752	軒丸瓦	長さ 31.6	直径 16.5		凹面：布目，コビキＢ，両側辺と玉縁を面取 凸面：縦方向のナデ，釘穴 瓦当裏面：横方向のナデ，周縁にそってナデ 瓦当顎：横方向のナデ，周縁にそってナデ	外面：灰N4/0 内面：灰N4/0	密	三巴文，珠文17個
753	軒平瓦	瓦当高 5.1	長さ (11.4)	幅 (13.8)	凹面：布目，瓦当端を面取 凸面：縦方向の板ナデ，コビキＢ？ 瓦当裏：横方向のナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	やや密	
754	鬼瓦		幅 (11.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰N5/0	密	
755	土錘	長さ 6.2	幅 4.9	厚さ 5.2	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：129.8ｇ
756	土錘	長さ 7.8	幅 6.3	厚さ (3.5)	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙5ＹＲ6/4	4mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	重さ：134.4ｇ
757	土錘	長さ (7.6)	幅 6.5	厚さ 6.2	外面：ナデ	外面：橙5ＹＲ6/6	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：267.2ｇ
758	土錘	長さ 8.0	幅 5.9	厚さ 5.9	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙5ＹＲ7/4	4mm以下の石英・長石を含む	重さ：244.2ｇ
759	土錘	長さ 8.2	幅 6.0	厚さ 5.9	外面：ナデ	外面：灰白2.5Y8/2	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：259.3ｇ
760	土錘	長さ 8.4	幅 5.9	厚さ 6.3	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：248.6ｇ
761	土錘	長さ 8.6	幅 6.6	厚さ 6.2	外面：ナデ	外面：橙5ＹＲ6/8	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：297ｇ
762	土錘	長さ 8.5	幅 5.9	厚さ (3.1)	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：浅黄橙10ＹＲ8/4	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：123.6ｇ
763	土錘	長さ 8.7	幅 5.1	厚さ 5.0	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい褐7.5ＹＲ5/4	5mm以下の石英・長石・雲母を含む	重さ：212.2ｇ
765	土錘	長さ 8.7	幅 5.7	厚さ 6.4	外面：ナデ	外面：明褐7.5ＹＲ5/6	4mm以下の石英・長石・金雲母を含む	重さ：298.7ｇ
765	土錘	長さ 8.6	幅 5.0	厚さ 5.8	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/3	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	重さ：238.2ｇ
766	土錘	長さ 8.8	幅 (4.8)	厚さ 5.9	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：浅黄橙10ＹＲ8/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	重さ：213.7ｇ
767	土錘	長さ 8.8	幅 5.9	厚さ 5.9	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：浅黄橙7.5ＹＲ8/4	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：241.1ｇ
768	土錘	長さ 8.8	幅 5.7	厚さ (3.7)	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：橙5ＹＲ6/6	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	重さ：154.1ｇ
769	土錘	長さ 8.8	幅 6.3	厚さ 6.3	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙5ＹＲ6/4	2mm以下の石英・長石・金雲母を含む	重さ：305.2ｇ
770	土錘	長さ 9.1	幅 5.0	厚さ 5.7	外面：ナデ，指頭圧痕	外面:にぶい黄橙10ＹＲ6/3	2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：267.4ｇ
771	土錘	長さ 9.1	幅 6.2	厚さ 6.3	外面：ナデ	外面：橙5ＹＲ6/6	3mm以下の石英・長石・雲母を含む	重さ：309.6ｇ
772	土錘	長さ 9.0	幅 (6.6)	厚さ 6.2	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：浅黄橙7.5ＹＲ8/4	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：293.5ｇ
773	土錘	長さ 9.0	幅 6.2	厚さ 5.9	外面：ナデ	外面：橙5ＹＲ6/6	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：284.7ｇ
774	土錘	長さ 9.2	幅 6.1	厚さ 6.1	外面：ナデ	外面：橙7.5YR6/6	5mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：335.8ｇ
775	土錘	長さ 9.2	幅 6.3	厚さ 6.4	外面：ナデ	外面：にぶい褐7.5Y6/4	5mm以下の石英・長石を含む	重さ：315.4ｇ

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
776	土錘	長さ 9.3	幅 (6.4)	厚さ 6.2	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4	3mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	重さ：293.3ｇ
777	土錘	長さ 9.4	幅 (6.6)	厚さ 5.5	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5ＹＲ6/4	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	重さ：298.2ｇ
778	土錘	長さ 9.5	幅 5.4	厚さ 6.1	外面：ナデ	外面：にぶい赤褐5ＹＲ5/4	2mm以下の石英・長石・金雲母を含む	重さ：294.4ｇ
779	土錘	長さ 10.2	幅 5.8	厚さ 6.0	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：橙7.5ＹＲ6/6	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	重さ：339.5ｇ
780	土錘	長さ 10.7	幅 (5.7)	厚さ 5.4	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ	2mm以下の石英・長石・金雲母を少々含む	重さ：286.9ｇ
781	土錘	長さ 8.8	幅 5.9	厚さ 5.3	外面：ナデ，指頭圧痕	外面:にぶい黄橙10ＹＲ7/3	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：232.4ｇ
782	土錘	長さ 6.5	直径 3.4		外面：ナデ	外面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：70.4ｇ
783	土錘	長さ 6.1	直径 4.1		外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	2mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	重さ：101ｇ
784	土錘	長さ 7.3	直径 4.8		外面：ナデ	外面：灰黄2.5Ｙ7/2	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：77.9ｇ
785	土錘	長さ 7.7	直径 5.0		外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：201.5ｇ
786	土錘	長さ 7.3	直径 6.0		外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5ＹＲ7/4	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：114.9ｇ
787	土錘	長さ 7.2	直径 4.6		外面：ナデ	外面:にぶい黄橙10ＹＲ7/3	2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：123.6ｇ
788	土錘	長さ 4.7	直径 1.2		外面：ナデ	外面：灰白10ＹＲ8/2	1mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	重さ：6.8ｇ
789	羽口					外面：赤褐10R6/6	1～5mmの石英・長石を含む	
790	羽口					外面：灰黄褐10YR6/2 内面：橙2.5YR6/8	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
791	羽口					外面：にぶい赤褐7.5YR5/3 内面：にぶい赤褐7.5YR5/3	6mm以下の石英・長石・雲母を含む	
792	羽口					外面：橙2.5YR6/8	1cm以下の石英・長石・雲母を含む	
793	羽口					外面：にぶい赤褐2.5YR5/4	3mm以下の長石・雲母を含む	
794	羽口					外面：灰黄褐10YR6/2	4mm以下の石英・長石・雲母を含む	
795	羽口					外面：黄灰2.5Y6/1	5mm以下の石英・長石，1mm以下の雲母を含む	
796	羽口					外面：にぶい橙2.5YR6/4 内面：にぶい橙2.5YR6/4	1～5mmの石英・長石を含む	
797	羽口					外面：黄灰2.5Y4/1 内面：にぶい赤褐5YR5/4	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
798	羽口					外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1～7mmの石英・長石・角閃石・雲母を含む	
799	羽口					外面：明赤褐2.5YR5/8	4mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	
800	羽口					外面：にぶい赤褐2.5YR5/4	5mm以下の石英・長石，1mm以下の雲母を含む	
801	羽口					外面：赤褐10R5/4 内面：赤褐10R5/4	5mm以下の石英・長石・雲母を含む	
802	羽口					外面：明赤褐2.5YR5/6	5mm以下の石英・長石・雲母を含む	
803	羽口					外面：明赤褐2.5YR5/6 にぶい橙5YR6/3	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	穴の中に木炭
804	土師質土器 皿	6.9	6.4	1.7	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：ナデ
805	土師質土器 皿	6.6	2.7	1.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
806	土師質土器 皿	8.0	5.0	1.6	外面：回転ナデ，回転ヘラ切 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
807	土師質土器 皿	8.8	5.2	1.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：淡黄2.5Y8/3	0.5mm以下の石英・長石・角閃石を含む	底面：回転ヘラ切 内外面：煤付着
808	土師質土器 皿	9.2		(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	
809	土師質土器 皿	9.2		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
810	土師質土器 皿	9.0		1.9	外面：摩滅	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/2	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	
811	土師質土器 皿	9.6		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	
812	土師質土器 杯	9.6	6.1	2.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に静止ヘラナデ
813	土師質土器 杯	9.5	5.8	2.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ヘラナデ
814	土師質土器 杯	10.8		(2.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	
815	土師質土器 杯	10.0	6.0	2.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：にぶい橙7.5YR7/3	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
816	土師質土器 杯	10.2		3.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/2	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に静止ヘラナデ
817	土師質土器 杯	10.2	5.4	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
818	土師質土器 杯	10.4		(2.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
819	土師質土器 杯	10.8		(2.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：灰黄褐10YR5/2	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	
820	土師質土器 杯	10.6	7.0	2.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	
821	土師質土器 杯	11.0	6.0	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
822	土師質土器 杯	11.6		(2.4)	外面：回転ナデ後にナデ 内面：回転ナデ後にナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白2.5YR8/1	1mm以下の石英・長石を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
823	土師質土器 杯	11.6	6.8	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
824	土師質土器 杯	12.4		(2.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
825	土師質土器 杯	11.2	7.4	2.3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：ナデ
826	須恵器 杯	10.6	6.4	(3.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N5/ 内面：灰N4/	1mm以下の微砂を含む	底面：静止ヘラナデ
827	土師質土器 杯	11.2	7.8	(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
828	土師質土器 杯	11.4	8.2	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	
829	土師質土器 杯	11.6	8.0	2.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
830	須恵器 杯	11.8	7.2	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白2.5Y8/1 内面：灰白2.5Y8/1	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を若干含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ヘラナデ
831	瓦器 杯	12.6		(2.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	0.5mm以下の微砂を含む	
832	土師質土器 杯	13.4	6.8	(2.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/2	0.5mm以下の微砂を若干含む	
833	土師質土器 杯	13.4		(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後にナデ	外面：灰白5Y8/1 内面：灰5Y6/1	0.5mm以下の石英・長石を含む	
834	土師質土器 杯	13.8		(2.1)	外面：回転ナデ 内面：ヘラナデ	外面：灰白7.5YR8/2 内面：灰白7.5YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	
835	土師質土器 杯		5.6	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	0.5mm以下の微砂を含む	底面：板目後にナデ
836	土師質土器 杯		4.8	(0.9)	外面：回転ナデ 内面：摩滅	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目後に回転ヘラナデ
837	土師質土器 杯		7.9	(0.65)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡黄2.5Y8/4 内面：淡黄2.5Y8/4	3mmの石英，0.5mm以下の微砂を若干含む	底面：静止ヘラ切後に回転ヘラナデ
838	土師質土器 杯		6.2	(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ヘラナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/3 内面：灰白10YR7/1	1mm以下の石英・長石を少々含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
839	土師質土器 椀		高台径 6.2	(1.3)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：黒褐10YR3/1	0.5mm以下の微砂を含む	黒斑
840	土師質土器 椀		6.8	(1.7)	外面：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：淡黄2.5Y8/3	0.5mm以下の微砂を若干含む	底面：ヘラナデ
841	瓦器 皿	9.8	6.6	1.8	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：ヘラミガキ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	0.5mm以下の微砂を含む	
842	瓦器 椀	16.0	2.6	5.4	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：暗灰N3/ 内面：暗灰N3/	1～2mmの粗砂，0.5mm以下の微砂を含む	和泉型
843	青磁 碗	11.4		(4.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精選	
844	青磁 碗	11.6		(4.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精選	
845	青磁 碗			(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：灰白N8/	精選	外面：蓮花文
846	青磁 碗		6.2	(3.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：明緑灰10GY7/1 素地：灰白N8/	密	
847	青磁 碗	5.8		(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ黄5Y6/3 素地：灰白7.5Y7/1	密	
848	青磁 碗		6.6	(2.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：明緑灰10GY7/1 素地：黄灰2.5Y5/1	精選	
849	青磁 皿	25.8		(4.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：灰オリーブ7.5Y5/2 素地：灰白N8/	精選	内面：高蓮弁文
850	青磁 皿	27.0		(3.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰オリーブ7.5Y5/2 内面：灰白5Y7/1	精選	内面：高蓮弁文
851	緑釉陶器 碗			(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	釉：オリーブ灰10Y6/2 素地：にぶい黄橙10YR7/2	精選	
852	白磁 杯	8.6		(1.7)	外面：施釉（体部下半露胎） 内面：施釉	釉：透明釉 素地：灰白5Y8/1	密	
853	白磁 碗	8.4		(3.1)	外面：回転ナデ，施釉（体部下半露胎） 内面：施釉	釉：灰白10Y8/1 素地：灰白5Y7/1	密	
854	磁器 碗			(1.2)	外面：施釉（下半露胎） 内面：施釉	釉：明緑灰10GY8/1 素地：灰白N8/	精良	微細貫入
855	磁器 碗	13.0		(2.9)	外面：施釉 内面：施釉	釉：黒褐10YR2/2 素地：灰白5Y7/1	密	
856	磁器 碗	13.6		(2.4)	外面：施釉（口縁端部露胎） 内面：施釉（口縁端部露胎）	釉：明オリーブ灰2.5GY7/1 素地：灰白N8/	密	
857	備前焼 壷	9.8		(6.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰N6/ 内面：褐灰5YR5/1	密	口縁部：コークス付着
858	備前焼 壷	12.0		(7.1)	外面：回転ナデ，自然釉 内面：回転ナデ，板ナデ？	釉：灰オリーブ5Y5/2 素地：黒褐2.5Y3/1	1～3mmの粗砂を含む	全面:自然釉付着
859	土師質土器 甕	20.4		(6.1)	外面：剥離 胴部：平行タタキ 内面口縁部：ナデ 体部：ヘラケズリ	外面：灰黄2.5Y7/2 内面：灰黄2.5Y7/2	3mm以下の石英・長石を含む	
860	須恵器 甕			(8.4)	外面：格子タタキ 内面：摩滅	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1～2mmの細砂を若干含む	
861	須恵器 甕		14.0	(4.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N6/	0.5mm以下の微砂を若干含む	
862	備前焼 擂鉢			(5.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，擂目	外面：明赤褐5YR3/3 内面：明赤褐5YR3/3	1mmの石英，0.5mmの微砂を含む	
863	備前焼 擂鉢			(3.55)	外面：回転ナデ，ヘラケズリ 内面：回転ナデ，擂目	外面：赤黒7.5R2/1 内面：灰赤7.5R6/2	やや粗	
864	須恵質土器 捏ね鉢		8.4	6.4	外面：回転ナデ，ヘラケズリ 内面：ナデ	外面：灰白5Y7/1 内面：灰白5Y7/1	密	2次焼成 底面：回転糸切
865	土師質土器 鍋	39.8		(6.4)	外面口縁部：指頭圧痕，ヨコナデ 体部：ナデ 外面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ	外面：灰褐7.5YR5/2 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	外面:煤付着
866	土師質土器 足釜	26.0		(9.4)	外面口縁部：ヨコナデ，指頭圧痕 体部：ハケ，格子タタキ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ，ハケ	外面：にぶい褐7.5YR6/3 内面：にぶい褐7.5YR6/3	3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外面:煤付着
867	土師質土器 足釜	25.2		(4.7)	外面口縁部：ヨコナデ， 体部：タテハケ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR6/4 内面：にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
868	土師質土器 足鍋	24.9		(13.9)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，タテハケ，ヘラナデ 内面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ヨコハケ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の石英・長石・雲母を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
869	瓦質土器	4.6		(7.7)	外面：ナデ 内面：しぼり目	外面：灰N5/ 内面：灰白N8/	1mm以下の細～微砂を含む	
870	石鍋			(3.6)			滑石	
871	硯	長さ (3.8)	幅 (2.0)	厚さ (1.2)				粘板岩
872	硯	長さ (7.8)	幅 (3.0)	厚さ (0.8)	外面：研磨痕			粘板岩
873	土錘	長さ 8.7	幅 (4.1)	厚み 5.5	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/3	2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	重さ：207.4ｇ
874	土錘	長さ 9.2	幅 7.0	厚さ 5.3	外面：ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3	5mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	重さ：294.5ｇ
875	土錘	長さ 8.1	幅 6.0	厚さ 5.8		外面：灰白10YR8/2	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：223.9ｇ
876	土錘	長さ 6.1	幅 4.7	厚さ 4.2		外面：淡黄2.5Y8/3	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：47.0ｇ
877	鉄釘	長さ (5.2)	幅 0.5×0.5					
878	土師質土器 杯			(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：橙5YR7/6	微砂，長石・石英・雲母を含む	外面：墨書
879	土師質土器 杯	7.7		(2.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	微砂，長石・石英を含む	外面：墨書
880	土師質土器 杯	8.2		(3.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・雲母を含む	外面：墨書
881	土師質土器 杯			(3.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：橙5YR7/6	微砂，長石・石英を含む	外面：墨書「法」
882	土師質土器 杯				外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	微砂	外面：墨書
883	土師質土器 釜			(6.6)	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/4	3mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
884	土師質土器 皿	7.8	2.9	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
885	土師質土器 杯	10.8	6.6	(2.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：ナデ
886	瓦器 椀			(2.9)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕 内面：ヨコナデ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を若干含む	
887	磁器 碗			(3.0)	外面：施釉 内面：施釉	釉：灰白10Y8/1 素地：灰白10YR8/1	密	
888	土師質土器 皿	6.1	4.8	1.1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙5YR6/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
889	土師質土器 皿	6.4	2.7	0.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：にぶい7.5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
890	土師質土器 皿	8.8	7.5	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切
891	土師質土器 皿	7.6	5.8	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ
892	土師質土器 皿	7.2	6.0	1.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙10YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
893	土師質土器 皿	7.4	5.4	1.5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にヘラナデ
894	土師質土器 皿	7.6	6.8	(6.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/2 内面：にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
895	土師質土器 皿	7.4	6.1	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
896	土師質土器 皿	7.7	6.3	1.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ
897	土師質土器 皿	8.3	6.8	(1.3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙7.5YR8/3 内面：浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラケズリ
898	土師質土器 皿	9.6	5.4	(1.5)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	底面：回転ヘラ切後に板目
899	土師質土器 皿	8.4		(1.7)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の微砂を若干含む	
900	土師質土器 皿	11.3		(1.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR6/4 内面：橙5YR6/4	0.5mm以下の石英・雲母を含む	
901	瓦器 皿	8.8		(1.7)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1～2mmの細砂，0.5mm以下の極細砂	
902	土師質土器 杯	9.6	5.4	2.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，指ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：橙5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラナデ，板目
903	土師質土器 杯	9.7	5.6	3.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に回転ヘラナデ，板目
904	土師質土器 杯	10.6	7.0	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙7.5YR7/6 内面：橙7.5YR7/6	0.5mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後にナデ
905	土師質土器 杯	10.6	7.4	(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石を含む	底面：回転ヘラ切後に板目，ナデ
906	土師質土器 杯	12.6	8.2	2.55	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4 内面：橙7.5YR7/6	1mm以下の石英・長石を含む	底面：板目，ナデ
907	土師質土器 杯	14.9		(2.6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白10YR8/2 内面：浅黄橙10YR8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
908	土師質土器 杯	15.0	11.3	(3.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR6/3 内面：にぶい橙10YR7/3	1mm以下の微砂を含む	
909	土師質土器 杯	15.6		(3.3)	外面：回転ナデ 内面口縁部：回転ナデ 体部：ナデ後にハケ	外面：灰白10YR8/2 内面：灰白10YR8/1	1mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	
910	土師質土器 杯	8.0		(2.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：橙5YR7/6 内面：にぶい橙5YR7/4	微砂 石英，長石を含む	外面：墨書
911	土師質土器 杯		4.0	(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：橙5YR7/6	微砂 石英，長石を含む	外面：墨書 底面：回転糸切
912	土師質土器 杯		5.4	(1.9)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：淡黄2.5Y8/3 内面：淡黄2.5Y8/3	1mm以下の石英・長石を含む	
913	須恵器 杯		5.0	(0.8)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰黄褐10YR6/2 内面：灰黄褐10YR6/2	2mmの石英，0.5mm以下の微砂を含む	底面：回転糸切
914	須恵器 杯		5.6	(2.1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面：灰白N7/ 内面：灰白N7/	密	底面：回転糸切
915	須恵器 杯	7.2		(2.0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ハケ	外面：灰N5/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	
916	土師質土器 椀	15.4		(3.6)	外面：回転ナデ，指頭圧痕 内面：回転ナデ	外面：にぶい橙5YR7/4 内面：にぶい橙5YR7/4	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
917	土師質土器 椀	17.0		(3.7)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：黒10Y2/1	0.5mm以下の微砂を含む	

報告番号	器種	法量（cm）			調整	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
918	土師質土器 椀		5.0	(1.4)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	外面：灰白2.5Y8/2 内面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	
919	土師質土器 椀		6.4	(1.2)	外面：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：浅黄橙10YR8/3 内面：暗灰N3/	0.5mm以下の微砂を含む	
920	土師質土器 椀		5.4	(1.9)	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰白10YR8/2 内面：暗灰N3/	0.5mm以下の微砂を含む	内面：暗文
921	瓦器 椀	15.4		(4.7)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	1mm以下の微砂を含む	
922	瓦器 椀	14.0		(3.4)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面：暗青灰5B4/1 内面：青灰5B5/1	0.5mm以下の微砂を含む	
923	瓦器 椀	14.2		(3.9)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰白2.5Y7/1 内面：灰白2.5Y7/1	0.5mm以下の微砂を含む	
924	瓦器 椀	16.5		(4.5)	外面口縁部：回転ナデ後にヘラミガキ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：回転ナデ後にヘラミガキ	外面：灰7.5Y4/1 内面：灰7.5Y4/1	1mm以下の微砂を含む	
925	瓦器 椀	15.8		(3.9)	外面口縁部：回転ナデ 体部：指頭圧痕後にヘラミガキ 内面：全面丁寧なヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰白2.5Y8/1	0.5mm以下の微砂を若干含む	
926	瓦器 椀		6.2	(3.6)	外面体部：回転ナデ後にヘラミガキ 高台：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	外面：灰N6/ 内面：灰N5/	1mm以下の微砂を含む	
927	瓦器 椀		5.6	(1.2)	外面体部：ナデ 高台：回転ナデ 内面：ナデ後にヘラミガキ	外面：灰N4/ 内面：灰N5/	0.5mm以下の微砂を含む	
928	瓦器 椀		6.0	(1.0)	外面：回転ナデ 内面：ナデ，ヘラミガキ	外面：黄灰2.5Y6/1 内面：灰N6/	1mm以下の微砂を含む	
929	白磁 碗			(1.9)	外面：回転ナデ，施釉（貫入） 内面：回転ナデ，施釉（貫入）	釉：灰黄2.5Y7/2 素地：灰白2.5Y8/1	密	
930	白磁 碗	15.8		(3.4)	外面：回転ナデ，施釉 内面：回転ナデ，施釉	釉：灰白5Y7/2 素地：灰白5Y8/1	密	
931	白磁 碗		高台径 7.0	(3.1)	外面：回転ヘラケズリ 内面：施釉	外面：灰白5Y7/2 内面：灰白5Y8/1	密	見込：圏線
932	須恵器 鉢	19.3		(5.0)	外面：ヨコナデ，刺突痕 内面：ヨコナデ	外面：灰N6/ 内面：灰白5Y7/1	1mm以下の細砂を若干含む	
933	備前焼 擂鉢	27.0		(4.8)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ，擂目	外面：灰赤2.5YR5/2 内面：灰赤2.5YR5/2	やや粗	
934	備前焼 擂鉢	26.6		(4.5)	外面口縁部：回転ナデ 体部：回転ナデ後にヘラナデ 内面：回転ナデ，擂目	外面：にぶい赤褐5YR5/3 内面：灰赤2.5YR5/2	やや粗	
935	土師質土器 擂鉢	28.4		(8.1)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ヘラナデ 内面：ヘラナデ，擂目	外面：にぶい黄橙10YR7/4 内面：にぶい黄橙10YR8/4	3mm以下の石英・長石を含む	
936	土師質土器 鍋	33.8		(6.5)	外面口縁部：ヨコナデ， 体部：ヘラナデ，指頭圧痕 内面口縁部：ヨコナデ 体部：ハケ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の石英・長石を含む	
937	土師質土器 羽釜	24.0		(5.3)	外面口縁部：ヨコナデ，指頭圧痕 体部：タテハケ 内面：ハケ後にヘラナデ	外面：にぶい黄橙10YR7/3 内面：灰白10YR8/2	1mm以下の石英・長石を含む	体部外面：煤付着
938	土師質土器 足釜	26.2		(5.7)	外面口縁部：ヨコナデ 体部：指頭圧痕，ヘラナデ 内面：板ナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の石英・長石・雲母を含む	
939	備前焼 甕		14.0	(8.2)	外面：ヘラナデ 内面：ナデ，粗いヨコハケ，指頭圧痕	外面：橙2.5YR6/6 内面：橙2.5YR6/6	やや密	
940	土師質土器 火鉢			(7.4)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：にぶい黄橙7.5YR6/3	1mm以下の石英・長石を含む	外面：突帯文2条
941	平瓦	長さ (11.3)	幅 (13.3)		凹面：板ナデ，面取 凸面：ナデ	外面：橙5YR6/6 内面：にぶい褐7.5YR6/3	1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	被熱？
942	平瓦	長さ (16.0)	幅 (16.4)		凸面：ヘラミガキ 凹面：コビキA，側辺面取	外面：灰N4/ 内面：灰N4/	密	梵字
943	土錘	長さ 8.9	幅 6.0	厚さ 6.0	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：250.6 g
944	土錘	長さ 8.8	幅 5.4	厚さ 5.8	外面：ナデ，指頭圧痕	外面：灰白10YR8/2	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：246.0 g
945	土錘	長さ 8.6	幅 5.6	厚さ 5.8	外面：ナデ	外面：橙7.5YR7/6	2mm以下の石英・長石を含む	重さ：201.6 g
946	土錘	長さ 7.9	幅 5.6	厚さ 6.3	外面：ナデ	外面：にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の石英・長石を含む	重さ：266.0 g
947	土錘	長さ 7.1	直径 6.6		外面：ナデ	外面：にぶい褐7.5YR6/3	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：294.0 g
948	土錘	長さ 5.1	直径 3.8		外面：ナデ	外面：灰白2.5Y8/1	1mm以下の石英・長石を含む	重さ：57.1 g
949	土錘	長さ 5.4	直径 1.2		外面：ナデ	外面：褐灰10YR4/1	1mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	重さ：7.0 g

1　遠景（西から）

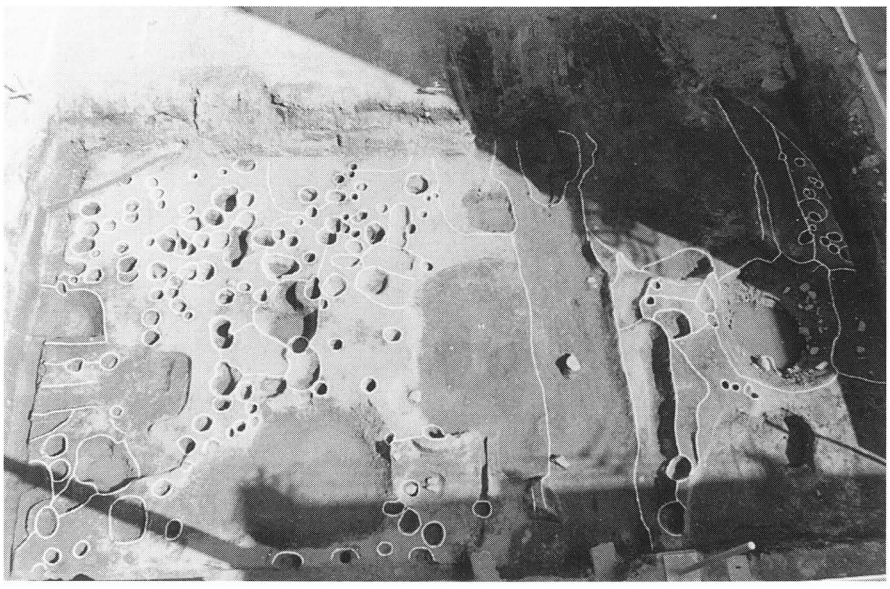
2　遠景（東から）

3　完掘状況（東側）

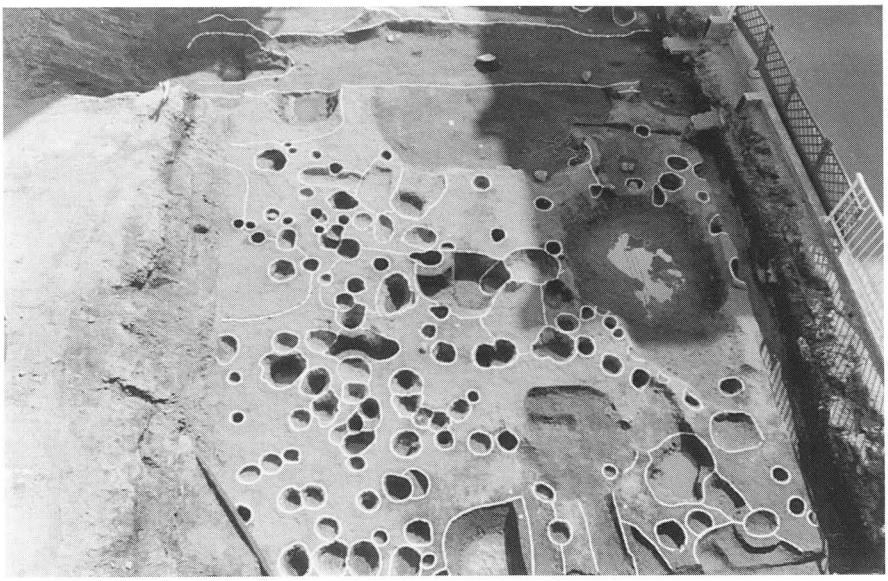
図版 2

1　完掘状況（東側）

2　完掘状況（東側）



3　完掘状況（西側）

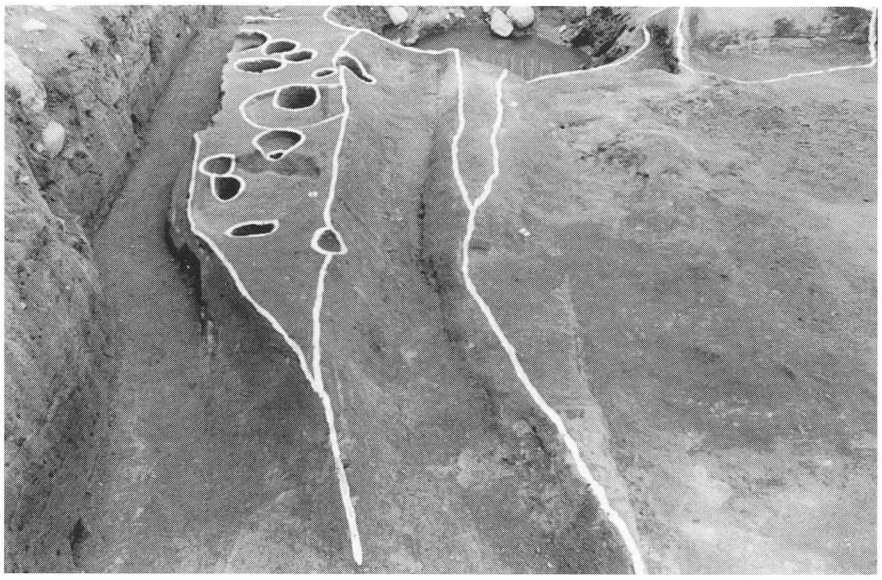


1　完掘状況（西側）

2　完掘状況（西側）

3　ＳＤ1301・1304

図版 4



1　ＳＤ1301・1304完掘

2　ＳＤ1301土層

3　ＳＤ1304遺物出土状況

1　ＳＤ1302完掘（東側）

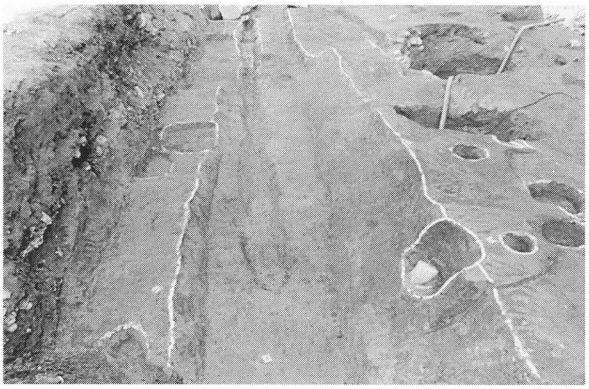
2　ＳＤ1302完掘（東側）

3　ＳＤ1302完掘（東側）

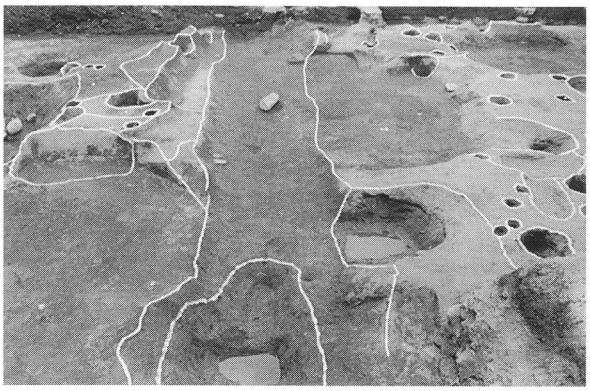
図版 6

1　ＳＤ1302土層

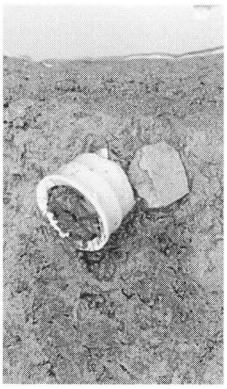
2　ＳＤ1302土層



3　ＳＤ1302完掘（東側）

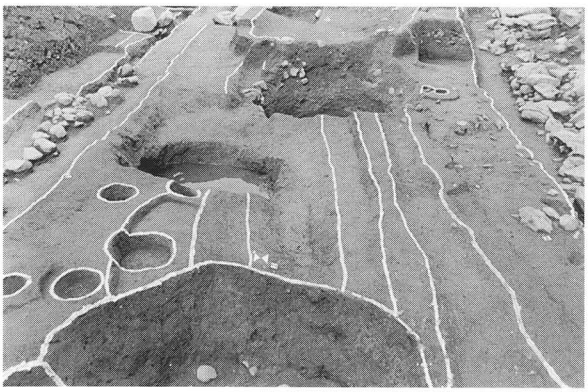


4　ＳＤ1302完掘（西側）

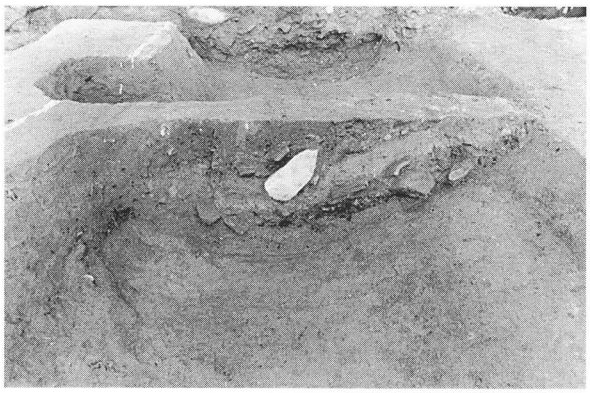


5　香炉出土状況

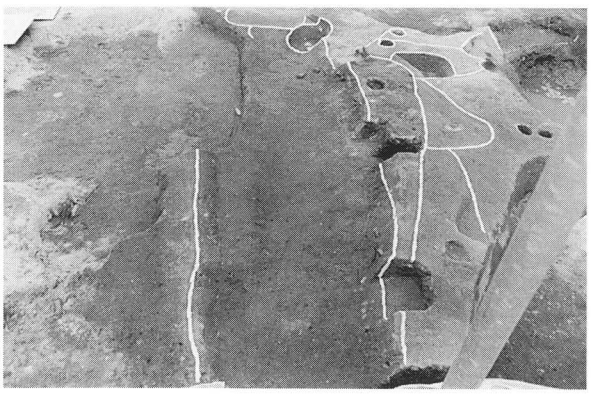
6　五輪塔出土状況



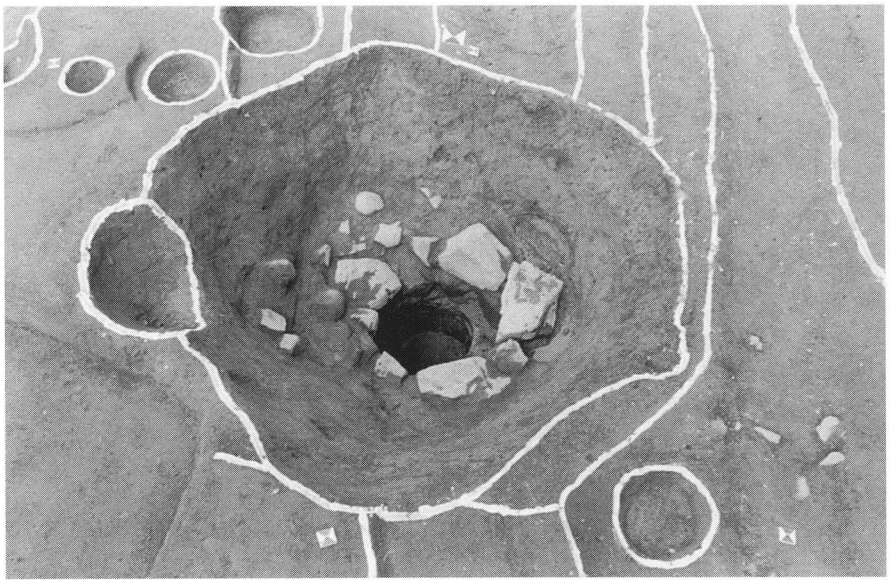
7　ＳＤ1303完掘



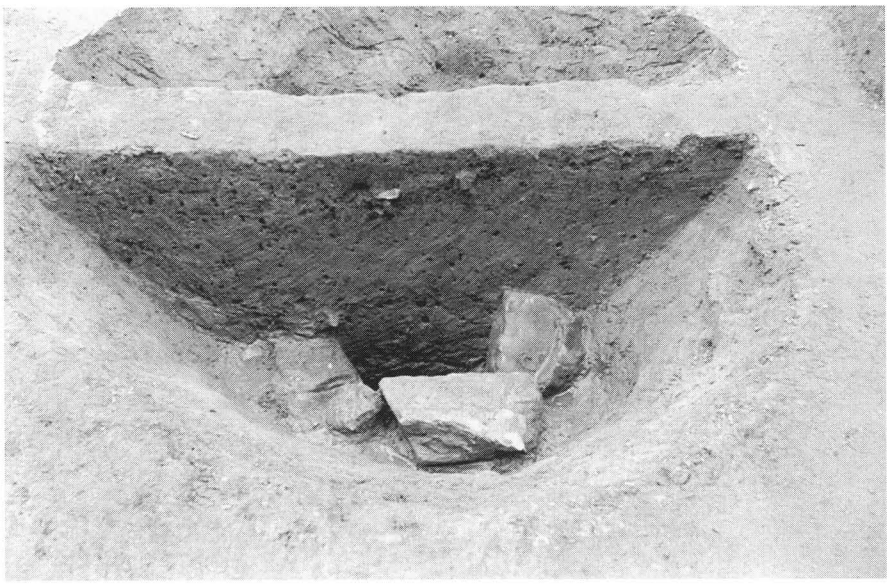
8　ＳＤ1305土層



9　ＳＤ1305完掘



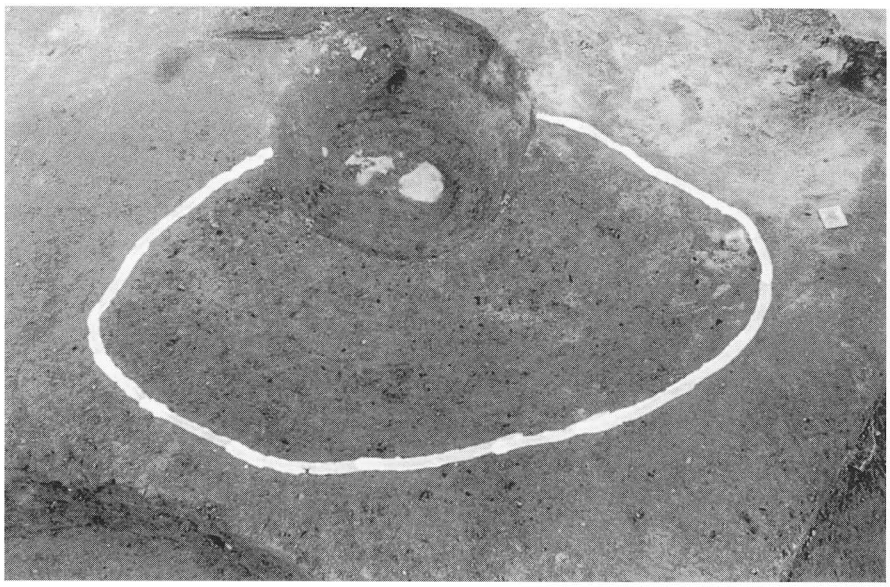
1　ＳＥ1301完掘



2　ＳＥ1301土層

3　ＳＥ1301井戸枠

図版 8



1　ＳＫ1304完掘

2　東側ピット群完掘

3　西側上層ピット群完掘